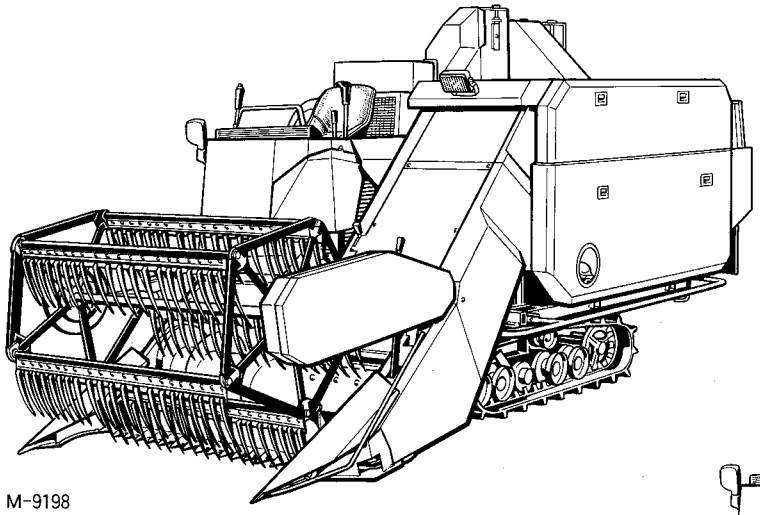
クボタ 大豆・そば用 コンバイン

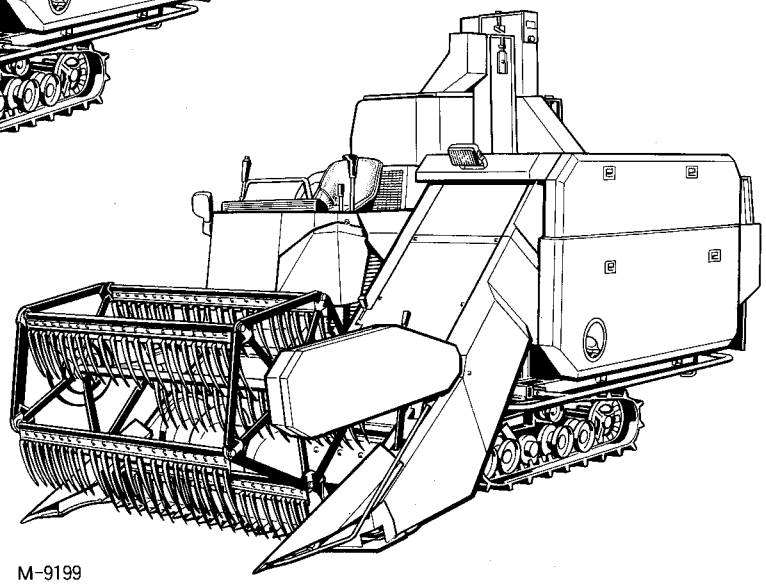
取扱説明書

スーパー デコイチ
DC-1SU



M-9198

【ホッパ仕様】



M-9199

【グレンタンク仕様】

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

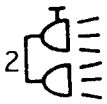
操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

ホーン

エンジン回転**低回転**

エンジン回転**高回転**


ランプ

車高調節の方向

エンジン停止

燃料

水温

エンジン油圧

バッテリ充電(チャージ)

エンジン予熱(グロー)

専門用語の説明

- ●主変速レバー …… 機体の前・後進の切換え及び車速を調節するレバー
- ●パワーステアリングレバー …… 機体の操向操作と刈取部の上昇・下降の操作及びリール上下スイッチが上部に付いているレバー
- ●バックアップ …… 主変速レバーを**“後進”**位置に入れると刈取部が自動的に上昇する機能
- ●リール …… 回転して作物を引起こす刈取部の五角形状の部分
- ●タイン …… リールに取付けられている黒い樹脂の爪
- ●オーガドラム …… 回転すると作物をフィーダ入口へ寄せる**らせん**の付いている円筒の部分
- ●出入フィンガ …… オーガのフィーダ入口にあるかき込み棒
- ●デバイダ …… 刈取部の左右の最前部にある作物を条分けする部分
- ●フィーダ …… 作物をオーガから脱こく部へ搬送する部分
- ●ヘッドロス …… 刈取部で損失するこく粒
- ●ビータ …… フィーダから送られてくる作物をロータへ供給する回転体
- ●１番スクリュ …… 選別部で精選されたこく粒を１番バケットコンベアへ横搬送する部分
- ●２番スクリュ …… １番スクリュ部へ選別されなかった作物・こく粒を再度選別部へ搬送する横搬送の部分
- ●１番バケットコンベア …… ホッパまで縦搬送するバケットカップ付コンベア
- ●２番バケットコンベア …… 再度選別部まで縦搬送するバケットカップ付コンベア
- ●排出バケットコンベア【グレンタンク仕様】 …… こく粒排出シュートまで縦搬送するバケットカップ付コンベア
- ●こく粒排出シュート【グレンタンク仕様】 …… こく粒を排出する部分
- ●チャフシーブ …… コンケーブから搬送されたこく粒と排稈くずを選別する桟状の板
- ●トウミ …… 選別風(ファン)を発生させる装置
- ●ササリロス …… こく粒損失で，排稈の中にささっている単粒
- ●こぎ残し …… こく粒損失で莢(さや)の中に残っているこく粒
- ●ホッパ …… 精選されたこく粒を一時貯留するタンク
- ●ロータ …… 供給ベルトと供給ロータを通って搬送されてくる作物を脱こくする部分

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

51595-8511-1

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**： 注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告**： 注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**： 注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要： 注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足： その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，大豆・そばの刈取・収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細はサービスブックをご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は**“DC-1SU-H, G仕様”**を基本とし，**“DC-1SU-H, G仕様”**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

【例】　DC－1SU－C H
①　②

①クーラキャビン付き…… **“C仕様”**

②
- ホッパ仕様…… **“H仕様”**
- グレンタンク仕様…… **“G仕様”**

コンバインを安全にしかも上手にご使用していただくため，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から刈取作業まで順番に理解体得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．**⚠安全作業をするために：**安全作業をしていただくために基本的注意事項や警告ラベル・注意ラベルの機械への貼付け位置と警告・注意事項を解説していますのでよく読んで理解し，必ず守ってください。

動かす前に走行装置を理解しましょう

2．**走行装置の名称と取扱い：**走行装置のはたらきをまず理解し，基本操作を体得してください。

作業装置でコンバインの性能を最大に発揮させましょう

3．**作業装置の名称と取扱い：**作業装置のはたらきと基本操作を体得してください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

4．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，毎作業前の点検内容を理解し，必ず実施してください。

エンジンの安全基本操作・コンバインの安全走行のための基本操作を体得しましょう

5．**移動走行と輸送：**

⑴機体の急発進を防止するため，エンジンの始動と停止の手順を体得してください。

⑵機体の前・後進や停車の基本操作を体得してください。

⑶コンバインをほ場へ安全に移動させるため，安全装置の取付けや各装置の脱着や固定作業，トラックへの安全な積込み・積降しと輸送方法を理解し，必ず守ってください。

では実際にほ場で刈取作業を始めてみましょう

6．**収穫作業のしかた：**作業前の各装置の取付け，作物とほ場条件に合わせた調整，安全で正しい刈取作業を体得してください。

良く働いた機械をいたわりましょう

7．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，刈取シーズン前・後及び長期格納時の注意事項や定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

コンバインがもしもの不調のときは

8．**コンバインの不調と処置：**異常や故障かな？と思われたとき，現象に応じて，処置をしてください。

目　次

⚠安全に作業するために　…　⚠-1

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。　……　⚠-1
2. ⚠表示ラベルと貼付け位置　……　⚠-18
3. ⚠表示ラベルの手入れ　……　⚠-24

サービスと保証について　……　1
ご相談窓口　……　1
補修用部品の供給年限について　……　1

走行装置の名称と取扱い　……　2
機体方向説明と走行装置の名称　……　2
各部の名称とはたらき　……　4
メインスイッチ　……　4
アクセルレバー　……　4
非常エンジン停止レバー　……　5
主変速レバー　……　5
副変速レバー　……　5
ブレーキペダル(駐車ブレーキ)　……　5
パワーステアリングレバー　……　6
運転席(シート)　……　6
コンバインメータ　……　7
コンビネーションスイッチ　……　7
ホーンスイッチ　……　7

作業装置の名称と取扱い　……　8
作業装置の名称　……　8
各部の名称とはたらき　……　11
自動車体水平制御装置(モンロー)　……　12
水平操作レバー　……　12
刈取クラッチレバー　……　13
対地平行自動刈高制御装置(ロイヤルモンロー)　……　13
刈取下降ロック金具　……　14
リール上下スイッチ　……　14
リール昇降ロックスイッチ　……　14
脱こくクラッチレバー　……　15
こく粒排出クラッチレバー　……　15
コンバインメータ　……　15

キャビン装置の名称と取扱い【キャビン仕様】　……　16
装置の名称　……　16
各装置の取扱い　……　17
ドアの開閉・ロックのしかた　……　17
ドアウインドの開閉のしかた　……　17
クーラの取扱い　……　18
コントロールパネル　……　18
冷房のしかた　……　18
移動走行について　……　19
高さについて　……　19

運転前の点検　……　20
日常点検項目　……　21

移動走行と輸送　……　22
新車時の扱いかた　……　22
ならし運転について　……　22
エンジンの始動と停止のしかた　……　22
始動のしかた　……　22
停止のしかた　……　24
移動走行について　……　24
走行前の準備　……　25
発進のしかた　……　25
旋回のしかた　……　28
停車・駐車のしかた　……　28
輸送について　……　28
トラックとあゆみ板の準備　……　28
コンバインの準備　……　28
コンバインの積込み・積降しのしかた　…　29
トラック上での処置　……　30

収穫作業のしかた　……　31
作物とほ場の条件　……　31
作物の倒伏とほ場の傾き　……　31
大豆　……　31
そば　……　32
ほ場の準備　……　32
コンバインの準備　……　32
準備のしかた　……　32

刈取作業のしかた …… 38
ほ場の出入りのしかた …… 38
刈取作業の手順 …… 39
ほ場の刈りかたと旋回のしかた …… 41
作物に合わせた変速の選びかた …… 42
こく粒の排出のしかた【ホッパ仕様】 … 43
こく粒の排出のしかた
【グレンタンク仕様】 …… 44
手刈り(枕刈り)作物の投げ込み脱こく
のしかた …… 46
作業に合わせた各部の調節・
調整のしかた …… 47
コンバインメータによる異常と処置 … 50

メンテナンス …… 52
各部のオープン(開閉)と脱着のしかた … 52
エンジンルームオープン …… 52
脱こくロータカバーオープン …… 53
抵抗板オープン …… 53
カッタオープン …… 54
シーブケースの脱着 …… 55
グレンタンクオープン
【グレンタンク仕様】 …… 56
各部の掃除と注油のしかた …… 58
掃除のしかた …… 59
注油のしかた …… 63
定期点検 …… 65
オイル・フィルタ類の交換とチェーン・
ベルト・クローラの張り調整 …… 65
使用済廃棄物の処分について …… 65
使用者が行なってはいけない修理 …… 65
定期点検一覧表 …… 66
給・注油(水)点検一覧表 …… 69
燃料・オイル・グリースの点検・
補給・交換 …… 70
ラジエータ冷却水の点検・交換 …… 72
エアクリーナの点検・掃除・交換 …… 73
パイプ・ホース類の点検・交換 …… 74
防じんあみ，ラジエータフィンの掃除 … 75
オイルクーラフィンの掃除 …… 75
コンデンサ防じんあみの掃除
【キャビン仕様】 …… 75
フューエルフィルタカートリッジ・
フューエルフィルタアッシの
交換 …… 76
HSTオイルフィルタカートリッジ・
油圧オイルタンクフィルタの交換 … 77
エンジンオイルフィルタ
カートリッジの交換 …… 77
各部ワイヤの点検・調整 …… 78
こく粒排出クラッチワイヤ
【グレンタンク仕様】 …… 78
各部ベルトの点検・調整 …… 79
各部チェーンの点検・調整 …… 85
供給ベルトの点検・調整・交換 …… 89
選別ベルトの点検・調整・交換 …… 92
1番・2番バケットコンベアの
点検・調整・交換 …… 94
排出コンベアの点検・調整・交換
【グレンタンク仕様】 …… 95
刈刃の点検・調整 …… 96
カッタ部の点検・調整 …… 97
バッテリの点検・交換 …… 98
冷媒(ガス)量の点検【キャビン仕様】… 101
吐出口ブーツ(内),(外)の点検・交換
【グレンタンク仕様】 …… 102
電気の各配線コード・各ヒューズの
点検・交換 …… 103
ランプ(電球)の点検・交換 …… 103
ホーンスイッチの点検 …… 103
クローラの張り調整・交換 …… 104
刈取作業後の手入れ …… 105
毎日の作業後 …… 105
長期格納時 …… 105

コンバインの不調と処置 …… 107

付 表 …… 113
主要諸元 …… 113
付属部品 …… 115
オプション(別売品) …… 115
消耗部品 …… 116
クボタ純オイル …… 122

⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

この黄色ページは，安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項と⚠表示ラベルの内容・貼付位置を記載しています。また， 本文中でも取扱い上の注意事項をそのつど⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足 として取上げていますので本機をご使用になる前に， これらの注意事項をよく読んで理解してください。

目　　次

1．安全作業するための注意事項

ページ

◆一般的な注意事項 …… ⚠-2 ～ ⚠-3

◆作業前の注意事項 …… ⚠-4 ～ ⚠-5

◆移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項 …… ⚠-6 ～ ⚠-7

◆作業時の注意事項 …… ⚠-8 ～ ⚠-9

◆作業後・格納時の注意事項 …… ⚠-10 ～ ⚠-11

◆点検整備時の注意事項 …… ⚠-12 ～ ⚠-15

◆運搬時の注意事項 …… ⚠-16 ～ ⚠-17

2．安全作業するための⚠表示ラベル

◆⚠表示ラベルの内容・貼付位置 …… ⚠-18 ～ ⚠-26

3．⚠表示ラベルの手入れ …… ⚠-26

⚠ 安全に作業するために

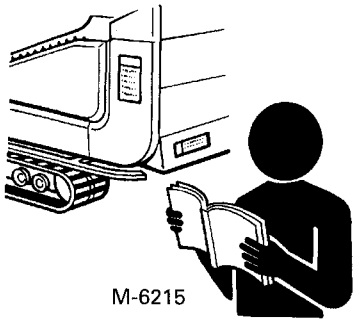
1．安全作業するための注意事項

◆一般的な注意事項

⚠取扱説明書及び機械に貼付けている⚠表示ラベルをよく読み，正しい運転，作業方法を覚える。

- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。

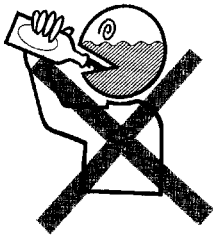
【守らないと】
死亡又は傷害を負うおそれがあります。


M-6215

⚠体の状態が悪いときには運転操作をしない。

- 運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は，機械の運転操作を行わないでください。
  - お酒を飲んでる方
  - 睡眠不足の方
  - 妊娠中のご婦人
  - 過労，病気の方
  - １６歳未満の方

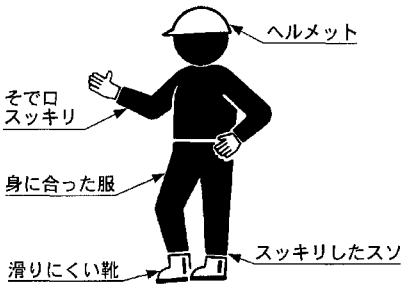
【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。


M-6216

⚠運転者，補助者とも作業に適した服を着用する。

- だぶついた服は着用しない。
- そで口はきっちりと止める。
- はち巻き，首巻き，腰タオルは着用しない。
- サンダル，スリッパなどの履物は着用しない。

【守らないと】
レバーや作動部に引っかかったり，滑ったりして，傷害を負うおそれがあります。



M-6219

⚠取扱説明書及び⚠表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

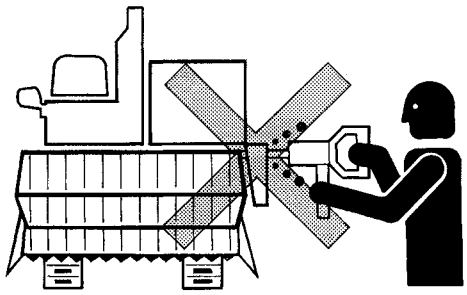
- 機械を他人に貸すとき，運転させるときは，取扱説明書を読ませるとともに，取扱方法や安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるよう指導する。

【守らないと】
死亡又は傷害をまねくおそれがあります。

F-8822

⚠機械を改造しない。

【守らないと】
安全性をそこない，思わぬ事故の原因になります。



M-9200A

⚠運転者以外は機械に乗らない。

- 動いている機械に飛び乗ったり，飛び降りたりしない。

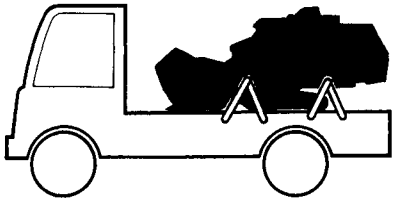
【守らないと】
振り落とされたり，ひかれたりして，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

M-8223

⚠公道を走行するときは交通法規や安全ルールを守る。

- 公道を走行する場合は，所定の手続きと運転免許証が必要です。
- 公道を走行できない機械は，トラックで運搬する。

【守らないと】
交通事故をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

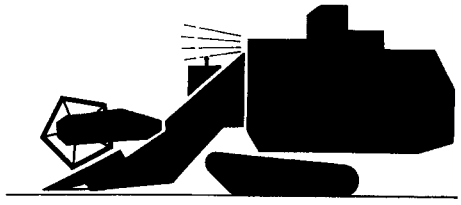


M-8353

⚠夜間の作業や移動走行は避ける。

- やむをえず夜間作業を行なうときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯する。
- やむをえず夜間に移動走行するときは，必ずヘッドランプを点灯し，作業灯は消灯させる。

【守らないと】
交通事故や転倒・転落をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。



M-9347

⚠ 安全に作業するために

◆作業前の注意事項

⚠屋内で運転するときは，排気ガスに注意して適切な換気をする。

- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

【守らないと】
エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。

F-8842

⚠燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めて，キーを抜く。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとる。

【守らないと】
火災の原因になります。

B-1499

⚠機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

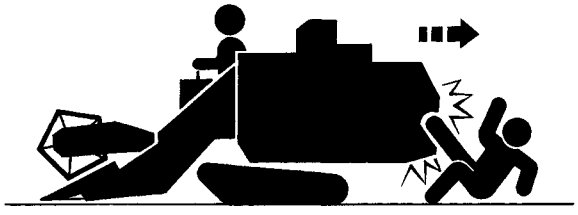
■エンジンを始動するときは，運転席に座って，主変速レバーを“停止”位置，副変速レバーを“中立”位置にし，各クラッチを“切”位置にして，ホーンを鳴らすなどの合図をする。
■機械を発進するときや各クラッチを入れるときは，ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。

【守らないと】
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

M-8213

■初めて運転する人は，操作になれるまで低速で運転する。

【守らないと】
思わぬ事故の原因となります。



M-8214

⚠作業前点検（日常点検）を実施する。

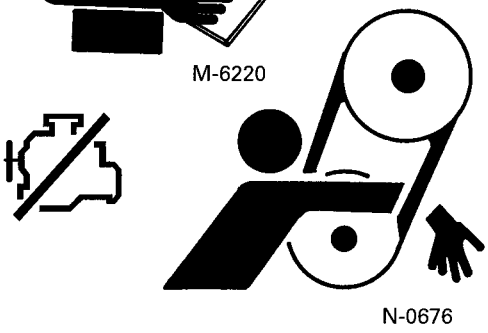
■運転の前には点検項目（“日常点検項目”の項参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。

【守らないと】
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

M-6220

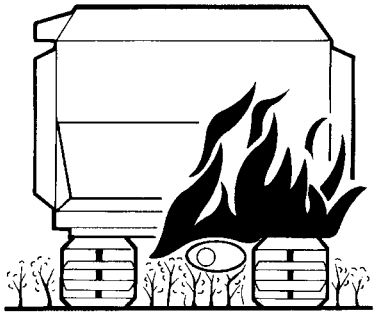
■点検・整備・掃除・給油するときは，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。
■取外した安全カバー，保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。

【守らないと】
回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。


N-0676

■マフラ周辺部，ベルトカバー内，バッテリ周辺にたまっているわらくずはきれいに取除く。

【守らないと】
火災の原因になります。


M-6238

■点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。

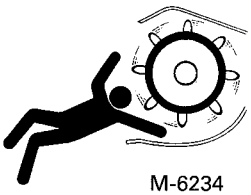
【守らないと】
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

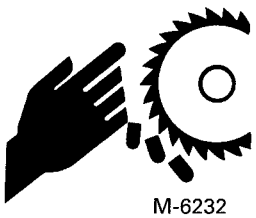
M-8213

⚠脱こく部，カッタ部，エンジンルーム，グレンタンク【グレンタンク仕様】をオープンするときは，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

- オープンは平たんな場所で行なう。
- 脱こくロータカバー，抵抗板，カッタ部をオープンしたときは，ストッパを掛ける。
- オープンしたままエンジンを始動しない。

【守らないと】
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


M-6234


M-6232

B-1505

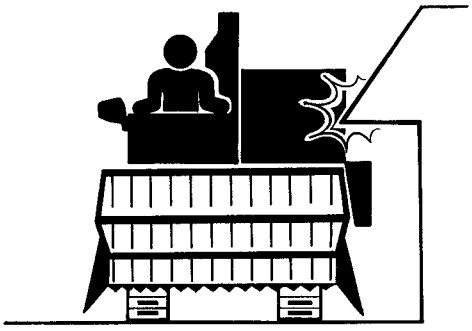
B-1506

⚠ 安全に作業するために

◆移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

⚠移動走行するときは，次の事項を守る。

- 各作業クラッチを**“切”**位置にし，運転者以外に人を乗せない。
- こく粒はすべて排出，又は降ろす。
- 副変速レバーを切換えるときは，平たんな場所で主変速レバーを**“停止”**位置にし，走行をいったん止めてから行なう。
- 刈取部の先にデバイダカバーを取付ける。
- 補助デッキ**【ホッパ仕様】**，左分草かん前，後を収納して，機体幅をせまくする。
- 刈取部を上昇させて，刈取部下降ロックを掛けて下降防止をする。
- こく粒排出シュートは収納する。**【グレンタンク仕様】**
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。



M-8217

【守らないと】

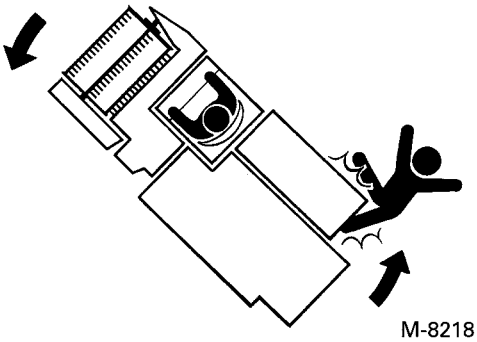
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠高速走行時は急旋回をしない。

- 方向を変えるときは，走行速度を落として（低速にして），パワーステアリングレバーをゆっくり倒して旋回する。

【守らないと】

機械から振り落とされたり，転倒するおそれがあります。



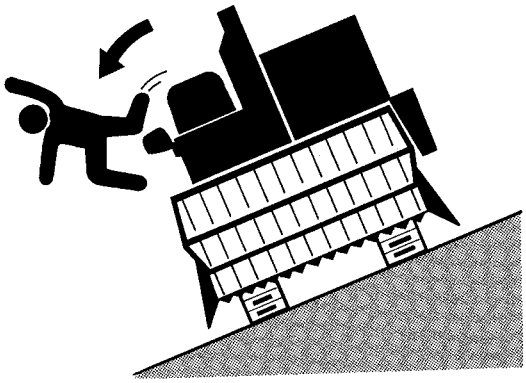
M-8218

⚠坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。

- 坂道（傾斜地）では，パワーステアリングレバー，副変速レバー，駐車ブレーキを操作しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回はしない。

【守らないと】

暴走したり，転倒するおそれがあります。

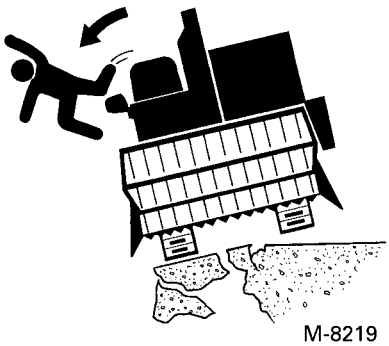


M-8220

⚠道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は，走行しない。

- 溝のある農道や，両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝，穴，土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど，地面のよく見えないときは，事前に降車してよく確かめる。

【守らないと】
機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。


M-8219

⚠ほ場の出入りで，段差のあるところではあゆみ板を使う。

- 10cm以上の段差のあるところでは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- こく粒はすべて排出，又は降ろす。

【守らないと】
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

M-8221

⚠あぜの乗り越えは低速で直角に進入する。

- 10cm以上のあぜ，又はコンクリートのあぜは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- こく粒はすべて排出，又は降ろす。

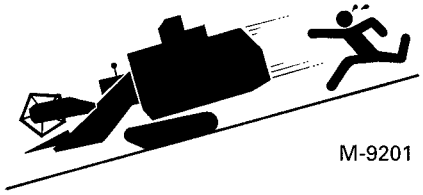
【守らないと】
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

M-8221

⚠駐車するときや運転席を離れるときは，平たんな場所に止め，副変速レバーを“標準”又は“低速”位置にし，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当たるまで降ろして，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは，さらに木片などで確実に車止めをする。

【守らないと】
機械が暴走し，思わぬ事故のおそれがあります。

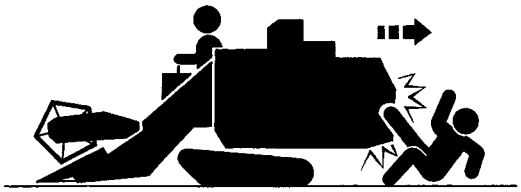

M-9201

⚠ 安全に作業するために

◆作業時の注意事項

⚠共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なう。

- エンジン始動時，及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは，ホーンなどで合図し，補助者のＯＫをもらう。
- 補助者が機械に近づくときは，運転者に知らせることを徹底させる。

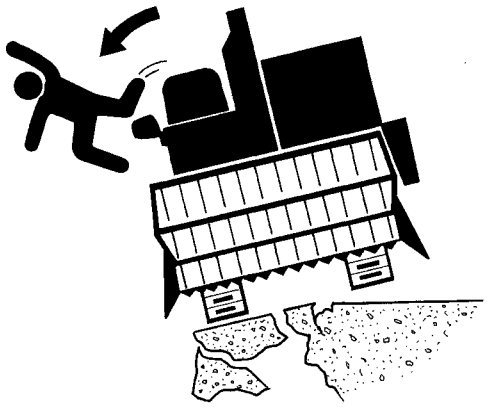


M-8214

【守らないと】

補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあり，思わぬ事故を起こすおそれがあります。

⚠すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。



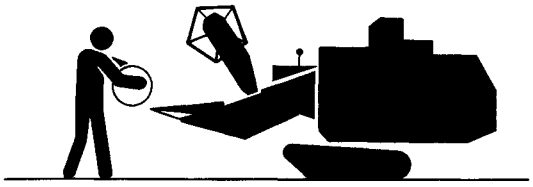
M-8219

【守らないと】

後退し過ぎると，転倒・転落するおそれがあります。

⚠投げ込み脱こくするときは，必ずコンバインの刈取部から少し離れて，作物を少量ずつ供給する。

- 機械は平たんな場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキをかける。
- 刈取部を下げてリールを最上昇位置にし，リール・刈刃の各クラッチレバーを必ず**“切”**位置にし，作物は少しずつ投げ入れる。
- そで口はきっちり止めて，手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。



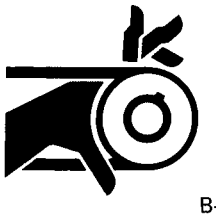
M-9202

【守らないと】

リールに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠異常に気づいたら，すぐエンジンを必ず止めて，キーを抜く。

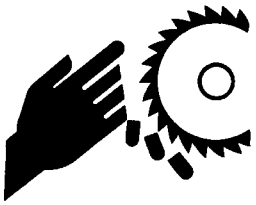
- 稈の巻付きや詰まりを取除くときや，こく粒の点検・掃除をするときは，各作業クラッチレバーを“切”位置にし，エンジンを必ず止めて処置する。
- カッタに詰まった稈などを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。



B-1506

【守らないと】

カッタ刃やチェーンなどの作動部に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6232

⚠点検や掃除で外したカバーは，必ず取付けること。

- ベルトやチェーンのカバー，及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。

B-1506

【守らないと】

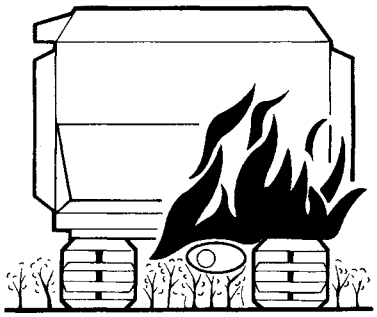
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠ 安全に作業するために

◆作業後・格納時の注意事項

⚠排稈くずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

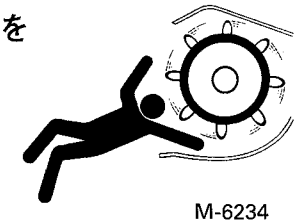
【守らないと】
排稈くずや枯れた雑草は燃えやすく，火災が発生するおそれがあります。



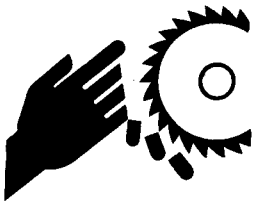
M-6238

⚠点検・掃除する前に，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

【守らないと】
機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6234



M-6232

B-1505

B-1506

⚠点検・掃除は，エンジン停止後，各部が冷えてから行なう。

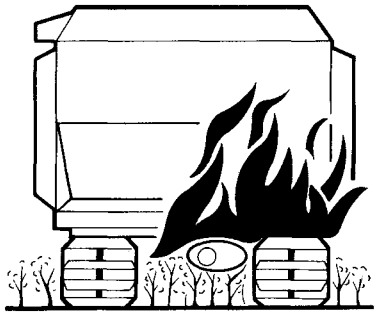
- エンジン本体，マフラ，排気管は，停止直後は触れない。

【守らないと】
やけどを負うおそれがあります。

B-1502

⚠エンジン本体，マフラ周辺，ベルトカバー内配線部，バッテリ周辺のわらくずを点検し，きれいに取除く。

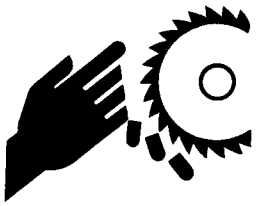
【守らないと】
火災が発生するおそれがあります。



M-6238

⚠掃除するときは，刈刃やカッタの刃先に触らない。

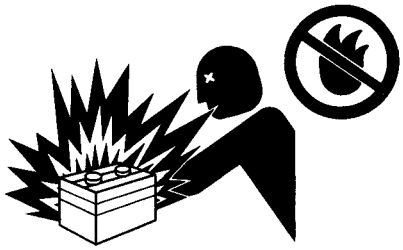
【守らないと】
刃先で傷害を負うおそれがあります。



M-6232

⚠バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルをショートさせない。

【守らないと】
バッテリからは水素ガスの発生があり，引火爆発のおそれがあります。



F-8836

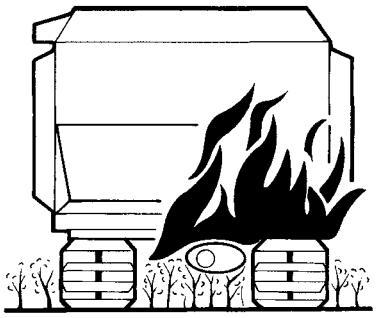
⚠ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや，挟み込みがないか点検する。

【守らないと】
ショートによる火災発生のおそれがあります。

B-1500

⚠機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン，マフラが冷えてから掛ける。

【守らないと】
火災が発生するおそれがあります。



M-6238

⚠ 安全に作業するために

◆点検整備時の注意事項

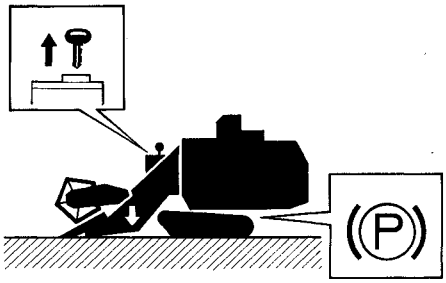
⚠定期点検整備を行ない，各部の保守をする。

【守らないと】
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

M-6220

⚠各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは，平たんな場所で，エンジンを必ず止めて，キーを抜き，各クラッチレバーを“切”位置にして，駐車ブレーキを掛ける。

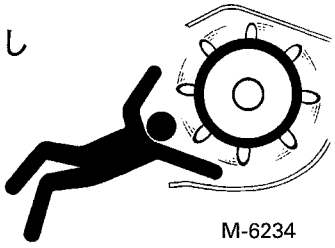
【守らないと】
機械に挟まれたり，巻込まれて傷害を負うおそれがあります。



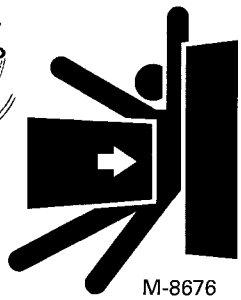
M-9203

⚠脱こくロータカバー，抵抗板，カッタ部をオープンしたときは，ストッパで固定する。

【守らないと】
機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。



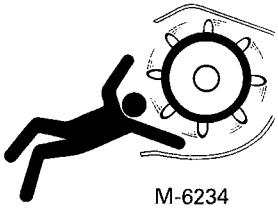
M-6234



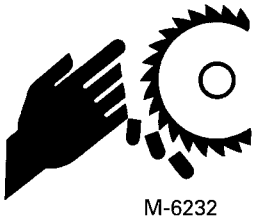
M-8676

⚠脱こくロータカバー，抵抗板，カッタ部，エンジンルーム，グレンタンク【グレンタンク仕様】をオープンしたままエンジンを回さない。

【守らないと】
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6234



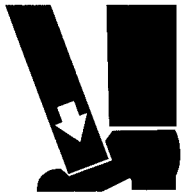
M-6232

B-1505

B-1506

⚠シーブケースやカッタ，結束機など重量物の脱着作業は，２人以上で行なう。

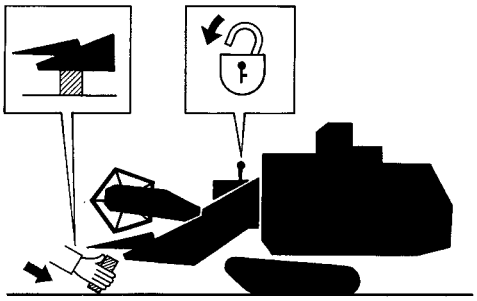
【守らないと】
不意の落下により，傷害を負うおそれがあります。

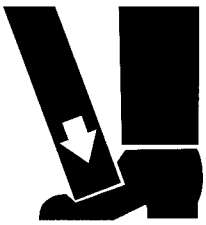

M-8659

⚠刈取部を上げて点検・整備・掃除するときは，刈取部をロックするとともに，落下防止の歯止めをする。

- 作業前に，エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしない。

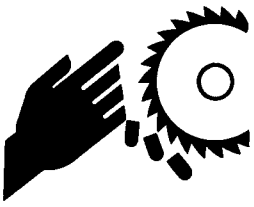
【守らないと】
機械にはさまれて，傷害を負うおそれがあります。


M-8226


M-8659

⚠刈刃，カッタ刃を調整・交換するときは，手袋を着用し，直接刃先に触らない。

【守らないと】
刃先で傷害を負うおそれがあります。


M-6232

⚠取外したカバー類は，必ず取付ける。

【守らないと】
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

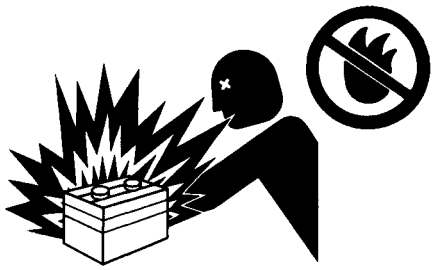
B-1506

⚠ 安全に作業するために

⚠バッテリを取外すときは，最初にマイナス⊖側のケーブルを取外す。

- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルをショートさせない。
- バッテリを取付けるときは，最初にプラス⊕側のケーブルをプラス⊕側の端子に取付ける。

【守らないと】
ヤケドや発火爆発のおそれがあります。



F-8836

⚠バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしない。【補水タイプ】

- バッテリ液が不足していれば，すぐにUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従う。

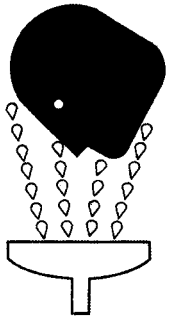
【守らないと】
LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。

F-8836

⚠バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない。

- 目に入ったときや飲込んだときは，すぐ水でよく洗った後，医師の治療を受ける。
- 皮ふ，衣服についたときは，すぐ水でよく洗う。

【守らないと】
失明やヤケドのおそれがあります。

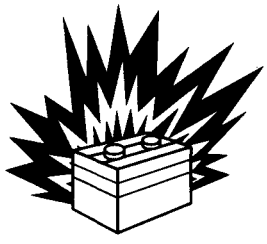


F-8837

⚠指定外のバッテリは使わない。

- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用する。

【守らないと】
思わぬ事故が発生するおそれがあります。



F-8836改

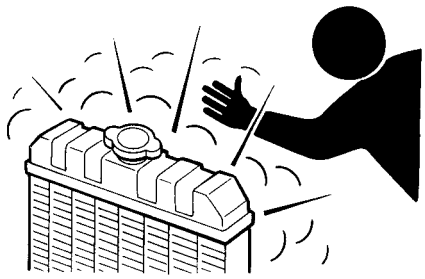
M-6465

⚠ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは，エンジンが冷えてから開ける。

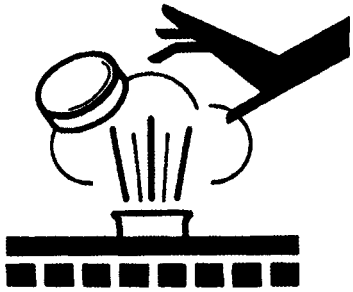
- エンジン停止後，３０分以上経過してからエンジンルームを開け，ラジエータの圧力キャップを 徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。

【守らないと】

熱湯や蒸気が吹き出して，ヤケドや傷害を負うおそれがあります。



B-1503



F-8846

⚠フューエルパイプ，ラジエータホース，オイルドレーンホースは，２年ごとに交換する。

- ゴム類は時間がたつと劣化するので，定期的に交換する。

【守らないと】

燃料や熱湯がもれて，火災やヤケドを負うおそれがあります。

M-8665

M-8666

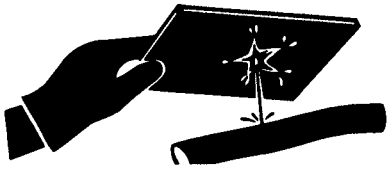
⚠燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは，厚紙や板などを使って点検する。

- 高圧噴油に直接手を触れない。もし，触れた場合は，直ちに医者の診断を受ける。

【守らないと】

油が皮ふに侵入して，えそにかかるおそれがあります。

F-8847



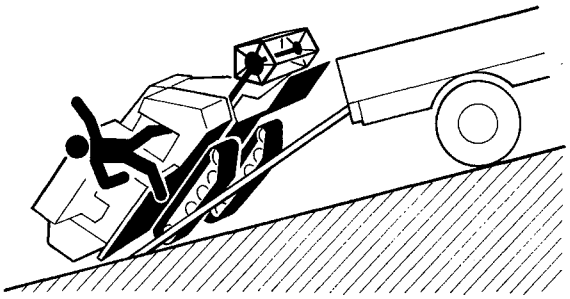
B-1504

⚠ 安全に作業するために

◆運搬時の注意事項

⚠ トラックへの積込み・積降しは平たん地で行なう。

- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- トラックの駐車ブレーキをしっかり掛ける。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。



M-9204

【守らないと】

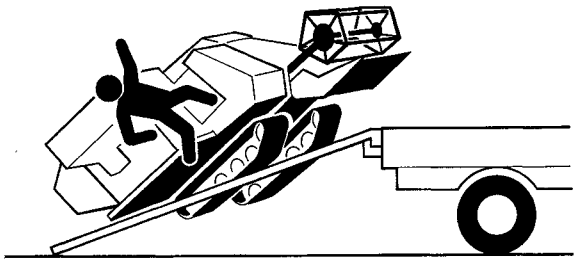
あゆみ板がずれたり，トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠ 積込み・積降しには基準に合ったあゆみ板を使う。

- あゆみ板の基準

長　　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	55cm以上
数　　量	２枚
強　　度	１枚が1500kg以上に耐えうる

- あゆみ板はフック，すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛ける。



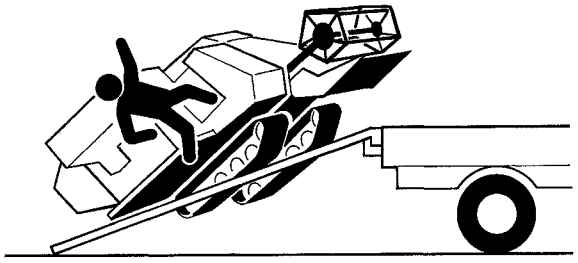
M-8215

【守らないと】

あゆみ板がずれたり，外れたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠ 積込み・積降し前に，こく粒はすべて排出，又は降ろす。

- 排出シュートは収納する。【グレンタンク仕様】
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。



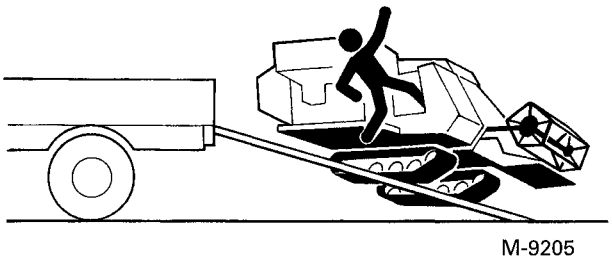
M-8215

【守らないと】

バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

⚠ トラックへの積込み・積降しは最低速で行なう。

- 積込みは前進で，積降しは後進で行なう。



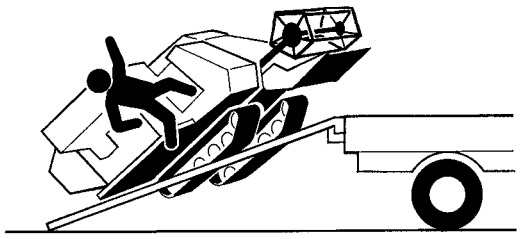
M-9205

【守らないと】

バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

⚠ あゆみ板の上では方向修正しない。

- あゆみ板の上では，パワーステアリング・副変速レバー・駐車ブレーキ は操作 しない。
- 方向を変えるときは，いったん地上，又は荷台にもどって方向を修正し，再度やり直す。



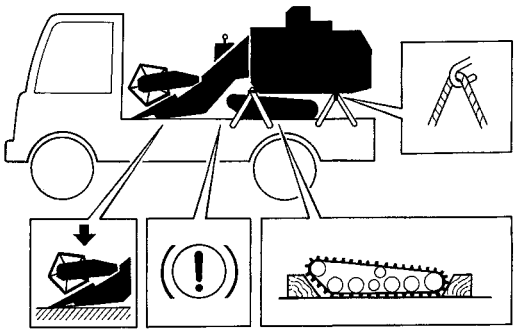
M-8215

【守らないと】

急旋回したり，暴走して落下するおそれがあります。

⚠ トラックの上では，刈取部を床に当たるまで降ろして，駐車ブレーキを掛ける。

- 副変速レバーを**“標準”**位置又は**“低速”**位置にする。
- 所定の**“ロープ掛けフック（4カ所）”**にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。

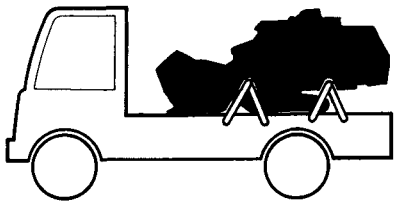


M-8216

【守らないと】

機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

⚠ 輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回は避ける。



M-8353

【守らないと】

輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

⚠ 安全に作業するために

2. ⚠表示ラベルと貼付け位置

①品番　59900-4378-4

⚠ 注　意

作業前

1．安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2．エンジンを始動するときは、各クラッチを「切」にし主変速を「停止」にすること。
3．屋内は排気ガスが溜まりやすく、ガス中毒のおそれがあるので、換気すること。
4．ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは、各クラッチを切りエンジンを必ず止めること。

移動・作業中

1．発進するときや脱こく部・刈取部を作動させるときは、周囲の安全を確かめ合図をして、機械に人を近づけないこと。
2．緊急停止が必要なときは、主変速レバーを「停止」にすること。
3．転倒・転落事故のおそれがあるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・がけぎわなどは走行しないこと。また移動走行で旋回するときは、必ず減速すること。
4．急発進・暴走の危険があるので、副変速を切換えるときは、平坦な場所で、主変速レバーを「停止」にし、駐車ブレーキペダルをいっぱい踏み込むこと。
5．刈取作業時以外（あぜ乗越時．移動走行時．運搬時格納時）は「もみ」はすべて排出又は降ろして、各作業クラッチを“切”にし、M仕様(車体水平制御)は、一番下げた状態にすること。

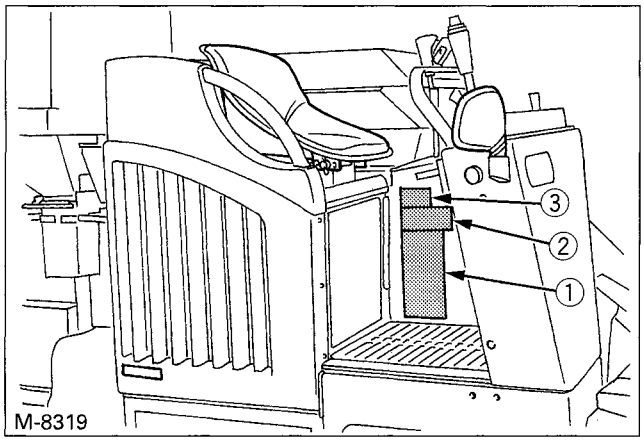
積込み・積降し・あぜ越え

転倒・転落事故のおそれがあるので、車への積込みおよび、あぜ越えをするときは以下を守ること。

① 上るときは前進に、降ろすときは後進にすること。
② 副変速を「倒伏」、主変速を低速にし、エンジンの回転を落とすこと。
③ パワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。
④ あゆみ板は、段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、基準に合ったものを使うこと。

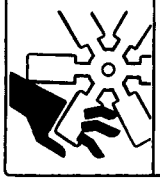
駐・停車

1．火災のおそれがあるので、機械を停止するときは、切りわらや雑草の上に止めないこと。
2．機械から離れるときは、エンジンを止めて「始動キー」を抜き、駐車ブレーキを必ずロックすること。また坂道で駐車するときは、車止めをして暴走を防ぐこと。



③品番　52320-3166-1

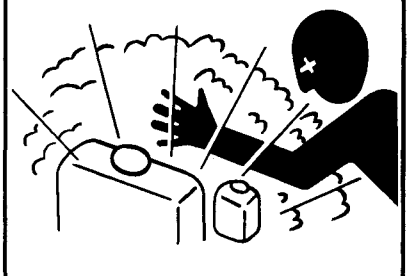
⚠ 警　告



エンジンを回転したままエンジンルームを開けると、ファンやベルトでケガをするおそれがあるので、エンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。

②品番　56431-5219-4

⚠ 注　意

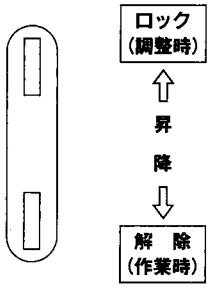


オーバヒートでエンジンルームを開けて点検整備するときは、次の手順を守ること。
1．エンジンを止める。
2．必ず停止後30分以上経過してからエンジンルームを開けること。
エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。

①品番　59900-4375-1

⚠ 注　意

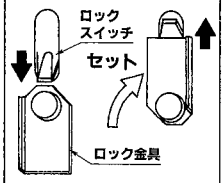
刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので刈取部を上げて点検・調整するときはロック金具を必ずロックすること。

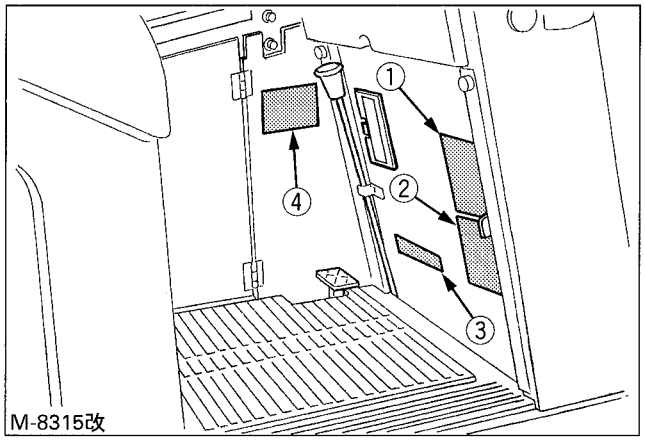


②品番　51840-3988-1

⚠ 注　意

リールを上げて点検・調整を行うときには、リールが不意に下降してはさまれることがあるので、ロックスイッチを上げて必ずロック金具をセットすること。





③品番　51561-4379-1

⚠ 注　意

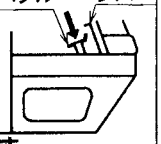
転落、転倒事故の危険があるので 前後、左右共10度を越える傾斜地での作業はおこなわないこと。

④品番　59900-4323-2

⚠ 注　意

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。
1．駐車するときは、車止めをすること。
2．駐車ブレーキを解除するときは、副変速を「倒伏」又は「標準」にし、主変速を「停止」にすること。

駐車ブレーキの操作方法

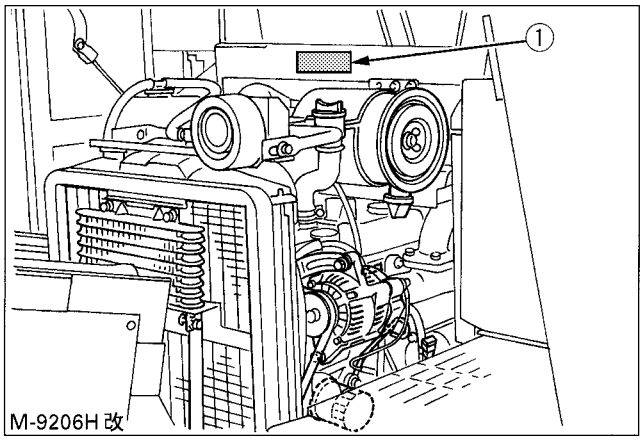


①主変速レバーを「停止」位置にし、停止を確認すること。
②駐車ブレーキペダルをいっぱい踏み込むと自動的にロックされます。
③ロックを解除する時は、ペダルを踏みながらレバーを押して下さい。

①品番　52320-3159-1

⚠ 注　意

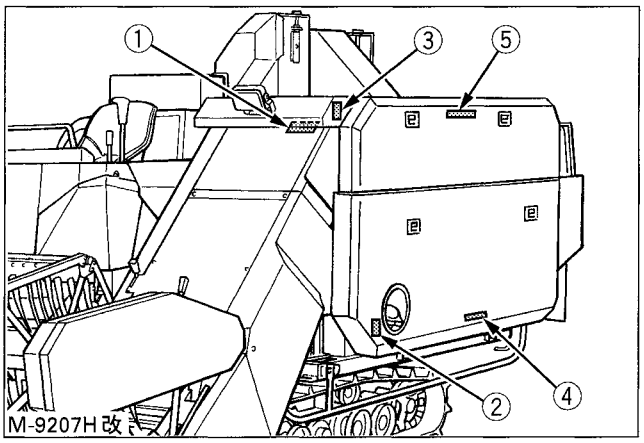
マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。



▲ 安全に作業するために

①品番　53981-6434-1

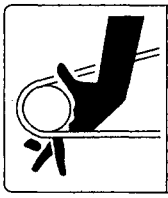
▲注意
掃　除　口
中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



②品番　52166-2575-1

▲ 注　意
火気厳禁
・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。
ディーゼル軽油

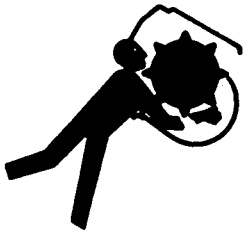
④品番　53981-6436-2



▲ 注　意
1．回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
3．点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

③品番　53981-6431-3

▲ 警　告



中で扱歯が高速で回転しているので，接触するとケガをします。扱胴オープンするときにはエンジンを必ず止めること。

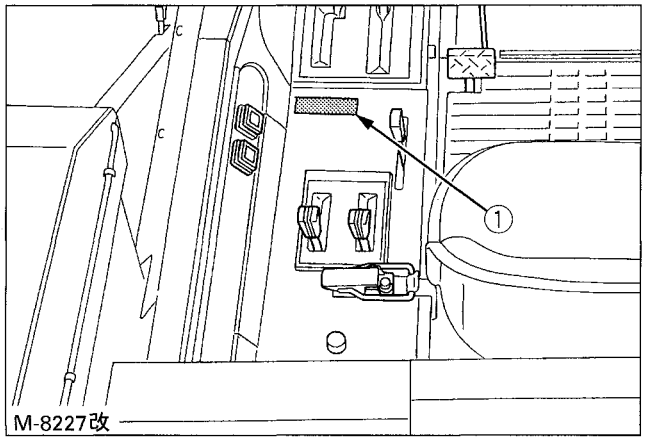
⑤品番　53981-6432-1

▲ 注　意
中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

①品番　59900-4365-3

⚠ 注　意

エンジンを始動するときは、主変速レバーを「中立」にし、脱こくクラッチを「切」にすること。

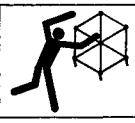


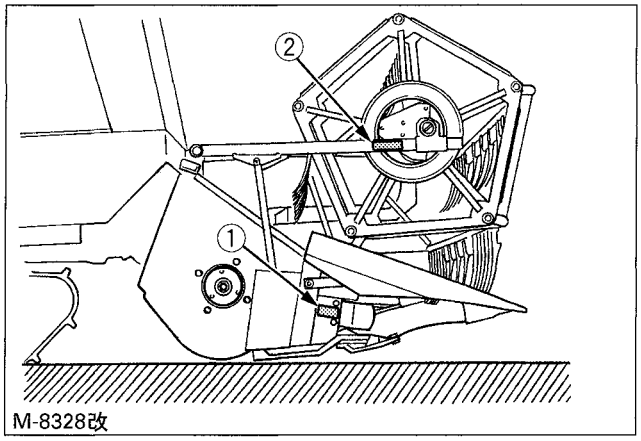
M-8227改

①品番　50080-5772-3

⚠注意 運転中は、刈刃・回転軸などでケガをする危険があるので手を絶対入れないこと。作業中は本品を必ず取付けること。

②品番　51850-3915-2

⚠注意  **リールの回転中は危険ですから手をふれないこと。**

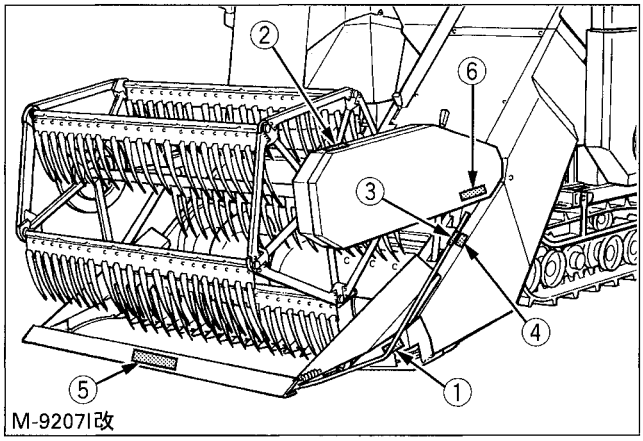


M-8328改

③品番　53981-6432-1

⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



M-9207I改

④品番　59700-2136-2

⚠注意 人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

⑤品番　59700-4332-2

⚠注意 デバイダ先端に当たるとケガをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

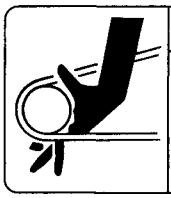
⑥品番　51960-3946-1

⚠ 注　意

はさまれるとけがをするおそれがあるのでカバーの下側に手を入れないこと。

⚠ 安全に作業するために

①品番　53981-6436-2



⚠ 注　意

1. 回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2. 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
3. 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

②品番　53981-6432-1

⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

③品番　53981-6434-1

⚠ 注意

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

④品番　52166-2119-2

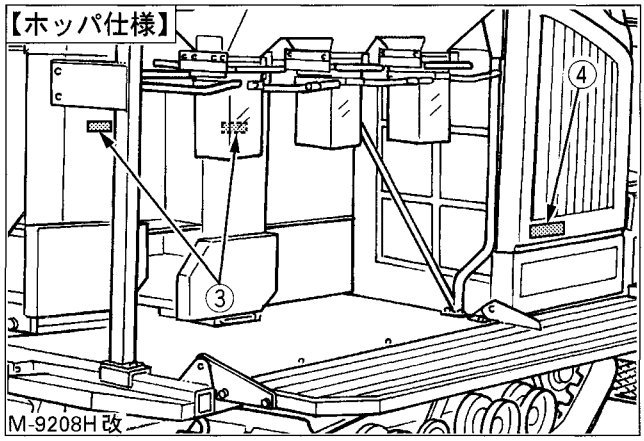
⚠ 注意

1. 転落のおそれがあるので補助デッキには乗らないこと。
2. 移動するときは、人に当ってケガをさせるおそれがあるので、補助デッキを必ず収納すること。

⑤品番　51870-3942-3

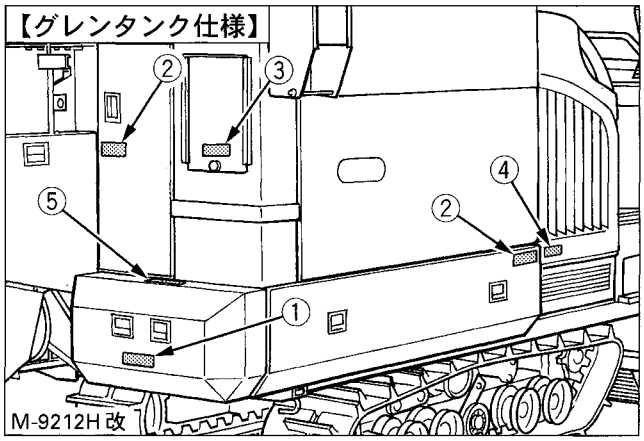
⚠ 注意　このカバーの上には乗らないこと。

【ホッパ仕様】



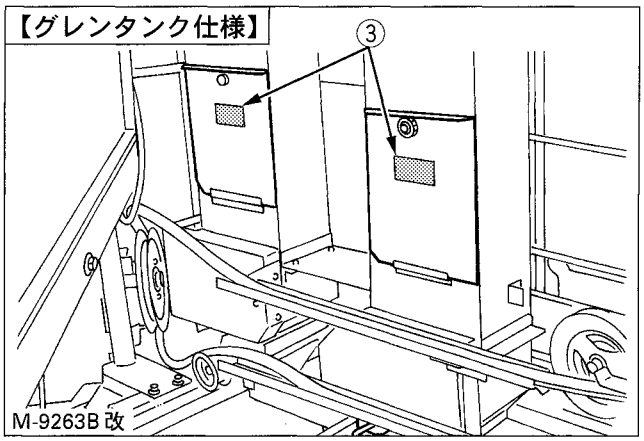
M-9208H改

【グレンタンク仕様】

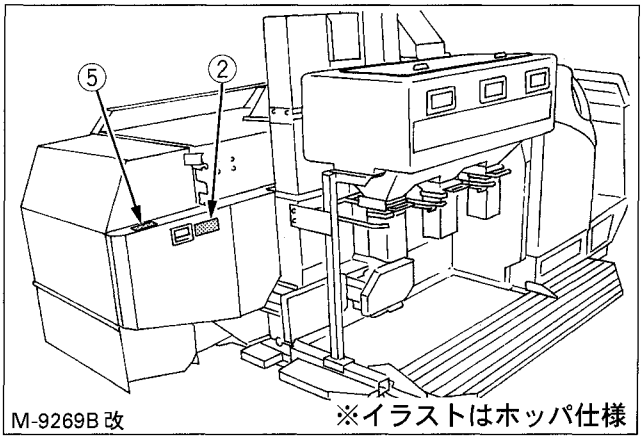


M-9212H改

【グレンタンク仕様】



M-9263B改

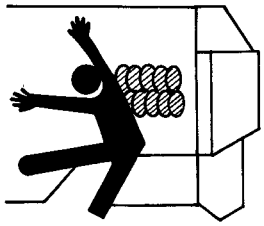


M-9269B改

※イラストはホッパ仕様

①品番　51590-8635-1

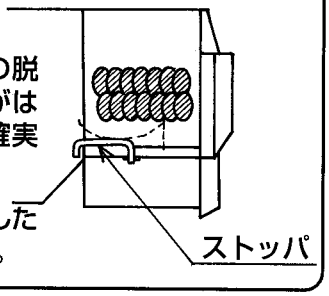
⚠ 警 告



1．カッタ オープンした状態で脱こく機を回転させると非常に危険です。エンジンは、絶対に始動しないこと。

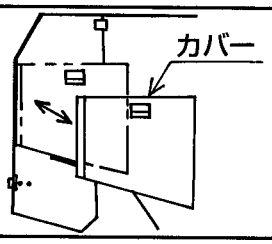
2．カッタをオープンして、シーブケース・選別ベルトの脱着や機内の掃除をするときは、カッタが閉じて身体がはさまれることがあるので、ストッパを相手側の穴に確実に入れ込み、固定すること。

3．カッタをオープンしたまま走行すると、カッタが開閉したり、破損して非常に危険です。絶対に走行しないこと。



カッタ オープン時の注意

1．カッタ オープンする前に、必ず反対側(運転席側)のカバーを外すこと。
カバーが変形、破損します。
カッタを閉じた後は必ずこのカバーを取付けること。

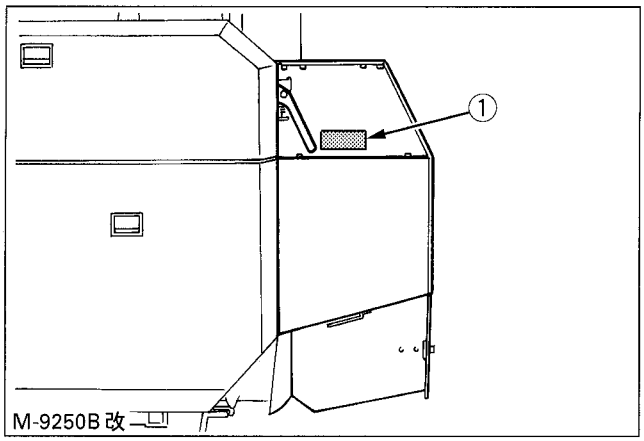


②品番　53981-6434-1

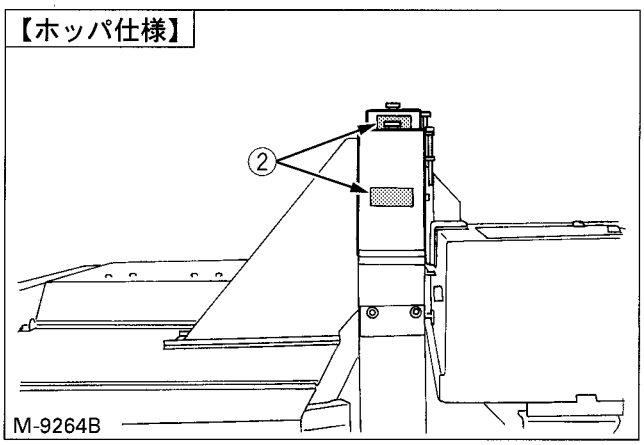
⚠ 注意

掃　除　口

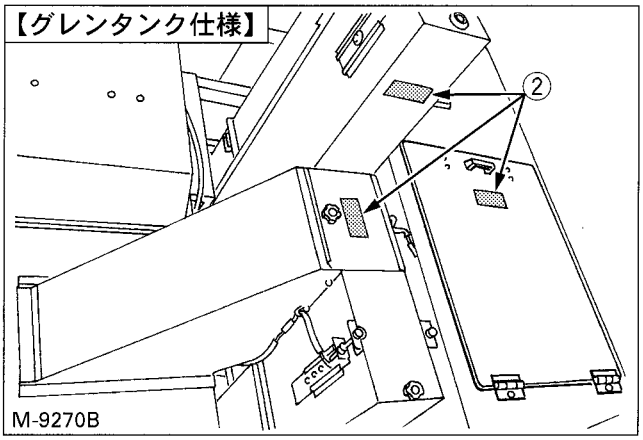
中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



【ホッパ仕様】



【グレンタンク仕様】



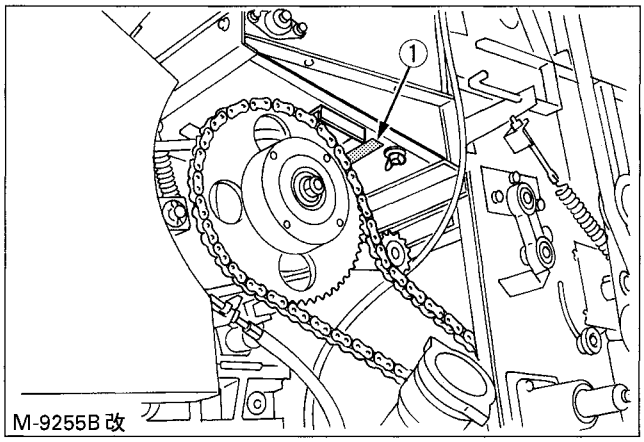
▲ 安全に作業するために

①品番　53981-6434-1

注意

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



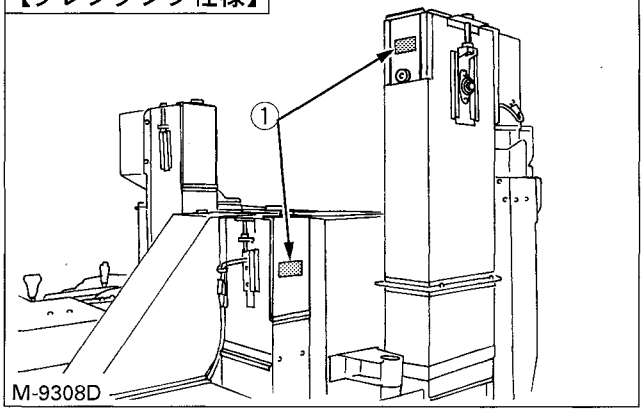
M-9255B 改

②品番　53690-3129-2

▲ 注　意

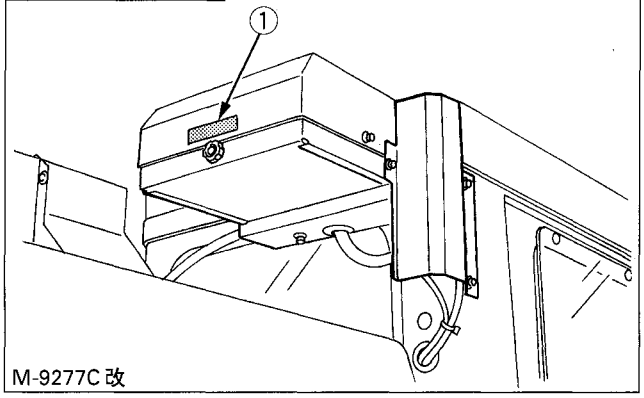
中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

【グレンタンク仕様】



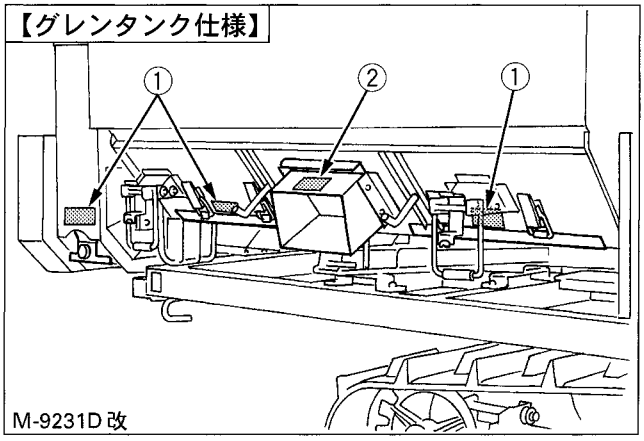
M-9308D

【キャビン仕様】



M-9277C 改

【グレンタンク仕様】



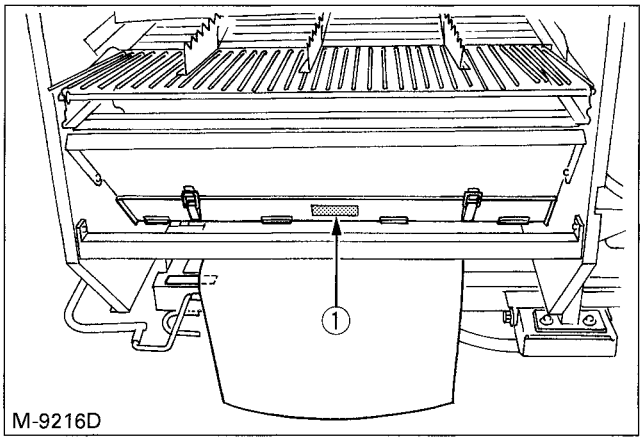
M-9231D 改

①品番　53981-6434-1

注意

掃　除　口

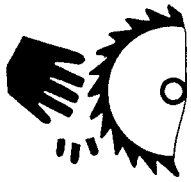
中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



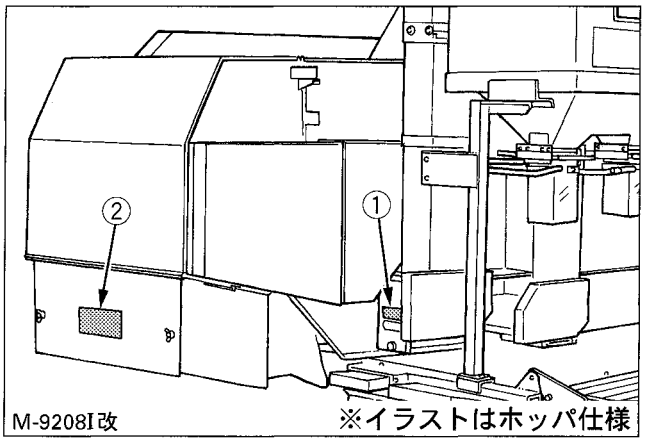
M-9216D

②品番　57745-5315-3

⚠警告



1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。



M-9208I改

※イラストはホッパ仕様

⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

①品番　51593-9282-1【グレンタンク仕様】

注

◆グレンタンクをオープンするときは、

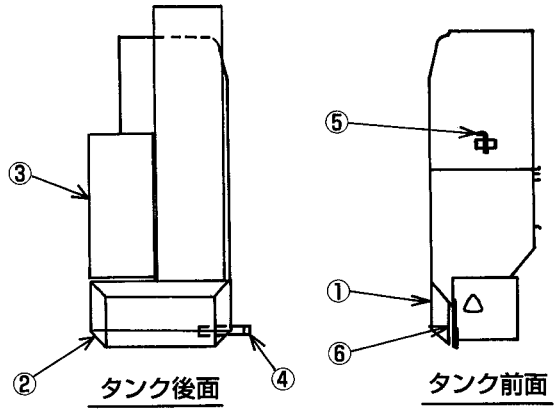
1．タンクに身体がはさまれるおそれがあるので必ず平坦な場所で行うこと。
2．内部の「もみ」は排出すること。
3．エンジンは必ず停止して行うこと。
4．カッターは必ず閉じておくこと。

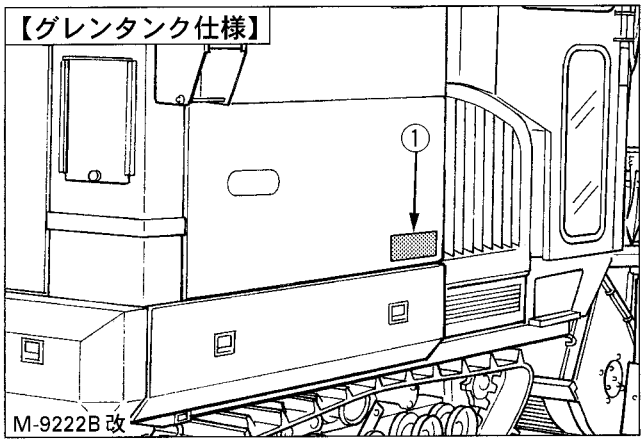
意

◆エンジン始動時は必ずタンクを収納固定しておくこと。

◆タンクオープンのしかた

㋑サイドカバー①と後ろの下カバー②をはずす
㋺後ろの開閉カバー③を開の状態にする。
㋩タンク中央下の角パイプ④を案内ガイドまで引き出す
㋥タンク前の固定ピン⑤と⑥を抜き、取っ手を持ってタンクを開いてください。
㋭タンクを元に戻す時は、上記の逆の手順で行う。





3. ⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふいてください。
シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼ってください。
(5)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいたご購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際　(1)商品名・区分と車台番号
(2)とう載機関(エンジン)の型式名と機関(エンジン)番号

をあわせてご連絡ください。

なお，部品ご注文の際は，ご購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

◆認定番号

安全鑑定の農機型式名及び番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

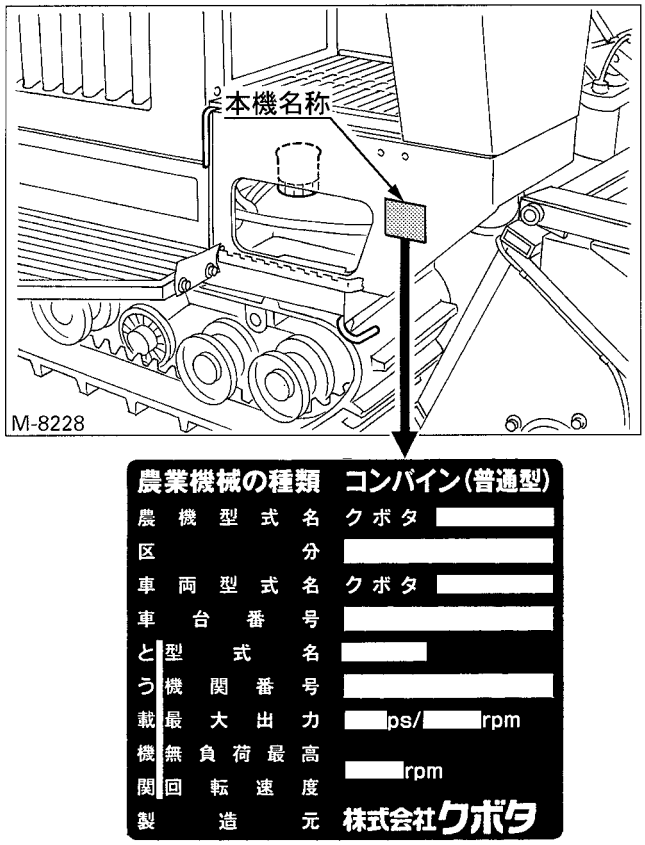
型　式　名	安全鑑定番号
DC-1S	23168
DC-1SG	申請中

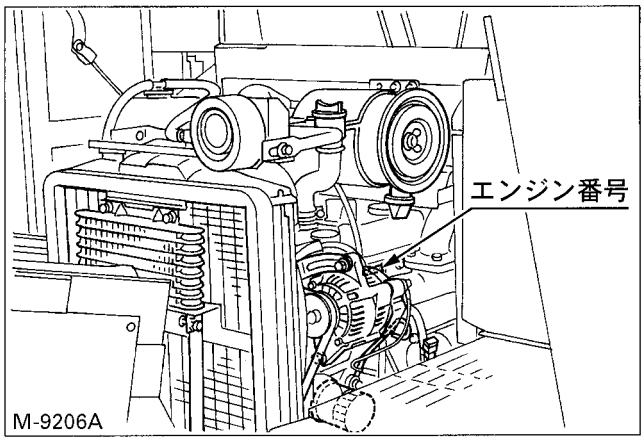
■補修用部品の供給年限について

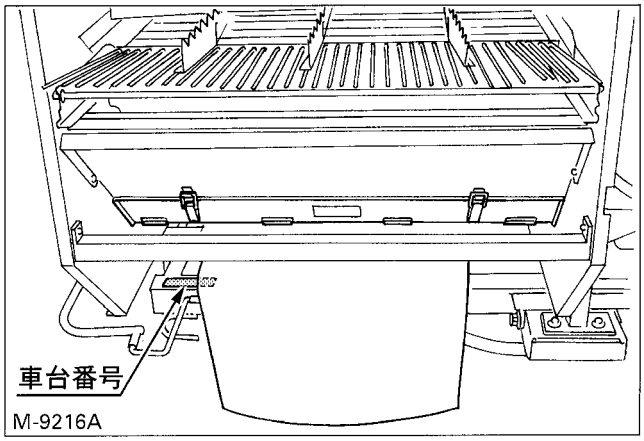
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。

ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。



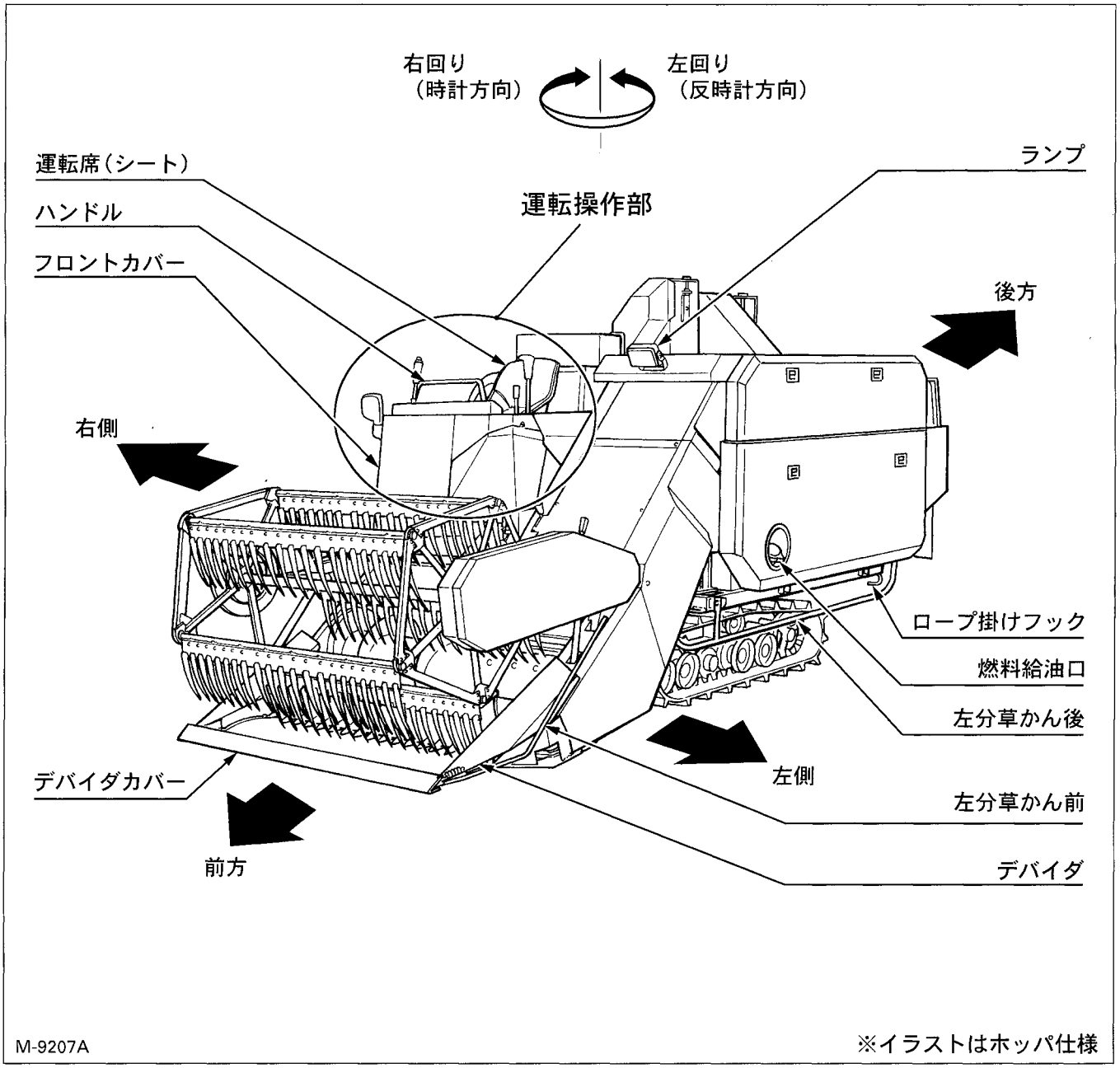




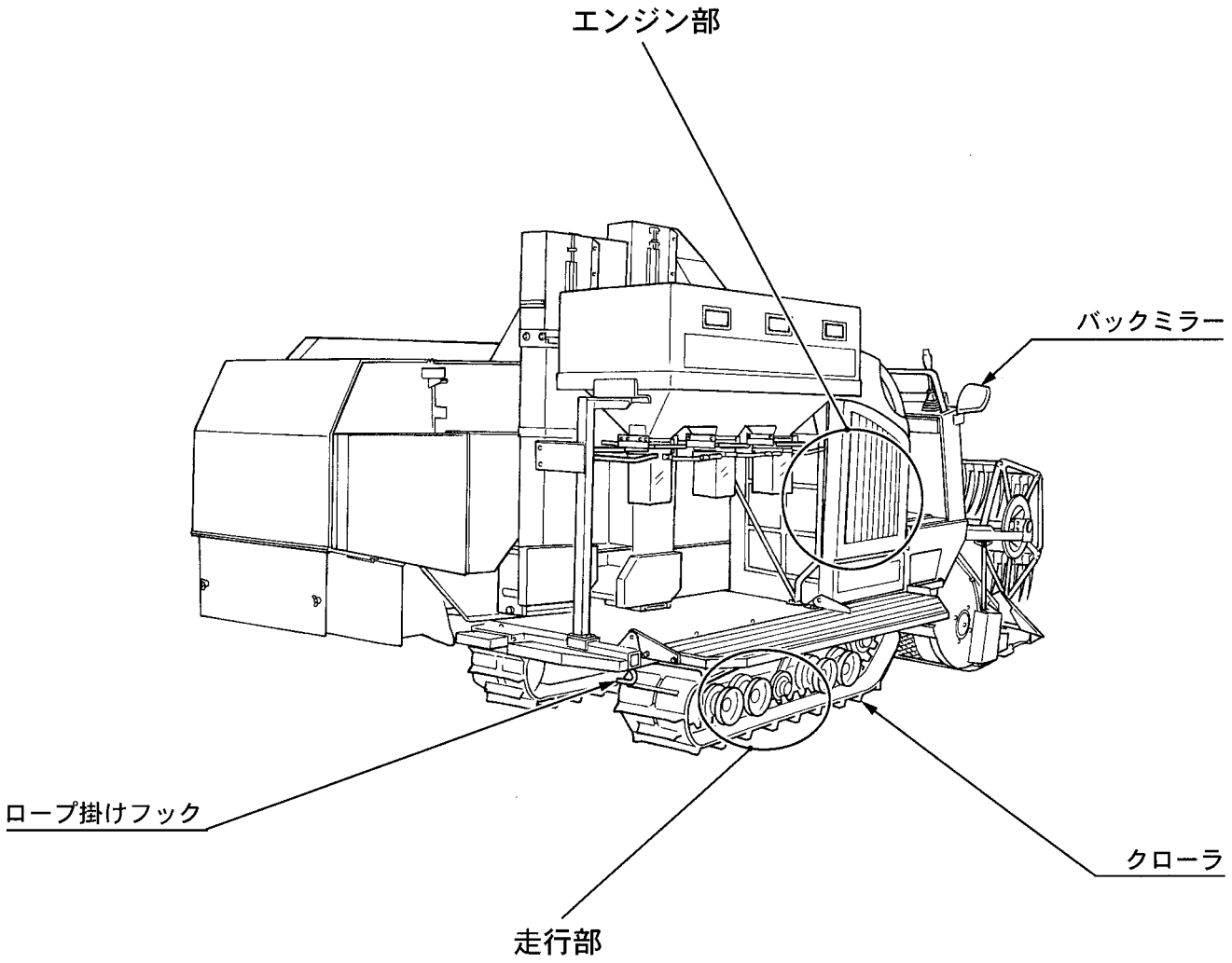
走行装置の名称と取扱い

機体方向説明と走行装置の名称

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。

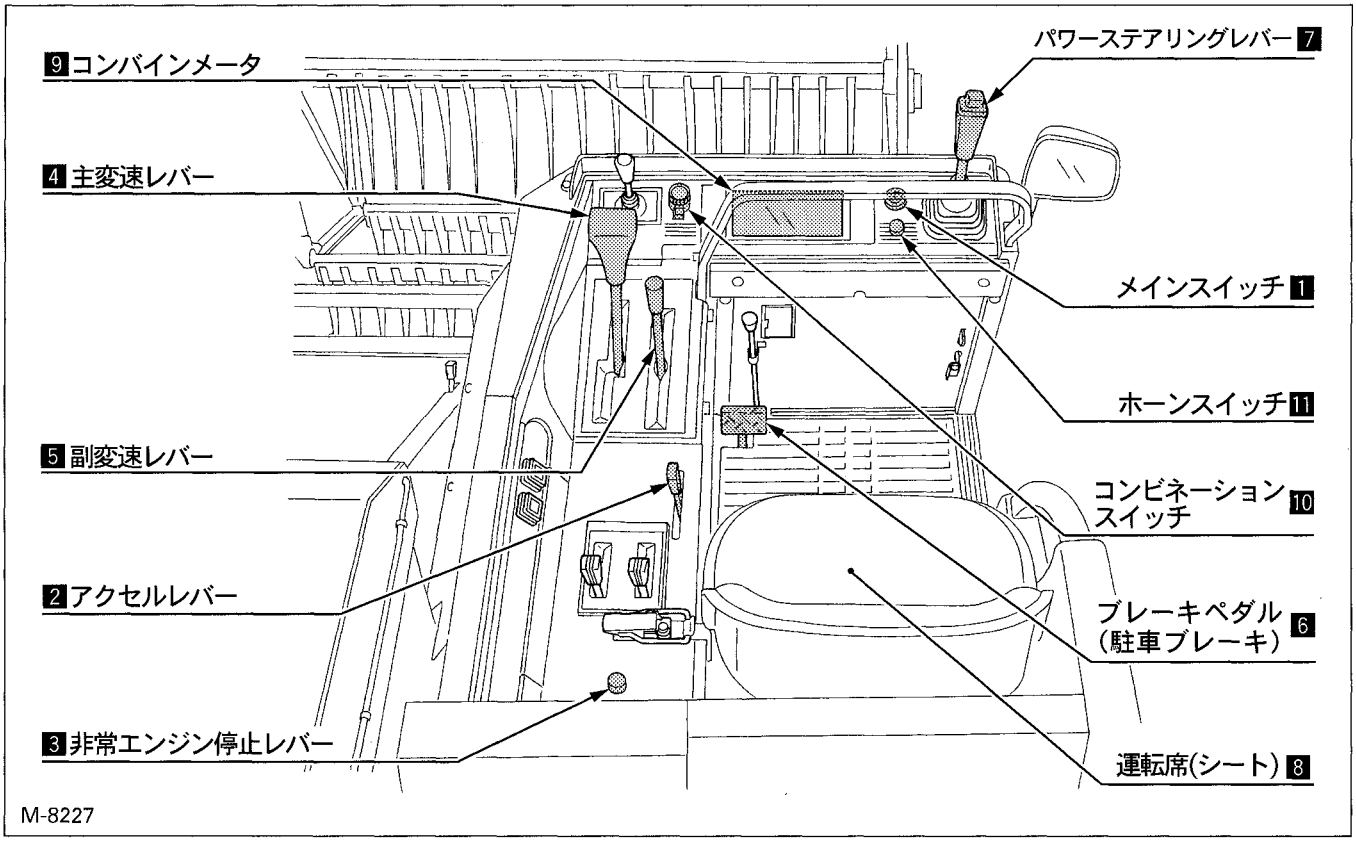


● **運転操作部**……エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ



● **エンジン部**……運転席下部にある動力装置
● **走行部**……クローラにより走行を行なうところ

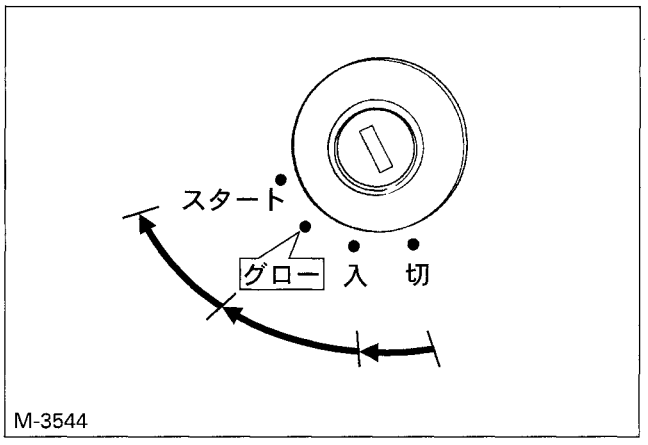
各部の名称とはたらき



◆エンジン操作関係

1 メインスイッチ

コンバインの電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。



"切"……スイッチキーが抜き差しできるエンジン停止中の位置。

"入"……電気(電装)装置がはたらく位置。

"グロー"……エンジンの燃焼室内が予熱される位置。(予熱)

"スタート"…セルモータが回転し，エンジンが始動する位置。(始動)

補　足

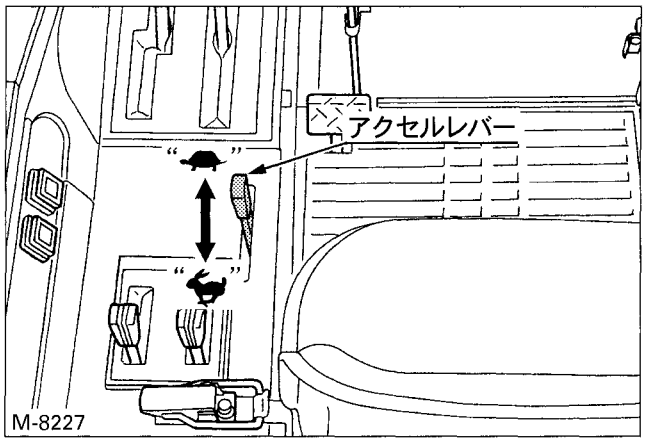
＊エンジン始動後，スイッチキーから手を離すとスイッチキーは，**"入"**位置に戻ります。

2 アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。レバーを後方に引くと回転数が上がります。

"🐢"……エンジン回転数**低回転**の位置。

"🐇"……エンジン回転数**高回転**の位置。

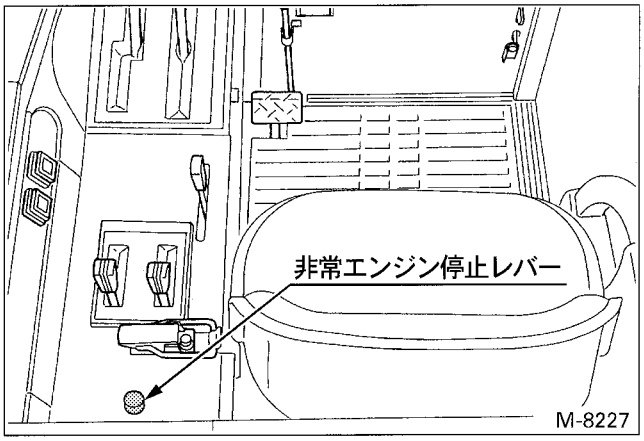


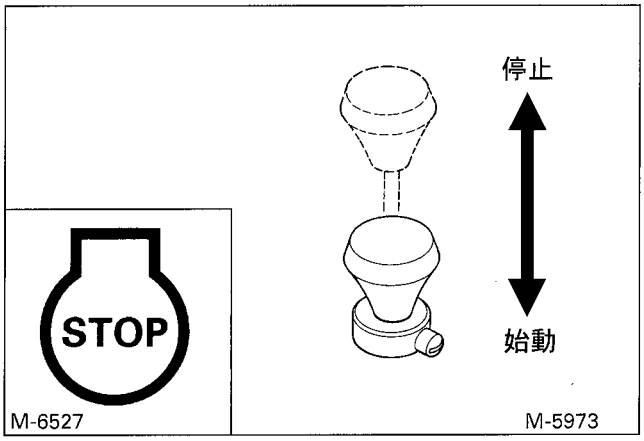
補　足

＊エンジン回転計は，**コンバインメータ**の項目を参照してください。

3非常エンジン停止レバー

スイッチキーを**“切”**位置にしてもエンジンが止まらないときなど**非常時**に，エンジンを停止させるレバーです。





補　足

＊レバーが停止状態では，エンジンは始動しません。

◆走行操作関係

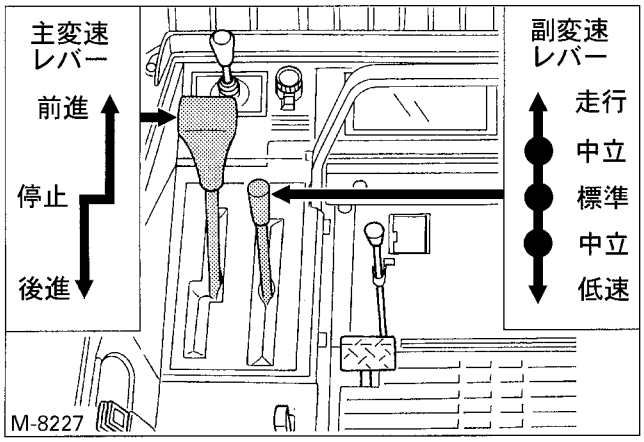
4主変速レバー

5副変速レバー

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバーです。

主変速レバーで，機体の**前進・後進**を**無段階**で操作します。

副変速レバーは**“低速”・“標準”・“走行”**の3段階です。

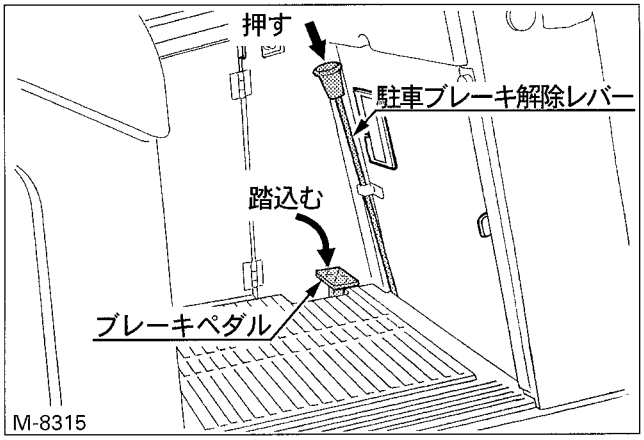


補　足

＊主変速レバーを**“後進”**位置にするとバックブザーが鳴ります。

6ブレーキペダル(駐車ブレーキ)

ブレーキペダルを踏込むとブレーキが掛かります。さらに踏込むと，ブレーキペダルが自動的にロックされ駐車ブレーキが掛かります。駐車ブレーキを解除するときは，ブレーキペダルを踏込みながら駐車ブレーキ解除レバーを押してください。



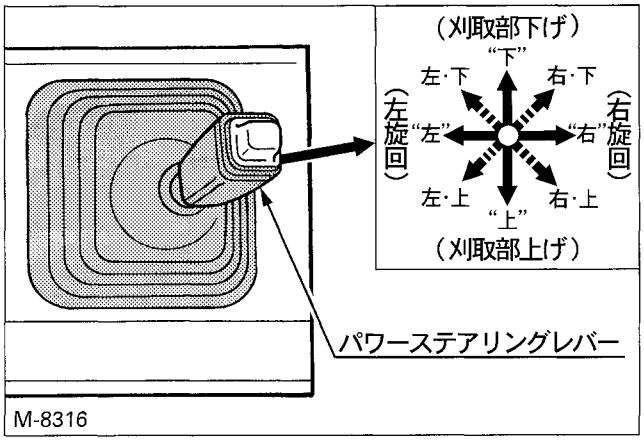
7パワーステアリングレバー

機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。

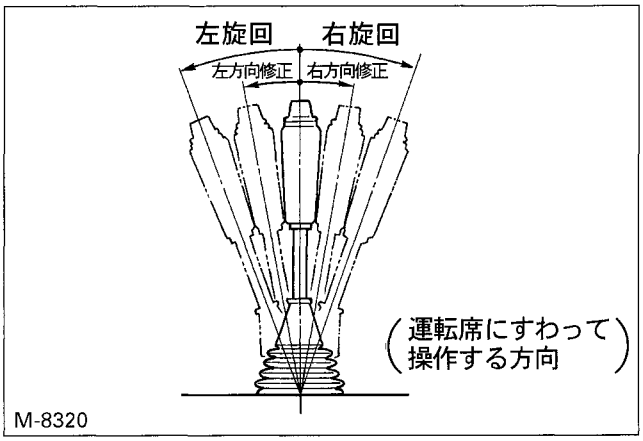
“左”⟷“右”……レバーを倒した方向に機体が曲がります。倒す角度に応じて機体の方向修正から旋回まで行なえます。

“下”
↕
“上”
……レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。

左・下　右・下
左・上　右・上
……レバーを倒した方向に機体が曲がると同時に，刈取部が上下に動きます。



M-8316



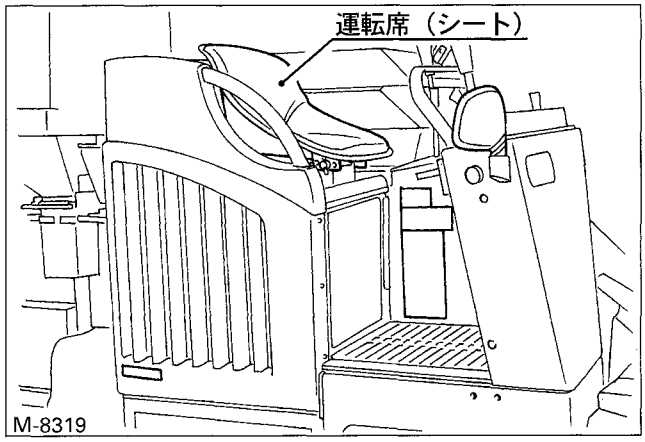
M-8320

補　足

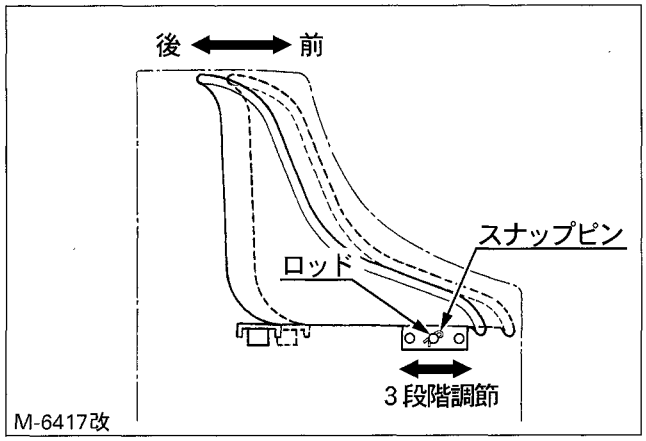
＊エンジン停止時にレバーを前方（**“下”**方向）に倒すと，刈取部が下降します。

8運転席（シート）

運転席（シート）は，**前・後**に３段階調節できます。調節を行なうときは，スナップピンとロッドを取外してください。



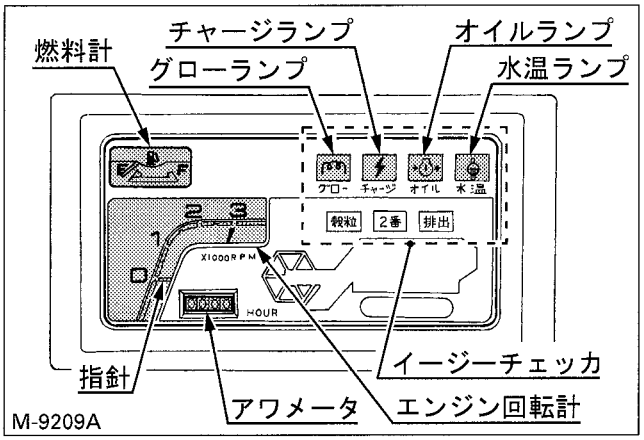
M-8319



M-6417改

◆電装関係

9コンバインメータ



◆各メータ

●エンジン回転計(単位：×1000rpm)

1分間のエンジン回転数を指針で表示します。

●燃料計

燃料の残量を**"F"**(満タン)⟷**"E"**(空)で表示します。

●アワメータ(単位：時間・分)

エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。

補　足

＊5ケタ目(右端)は，数字を6倍して**"分"**単位の表示となります。

【例】 0 0 1 2 4 ……　12時間24分

◆各ランプ(イージーチェッカ)

●グロー(予熱)ランプ

寒冷時にエンジンをスタート(始動)するとき，スイッチキーを**"グロー"**位置にすると約4秒点灯します。

●チャージ(充電)ランプ

バッテリの電圧低下や電気系統の故障で，充電できなくなったときに点滅します。

●オイルランプ

エンジンオイルの圧力が，異常に低下したとき点滅します。

●水温ランプ

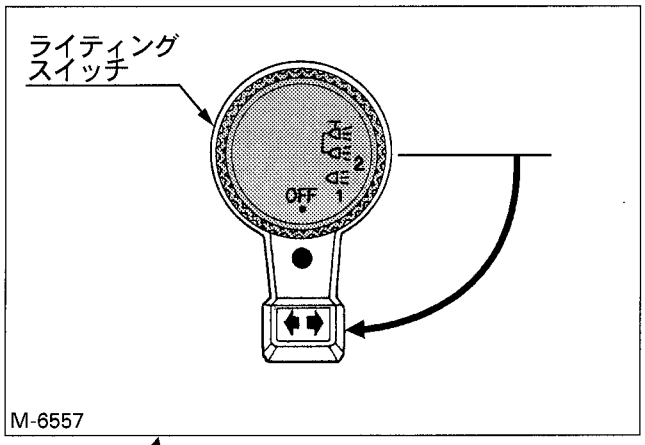
エンジン冷却水が，異常に高温になったとき点滅します。

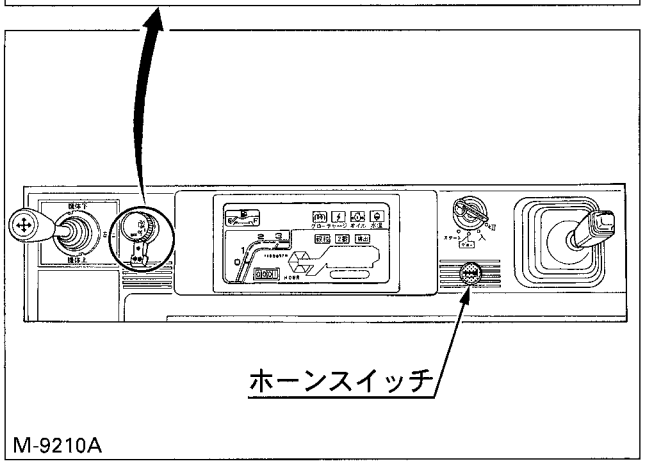
補　足

＊処置については，**コンバインメータによる異常と処置**の項を参照してください。

＊エンジンが停止しているとき，スイッチキーを**"入"**位置にすると，イージーチェッカの全てのランプが点灯し，約2秒後にグローランプと水温ランプが消灯し，エンジン始動後にオイルランプとチャージランプが消灯します。

10コンビネーションスイッチ
11ホーンスイッチ





●ライティングスイッチ

スイッチを操作するとランプが点灯します。

"○"
"◑" } …消灯位置。

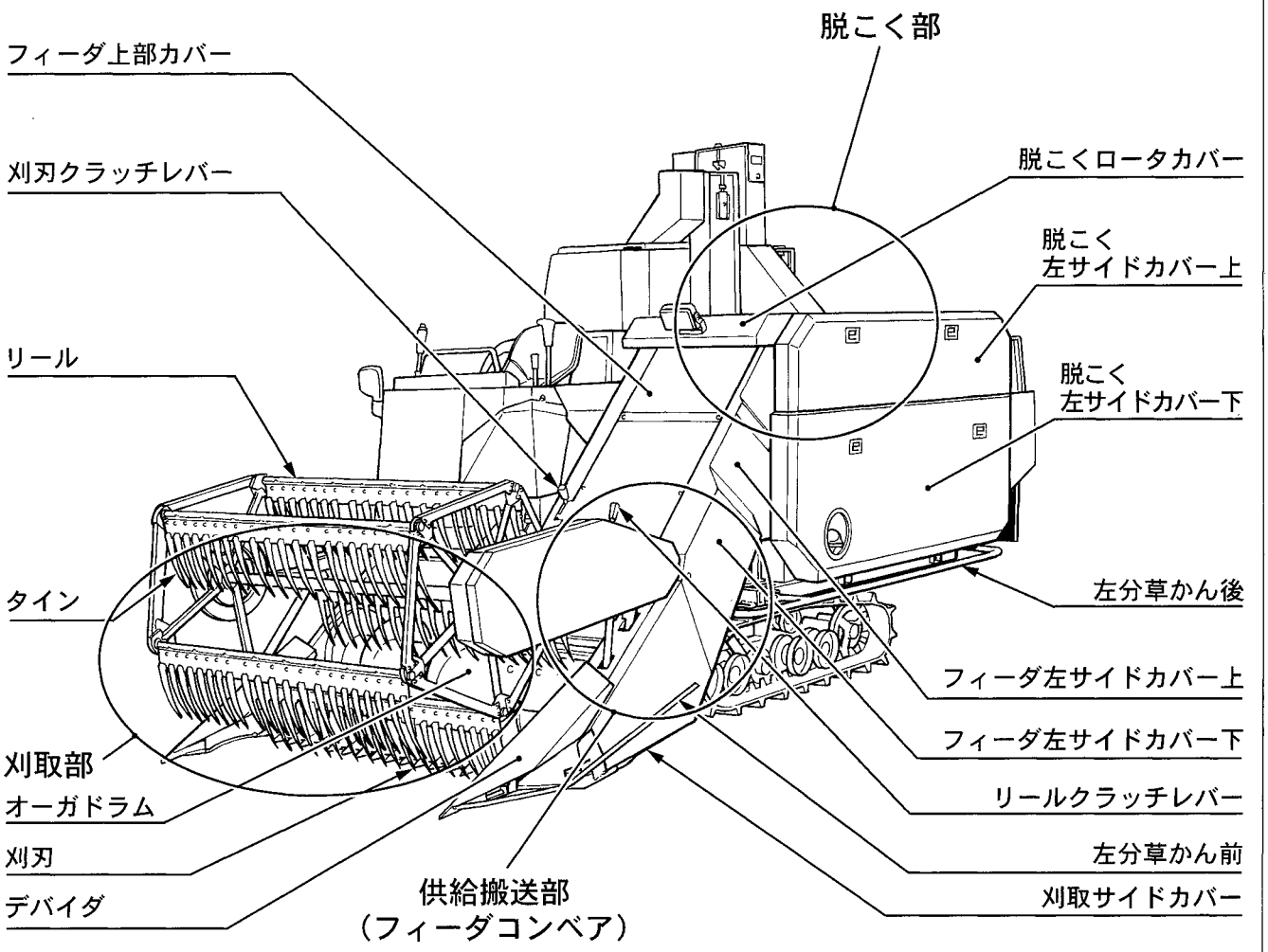
"◉"……ランプ点灯位置。

●ホーンスイッチ

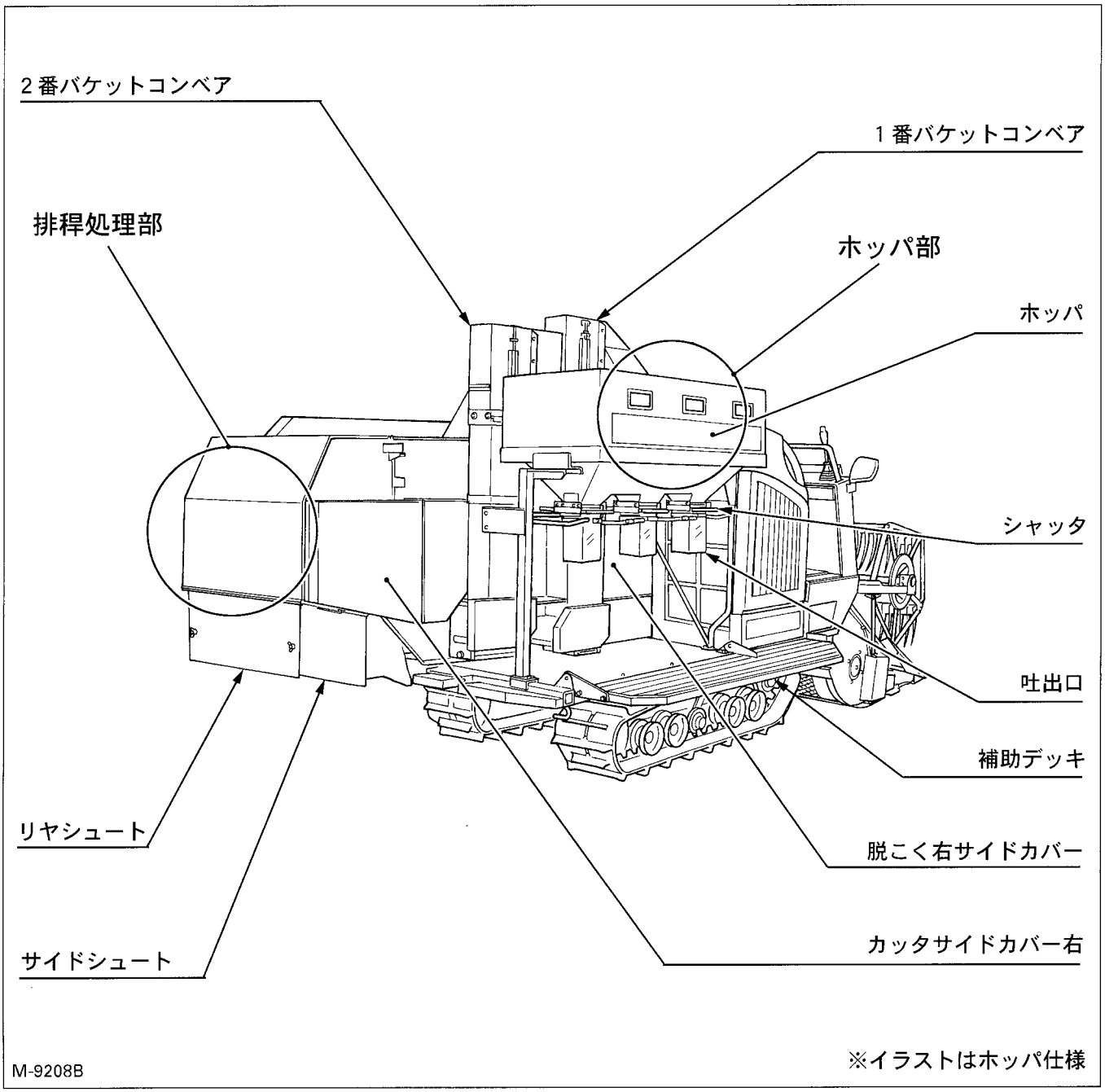
ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

作業装置の名称と取扱い

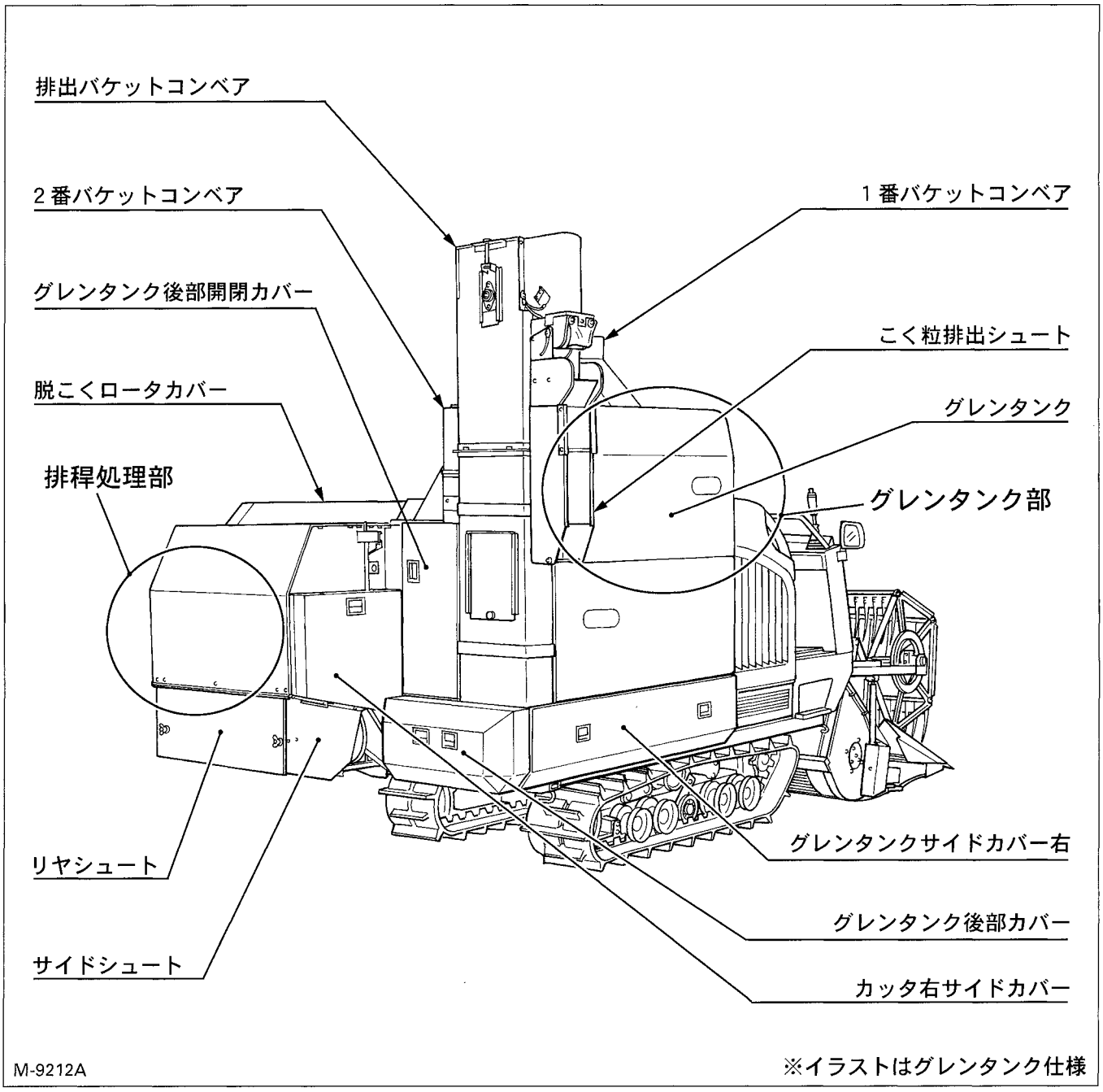
作業装置の名称



- **刈取部**……作物の刈取りと引起しを行なうところ
- **供給搬送部**……作物を脱こく部へ搬送するところ
  （フィーダコンベア）
- **脱こく部**……作物の脱こくを行なうところ

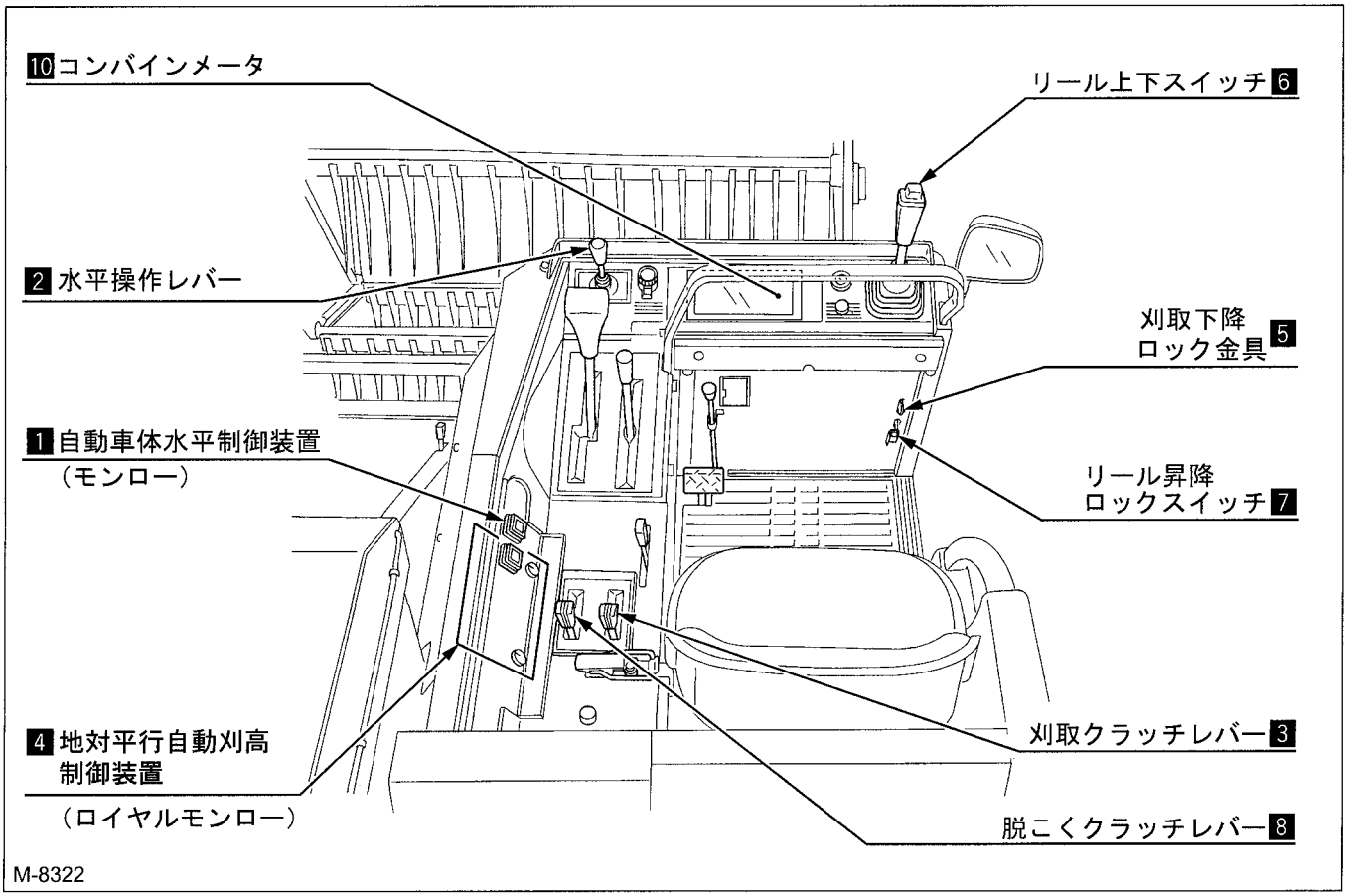


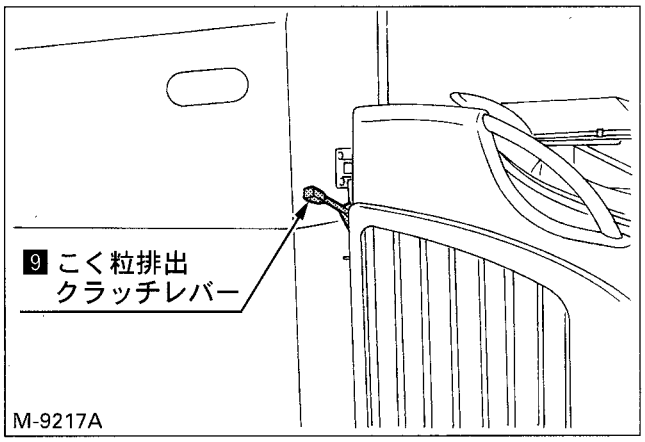
● **排稈処理部**……稈(茎)の切断など排稈の処理を行なうところ
● **ホッパ部**……脱こくで精選されたこく粒を一時貯蔵したあと袋詰めを行なうところ



- **排稈処理部**……稈(茎)の切断など排稈の処理を行なうところ
- **グレンタンク部**……脱こくで精選されたこく粒を一時貯蔵したあとこく粒排出シュートで排出を行なうところ

各部の名称とはたらき


10 コンバインメータ
リール上下スイッチ 6
2 水平操作レバー
刈取下降
ロック金具 5
1 自動車体水平制御装置
（モンロー）
リール昇降
ロックスイッチ 7
4 地対平行自動刈高
制御装置
（ロイヤルモンロー）
刈取クラッチレバー 3
脱こくクラッチレバー 8
M-8322


9 こく粒排出
クラッチレバー
M-9217A

◆走行操作関係

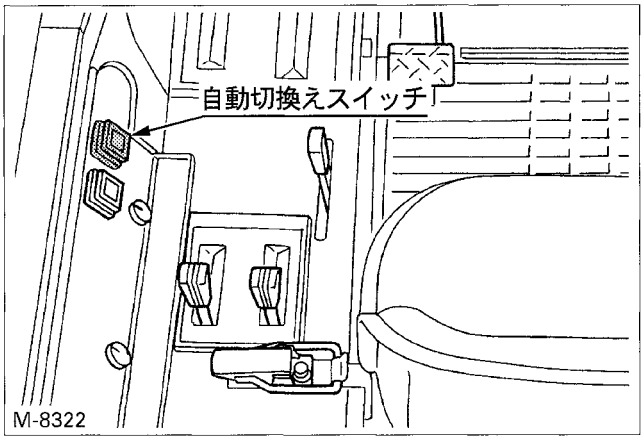
1自動車体水平制御装置(モンロー)

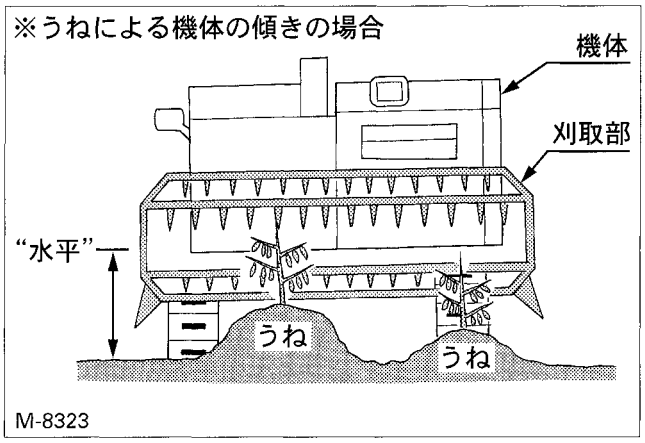
自動車体水平制御装置は，機体が左・右に傾くと，自動的に機体や刈取部を水平状態に修正・保持する装置です。

● **自動切換えスイッチ**

自動入り……ランプが点灯又は点滅し，自動制御が作動します。

自動切り……ランプが消灯し，自動制御が解除されます。





補　足

＊自動切換えスイッチが**自動入り**のとき，下記状態によりランプは点灯又は点滅します。

・メインスイッチ**“入”**……ランプ**点滅**

・エンジン始動……ランプ**点滅**

・脱こくクラッチレバー**“入”**……ランプ**点灯**

＊脱こくクラッチレバーを**“切”**位置又は，自動切換えスイッチを**自動切り**にすると，機体は**最下降位置**まで下がります。

＊対地平行自動刈高制御自動切換えスイッチが**自動入り**のとき

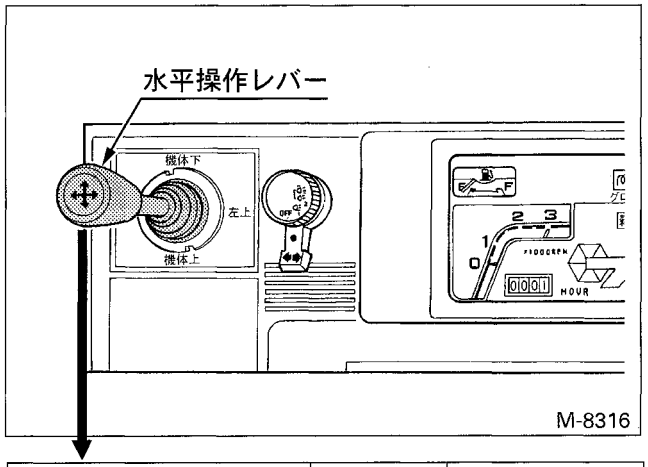
ソリセンサ**入**(接触)……ランプ**点滅**

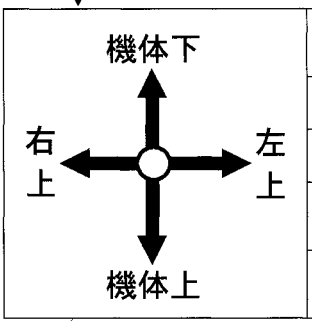
ソリセンサ**切**(非接触)……ランプ**点灯**

(**対地平行自動刈高制御装置**の項参照)

2水平操作レバー

車体の**上昇⟷下降**を行なう手動操作レバーです。





レバーの操作方向	機体の動き
機体上	上昇
機体下	下降
右上	右上がり又は，左下がり
左下	左上がり又は，右下がり

補　足

＊機体の動く方向は，運転席に座って見たときです。

＊自動車体水平制御がはたらいているときでも，水平操作レバーによる操作が優先されます。

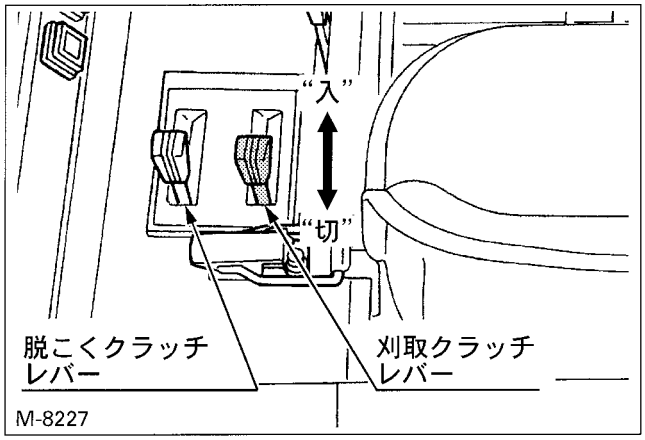
◆刈取関係

3刈取クラッチレバー

刈取部を作動させるレバーです。

“入”……刈取部が作動します。

“切”……刈取部が停止します。



M-8227

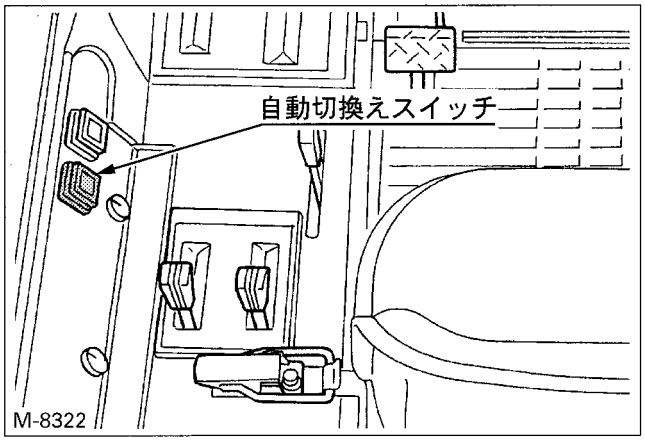
4対地平行自動刈高制御装置（ロイヤルモンロー）

対地平行自動刈高制御装置は，うねの高さが異なるところで刈取作業を行なったとき，刈取部を自動的に異なるうねの高さに対して平行状態に修正・保持する装置です。

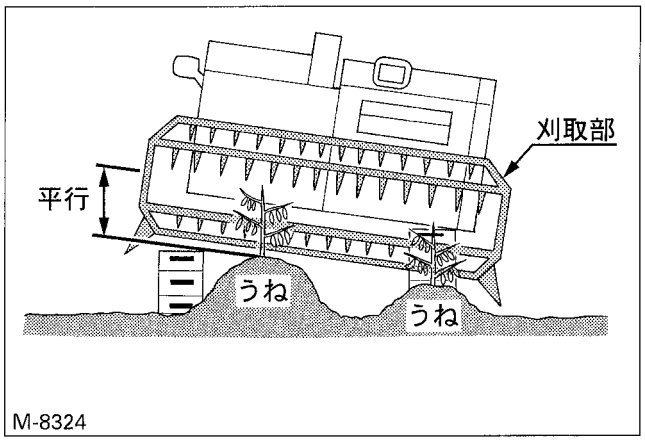
● **自動切換えスイッチ**

自動入り……ランプが点灯又は点滅し，自動制御が作動します。

自動切り……ランプが消灯し，自動制御が解除されます。



M-8322



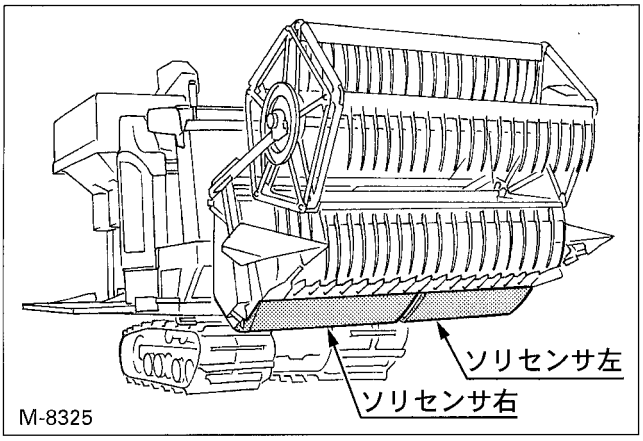
M-8324

補　足

＊自動刈高制御は，自動車体水平制御が作動しないとはたらきません。

＊自動刈高制御がはたらいているときでも，パワーステアリングレバーによる操作が優先されます。

＊刈取部下面のソリセンサ左，右がうねや地面に接触すると対地平行自動刈高制御がはたらき，離れると（非接触）自動車体水平制御がはたらきます。



M-8325

＊自動切換えスイッチが**自動入り**のとき，下記状態によりランプは点灯又は，点滅します。

・メインスイッチ**“入”**……ランプ**点滅**

・エンジン始動……ランプ**点滅**

・脱こくクラッチレバー**“入”**……ランプ**点灯**

・自動車体水平制御自動切換えスイッチが**自動入り**のとき

　ソリセンサ**入**（接触）……ランプ**点灯**

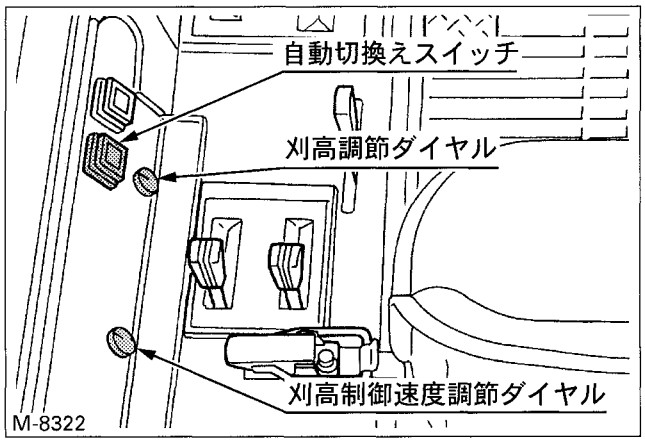
　ソリセンサ**切**（非接触）……ランプ**点滅**

●刈高調節ダイヤル

刈取部の高さ調節を行なうダイヤルです。

●刈高制御速度調節ダイヤル

うねや地面に刈取部が接触したときや離れたときに，適正な刈高さ(約４～６cm)に制御するとき(刈取部の上下の動き)の速度を調節するダイヤルです。



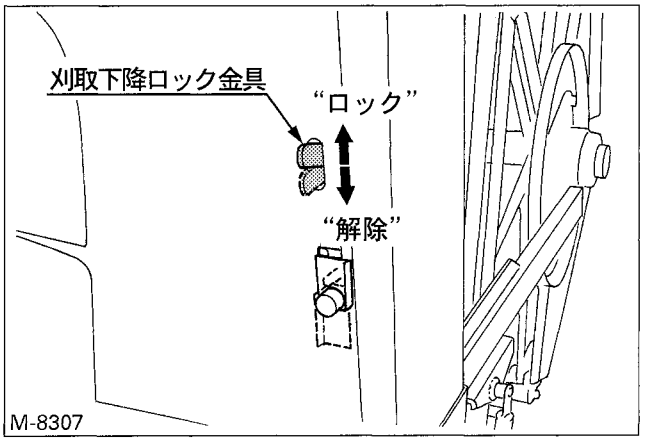
補　足

＊対地平行自動刈高制御の自動切換えスイッチが**自動切り**のときは，はたらきません。

＊調節のしかたについては，**作業に合わせた各部の調節・調整のしかた**の項を参照してください。

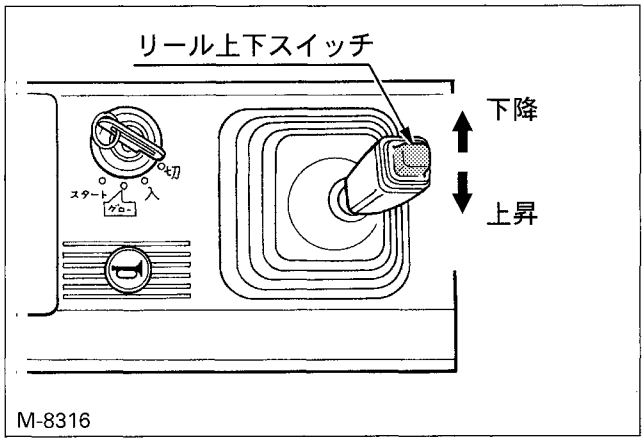
5刈取下降ロック金具

刈取部の下降防止を行なうロック金具です。ロック金具を上げる(**“ロック”**位置)とパワーステアリングレバーを操作しても刈取部は下降しません。ロック金具を操作するときは，刈取部を上昇させて行なってください。解除するときは，ロック金具を下げて(**“解除”**位置)ください。



6リール上下スイッチ

刈取部リールの昇降(上下)の操作を行なうスイッチです。

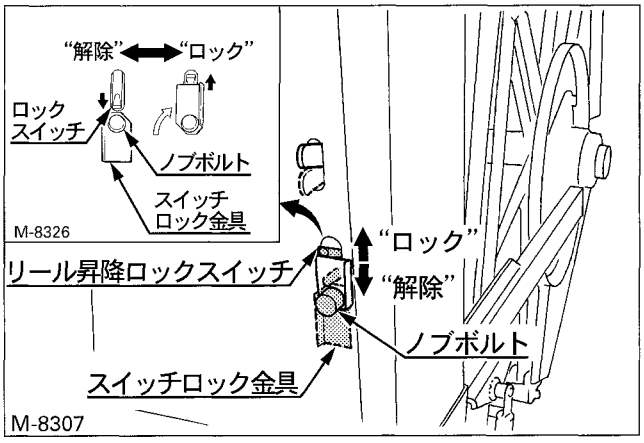


重　要

＊エンジン停止中でもメインスイッチ**“入”**の位置で操作できますが，長時間エンジンを停止した状態で操作すると**バッテリ上がり**の原因となりますので，操作するときは，エンジンを必ず始動して行なってください。

7リール昇降ロックスイッチ

リールの下降防止を行なうロックスイッチです。ロックスイッチを上げる(**“ロック”**位置)とリール上下スイッチを操作してもリールは下降しません。ロックスイッチを操作するときは，リールを上昇させて行なってください。解除するときは，ロックスイッチを下げて(**“解除”**位置)ください。



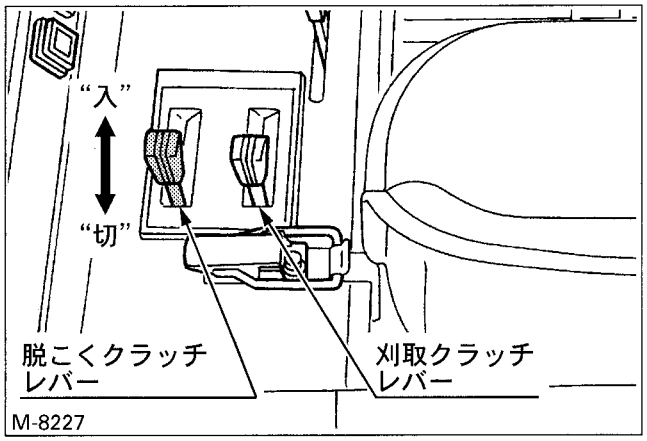
補　足

＊ロックスイッチを上げたときは，必ずスイッチロック金具でロックスイッチの下降防止を行なってください。スイッチロック金具はノブボルトをゆるめて動かしてください。

◆脱こく関係

8 脱こくクラッチレバー

脱こく部を作動させるレバーです。
“入”……脱こく部が作動します。
“切”……脱こく部が停止します。



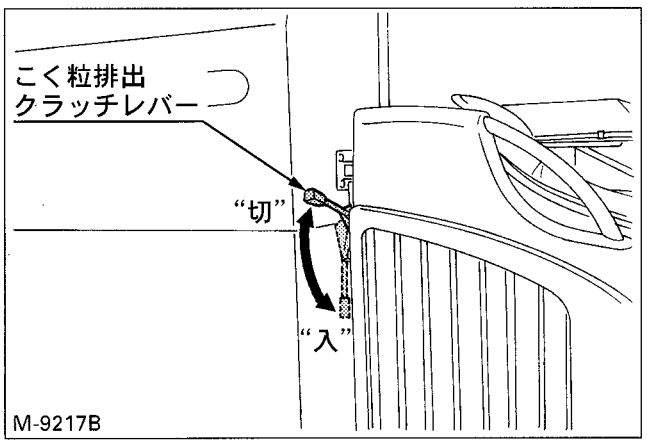
補　足

＊脱こくクラッチレバーを**“切”位置**にすると同時に，連動して刈取クラッチレバーも**“切”**位置に動き，刈取部が停止します。

◆グレンタンク関係【グレンタンク仕様】

9 こく粒排出クラッチレバー

グレンタンク内のこく粒の排出操作を行なうレバーです。
“入”……こく粒が排出されます。
“切”……こく粒の排出が止まります。

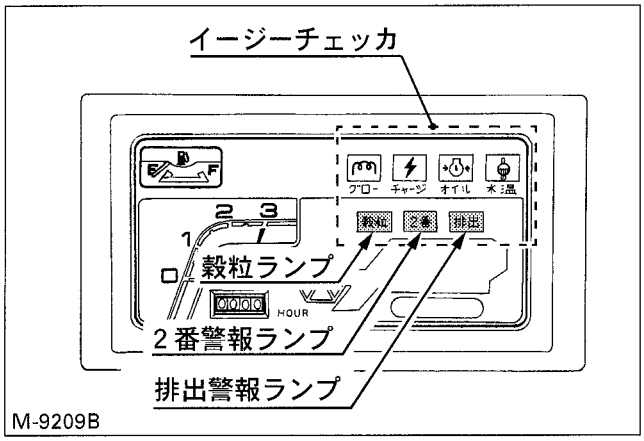


補　足

＊グレンタンク排出クラッチを**“入”**にしても，脱こくクラッチレバーを**“入”**位置にしないと作動しません。

◆電装関係

10 コンバインメータ



◆各ランプ(イージーチェッカ)

●穀(こく)粒ランプ

ホッパ及びグレンタンクが満杯になったとき，ランプが点滅しブザーが鳴ります。

● 2番警報ランプ

2番詰まりが発生すると，エンジンが自動停止(**自動エンジン停止装置**)すると同時に，点滅してブザーが鳴ります。

●排出警報ランプ【グレンタンク仕様】

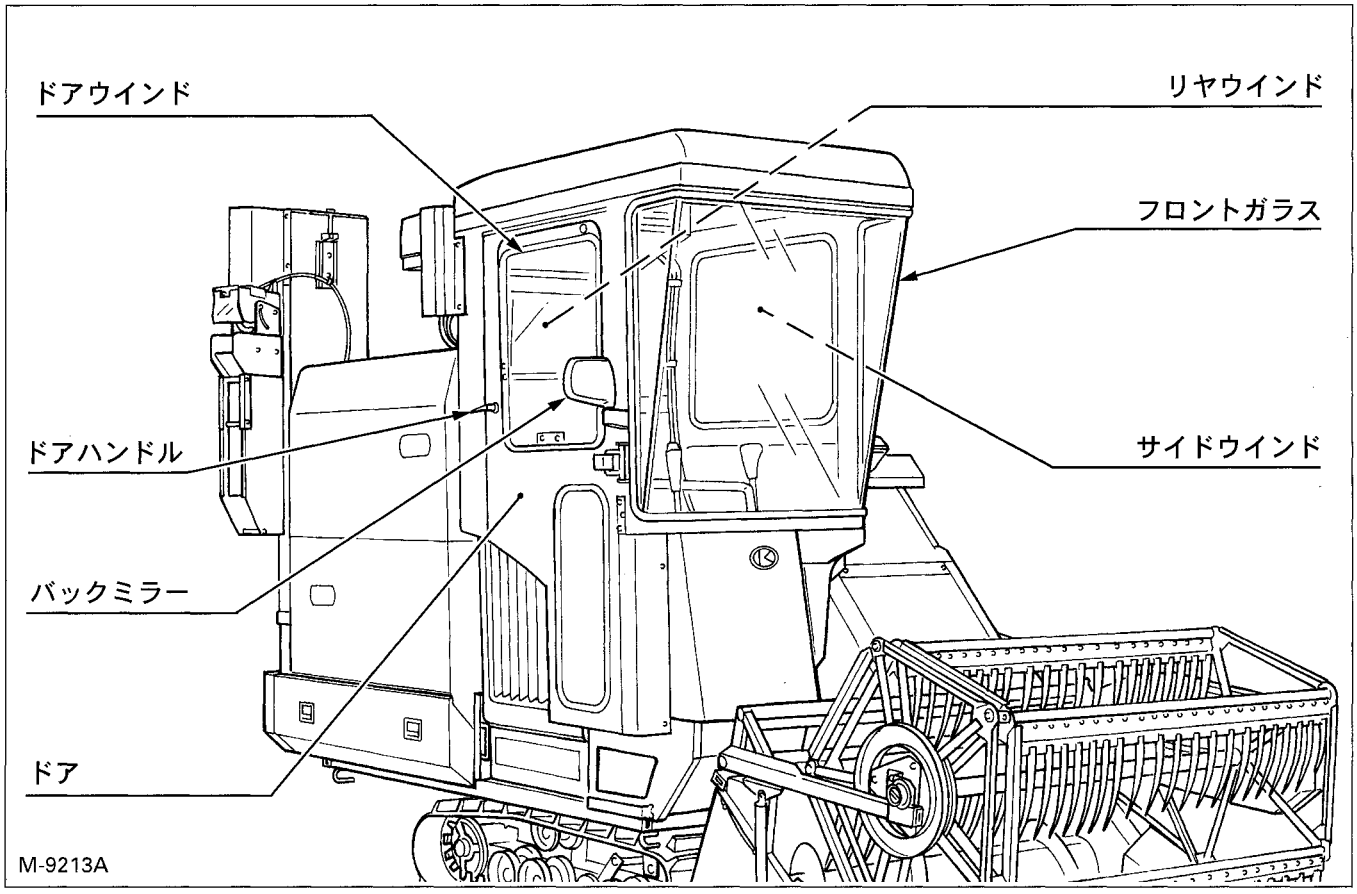
グレンタンク排出シュートに詰まりが発生すると，エンジンが自動停止(**自動エンジン停止装置**)すると同時に，点滅してブザーが鳴ります。

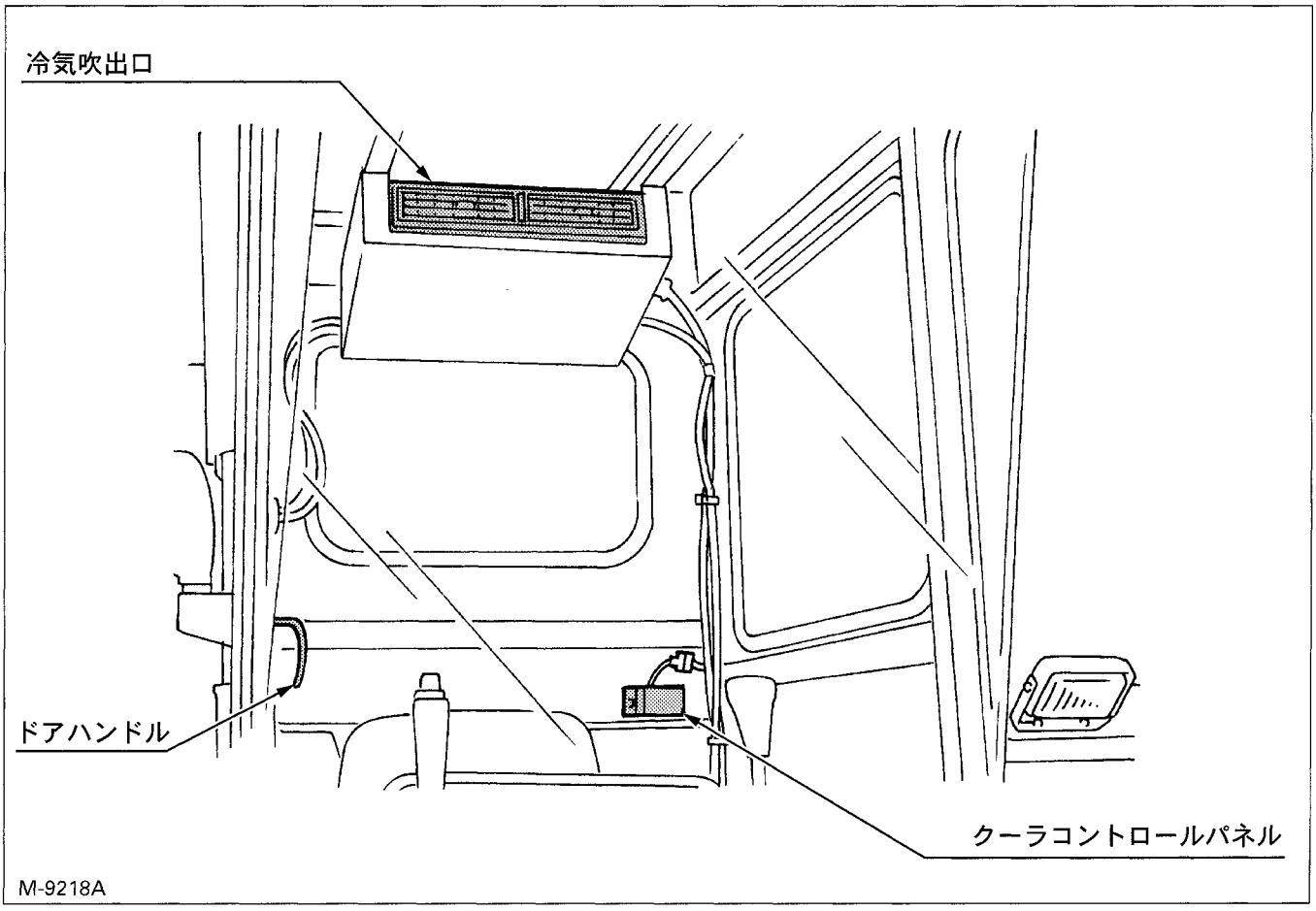
補　足

＊エンジンが停止しているとき，スイッチキーを**“入”**位置にすると，イージーチェッカの全てのランプが点灯し，約2秒後に消灯します。
＊処置については，**コンバインメータによる異常と処置**の項を参照してください。

キャビン装置の名称と取扱い【キャビン仕様】

装置の名称





各装置の取扱い

■ドアの開閉・ロックのしかた

注　意

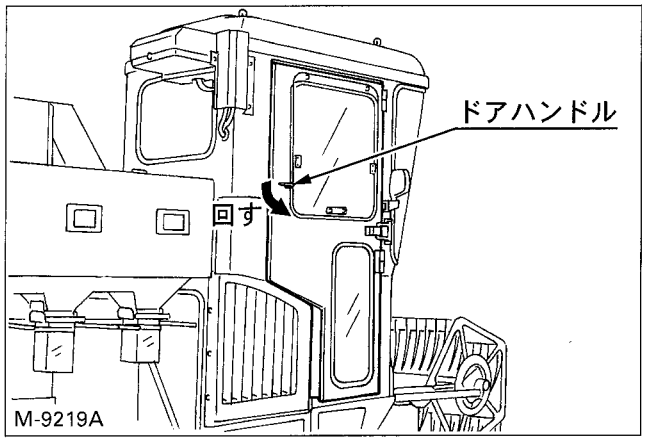
＊ドアの開閉時は，周囲に人を近づけないでください。手を挟んだり，ドアにあたってケガをするおそれがあります。

＊ドアは確実に閉じてください。不意にドアが開いてケガをするおそれがあります。

◆ドアの開閉のしかた

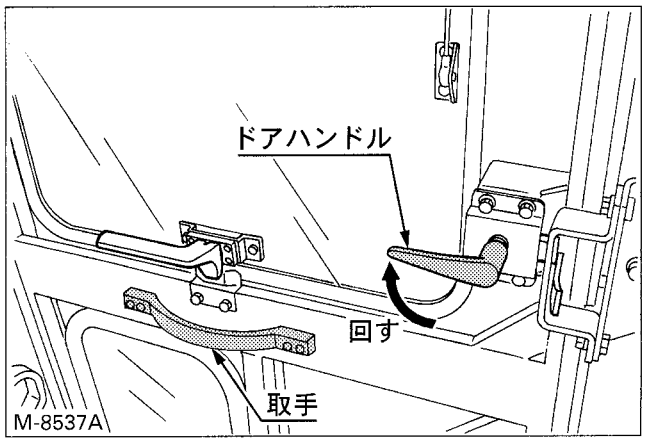
●室外から

開くときは，ドアハンドルを下側に回して引きます。
閉じるときは，ドアを押してください。



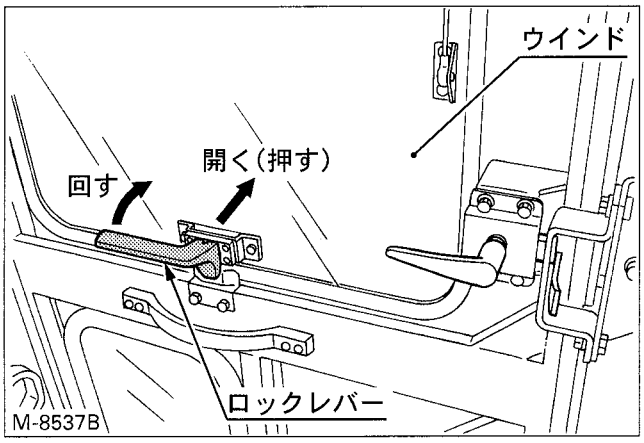
●室内から

開くときは，ドアハンドルを上側に回して押します。
閉じるときは，ドアハンドル又は，取手を引いてください。



■ドアウインドの開閉のしかた

ドアウインドを開くときは，ロックレバーを上側に回して押してください。

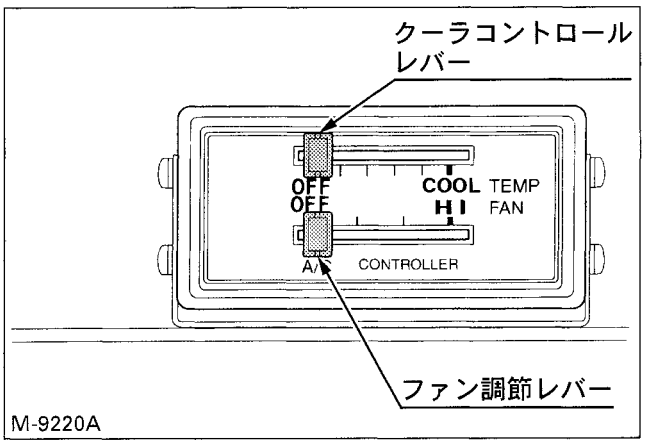


重　要

＊ドアを開けてウインドを開くと，バックミラーに当たり破損するおそれがあります。

クーラの取扱い

■コントロールパネル



◆クーラコントロールレバー

クーラ用コンプレッサの電源の**入・切**及びクーラの温度調節を行なうレバーです。**"OFF"(切)**位置で電源が切れ，レバーを右方向に動かすことにより５段階(**弱↔強**)の調節が行なえます。

◆ファン調節レバー

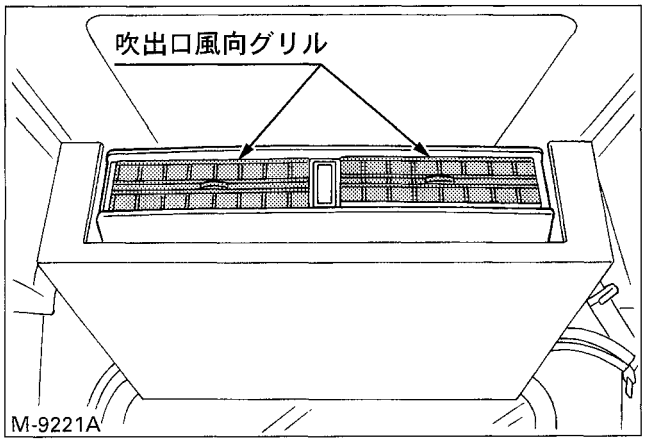
風量を調節するレバーです。レバーを動かすことにより４段階(**"OFF"(切)↔弱↔中↔強**)の調節が行なえます。

補　足

＊クーラコントロールレバーが**"OFF"(切)**位置のとき，ファン調節レバーを操作すると送風状態となります。

●吹出口風向グリルの調整のしかた

グリルの角度を変えて，風向きを調整してください。



補　足

＊フロントガラスの曇りを除去するときは，グリルをフロントガラスに向けてください。

■冷房のしかた

❶エンジンを始動します。

❷クーラコントロールレバーを希望の位置に回します。

❸ファン調節レバーを希望の位置にします。

補　足

＊湿度が高くガラスが曇りやすいときは，ファンの吹出口を中間位置にし，クーラをかけて，除湿を行なってください。

＊健康上，冷房はやや弱い目に効かせてください。また，冷風は身体１箇所に集中して当てるのはさけてください。

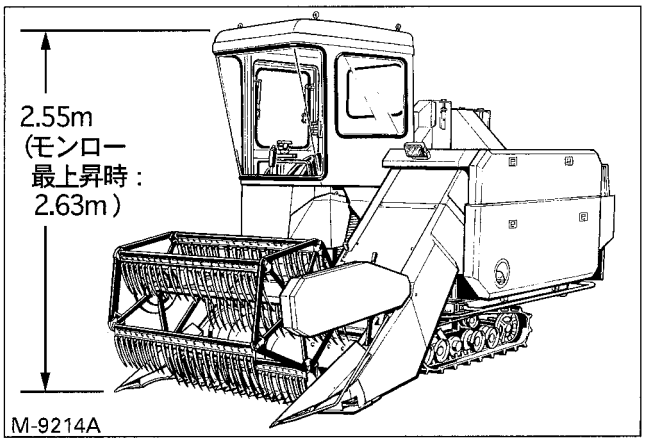
＊ゴミの多い条件で使用するときは，ファン調節レバーで風量を強くしてください。

＊連続10分以上本機を前傾して冷房を使用すると，冷気吹出口より水滴が飛散することがあります。このような運転はさけてください。

移動走行について

■高さについて

走行時は，必ず水平操作レバーで車体を最下位置まで下げてください。このときのキャビンの地上高は**2.55m**です。（モンロー最上昇位置のときは**2.63m**）



重　要

＊高さに注意して走行してください。特にトラック輸送するときや納屋などに格納するときは，頭上の高さ制限に注意してください。

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。(点検・調整方法の詳細は，**メンテナンス**の項を参照。)

警 告

＊必ずエンジンを停止してから行なってください。
＊バッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊刈刃やカッタの点検・掃除時は刃部に注意してください。

重 要

各部への給油と交換
＊点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，指定の**クボタ純オイル・スペアグリース**を必ず使用してください。
＊燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆コンバインの回りを歩いて

(1)ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
(2)車体各部の変形や損傷がないか点検します。
(3)油もれや水もれなどないか点検します。
(4)機体各部にわらくずがたまっていないか点検します。

日常点検項目

〈ここを〉		〈点検し異常があれば〉	〈こうする（処置）〉	参照ページ
機体の周りを歩いて	機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はなか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. わらくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル(⚠表示ラベル)の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充や増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに張換える。	— — 74 59 ⚠-19
	刈刃，カッタ刃	●刃の損傷はないか。	●交換する。	96, 97
	クローラ	●たるみや損傷はないか。	●調整又は，交換する。	104
	防じんあみ	●詰まりはないか。	●掃除する。	75
エンジンルームを開けて	エンジンオイル	●油量は規定量(オイルゲージの**上限線と下限線の間**)あるか。	●規定量まで補給する。 …クボタ純オイルD30又は，D10W30	70, 71
	ラジエータ 冷却水	●リザーブタンクの水量は規定量(タンクの**FULL線とLOW線の間**)あるか。	●清水を規定量まで補給する。	74
	ラジエータ フィン オイルクーラ	●詰まりはないか。	●掃除する。	75
	エアクリーナ	●エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	●掃除又は，エレメントを交換する。	73
	ファン駆動ベルト	●たるみはないか。 ●損傷はないか。	●調整する。 ●交換する。	80
	ホース，パイプ	●油もれや水もれはないか。	●取付部の締付け又は，交換する。	74
	配線コード	●コネクタの外れはないか。 ●被覆の損傷はないか。	●接続する。 ●交換する。	98, 103
メインスイッチを入れて	各ランプ	●各スイッチを操作すると点灯又は，点滅するか。	●球切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。 ●バッテリの充電又は，交換する。	103 98
	コンバインメータ イージーチェッカ			
	コンバインメータ 燃料計	●作業に必要な燃料はあるか。	●ディーゼル軽油を補給する。	70
	ホーン	●スイッチを押すと鳴るか。	●ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	103
	バックブザー	●主変速レバーを**“後進”**位置にするとブザーが鳴るか。		
エンジンを始動して	コンバインメータ イージーチェッカ 各ランプ オイルランプ チャージランプ	●ランプは消灯するか。	●ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。 ●エンジンオイルを規定量まで補給する。 ●購入先に連絡してください。	98, 103 70, 71
	コンバインメータ エンジン回転計	●回転計の作動に異常はないか。	●購入先に連絡してください。	—
	エンジン マフラ	●異音はしないか。 ●排気ガスの色に異常はないか。	●購入先に連絡してください。	—
	各レバー	●各レバーの作動に異常はないか。	●調整する。	—
	駐車ブレーキ	●機体は停止するか。また，遊び量は適正か。	●調整する。	77

重 要

＊処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

移動走行と輸送

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊エンジンは規定刈取作業回転数以上に回さないでください。
＊高速での刈取作業は避けてください。
＊整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。
以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

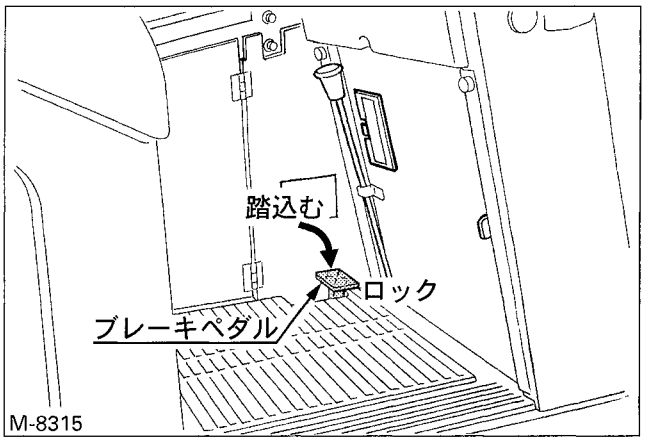
エンジンの始動と停止のしかた

注 意

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業をするために”の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
＊コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊始動操作は，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

■始動のしかた

1. 駐車ブレーキを掛けます。
ブレーキペダルをロックするまでいっぱい踏込み駐車ブレーキを掛けます。



2. 各レバー位置の確認をします。

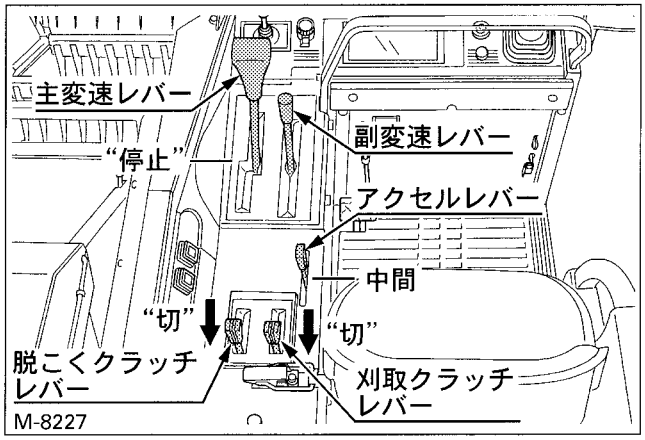
❶主変速レバーを**“停止”**位置にします。

❷各作業クラッチ(刈取，脱こく)レバーを**“切”**位置にします。

補　足

＊主変速レバーが**“停止”**位置又は，刈取・脱こくクラッチレバーが**“切”**位置にしないと，エンジンは掛かりません。

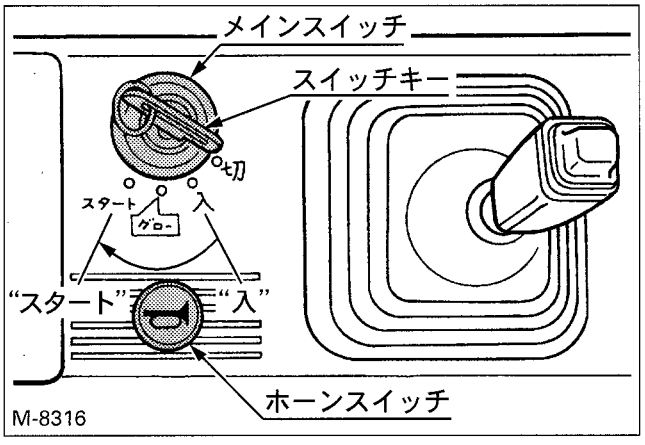
❸アクセルレバーを中間位置まで引きます。



3.　エンジンを始動します。

❶メインスイッチにスイッチキーを差込み**“入”**の位置にしたあと，ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。

❷スイッチキーを**“始動”**の位置に回してエンジンを始動します。始動後は，スイッチキーから手を離してください。



重　要

＊スイッチキーを**“始動”**位置に回して10秒たっても始動しないときは，いったんキーを**“切”**位置にして，30秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10秒以上の使用は故障の原因になります。

＊エンジン回転中に，スイッチキーを**“始動”**位置に回すと故障の原因になります。

＊エンジン始動後，オイルランプ，チャージランプが**消灯**しないときは，購入先へ連絡してください。

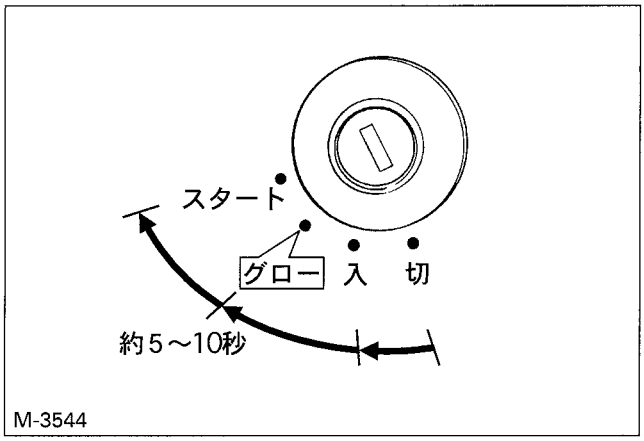
❸エンジン始動後，エンジン回転数を約1500rpmに合わせて約5～10分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重　要

＊オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。

◆寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にスイッチキーを**“グロー”**(予熱)位置で約５～10秒間予熱し，イージーチェッカのグローランプが消灯したあと**“スタート”**位置に回してください。



重　要

＊寒冷時は暖機運転を怠たるとパワーステアリングレバー操作ができなくなったり，ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気　　温	暖機運転時間
0℃～－10℃	約10分
－10℃～－15℃	10～15分
－15℃～－20℃	15～20分
－20℃以下	20分以上

補　足

＊スイッチキーを**“グロー”**位置にすると，グローランプは約４秒間点灯したあと消灯します。

◆燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は，

❶各クラッチレバー及びスイッチキーを**"切"**位置にします。

❷燃料タンクに燃料を補給します。

❸**始動のしかた**の**1～3**を確認後，エンジンを始動します。

補　足

＊スイッチキーを**"入"**位置にすると約5～10秒で自動的にエア抜きされます。

■停止のしかた

❶刈取クラッチレバー・脱こくクラッチレバーを**"切"**位置にします。

❷アクセルレバーを**"🐢"(低回転)**位置にします。

❸スイッチキーを**"切"**位置にしてエンジンを停止します。

重　要

＊エンジン停止中でスイッチキーが**"入"**位置の状態のまま長時間放置すると**バッテリ上り**となります。

＊スイッチキーを**"切"**位置にしてもエンジンが停止しないときは**非常エンジン停止レバー**を引いてください。そのあと，ヒューズや配線を点検し，異常がなければ，購入先へ連絡してください。また非常エンジン停止レバーは**非常時以外**は使用しないでください。(**各部の名称とはたらきの非常エンジン停止レバー**の項参照)

移動走行について

このコンバインは，道路運送車両法の保安基準に適合していませんので，法令により公道は走行できません。従って，公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

注　意

＊ホッパ内又は，グレンタンク内に残っているこく粒は全て排出してください。

＊安全のためヘルメットを着用してください。

＊運転者以外の人は乗せないでください。

＊10cm以上の段差(あぜやコンクリート畦畔など)のあるところではあゆみ板を使ってください。

＊刈取部を上げてリールを下げ，刈取下降ロック金具で刈取部をロックして下降防止を行なってください。

＊自動車体水平制御(モンロー)は，機体をいっぱい下げた状態にしてください。

＊あぜごえや傾斜地(坂道やあゆみ板を使うとき)での走行は，転倒しケガをするおそれがあるので下記事項を守ってください。

- 副変速レバーを"低速"位置にし，エンジン回転を下げて低速で走行してください。
- 上り方向は前進，下り方向は後進であぜや斜面に対して直角に走行してください。
- 走行途中にパワーステアリングレバー・副変速レバー・ブレーキペダルの操作は行なわないでください。
- 走行途中に停止するときは，ブレーキペダルを踏込まず必ず主変速レバーを操作して停止してください。
- 前後左右とも10度をこえるときは，機械から降りて操作してください。

＊下記のようなところを走行するときは，転倒しケガをするおそれがあるので注意してください。

- 両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩
- 道幅に余裕がなく高いところにある道路(土手)
- 路肩の弱い道路
- 路面の凹凸(溝や穴・窪地など)の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ

＊こく粒排出シュートは必ず収納してください。

【グレンタンク仕様】

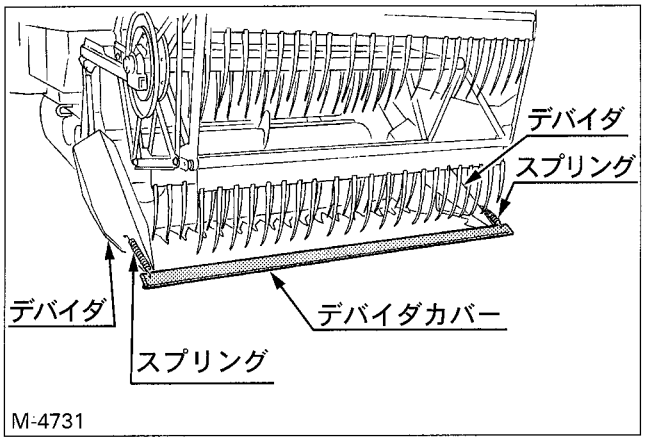
■走行前の準備

注 意

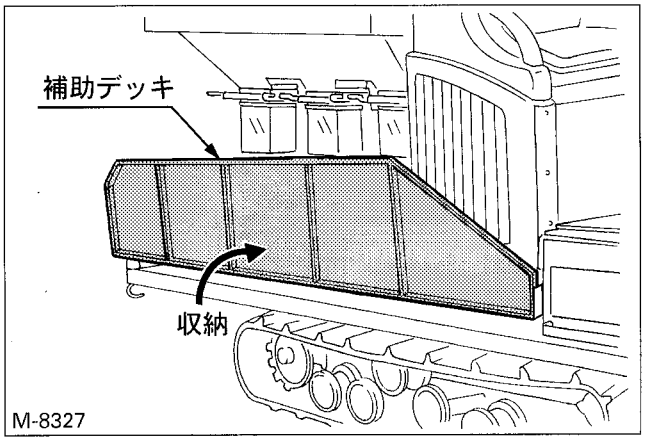
＊平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊準備が終われば，カバー類などが確実に取付けられているか確認してください。

❶ホッパ内又は，グレンタンク内に残っているこく粒は，すべて排出します。
（こく粒の排出のしかたの項参照）

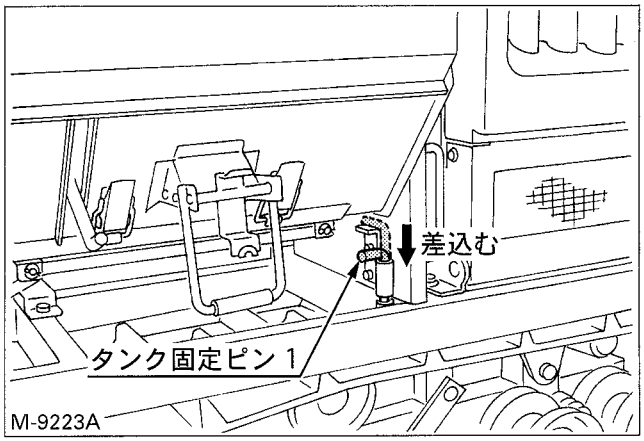
❷左，右のデバイダにスプリングを引掛けて，デバイダカバーを取付けます。

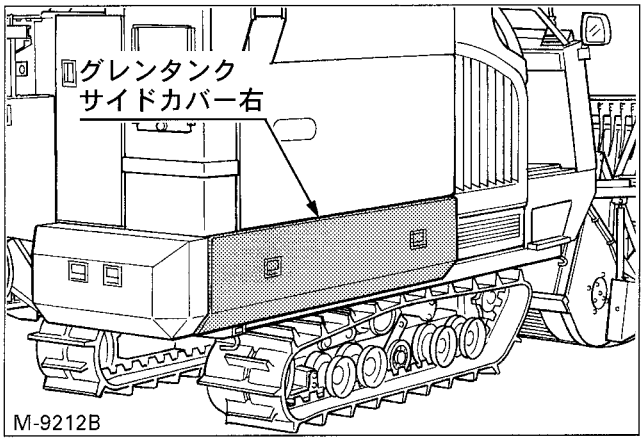


❸補助デッキを収納します。【ホッパ仕様】

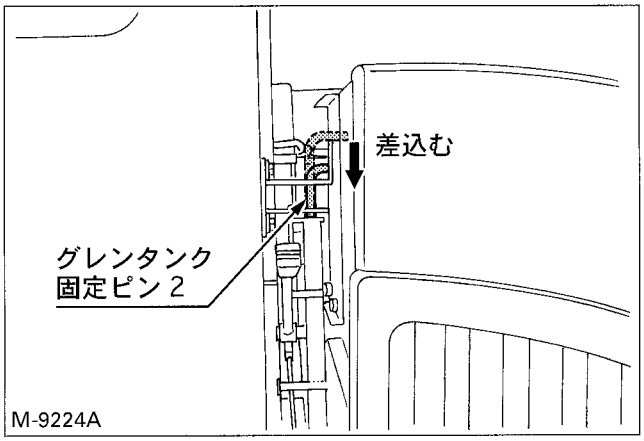


❸グレンタンクを固定します。【グレンタンク仕様】
(1)タンク固定ピン１を差込んだあと，グレンタンクサイドカバー右を取付けます。

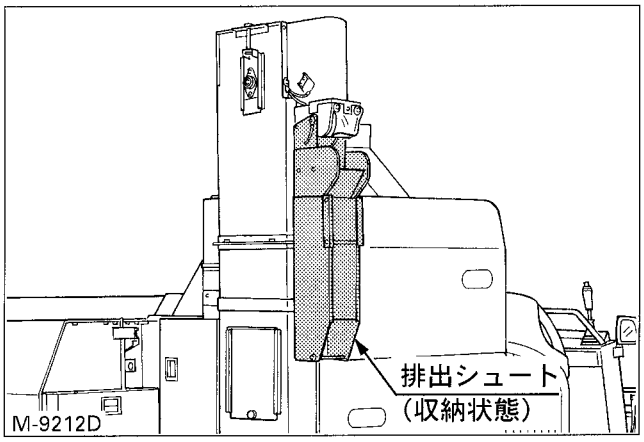




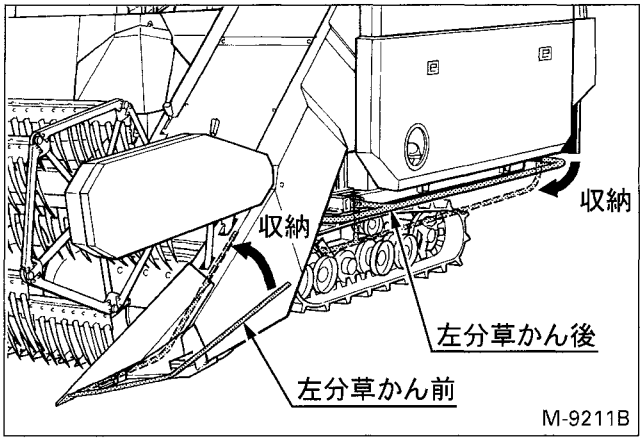
(2)タンク固定ピン２を差込みます。



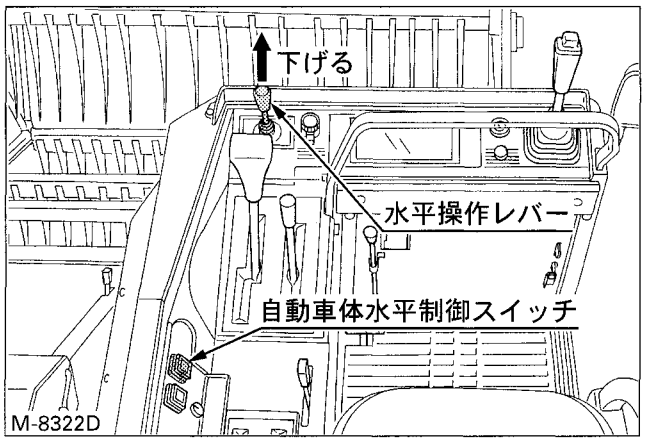
❹こく粒排出シュートを収納します。
【グレンタンク仕様】



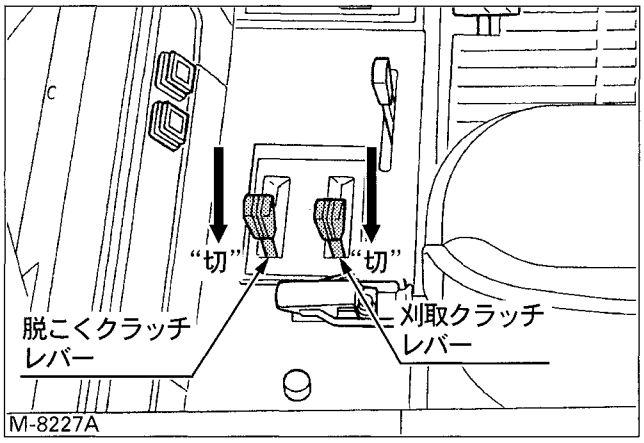
❺分草かん前，後を**収納**します。

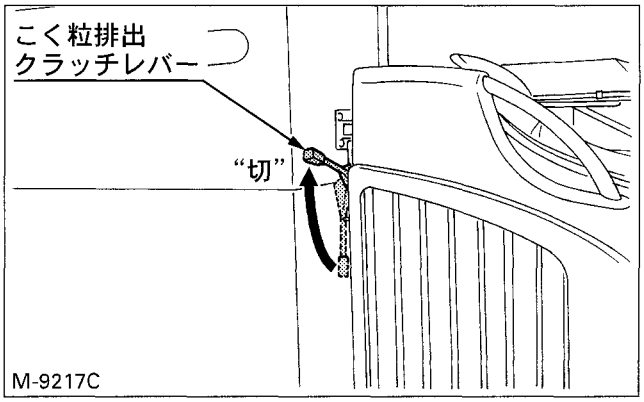


❻自動車体水平制御スイッチを**"切"**にし，水平操作レバーで機体をいっぱい下げた状態にします。



❼運転席に座り刈取クラッチレバー，脱こくクラッチレバー及びこく粒排出クラッチレバー**【グレンタンク仕様】**を**"切"**位置にします。





■発進のしかた

注 意

＊発進をするときは，周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行なってから発進してください。

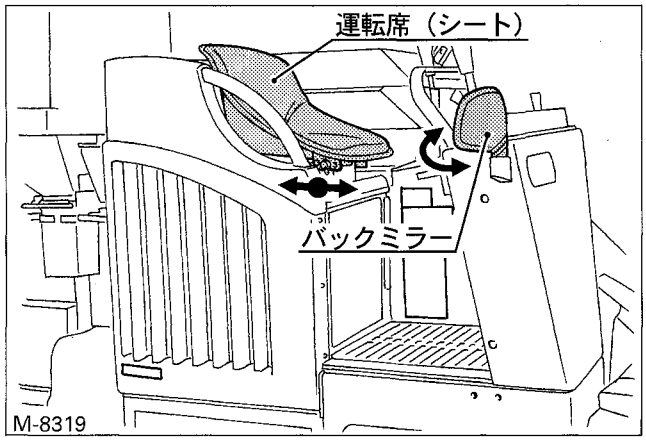
＊急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。

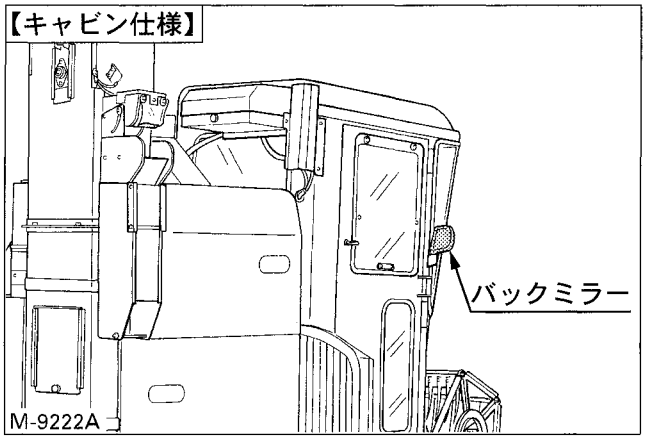
1. 運転席，バックミラーの調整を行ないます。

❶運転席前・後の調整を行ないます。

（**走行装置の名称**の**運転席**（シート）の項参照）

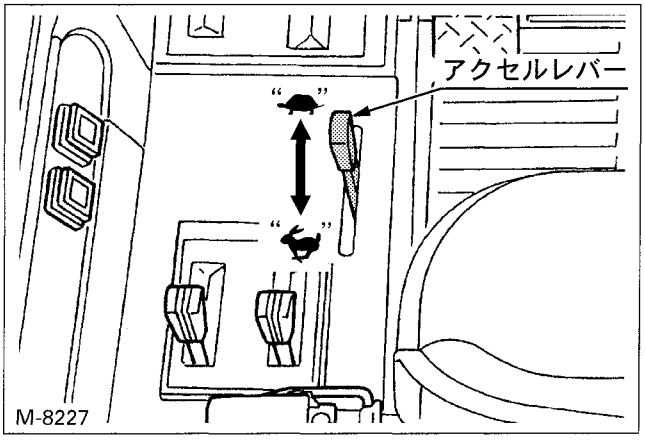
❷後方の状況が分かるようにバックミラーを調整します。





2. アクセルレバーを操作します。

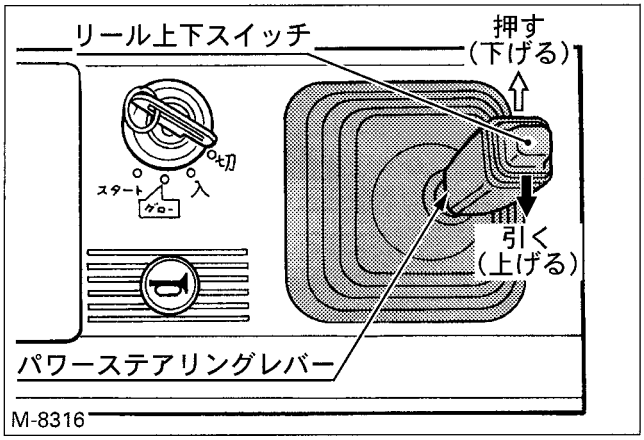
エンジンを始動したあと，アクセルレバーを操作してエンジン回転を調整します。

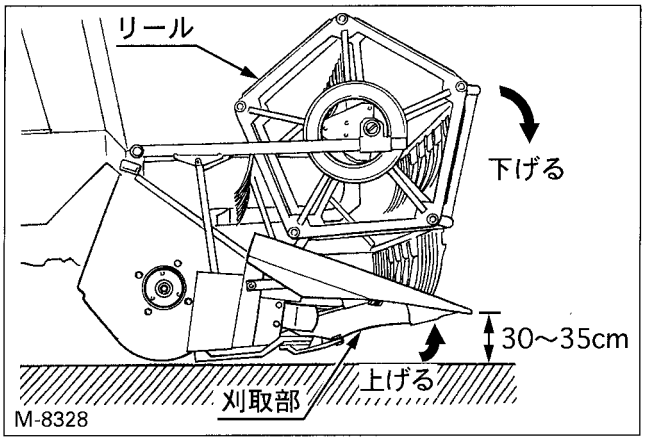


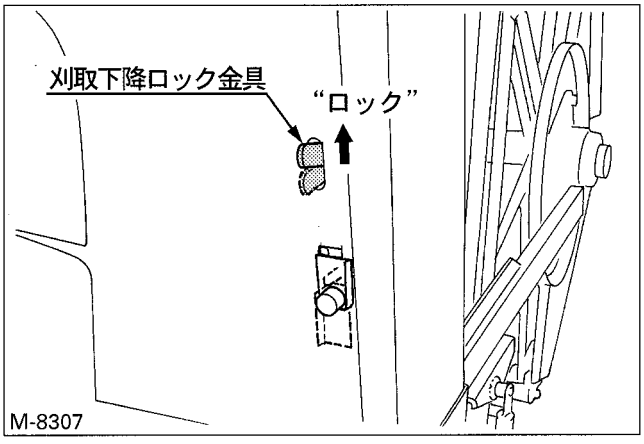
3. 刈取部を上げます。

❶パワーステアリングレバーを引いて，デバイダの先端が地面から30～35cmのところまで刈取部を上げたあと，リール上下スイッチを押してリールを**最下降位置**まで下げます。

❷刈取下降ロック金具で刈取部をロックします。







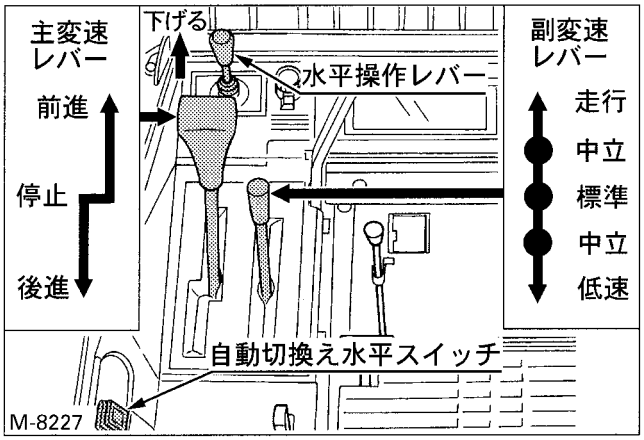
4. 走行速度を選んで発進します。

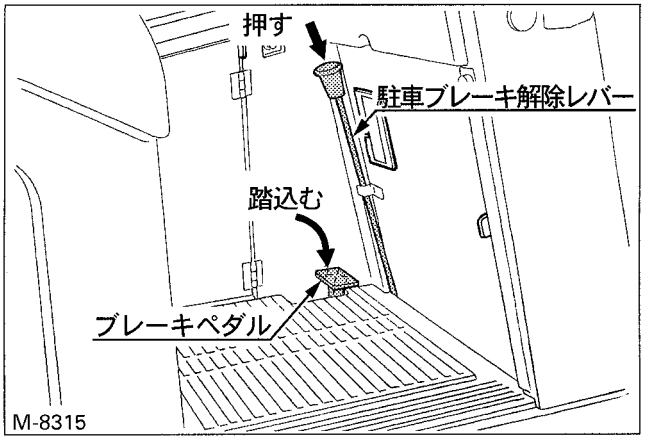
❶副変速レバーで速度を選びます。

❷ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキ解除レバーを押し，駐車ブレーキを解除します。

❸自動車体水平制御の自動切換えスイッチを**“切”**にし，水平操作レバーで機体をいっぱい下げた状態にします。

❹主変速レバーを**“停止”**位置より前に押すと前進し，後に引くと後進します。





重　要

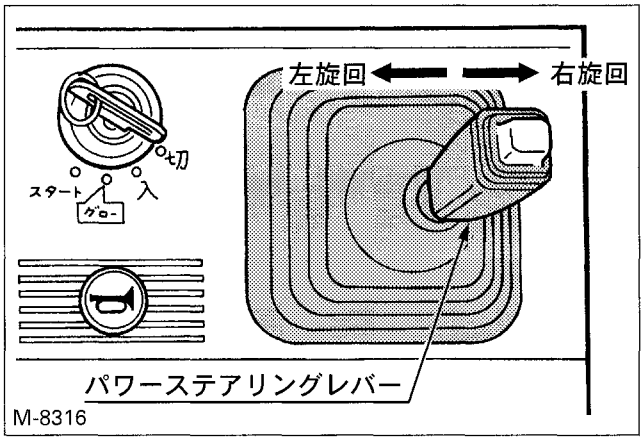
＊副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを**“停止”**位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

■旋回のしかた

注 意

＊高速走行時，パワーステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にパワーステアリングレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回力が変わります。また，いっぱいまで倒すと急旋回します。



重 要

＊砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

■停車・駐車のしかた

注 意

＊コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを止めてください。
＊ブレーキペダルは走行中に使用しないでください。
＊坂道で走行を停止するときは，ブレーキペダルを踏込まず必ず主変速レバーを操作して停止してください。
＊坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

❶主変速レバーを**“停止”**位置にします。
❷駐車ブレーキを掛けます。
❸アクセルレバーを**“🐢”(低回転)**位置にします。
❹副変速レバーを**“低速”**位置にします。
❺エンジンを停止してスイッチキーを抜きます。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注 意

＊積込み・積降しは平たん地を選び，トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。
＊あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅(55cm以上)，長さ(高さの4倍以上)のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長 さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	55cm以上
数 量	2枚
強 度	1枚が1500kg以上の重量に耐えうる

■コンバインの準備

移動走行についての走行前の準備の項を参照してください。

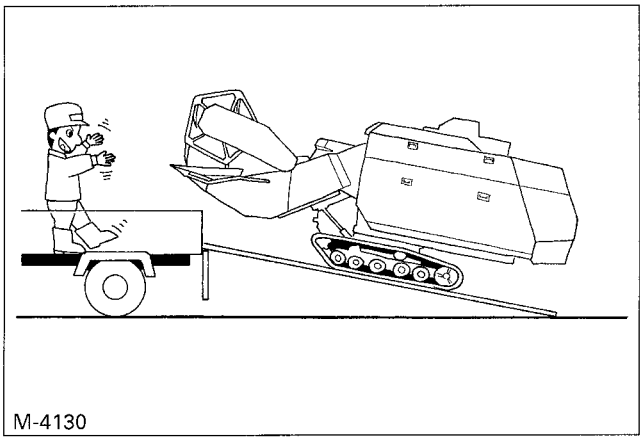
■コンバインの積込み・積降しのしかた

注 意

＊積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。

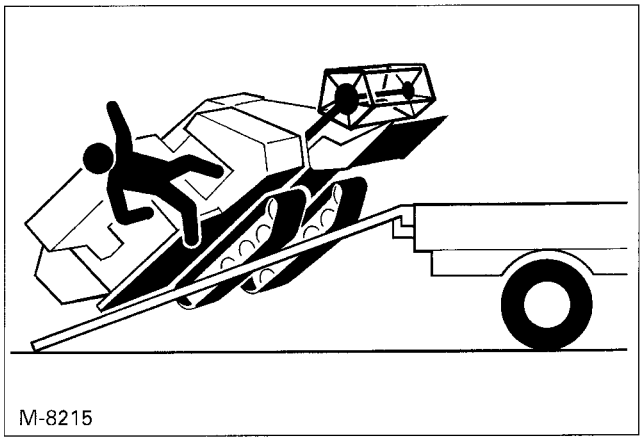
＊脱こくクラッチレバーを“切”位置又は，対地平行自動刈高制御を“手動”位置にしてください。主変速レバーが“後進”位置に入っていると刈取部が上昇し，人が近くにいるときケガをするおそれがあります。

＊平たん地を選び，できるだけ助手の立合い誘導のもとに行なってください。また，コンバインの周辺に人を近づけないでください。



M-4130

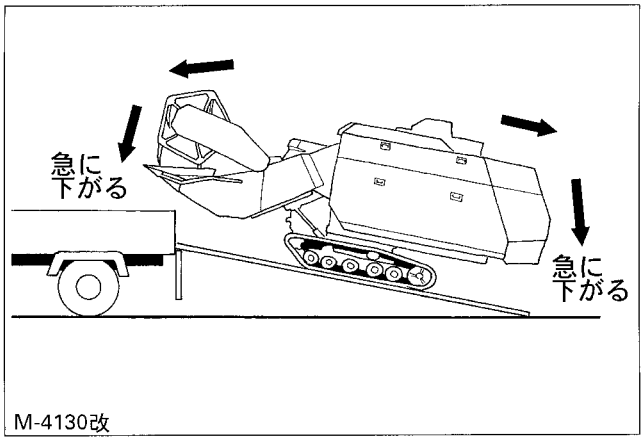
＊あゆみ板の途中でパワーステアリングレバー・副変速レバー・ブレーキペダルを操作すると，機体の移動方向が変化したり，急降下，落下する危険がありますので操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台にもどって方向を修正し，再度上り下りし直してください。



M-8215

＊あゆみ板の途中で停止するときは，ブレーキペダルを踏込まず必ず主変速レバーを操作して停止してください。

＊機体が凸部を越えるときは，急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



M-4130改

◆操作のしかた

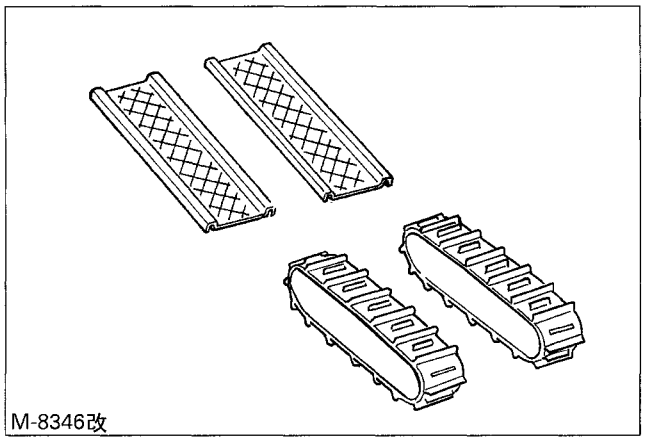
❶各作業クラッチレバーを**"切"**位置にします。

❷水平操作レバーで機体を**最下降位置**まで下げます。

❸パワーステアリングレバーで刈取部を上げます。

❹アクセルレバーを操作してエンジン回転数を2000rpm以上にし，副調整レバーを**"低速"**位置にしたあと，主変速レバーをゆっくり操作して，**低速**で走行します。

❺あゆみ板の前でいったん停止し，中央に左右のクローラを合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。

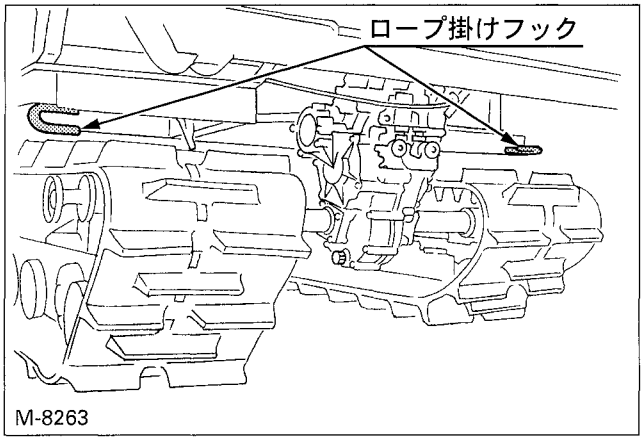

M-8346改

❻荷台に乗り終わると刈取部を床まで降ろし，駐車ブレーキを掛けます。

■トラック上での処置

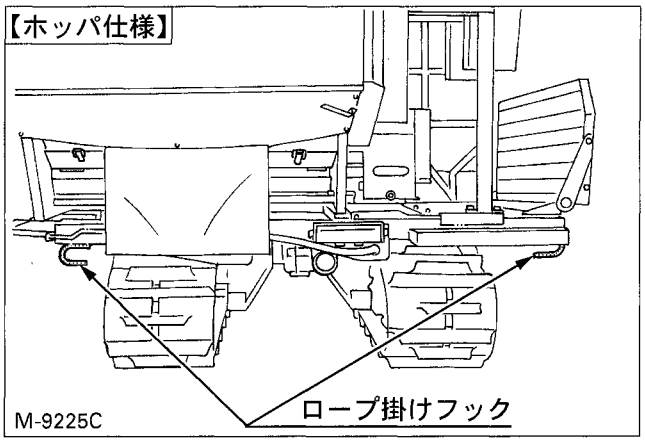
注　意

＊刈取部を床まで降し，トラックの駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。



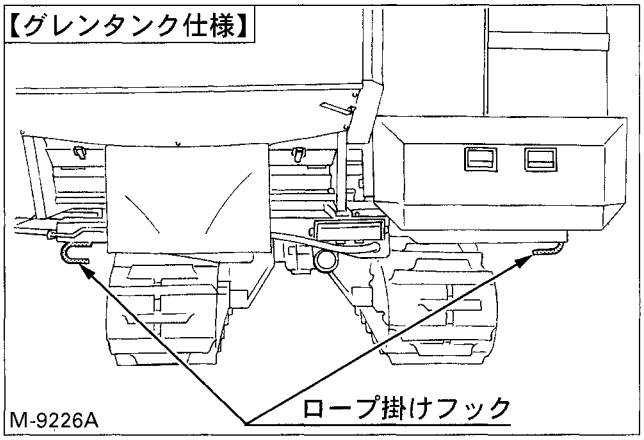
M-8263

【ホッパ仕様】

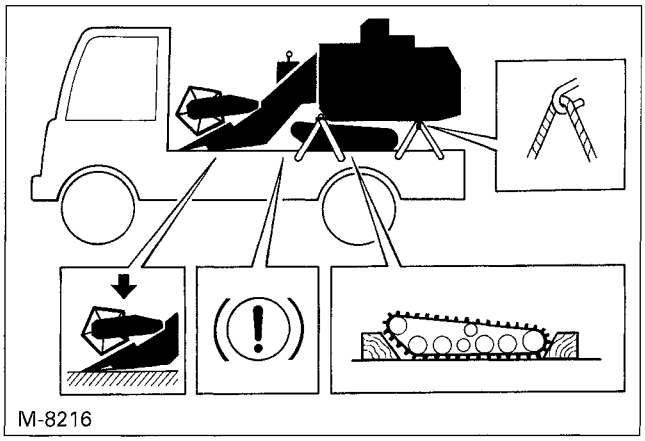


M-9225C

【グレンタンク仕様】



M-9226A


M-8216

重　要

＊フック以外の所には，ロープを掛けないでください。

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の収穫量を上げるにはコンバインに合わせた，ほ場のうね作り・排水管理や作付け・栽培管理及び，適期収穫についてそれぞれ適した作業を行なってください。

補　足

＊作物の品種・収穫時期・栽培管理やほ場の管理のしかたなどは，最寄りの指導機関(JA農協や普及センターなど)や経験者に相談してください。

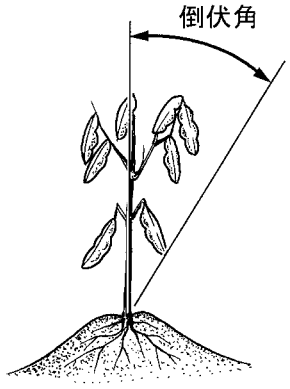
■作物の倒伏とほ場の傾き

◆作物の倒伏

刈取れる倒伏作物は，倒れかた(倒伏角)により異なります。

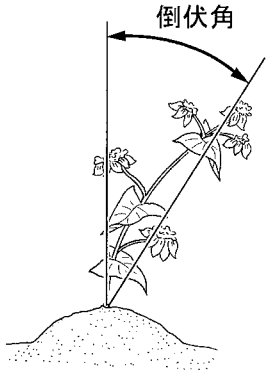
刈取りかた(方向)	倒　伏　角
追い刈り	70 度以下
向い刈り	80 度以下

【大豆】



M-4146

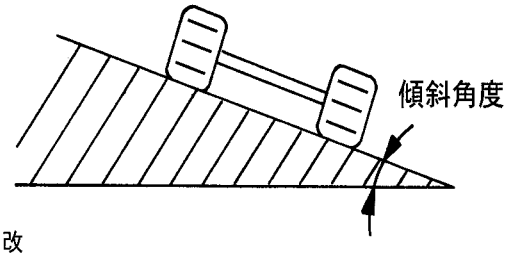
【そば】



F-8329

◆ほ場の傾き

傾斜角５度以上では，作業できません。



M-0487改

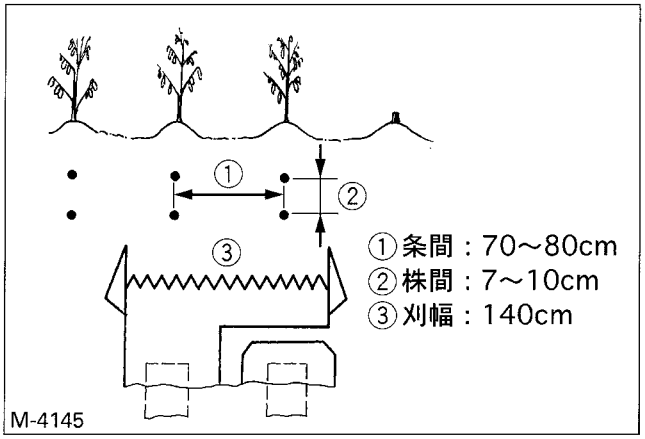
■大豆

◆ほ場について

水はけを良くし，コンバインの刈幅に合わせたうね作りを行なってください。また，このときクローラとうね幅・排水溝の幅は合わせてください。

補　足

＊うねの条間は70～80cmにし(２条刈り基本)，株間は，７～10cmにしてください。



M-4145

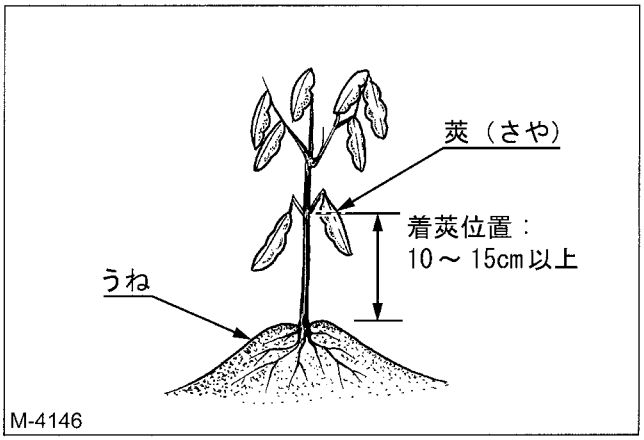
◆作物について

●栽培管理

コンバインでの刈取りに適した品種を選んで栽培を行なってください。また，刈取作業前には雑草や腐った作物などは，取除いてください。

補　足

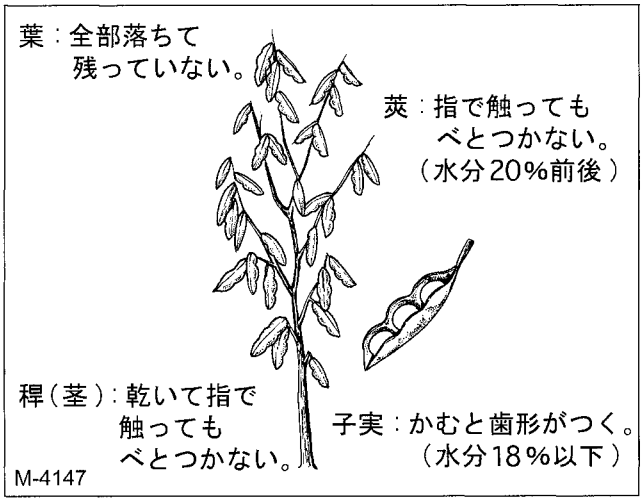
＊着莢(ちゃっきょう)位置が，うね上面から10～15cm以上で，倒伏や裂莢(れっきょう)のしにくい品種を選んでください。



M-4146

●収穫適期

成熟期から約１～２週間後を目安とし，莢(さや)・稈(茎)を手でさわってもべとつかず，子実を歯でかむと歯形が少し残る状態が収穫の適期です。(このとき，水分は子実で18%以下・莢で20%前後・稈(茎)で50%以下)



補　足

＊成熟期になると，葉が完全に落ちて莢の80～90%が変色し，子実も品種特有の色となり，振るとカラカラと音がします。

＊刈取作業は，子実や莢が乾いて収穫に適した水分になる時間(午前10時～夕方)で行なってください。

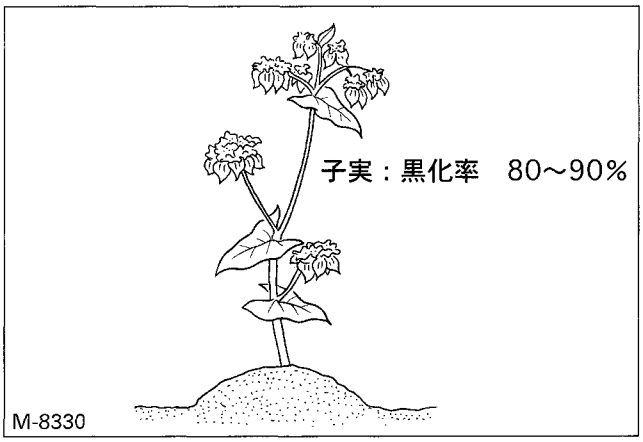
＊収穫適期が，早すぎる（青立大豆）と汚粒が増えたり，莢が割れずに子実が収穫されないまま３番出口から放出される３番ロスが増えます。また，遅すぎると刈取部での脱粒ロスがふえます。

■そば

◆作物について

●収穫適期

慣行よりも２～３週間後を目安とし，子実の80～90%が黒化している状態が収穫の適期です。

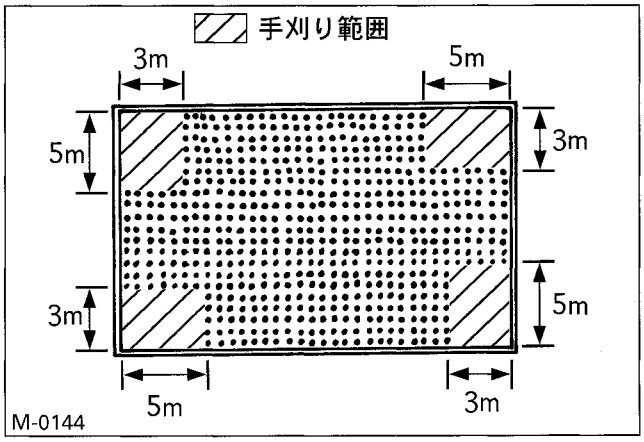


補　足

＊収穫適期が，早すぎると収穫量が減ったり，葉や稈(茎)に水分が多いと選別部の目詰まりの原因となります。また，遅すぎると風雨で子実が落ちたり，刈取部での脱粒ロスが増えます。

ほ場の準備

コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四すみで旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲(面積)の手刈り(枕刈り)をします。



コンバインの準備

警　告

＊平たんな場所に置き，エンジンは必ず止めてください。

＊取外したカバー類は必ず取付けてください。

■準備のしかた

1. 各部への注油

作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。

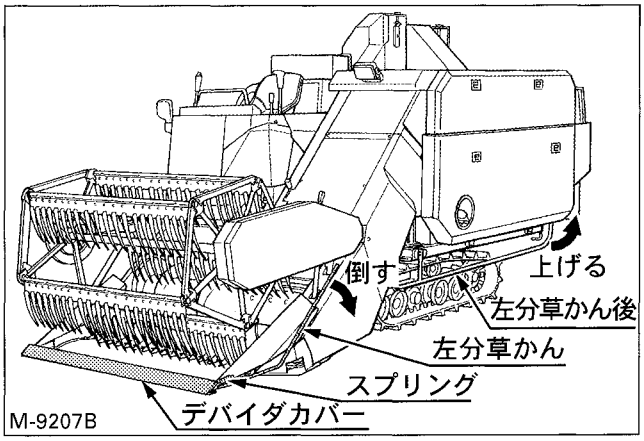
(**各部の掃除と注油のしかた**の項参照)

2. デバイダカバーの取外し

左，右のスプリング２箇所を外してデバイダカバーを取外します。

3. 左分草かんのセット

左分草かん前を外側に倒し，左分草かん後を上げます。



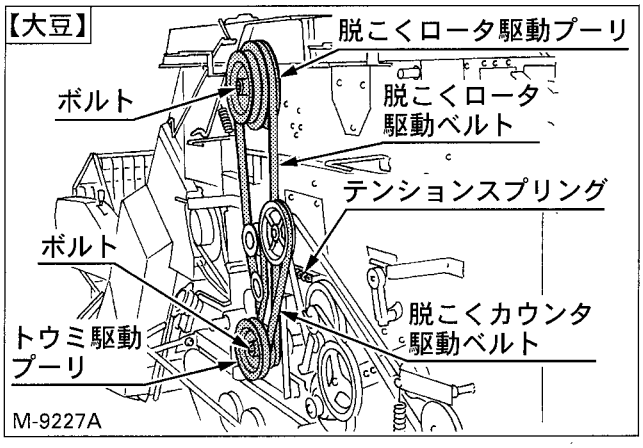
4. 作物に合わせた各部の切換え

作物の種類に合わせ**大豆⟷そば**の切換えを行なってください。(出荷時は【大豆】の位置)

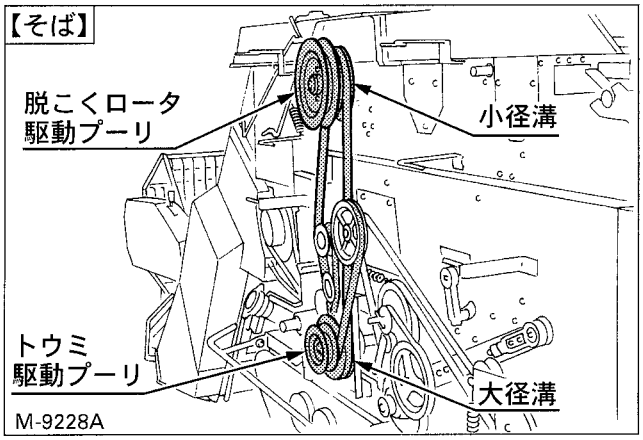
●選別ベルト回転方向の切換え(大豆➡そばの場合)

大豆は機体後方側に回転し，そばは機体前方側に回転します。

❶脱こく左サイドカバー上・下を取外します。
❷脱こくロータ駆動プーリとトウミ駆動プーリのボルトを取外します。
❸脱こくロータ駆動ベルトと処理部カウンタ駆動ベルトのテンションスプリングをそれぞれゆるめます。
(**各部ベルトの点検・調整・交換**の項参照)

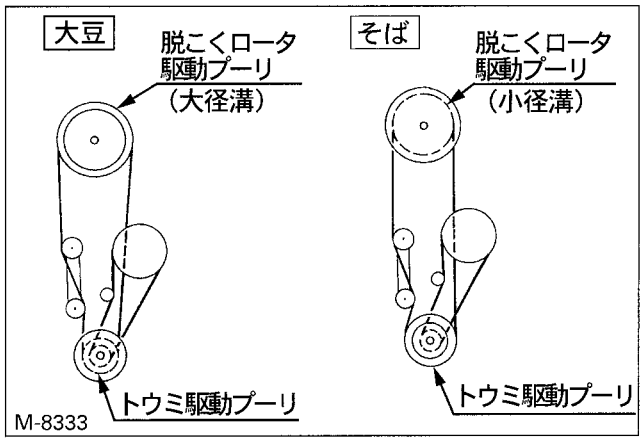


❹処理部カウンタ駆動ベルトを取外したあと，脱こくロータ駆動ベルトを取外します。
❺脱こくロータ駆動プーリを軸から抜いたあと，反転させて軸に取付け，ボルトで締付けます。
❻トウミ駆動プーリを軸から抜いたあと，反転させて軸に取付け，ボルトで締付けます。
❼脱こくロータ駆動ベルトを脱こく駆動プーリの小径溝に入れたあと，トウミ駆動プーリの大径溝に入れて掛けます。
❽処理部カウンタベルトをトウミ駆動プーリの大径溝と小径溝の間を通して掛けます。

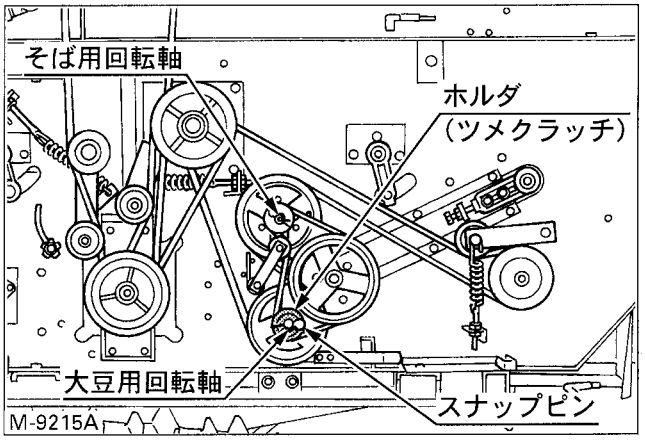


重 要

＊ベルトは掛け間違えないでください。



❾脱こくロータ駆動ベルトと処理部カウンタベルトのテンションスプリングを調整します。
(**各部ベルトの点検・調整・交換**の項参照)
❿大豆用回転軸のスナップピンを抜き，ホルダ(ツメクラッチ)をそば用回転軸に差換え，スナップピンを取付けます。



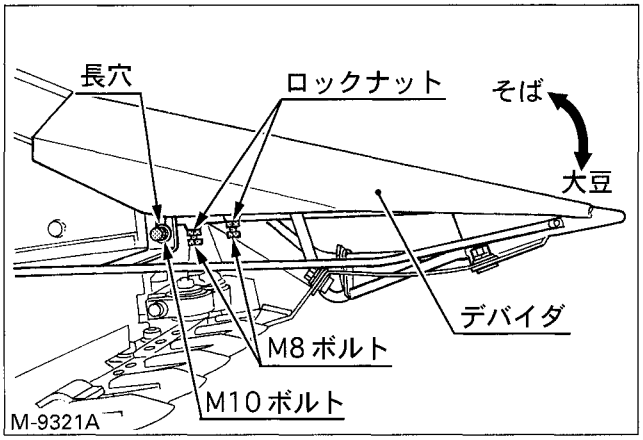
●デバイダ

(1)高さ調節

❶M10ボルトをゆるめます。

❷2箇所のM8ボルトのロックナットをゆるめたあと，M8ボルトをゆるめます。

❸デバイダを少し前方へ引いて上下調節を行ないます。



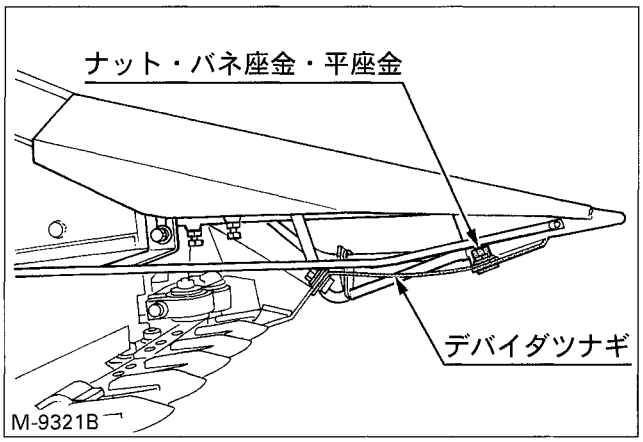
❹左・右のデバイダ共同じようにして同じ高さに調節します。

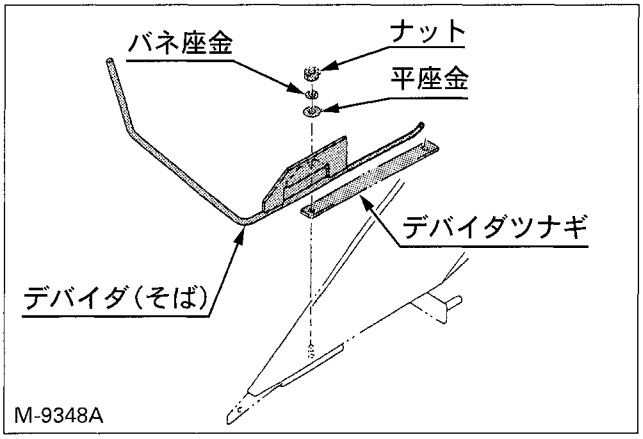
(2)そば用デバイダの取付け【そば】

作物をすくい分けるため，付属部品のそば用デバイダを取付けてください。

❶デバイダツナギを取付けているナット・バネ座金・平座金を取外します。

❷デバイダツナギをボルト部から抜いたあと，そば用デバイダを取付け，デバイダツナギと共にナットで締付けます。





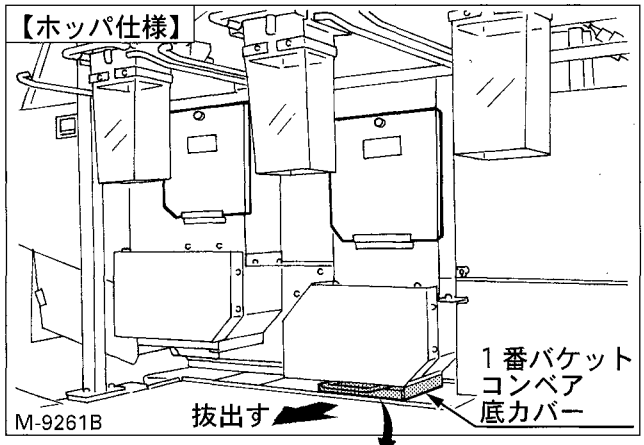
●そば用1番・2番各底プレートの取付け【そば】

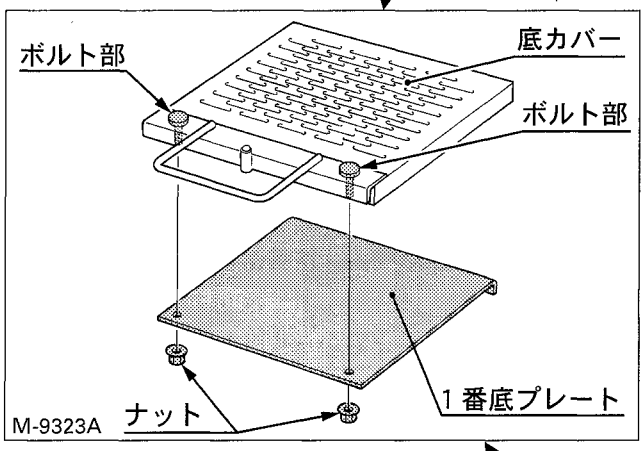
そばの落下防止のため，1番と2番の各バケットコンベアの底カバーの下側にプレートを取付けてください。

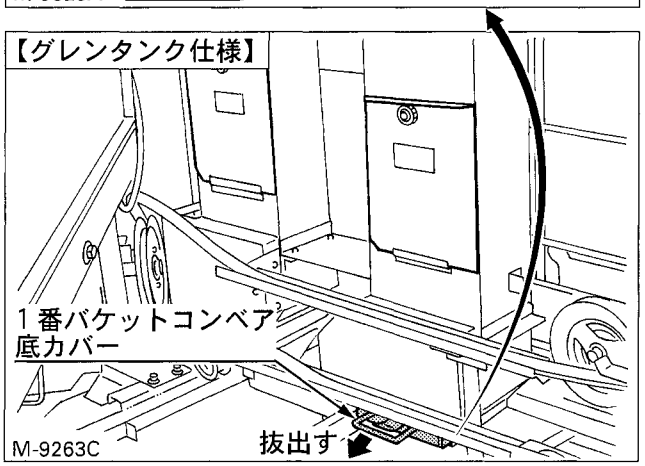
1番底プレート

❶グレンタンク仕様はカッタをオープンし，1番バケットコンベアの底カバーを抜出します。

❷底カバーに付属部品の1番底プレートをナット2個でボルト部に取付けます。







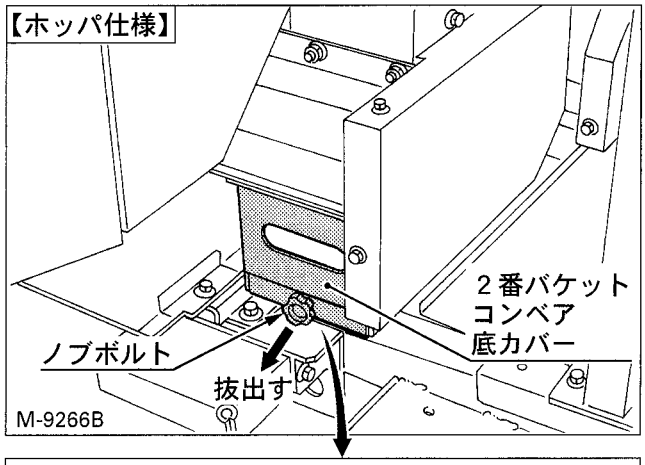
❸底カバーを取付けます。

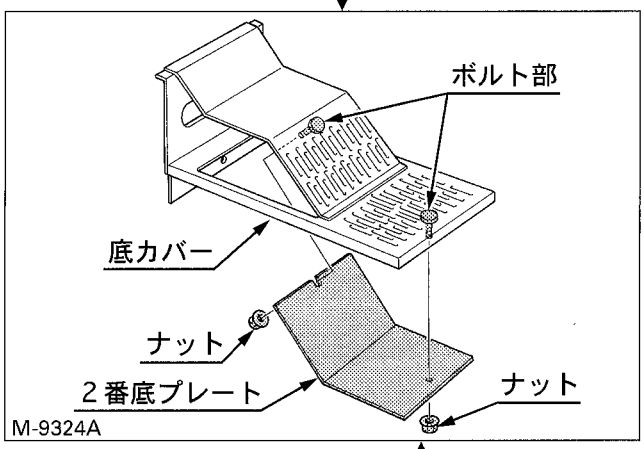
❹グレンタンク仕様はグレンタンクを閉じます。

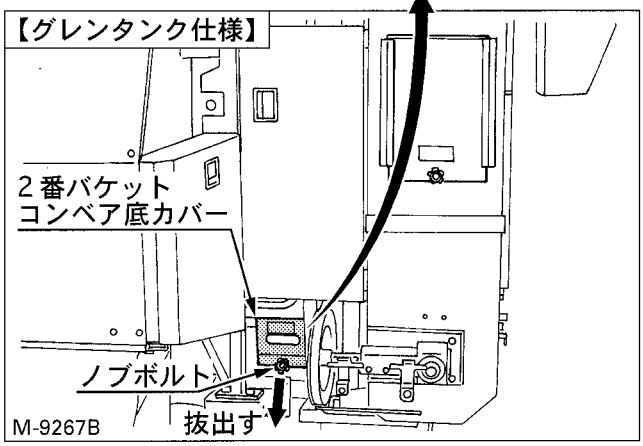
2番底プレート

❶グレンタンク仕様は，グレンタンク後部カバーを取外し，ノブボルトを取外して2番バケットコンベアの底カバーを抜出します。

❷底カバーに付属部品の2番プレートをナット2個で取付けます。





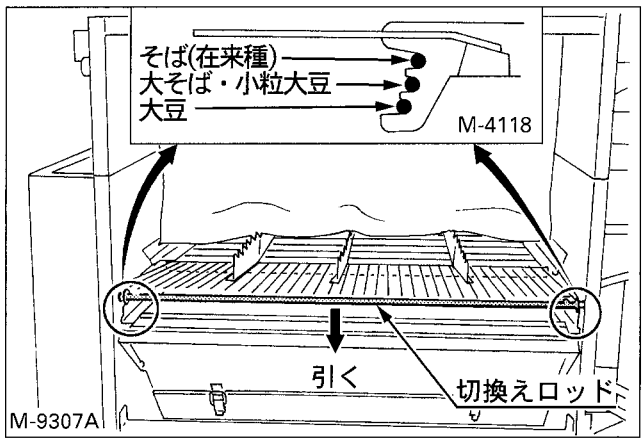


❸底カバーを取付けます。

❹グレンタンク仕様はグレンタンク後部カバーを取付けます。

●チャフシーブふるい線の高さ調節

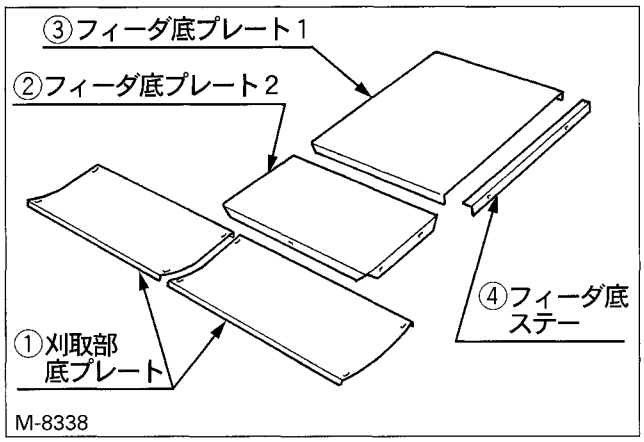
大豆・そば及び粒の大きさにより3段階の切換えが行なえます。それぞれ作物に合わせ，ふるい線切換えロッドを引きながら，上下に移動させて切換えを行なってください。切換えを行なうときは，カッタ部をオープンして行なってください。

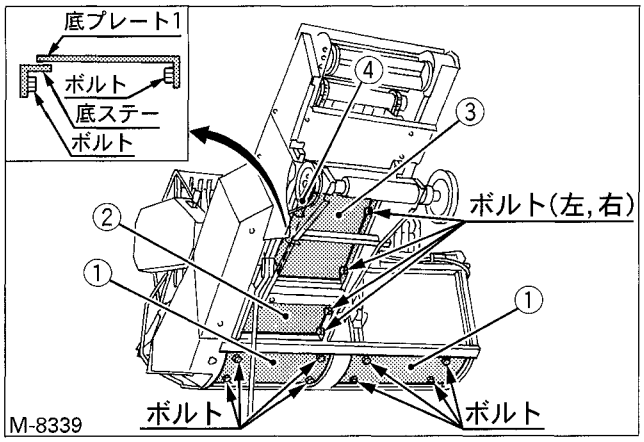


●刈取部底・フィーダ底各プレートの取付け【そば】
● 2番スクリュ底カバーの切換え

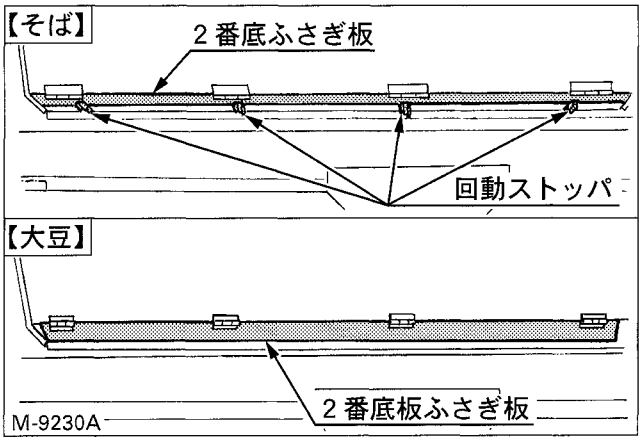
そばの落下防止のため，穴をふさぐプレートの取付け及び底カバーの切換えを行なってください。

❶付属部品の刈取部底プレート2枚，フィーダ底部のプレート1とステー各1枚，プレート2 1枚を各ボルトを取外し，下図のように取付けます。取付けるときは，刈取部を上昇させて刈取部の下降ロックを行なってください。





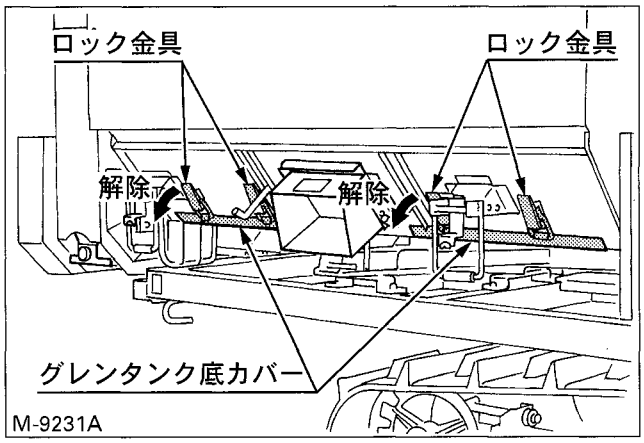
❷そばの場合は2番底板ふさぎ板を回動ストッパでロックし，大豆の場合は回動ストッパのロックを解除して2番底ふさぎ板を垂れ下げた状態にします。



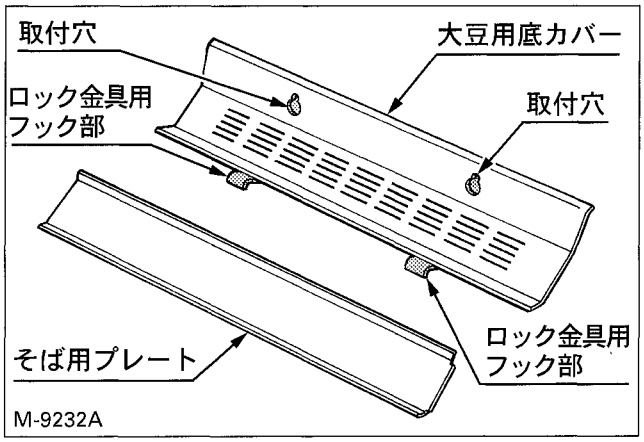
●グレンタンク底カバーの切換え
【グレンタンク仕様】

大豆又は，そばの刈取りに応じて，底カバーの切換えを行なってください。

❶グレンタンクサイドカバー右を取外します。
❷底カバー2箇所を止めているロック金具のロックをそれぞれ解除し，底カバーを取外します。

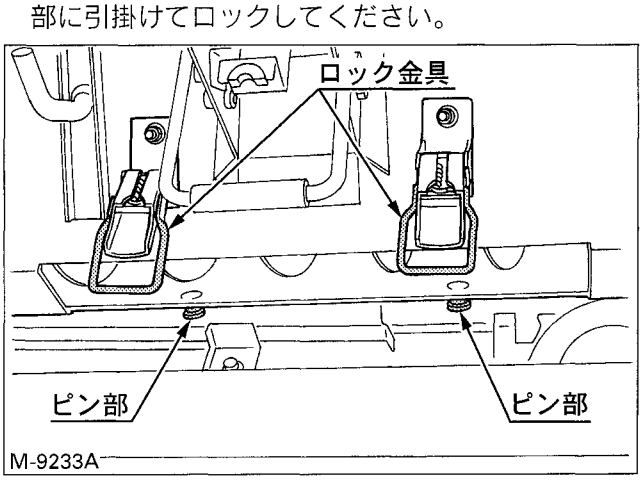


❸大豆のときは，大豆用の底カバーを取付け，そばのときは，そばの落下を防止するそば用のプレートを大豆用の底カバーの上に乗せて取付けます。



補 足

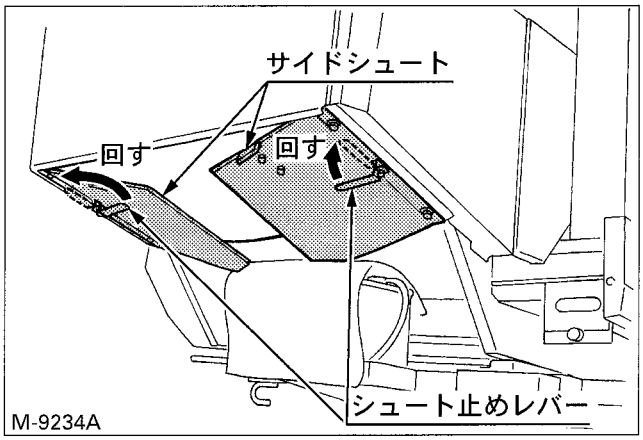
＊取付けるときは，底カバーの2箇所の取付穴をピン部に差込んだあと，ロック金具を底カバーのフック部に引掛けてロックしてください。

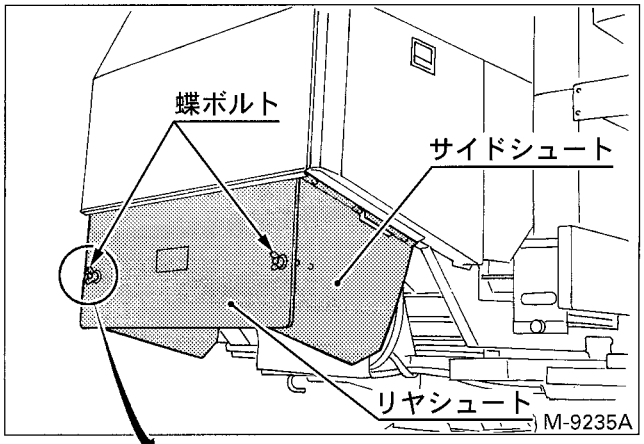


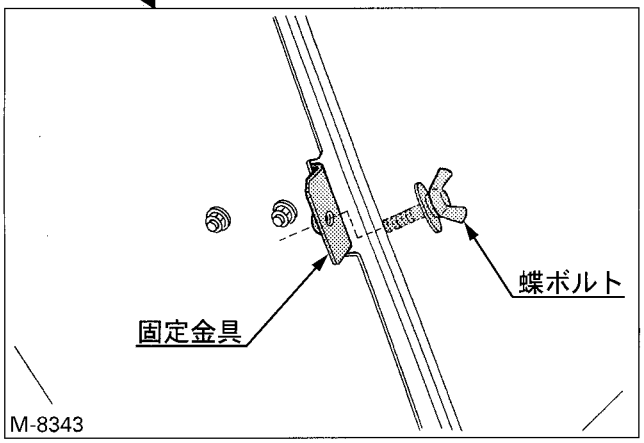
5.リヤシュート・サイドシュートの準備

❶シュート止めレバーを回してリヤシュートとサイドシュートを広げます。

❷蝶ボルトで左・右のサイドシュートを固定します。

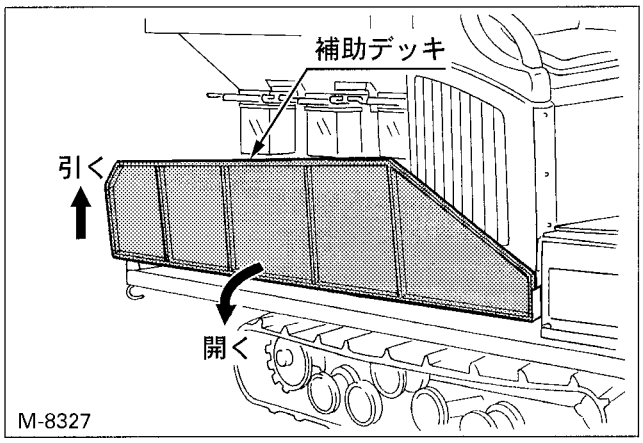




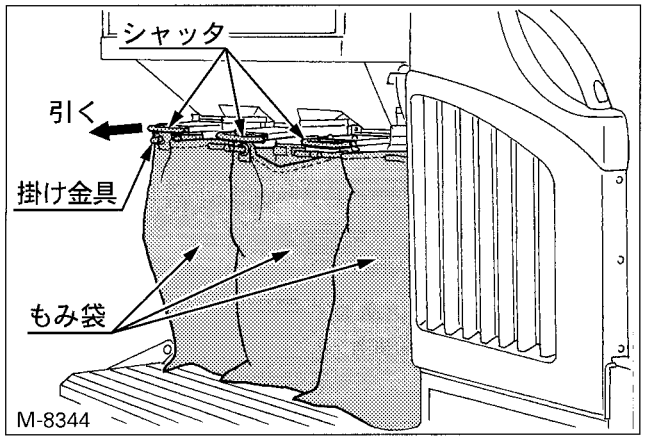


6.補助デッキともみ袋の準備【ホッパ仕様】

❶補助デッキを引上げて開きます。



❷もみ袋のファスナを開き，図のように掛け金具にもみ袋を取付けたあと，各吐出口のシャッタを引いて吐出口を開きます。



刈取作業のしかた

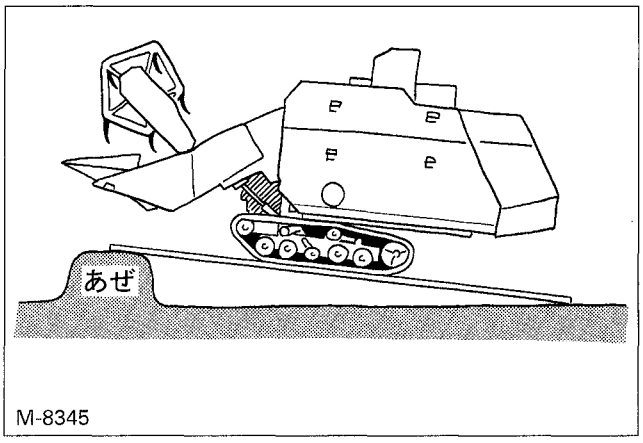
■ほ場の出入りのしかた

注 意

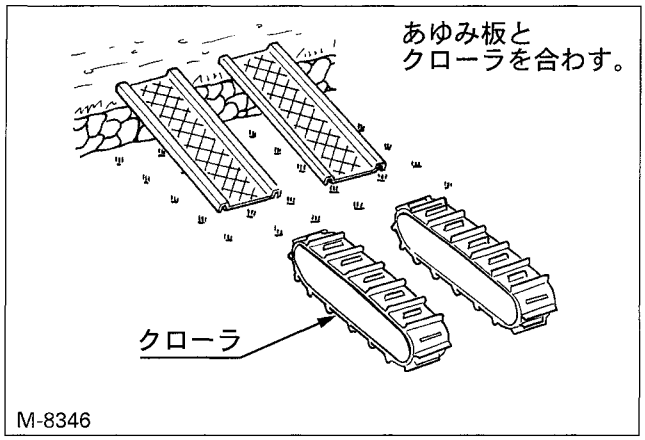
＊10cm以上の段差(あぜやコンクリート畦畔など)のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊あゆみ板を使うときや前後左右とも10度をこえる傾斜地を走行するときは，速度を最低速にし機械から降りて操作してください。
＊あゆみ板を使うときは，速度を最低速にし，あぜに対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊あぜ越えやあゆみ板を走行するときは，自動車体水平制御(モンロー)は，機体をいっぱい下げた状態にしてください。
＊後進する場合は後方の安全確認，また後方に川(用水路)やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。
＊機体が，凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。

◆10cm以上の段差があるとき

❶ほ場の四すみを手刈り(枕刈り)をします。
(**ほ場の準備**の項参照)
❷あゆみ板を準備し，アクセルレバーを操作してエンジン回転を2000rpm以上にします。
❸副変速レバーを**"低速"**位置にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速で前進します。
❹いったん停車したあと，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してからほ場へ進入します。



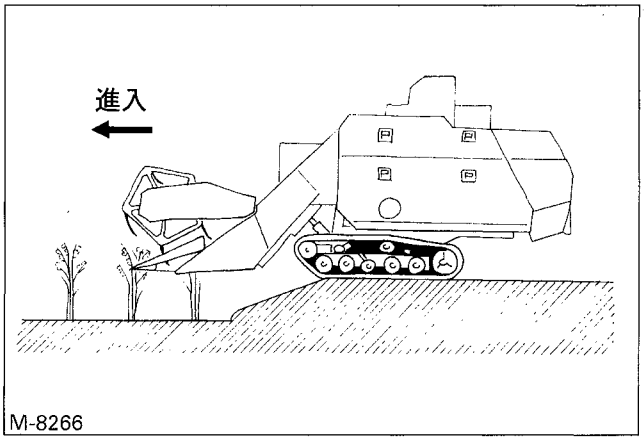
M-8345



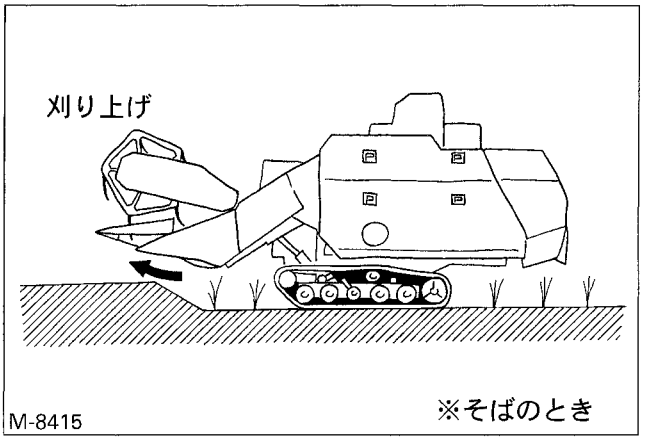
M-8346

◆段差が低いとき，進入口があるとき

刈取りが行なえる状態（**刈取作業の手順**の項参照）にし，副変速レバーを**"低速"**位置にして，ゆっくりと前進でほ場に進入します。



M-8266



M-8415

■刈取作業の手順

注　意

＊異常が発生したときは，エンジンを必ず止めてください。

＊小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。

＊夜間など暗いときは，作業は行なわないでください。

重　要

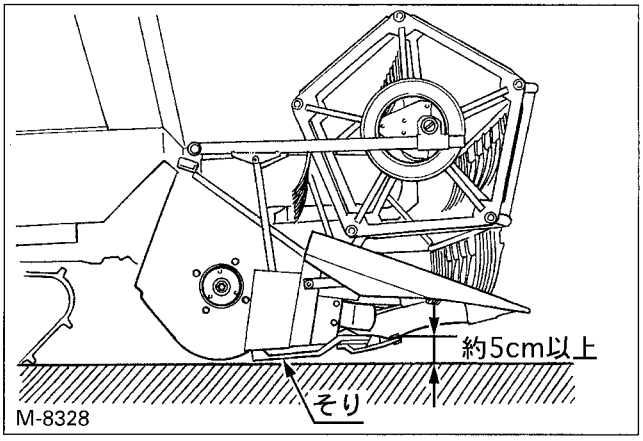
＊作業中エンジン回りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。
防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンのオーバヒートの原因になりますので注意してください。

＊コンバインを停止するときは，排稈くずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

＊副変速レバーを**"走行"**位置にして刈取作業はしないでください。トラブルの原因になります。

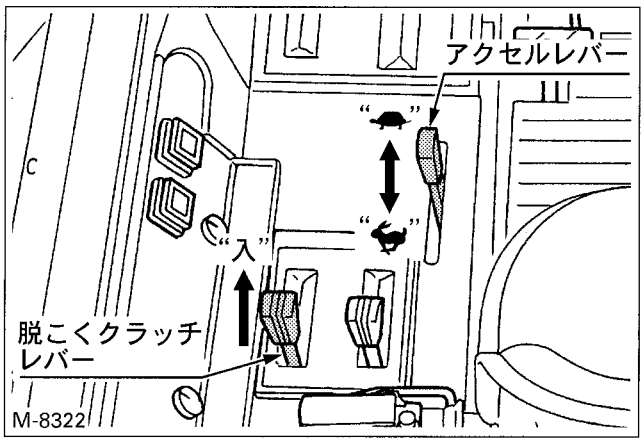
❶ほ場に入ったらコンバインの走行をいったん停止し，主変速レバーを**"停止"**位置・副変速レバーを**"中立"**位置にしたあと，アクセルレバーを操作してエンジン回転を最低回転数(アイドリング状態)にします。

❷パワーステアリングレバーを操作し，通常はそり部が軽く接する位置から少し上げてください。



❸アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を約2000rpmにします。

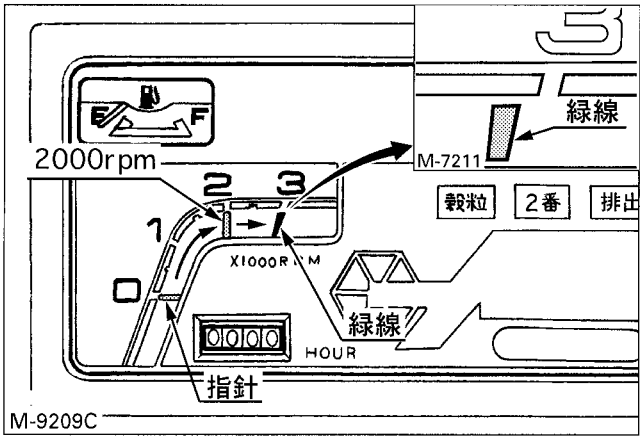
❹脱こくクラッチレバーを**"入"**位置にします。



重　要

＊エンジン回転数が2000rpm以上のとき，脱こくクラッチレバーを入れると駆動ベルトが破損するおそれがあります。

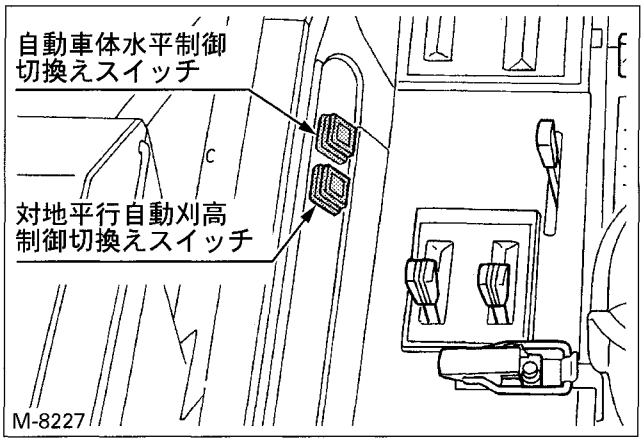
❺アクセルレバーを操作してエンジン回転数を回転計の**緑線の**位置に指針を合わせます。



補　足

＊エンジン回転数は脱こくクラッチレバーを**"入"**位置にし，走行を停止した状態で合わせてください。

❻自動車体水平制御と対地平行自動刈高制御の自動切換えスイッチを押して**自動入り**にします。



補　足

＊自動切換えスイッチは，どちらか一方が**点滅**又は，**点灯**状態となります。

＊刈取部のソリセンサが地面に接地しているときは，自動刈高制御の自動ランプが**点灯**し，自動刈高制御が作動します。ソリセンサが地面から離れると自動水平制御の自動ランプが**点灯**し，自動水平制御が作動します。

＊自動で作業した後，脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にするか，又は自動切換えスイッチを**“手動”**にするか又は自動刈高制御だけ**“自動”**位置にして作業した後，刈取部のソリセンサが地面から離れたとき，機体はその状態を保ちますので，手動水平操作レバーで必ず車体を一番下まで下げてください。

＊自動車体水平制御は，刈取作業以外（特に移動走行時，運搬時，格納時）は，機体を一番下まで下げてください。

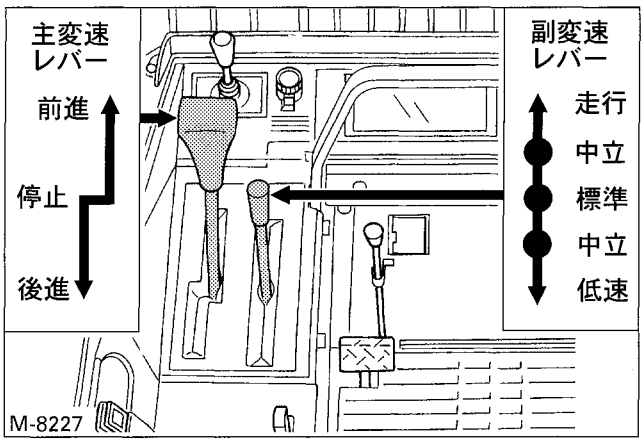
＊傾斜地では使用しないでください。

＊刈取部の底板と，ソリセンサの間に土が入り込むと，自動刈高制御が正しく作動しません。土が入らないように作業し，入った場合は，確実に取除いてください。

＊枕地の刈取りは，自動刈高制御を**自動切り**位置にして手動操作で行なってください。

❼副変速レバーを作物の条件に合わせて，**“低速”**又は**“標準”**の位置にします。

（**作物に合わせた変速の選びかた**の項参照）



重　要

＊副変速レバー**“走行”**位置での刈取作業は，トラブルの原因になりますので，使用しないでください。

補　足

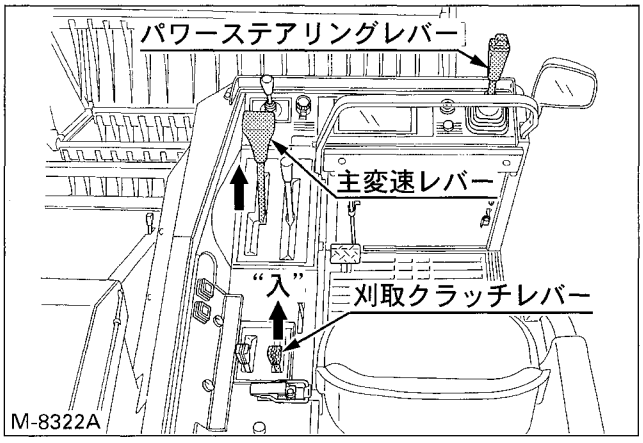
＊副変速レバーが切換えにくい場合は，駐車ブレーキペダルをロック位置手前まで踏込みながら，主変速レバーを少し**“前進”**側にします。

＊機械が動かないように，ペダルの踏込み量を確認してから，副変速レバーを操作すると変速しやすくなります。

＊副変速レバーの切換えは，必ず主変速レバーを**“停止”**位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

＊刈始めや第１周目の回り刈りを行なうときは，**“低速”**位置にして刈取りを行なってください。

❽刈取クラッチレバーを**“入”**位置にし，主変速レバーを**“前進”**側に倒します。そのあと，パワーステアリングレバーを操作して刈高さを合わせます。

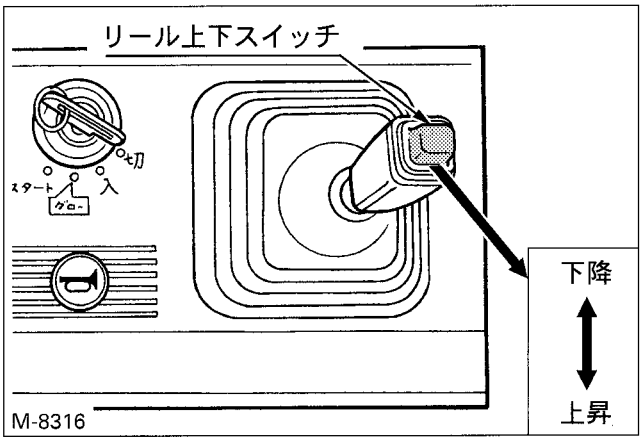


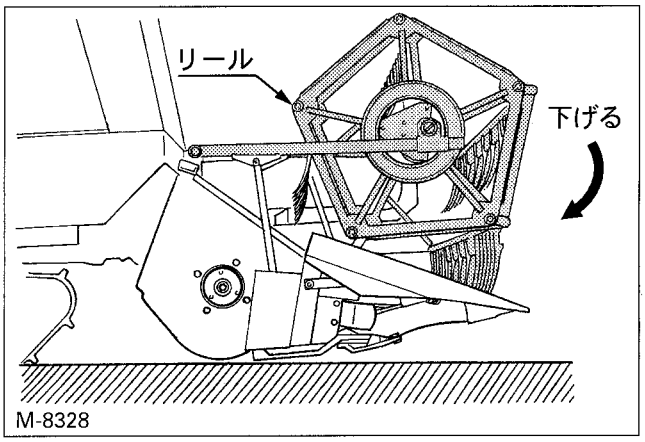
補　足

＊自動刈高制御スイッチが**“自動”**位置で，脱こくクラッチレバーが**“入”**位置のとき，主変速レバーを**“後進”**位置にすると刈取部が自動的に上昇します。

（**バックアップ機能**）

❾リール上下スイッチを操作して，リールを最下降位置にします。



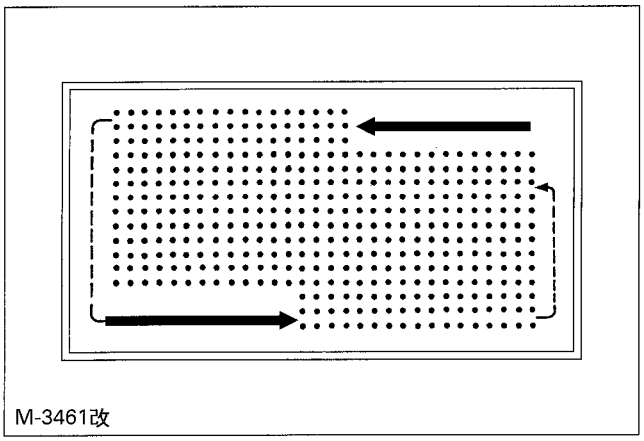


❿刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節(**作業に合わせた各部の調節・調整**の項参照)を行なってください。

⓫刈取作業が終わると，刈取クラッチレバーを**“切”**位置にし，脱こくが終わりこく粒が全てホッパ内又は，グレンタンク内に入ったことを確認して，脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にします。

■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

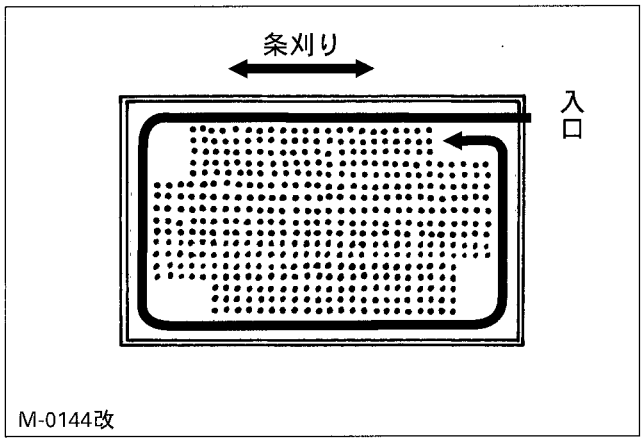
ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが，基本作業は，条刈り(大豆は２条刈り)で左回りの２方向刈りを行なってください。

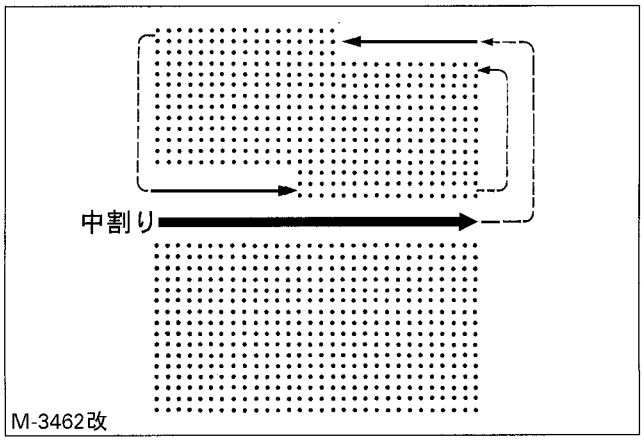


補　足

＊ほ場への進入時や１周目の回り刈り，広いほ場で中割り刈りをして分割するときは，副変速レバーを**“低速”**位置で行なってください。

＊枕地などあぜぎわを刈取るときは，自動刈高制御を**自動切り**にして手動で行なってください。

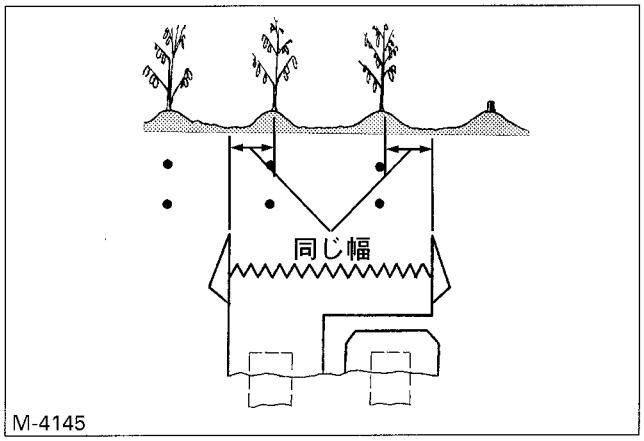




＊中割り刈りなど補助デッキが作物に接触するときは，補助デッキを収納してください。**【ホッパ仕様】**

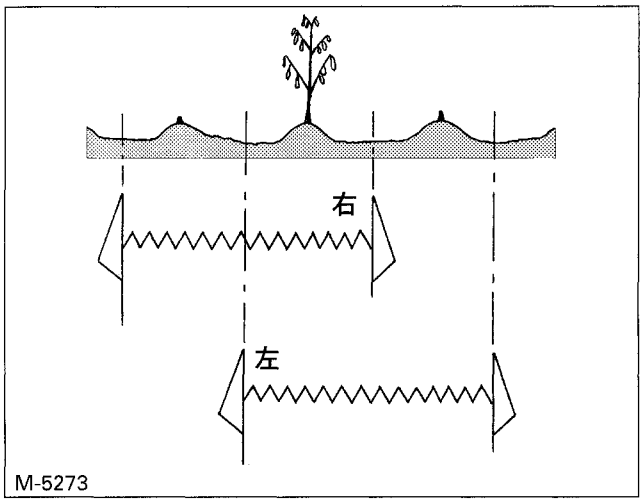
◆デバイダ(刈取部)の条合わせのしかた【大豆】

条合せをするときは，コンバインの速度を落とし，下図のように作物とデバイダを同じ幅に合わせてください。



補　足

＊自動刈高制御がはたらいているときに１条刈りを行なうときは，２条刈りを行なうときと同じように，作物とデバイダの幅を合わせてください。作物を中央で刈取ると，機体が傾くことがあります。



◆旋回のしかた

刈終わると前進しながら刈取部を上げます。

重　要

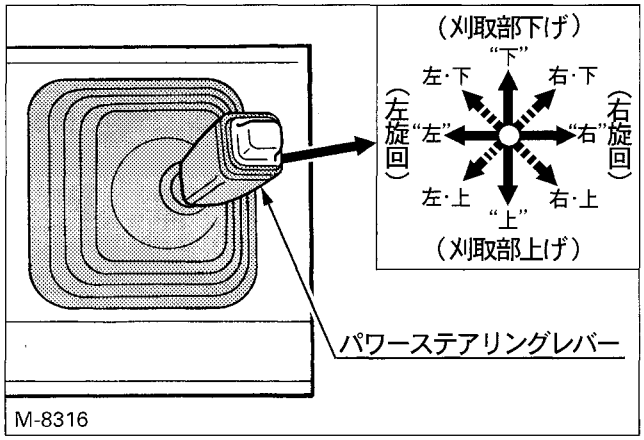
＊エンジン回転数は，下げないでください。**選別が悪くなったり詰まりの原因**になります。

補　足

＊刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。

＊エンジンの回転低下が大きいときは，旋回操作の前に減速してください。

＊パワーステアリングレバーを斜め方向に操作すると，機体が旋回と同時に刈取部が上下します。

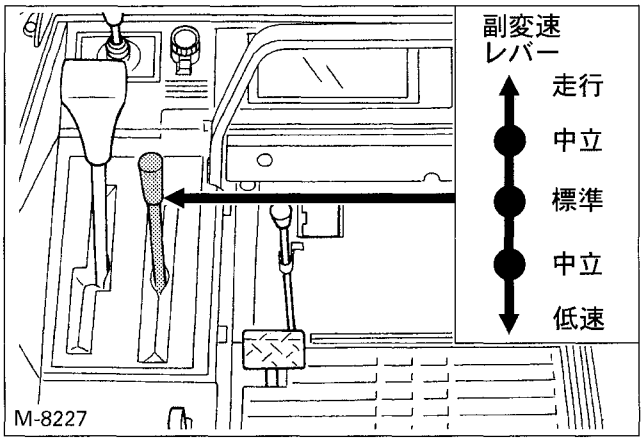


■作物に合わせた変速の選びかた

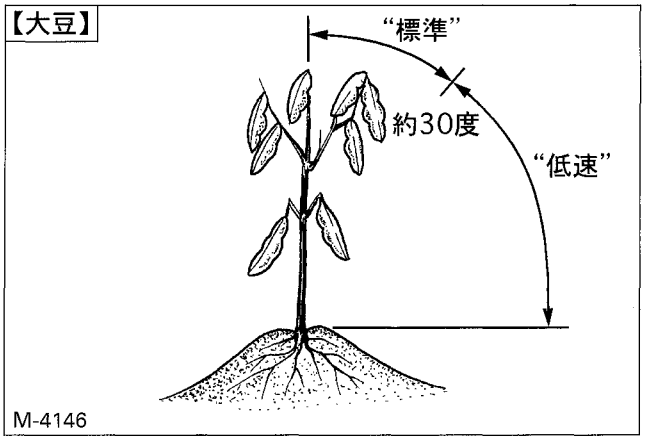
作物の状態により適正な速度を選んでください。

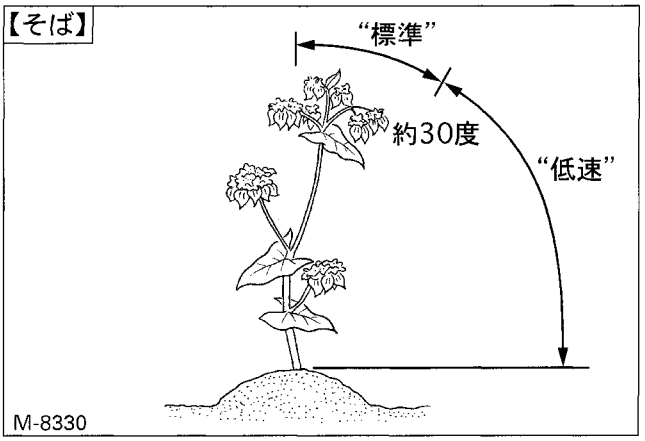
◆作業速度の選びかた

作物の倒伏状態に合わせて副変速レバーの位置を合わせてください。



	倒伏角	
	30度以下	30度以上
副変速レバー位置	**"標準"**	**"低速"**





補　足

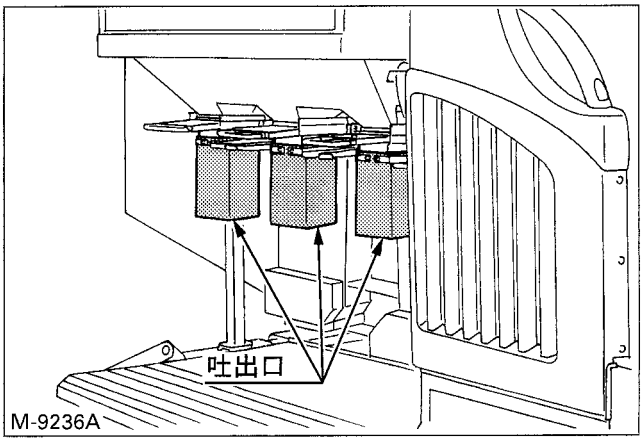
＊リールの回転数は車速に合わせて変化します。
（車速同調）

＊収量・成熟度合やその他の要因により適正な速度は変化します。上表はあくまでも目安ですので，その作物と機械に合った速度で作業を行なってください。

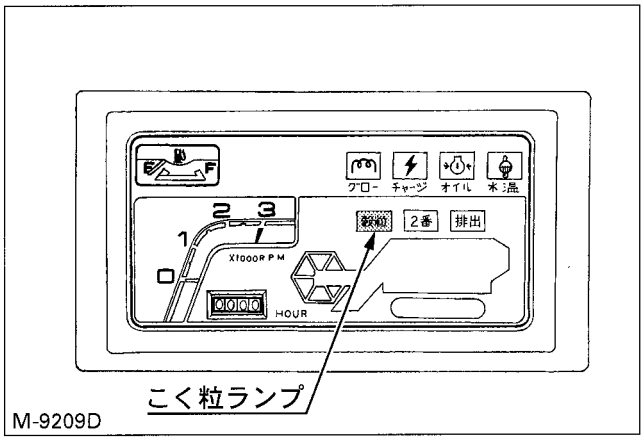
■こく粒の排出のしかた【ホッパ仕様】

注 意

＊コンバインを必ず停止してください。
＊吐出口に手は入れないでください。



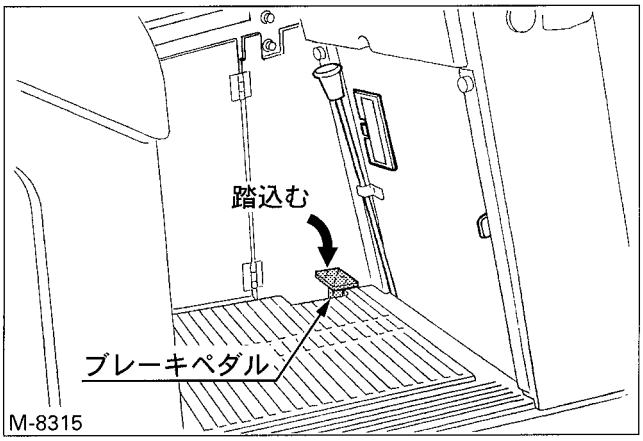
❶ホッパが満杯になると，こく粒ランプが点滅すると同時にブザーが鳴ります。



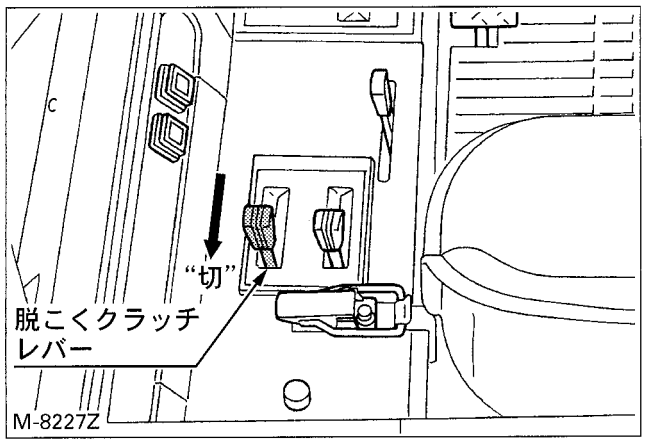
重 要

＊ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，こく粒があふれたり，詰まったりして，故障の原因となります。

❷ブレーキペダルをロックするまでいっぱい踏込み駐車ブレーキを掛けます。



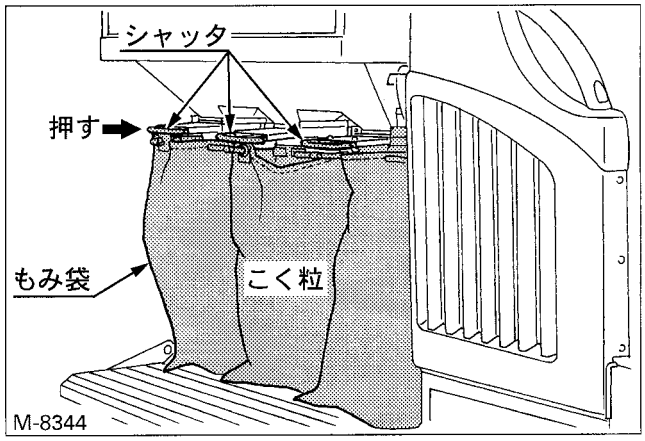
❸20～30秒待ったあと脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にし，脱こく部を停止します。



補 足

＊走行停止後20～30秒経過して行なってください。選別不良の原因となります。
＊脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にすると同時に，連動して刈取クラッチレバーも**“切”**位置に動き，刈取部が停止します。

❹シャッタを押して(閉じて)，新しい(空の)もみ袋と交換したあと，シャッタを引き(開き)ます。



補 足

＊こく粒を排出すると，こく粒ランプの点滅は消灯します。

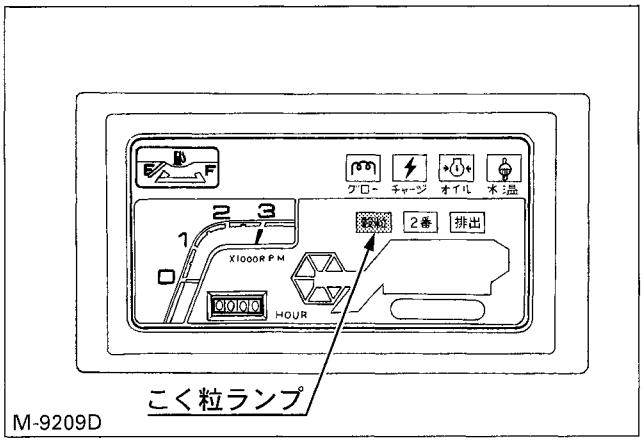
❺駐車ブレーキを解除したあと作業を始めてください。

■こく粒の排出のしかた【グレンタンク仕様】

警 告

＊コンバインを必ず停止してください。
＊排出時は機体を水平な場所に停車させてから排出作業を行なってください。

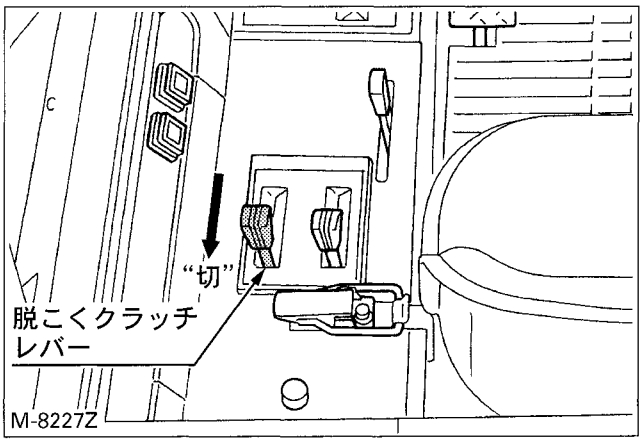
❶グレンタンクが満杯になると，こく粒ランプが点滅すると同時にブザーが鳴ります。



重 要

＊ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，こく粒があふれたり，排出バケットが詰まったりして，故障の原因となります。

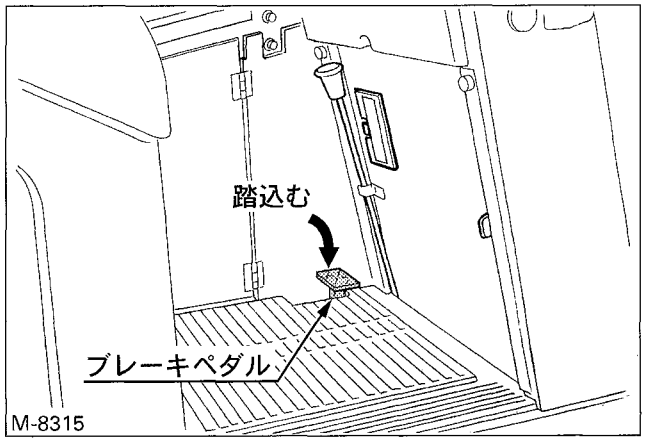
❷20～30秒待ったあと脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にし，脱こく部を停止します。



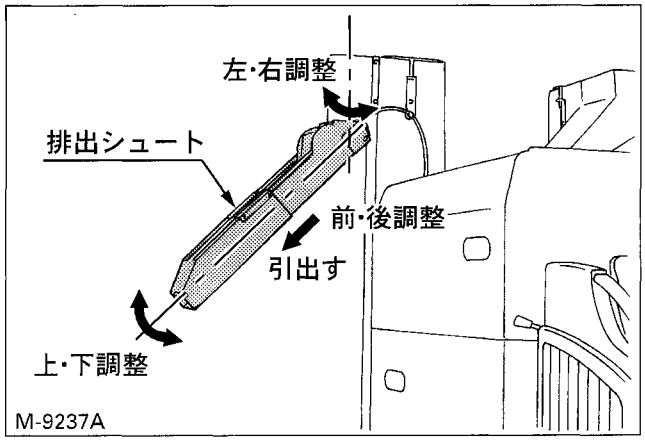
補 足

＊走行停止後20～30秒経過して行なってください。選別不良の原因となります。
＊脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にすると同時に，連動して刈取クラッチレバーが**“切”**位置に動き刈取部も停止します。

❸所定の排出場所に移動し，主変速レバーを**“停止”**位置，副変速レバーを**“中立”**位置にして，駐車ブレーキペダルをロック位置まで踏込んで，駐車ブレーキを掛けます。

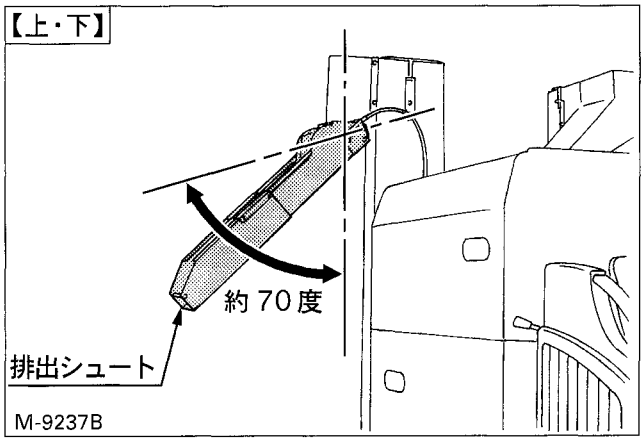


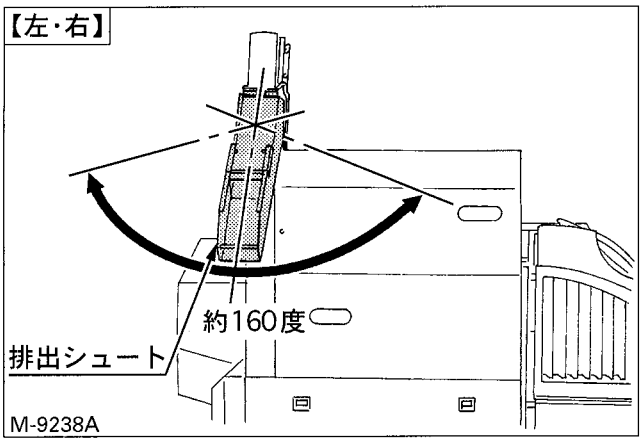
❹こく粒排出シュートを動かして排出の準備をします。排出シュートは，排出場所の状態や容器に合わせて，左・右又は，上・下方向に動かして調整してください。また，排出シュートを伸ばすときは，先端部を引出して長さの調整を行なってください。



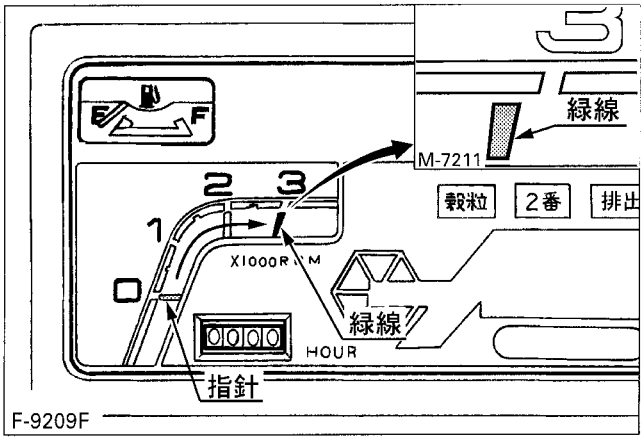
補 足

＊排出シュートの左・右又は，上・下方向の可動範囲は下記の通りです。





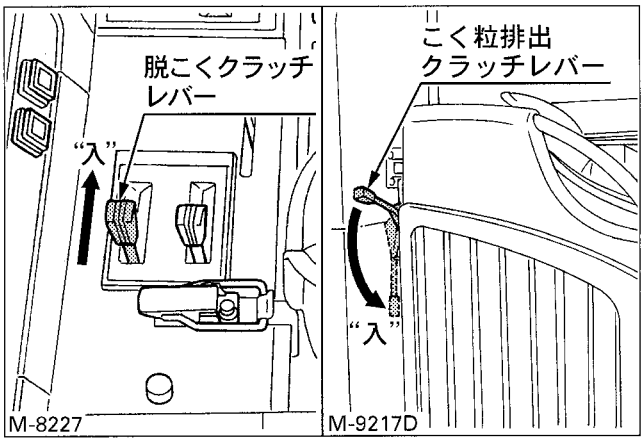
❺排出作業は刈取り作業時の回転(緑線の位置)のままでしてください。



補　足

＊損傷しやすい作物は，エンジン回転数を約2000rpm以下にならない程度まで下げてください。

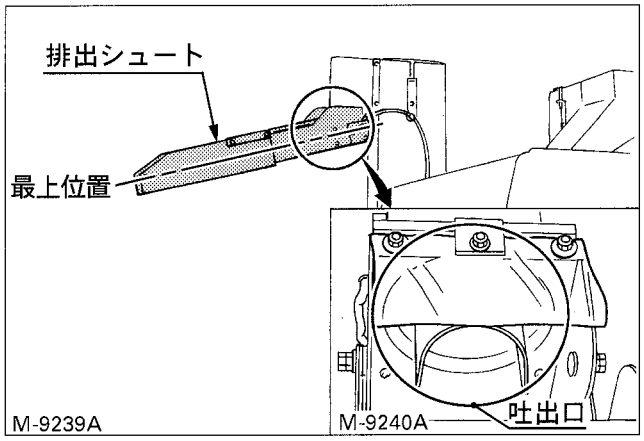
❻脱こくクラッチレバーを**"入"**位置にしたあと，こく粒排出クラッチレバーを**"入"**位置にして，もみを排出します。



重　要

＊排出シュートには，絶対物を吊るさないでください。

＊排出シュートを**最上位置**付近にして排出作業を行なうときは，こく粒の状態で流れが悪くなると吐出口が詰まり，駆動系統の原因となりますので排出シュートの上・下調整を行なって詰まりを防いでください。

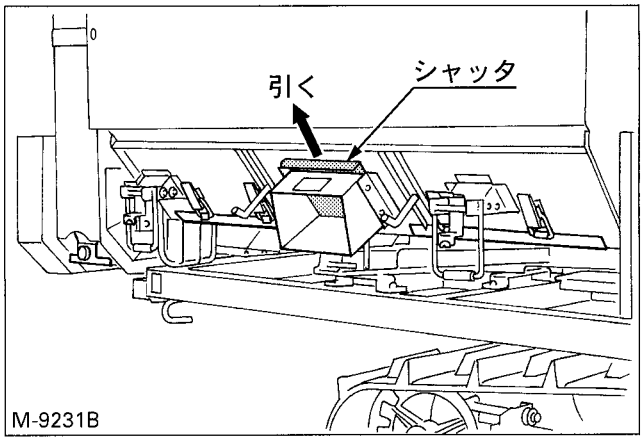


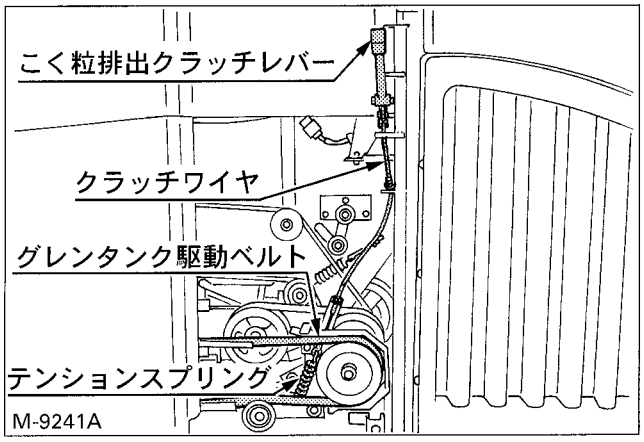
補　足

＊排出シュートからこく粒が排出されないときは，下記事項を点検し，処置してください。

(1)異物がかみ込んでいるときは，バケットコンベアの各掃除口を点検(**メンテナンス**の**掃除のしかた**の項参照)し，異物があれば取除きます。

(2)タンク駆動ベルトがスリップしているときは，シャッタを引きこく粒を排出したあと，グレンタンクをオープン(**メンテナンス**の**グレンタンクオープン**の項参照)し，こく粒排出クラッチレバーのクラッチワイヤの調整(**メンテナンス**の**各部ベルトの点検・調整**の**グレンタンク駆動ベルト**の項参照)をします。調整を行なってもスリップが止まらないときは，駆動ベルト交換を行なってください。





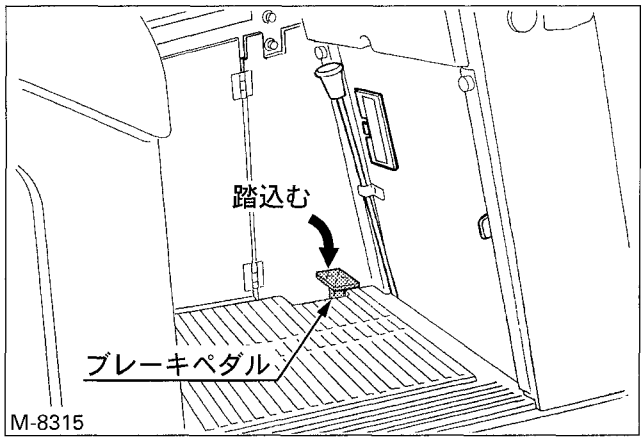
❼排出が終わると，排出クラッチレバーを**"切"**位置にし，排出シュートを収納します。

■手刈り(枕刈り)作物の投げ込み脱こくのしかた

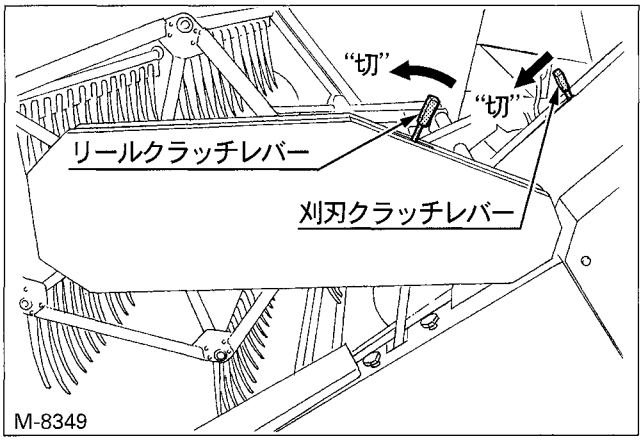
警　告

＊そで口はきっちり止めて，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。
＊刈刃，リール各クラッチレバーを“切”位置にしてください。リールに巻込まれてケガをするおそれがあります。
＊コンバインは平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。
＊投げ込み脱こくするときは，必ずコンバインの刈取部から少し離れて，作物を少量ずつ投げ込んでください。

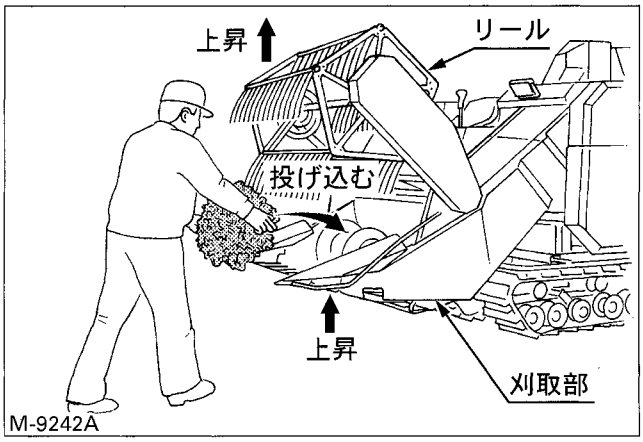
❶平たんな場所を選んで走行を停止したあと，主変速レバーを**“停止”**　位置にし，ブレーキペダルをロックするまでいっぱい踏込み駐車ブレーキを掛けます。

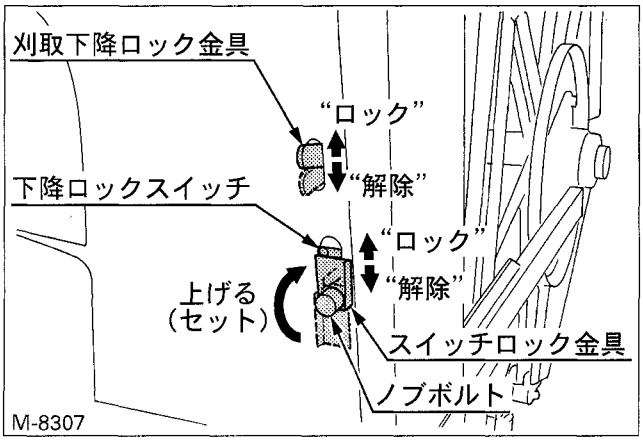


❷刈刃クラッチレバーを**“切”**位置，リールクラッチレバーを**“切”**位置にします。



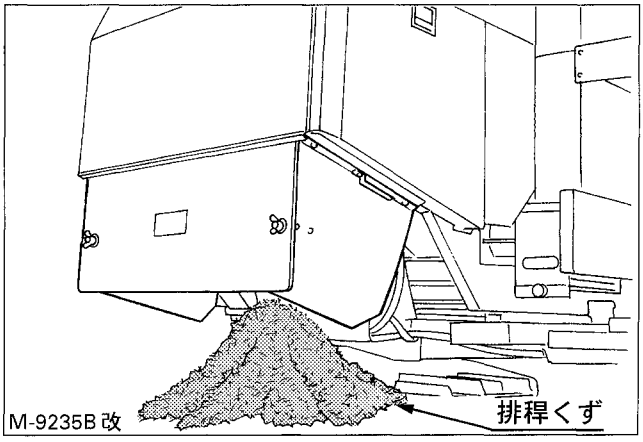
❸刈取部及びリールをそれぞれ**最上昇位置**にしたあと，刈取部及びリールの下降防止を行ないます。
❹脱こくクラッチレバーを**“入”**位置にしたあと，刈取クラッチレバーを**“入”**位置にします。
❺手刈りした作物を少しずつ投げ込みます。





重　要

＊作物は一度に多量の投入はしないでください。フィーダや脱こくロータでの詰まりの原因となります。
＊走行を停止した状態で多量の脱こくを行なうと，カッタ部の下に切断された排稈くずが堆積し，カッタが詰まったり，火災の原因となりますので，機体を移動させる又は，堆積した排稈くずを取除いてください。



■作業に合わせた各部の調節・調整のしかた

警 告

＊調節時は必ずエンジンを止めてください。
＊衣服などが回転部に巻込まれ危険ですので，取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。

注 意

＊水平で平たんな場所で行なってください。
＊コンバインを停止するときは，排稈くずの上に止めないでください。マフラ排気口に排稈くずが触れると，火災のおそれがあります。

◆脱こく部

●脱こく状態に合わせた調節・調整

下記こく粒の流れを参照して，作物の現象(状態)に応じ，各部の調節や調整を行なってください。

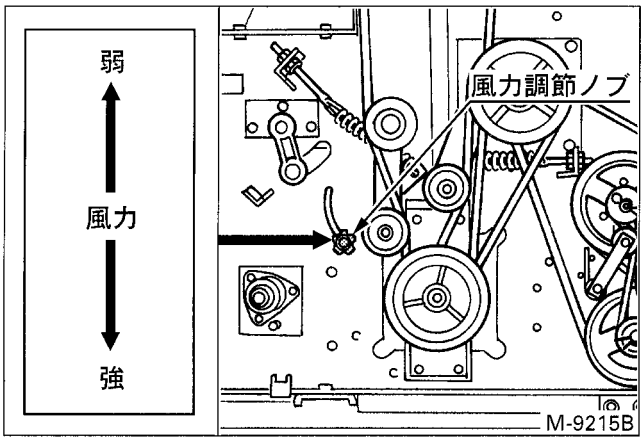
❶チャフシーブ

作物に合わせてチャフシーブを調節します。
(**コンバインの準備の4.作物に合わせた各部の切換え**の項参照)

❷選別ファン(トウミ風力)

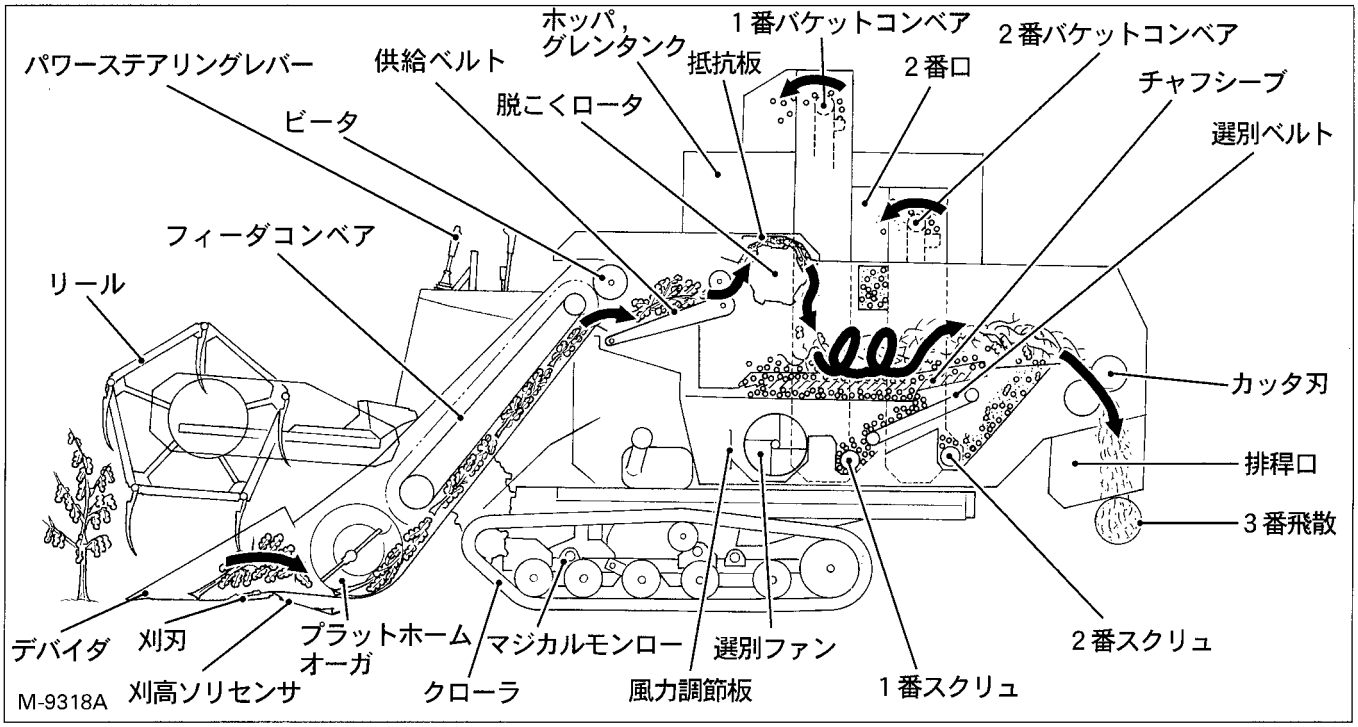
1番こく粒の選別状態と3番飛散粒の状態により，風力を調節します。

	風 力
通 常	標 準
3番飛散粒が多いとき	弱める



補 足

＊作物の流れ



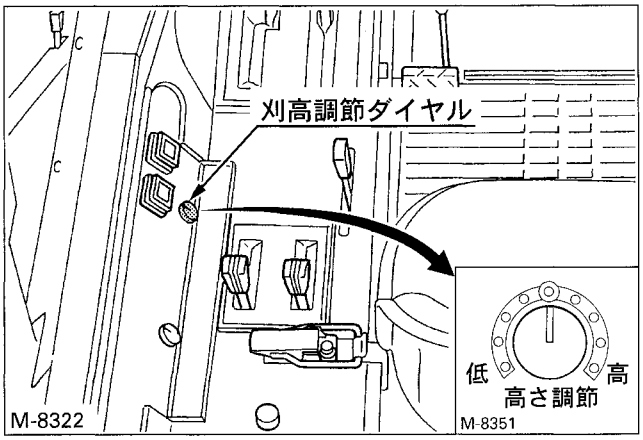
◆走行・操作部

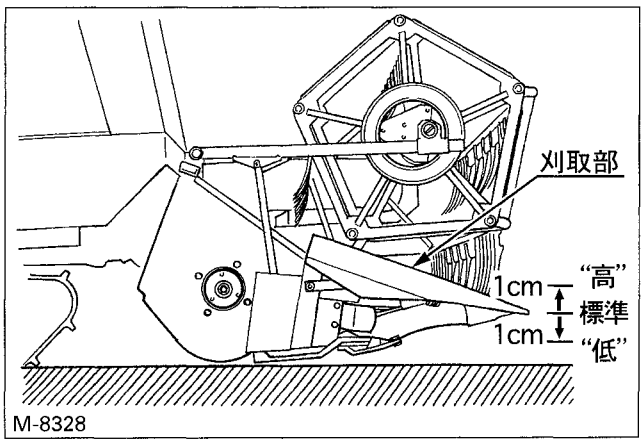
作物の状態やこく粒の状態に合わせて調節を行なってください。

●刈高調節ダイヤル

作物を高刈りしてしまうときや低刈りになり，土をすくってしまうときは，調節してください。

刈高調節ダイヤルは，刈取部の高さ調節を行ないます。調節ダイヤルを**“高”**又は，**“低”**位置に回したとき，刈取部の高さが標準位置より最大1cm上下します。

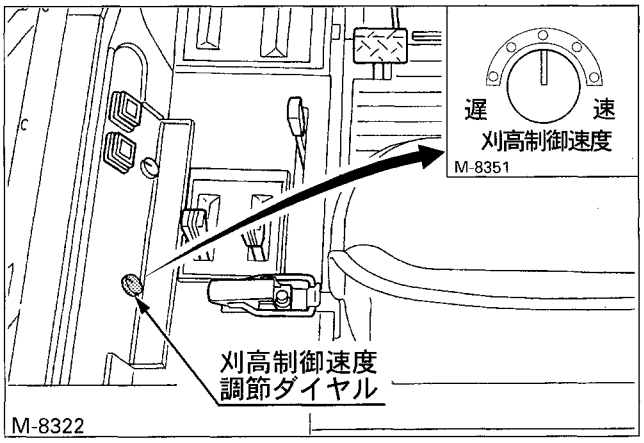




●刈高制御速度調節ダイヤル

ほ場の状態により刈取部が，土をすくって発生する汚粒を避けたいときに調整を行なってください。

ほ場が硬く，制御が効きすぎて，乗心地が悪いときは，ダイヤルを**“遅”**の方向に回してください。また，ほ場が柔かく，制御の効きが悪いとき(刈取部が土をすくうなど)は，ダイヤルを**“速”**の方向に回してください。



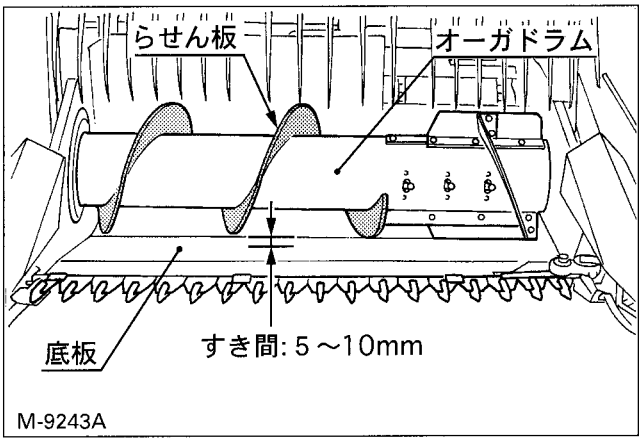
◆刈取部

● オーガドラムの高さ調節(大粒の大豆の場合)

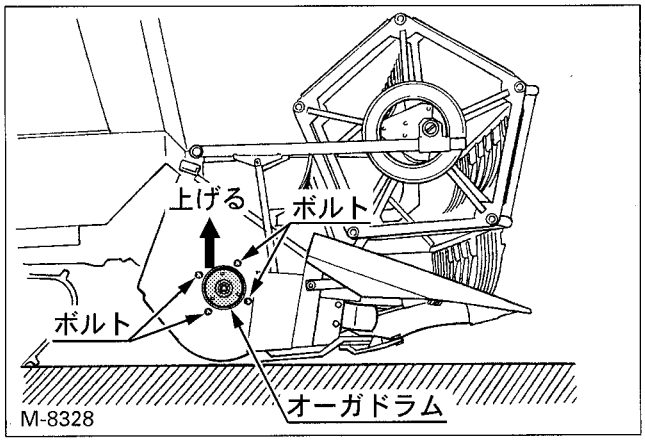
オーガドラムラセンと底板の間で割れが発生するときは，オーガドラムの高さ調節を行なってください。

補　足

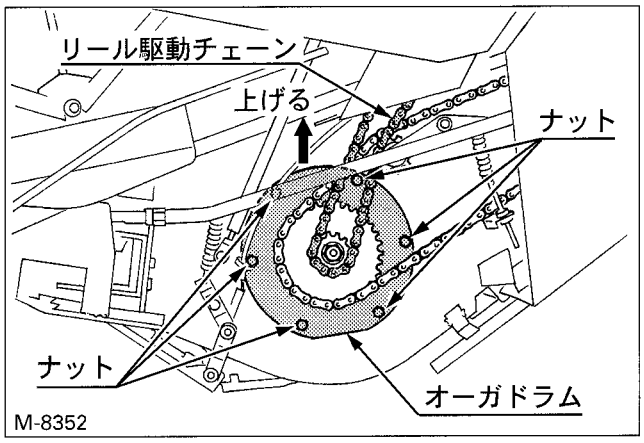
＊出荷時は，オーガドラムのらせん板と底板のすき間は，5～10mmです。



(1)刈取部右側のオーガドラム取付ボルト4本をゆるめて長穴いっぱいまで上げ，ボルトを締付けます。



(2)刈取部左側の刈取サイドカバーのノブボルト3本を取外して外したあと，オーガドラム取付ナット6個をゆるめて長穴いっぱいまで上げ，ナットを締付けます。



重　要

＊オーガドラムの高さ調節を行なったあとは，リール駆動チェーンの半コマを取り，張り調整を行なってください。

(**各部チェーンの点検・調整・交換**の項参照)

補　足

＊オーガドラムを上げたときのすき間は，約18mmです。

■コンバインメータによる異常と処置

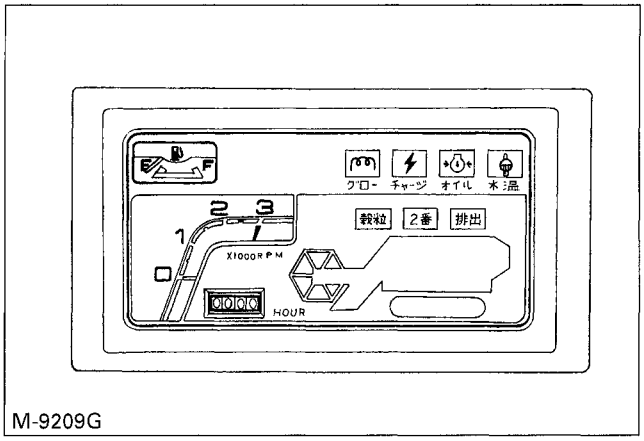
警 告

＊各部の点検やわら詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めてください。
＊各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注 意

＊エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがります。
＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。

各ランプが異常箇所を表示したときは，下表の処置を行なってください。



M-9209G

ランプ	警報		現象	処置	参照ページ
	ランプ表示	ブザー			
水温	点滅	—	●水温が上昇しています。 ●そのまま作業を続けると… オーバヒートします。	●約5分間エンジンだけを動かしたあと，エンジンを停止し，30分以上たってから点検と処置をします。 ①冷却水量 不足……ラジエータ・リザーブタンクに清水を補給 水もれ……ドレーンコック・ラジエータホースのバンドを増締め ②ファンベルト ゆるみ……張り調整 破損など……交換・調整 ③防じんあみ・ラジエータフィン 汚れ・詰まり……掃除して取除く	 72 74 80 75
オイル	点滅	—	●エンジンのオイル圧力が不足しています。 ●そのまま作業を続けると… エンジンが動かなくなります。	●エンジンを停止後，オイル量を点検します。 ●オイルドレーンゴムホースの点検，バンドの増締め ●エンジンが焼付きを起こしていますので，購入先へ連絡してください。	70,71 74
チャージ（充電）	点滅	—	●バッテリに充電されていません。 ●そのまま作業を続けると… バッテリ上りとなり，エンジンの始動ができなくなります。	●エンジンを停止後，点検と処置をします。 ①ファンベルト ゆるみ……張り調整 破損など……交換・調整 ②バッテリ 電圧低下……充電 ●バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは，交換してください。	 80 98

ランプ	警報		現象	処置	参照ページ
	ランプ表示	ブザー			
穀粒(こく)	点滅	○	●ホッパ及びグレンタンクのこく粒が満杯です。 ●そのまま作業を続けると… 1番バケットコンベアが詰まります。	●刈取作業を中止し，こく粒を排出します。 ●こく粒を排出します。	43
2番	点滅	○	●2番バケットコンベアが詰まっています。 ●2番スクリュ終端部が詰まっています。 ●2番処理部が詰まっています。	●各部の詰まりを取除きます。	61 60 60
排出【グレンタンク仕様】	点滅	○	●排出コンベアの吐出口が詰まっています。	●排出バケット及びグレンタンク横スクリュの詰まりを取除きます。	60

重要

＊処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡してください。

メンテナンス

各部のオープン(開閉)と脱着のしかた

警 告

＊平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。
＊傾斜地で開閉や脱着は行なわないでください。

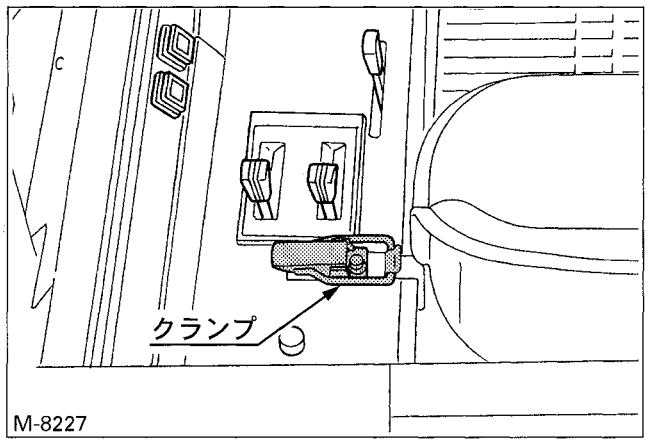
■エンジンルームオープン

注 意

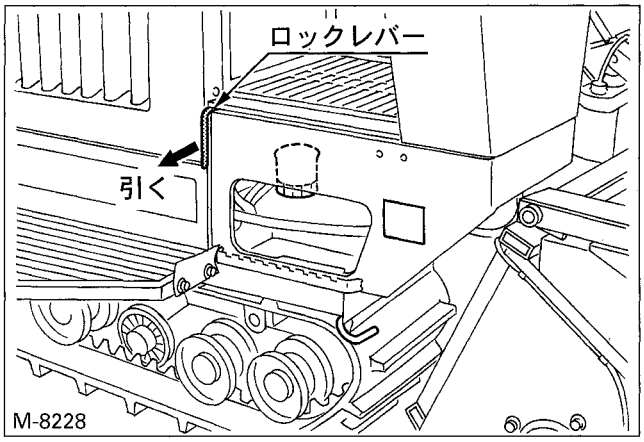
＊オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1)作業を中止する。
(2)エンジンを約５分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止する。
(3)エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
(4)点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊エンジンが冷えてないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

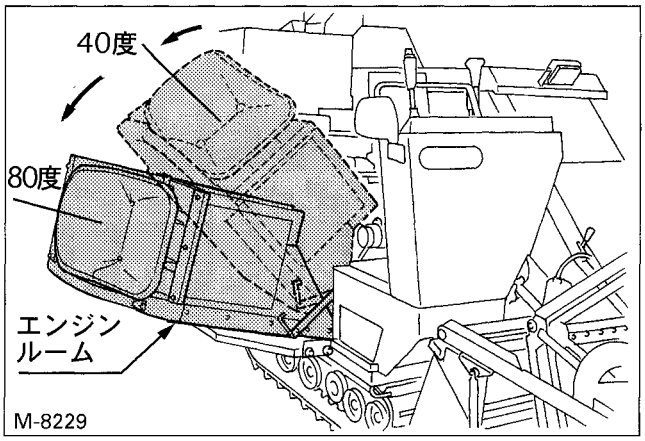
◆開きかた

❶シートフレーム部のクランプを外します。



❷ロックレバーを引き，エンジンルームを外(手前)側に倒して開きます。
エンジンルームは，40度と80度の2段階開きます。40度でいったん止まったあと，再度ロックレバーを引くと80度まで開きます。





◆閉じかた

エンジンルームを閉じたあと，クランプをします。

重 要

＊閉じたときは，クランプで必ずロックしてください。

■脱こくロータカバーオープン

注　意

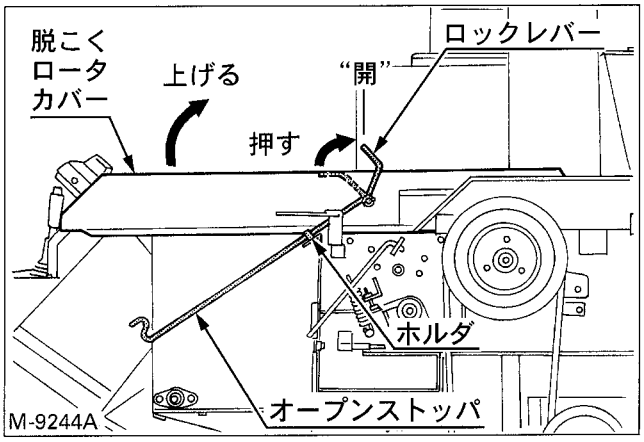
＊手や指をはさまれてケガをするおそれがあるので，脱こくロータカバーはゆっくりと開閉してください。

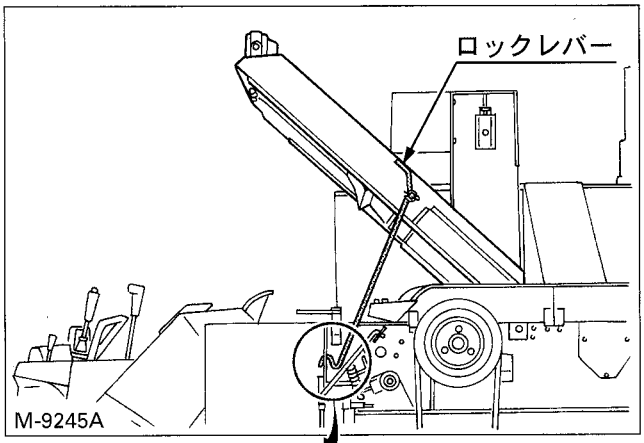
◆開きかた

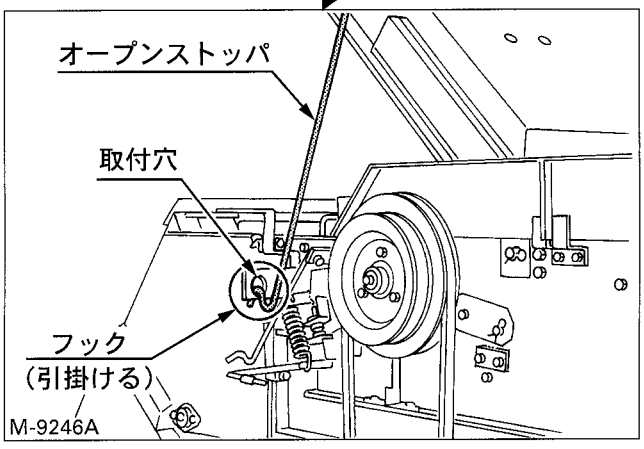
❶脱こく左サイドカバー上を取外します。

❷ロックレバーを**“開”**方向に押した状態で脱こくロータカバーを上げます。

❸オープンストッパをホルダから取外し，フック部を取付穴に引掛けます。







◆閉じかた

❶脱こくロータカバーを持ち上げて，オープンストッパを取付穴から外し，ホルダに収納します。

❷脱こくロータカバーをゆっくり降します。

補　足

＊閉じたときにすき間がないことを確認してください。

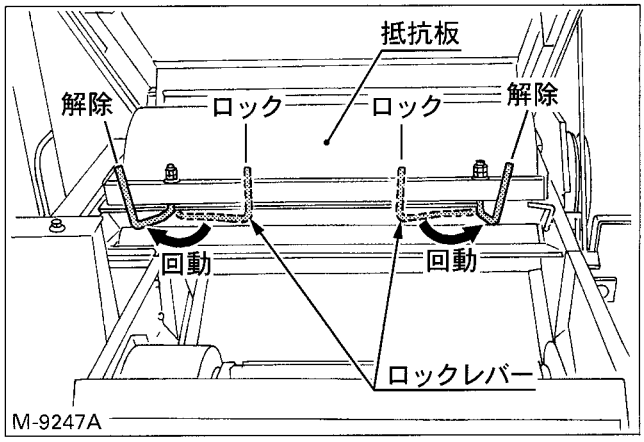
❸脱こく左サイドカバーを取付けます。

■抵抗板オープン

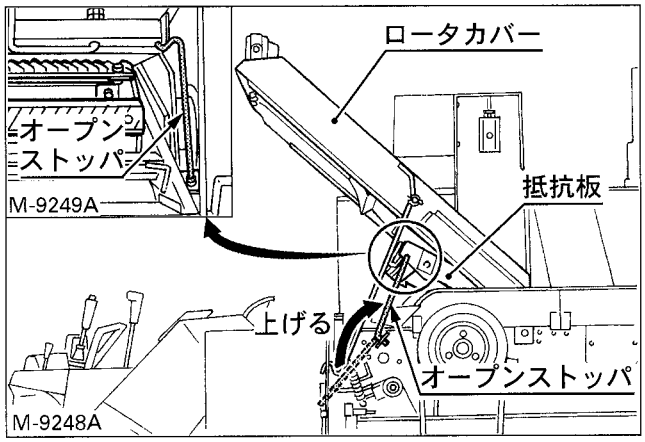
◆開きかた

❶脱こくロータカバーをオープンします。
（**脱こくロータカバーオープン**の項参照）

❷抵抗板のロックレバーを解除位置に回動します。



❸抵抗板を上げたあと，オープンストッパを上げて抵抗板の取付部に掛け，下降防止を行ないます。



◆閉じかた

❶抵抗板を少し持上げて，オープンストッパを外します。

❷抵抗板をゆっくり降します。

❸抵抗板のロックレバーをロック位置に回動します。

■カッタオープン

警 告

＊カッタを開いているときは，カッタの刃先に注意してください。

注 意

＊傾斜地でのカッタの開閉はしないでください。
＊カッタをオープンして掃除をするときは，オープンストッパで必ず固定してください。

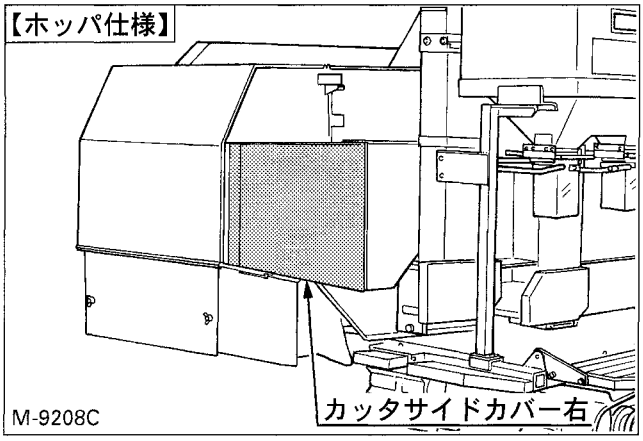
重 要

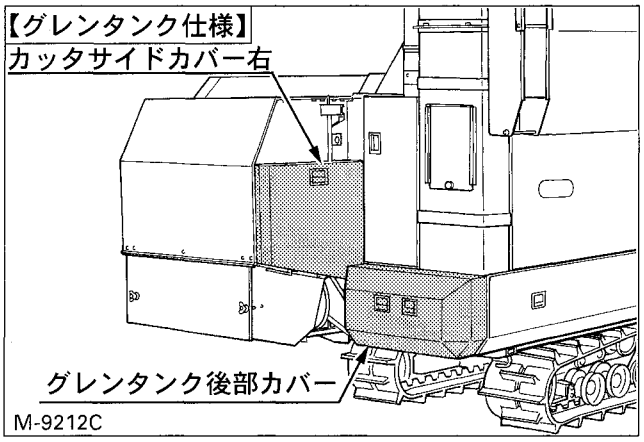
＊グレンタンクがオープンされているときは，カッタ部を開けないでください。グレンタンクと接触し，破損するおそれがあります。【グレンタンク仕様】

◆開きかた

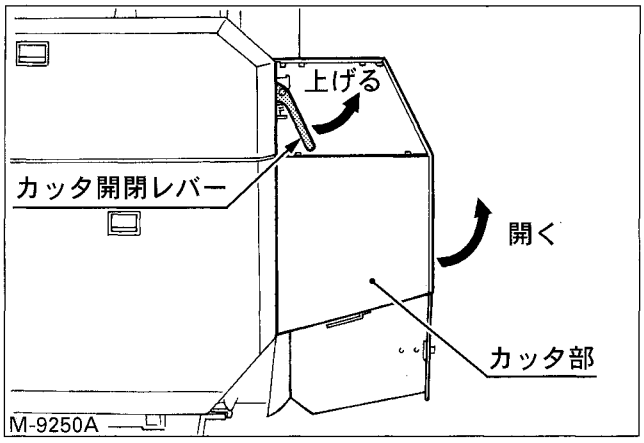
❶グレンタンク仕様は，グレンタンク後部カバーを取外します。

❷カッタサイドカバー右を取外します。





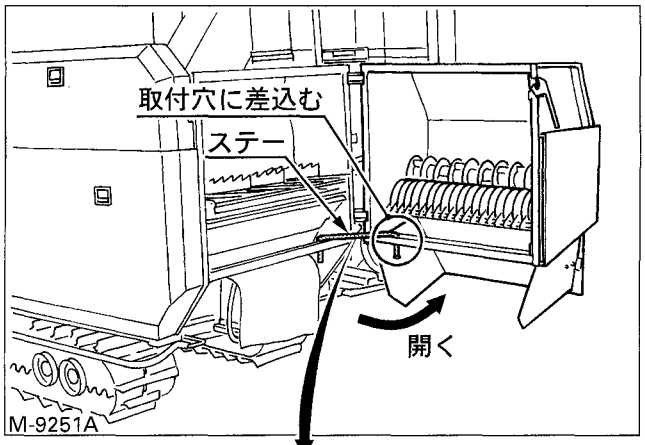
❸カッタ開閉レバーを上げて，ロックを解除したあと，カッタ部を開きます。

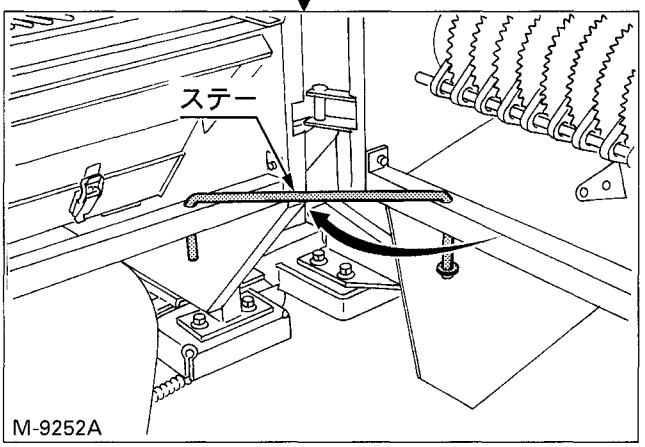


補 足

＊カッタ部を開くと，カッタ駆動ベルトがプーリから外れます。

❹カッタ部を開いた(オープン)あと，ステーを脱こく側の取付穴に差込みます。



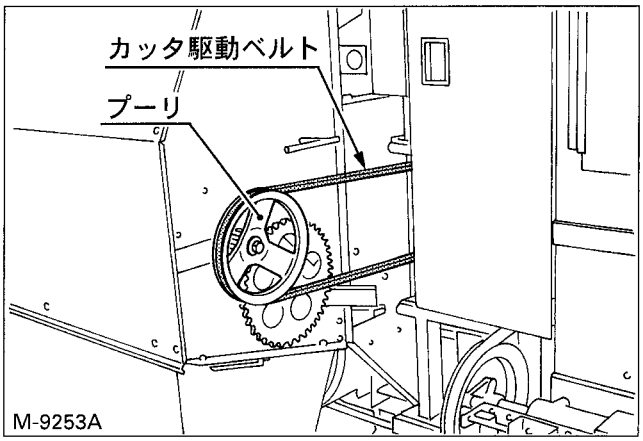


◆閉じかた

開き方と逆の手順で閉じます。

重 要

＊カッタ駆動ベルトはプーリに確実に掛けてください。



＊カッタ開閉レバーのフック部が確実にロックされていることを確認してください。

■シーブケースの脱着

注 意

＊カッタ刃側に人は立たないでください。
刃先にあたるとケガをするおそれがあります。
＊脱着作業は，合図を掛け合って2人で行なってください。

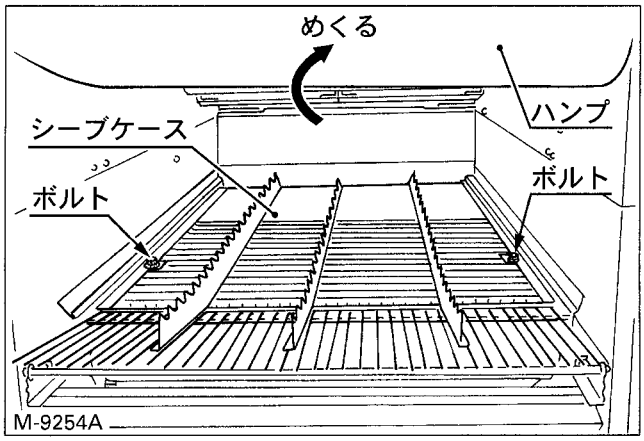
◆抜出しかた

❶リヤシュート・サイドシュートを収納します。
（**コンバインの準備**のリヤシュート・サイドシュートの準備の項参照）

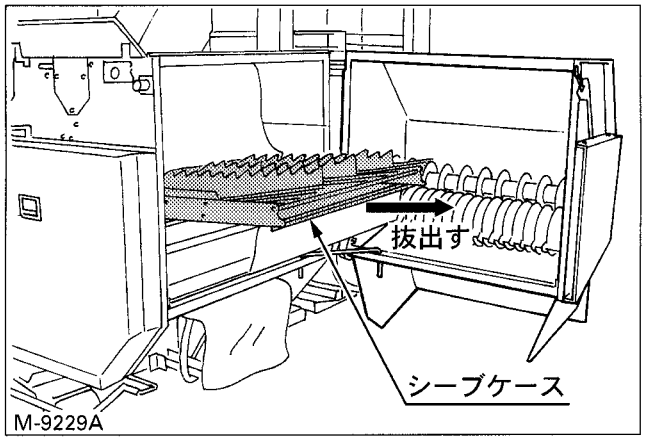
❷カッタオープンをします。
（**カッタオープン**の項参照）

❸ハンプをめくり上げて上部でテープなどで固定します。

❹シーブケースを固定しているボルト2本を取外します。



❺シーブケースをゆっくりと抜出します。

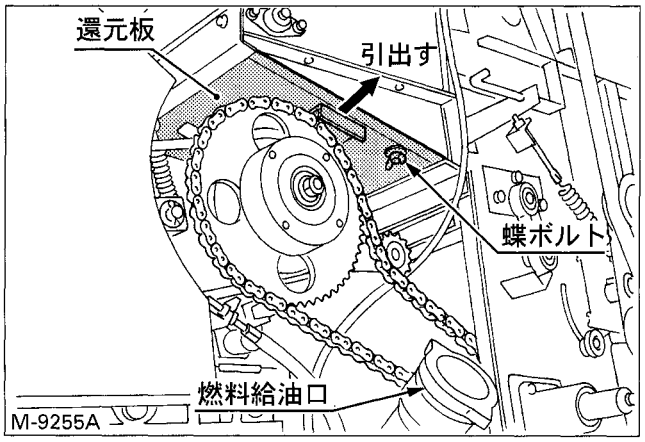


◆取付け方

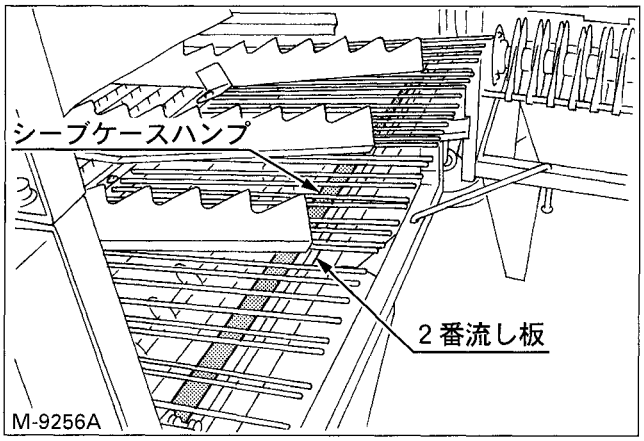
❶シーブケースをゆっくりとそう入します。

補　足

＊最後まで入らないときは，蝶ボルトを取外して還元板を抜き，シーブケース前側を浮かしてください。



＊シーブケースハンプは，２番流し板の内側に入れてください。



❷ボルト2本を締付けてシーブケースを固定します。

❸カッタを閉じます。

❹リヤシュート・サイドシュートを開きます。

■グレンタンクオープン【グレンタンク仕様】

注　意

＊グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

＊コンバインが傾いている傾斜地などでは，グレンタンクを開閉しないでください。

重　要

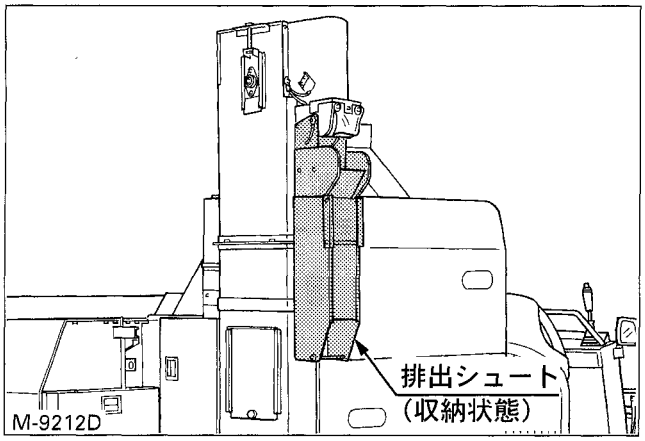
＊カッタ部がオープンされているときは，グレンタンクを開けないでください。カッタ部と接触し，グレンタンクが破損するおそれがあります。

◆開きかた

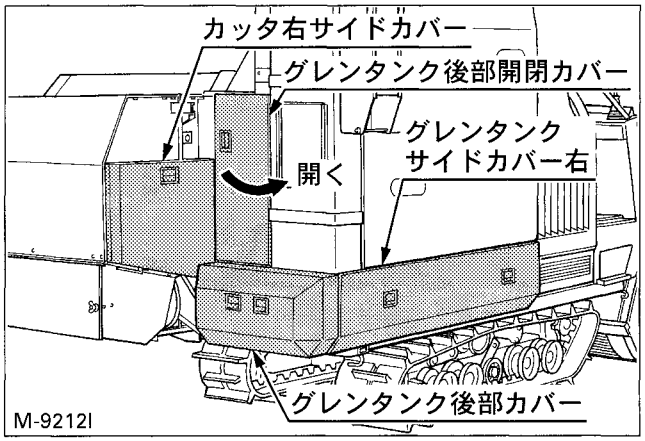
❶グレンタンク内に残っているこく粒は，すべて排出します。(**こく粒の排出のしかた**の項参照)

❷主変速レバーを**“停止”**位置，副変速レバーを**“中立”**位置にし，各作業クラッチ(刈取，脱こく，こく粒排出)レバーを**“切”**位置にします。

❸こく粒排出シュートを収納状態にします。

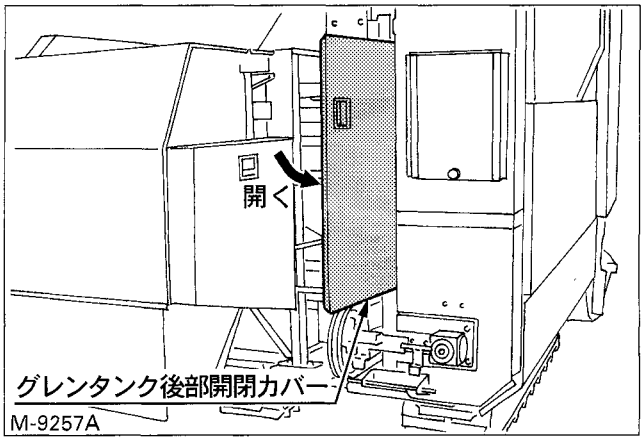


❹取手を引き，カッタ右サイドカバー，グレンタンクサイドカバー右，グレンタンク後部カバーを外し，及びグレンタンク後部の開閉カバーを開きます。

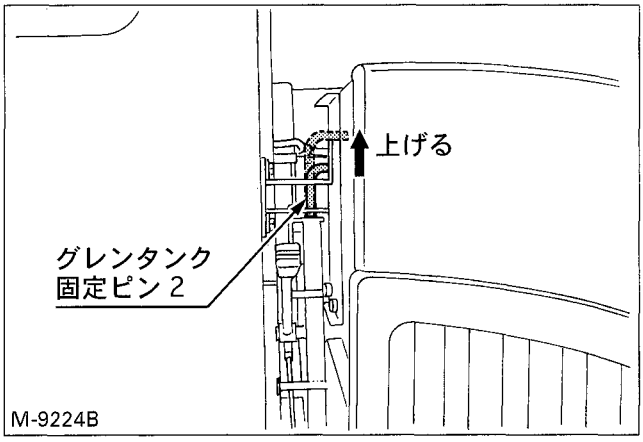


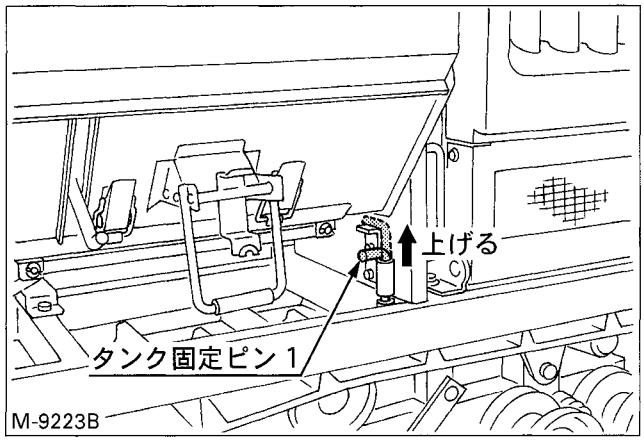
重　要

＊タンク後部の開閉カバーの開き忘れや開きかたが狭いとグレンタンクを開いたとき，カバーが破損します。

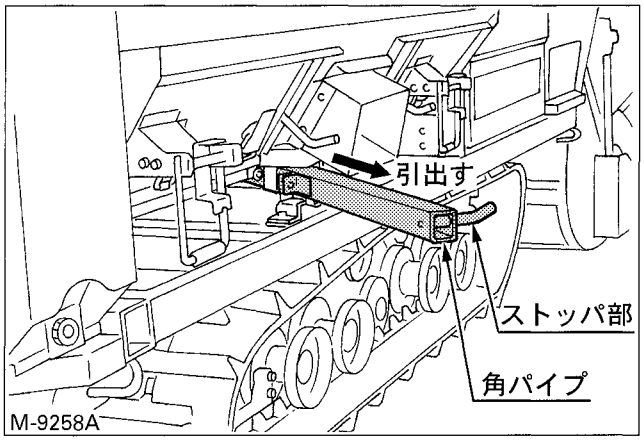


❺グレンタンクを固定している２箇所の固定ピンを上げて固定を解除したあと，固定ピンを解除位置に掛け換えます。



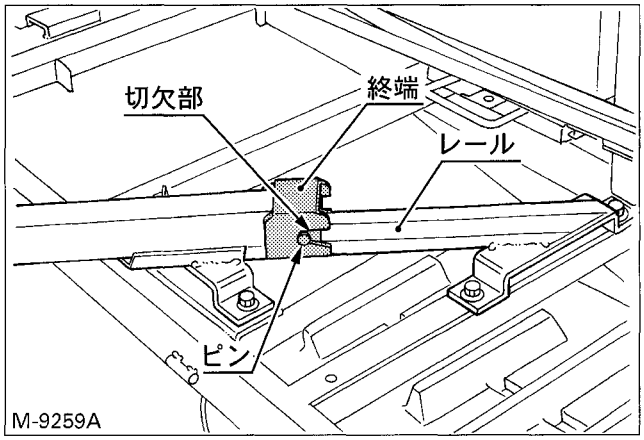


❻グレンタンクを開いたときの位置を固定する引出し式のストッパ(角パイプ)を引出します。

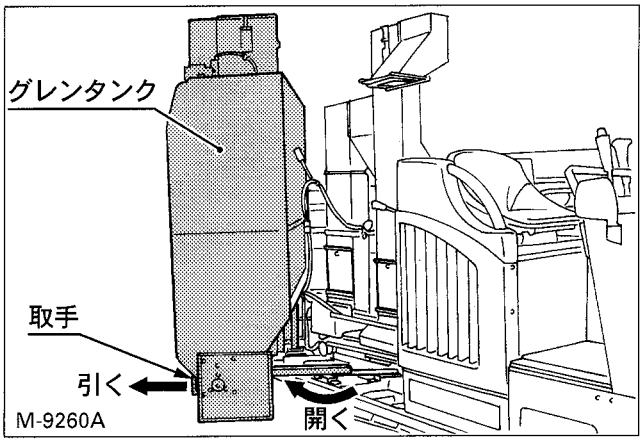


補　足

＊ストッパ(角パイプ)は，ピンがレール終端の切欠部に当たるまでいっぱい引出してください。



❼取手を引いてグレンタンクを開きます。



◆閉じかた

開き方と逆の手順で閉じます。

重　要

＊グレンタンクを閉じたあと，固定ピンは確実に差込んでください。

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警　告

＊エンジンを必ず止めてください。

＊取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。

＊各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注　意

＊刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロック金具を上げて必ずロックしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

＊リールを上げて作業するときは，下降ロックスイッチを上げたあと，ロック金具で下降ロックスイッチを必ずロックしてください。

＊空運転するときに運転席以外は近づかないでください。

＊オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。(クローラなどのゴム製品は損傷します。)

＊バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。

＊刈刃やカッタの掃除・注油時は刃部に注意してください。

重　要

＊水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。

＊掃除口を閉じるときは，掃除口にこく粒の付着がないことを確めてから閉じてください。また，掃除のあとカバーを取付け忘れるとこく粒が飛散します。

＊機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているとこく粒が機内に付着して残留こく粒が多くなります。

＊取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。

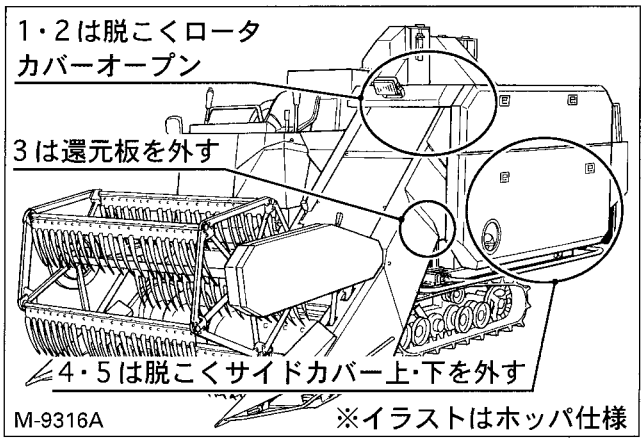
■掃除のしかた

作物の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

◆掃除のしかた

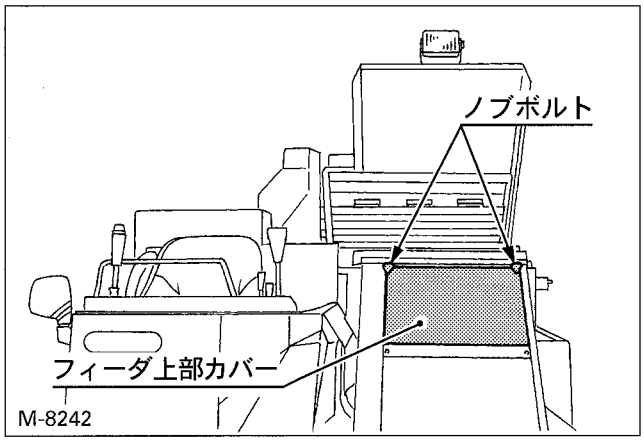
刈取作業が終わり，こく粒の排出がすべて終わったあと脱こく部を約３分間空運転します。そのあと，脱こくクラッチを切りエンジンを止めます。
掃除をするときには，各部をオープン(開閉)又は，掃除口を開いて，圧縮空気や付属部品のブラシなどを使用してください。

◆掃除箇所



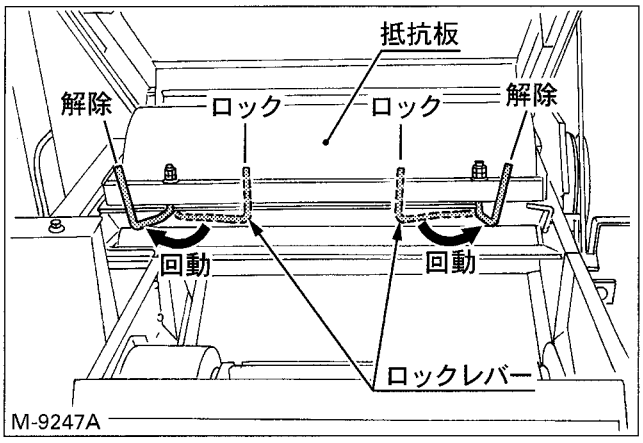
1.フィーダ上部カバー内

脱こくロータカバーをオープンしたあと，ノブボルト2本を取外してフィーダ上部カバーを取外してください。



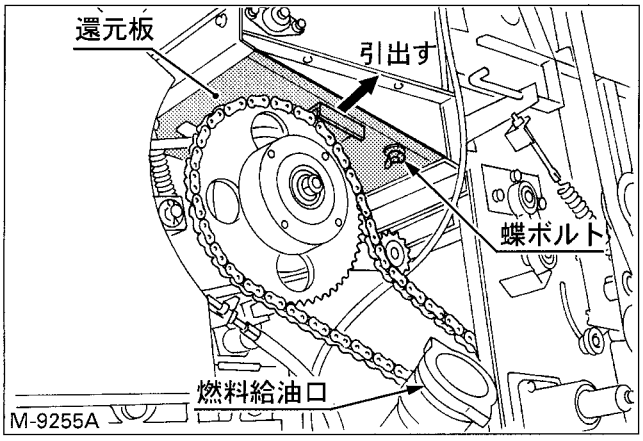
2.抵抗板内

脱こくロータカバーをオープンしたあと，抵抗板のロックレバーを解除位置に回動して抵抗板をオープンしてください。

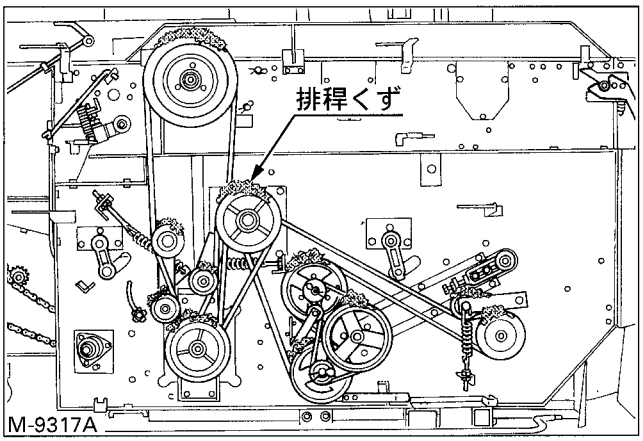


3.還元板の脱着

蝶ボルトを外し，還元板を手前に抜出します。

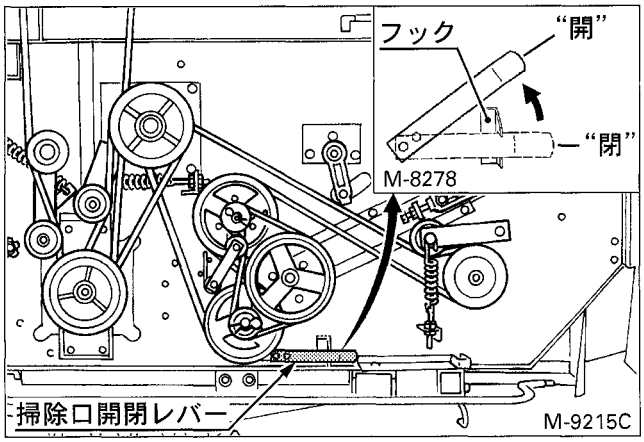


4.ベルトカバー内



5. 1番横スクリュ下部掃除口

掃除口開閉レバーを**"開"**方向に操作して，1番横スクリュ下部にある掃除口の開閉カバーを開いてください。閉じるときは，必ず開閉レバーをフックしてください。

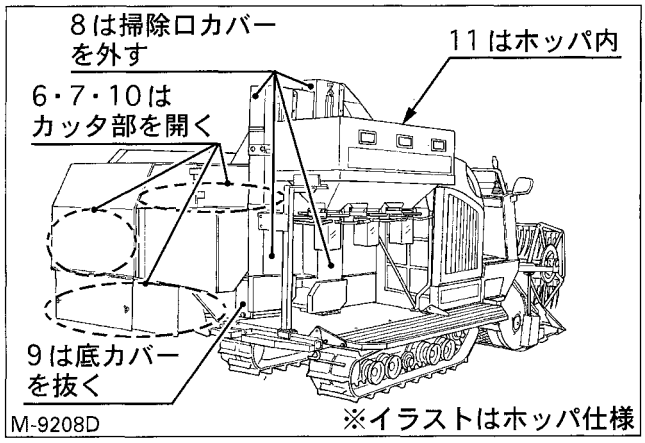


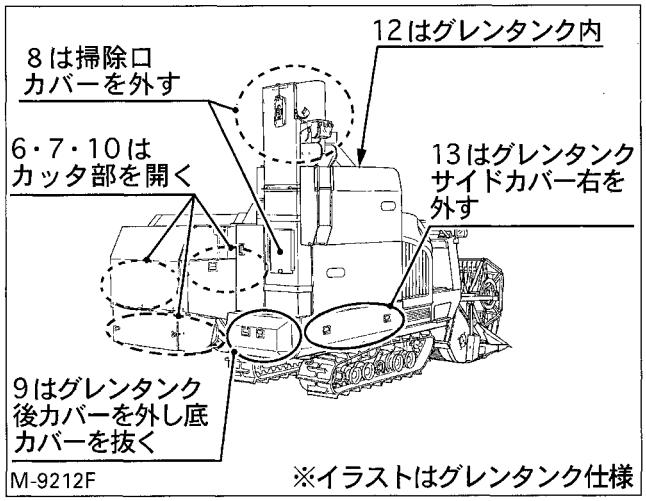
重 要

＊掃除口開閉レバーを使用しないときは，閉位置にフックしておいてください。走行中に掃除口開閉カバーが開いて破損するおそれがあります。

補 足

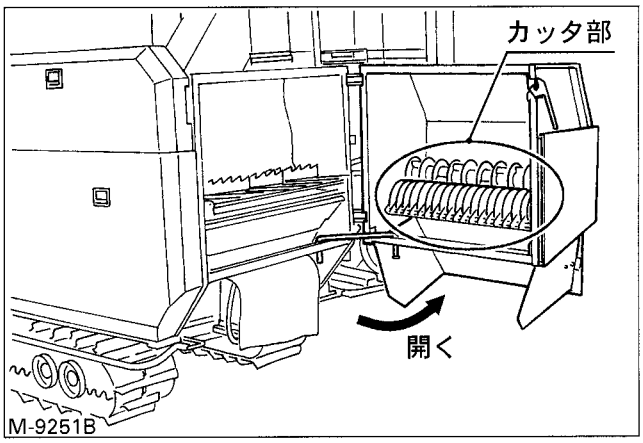
＊クローラに付着している泥は取除いてください。掃除口開閉カバーに接触し，開閉しなくなります。





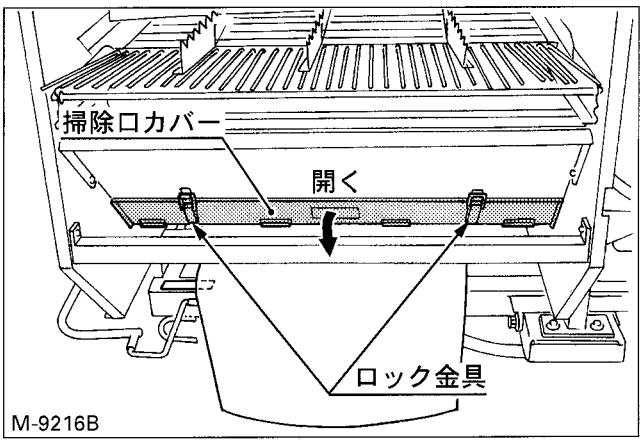
6.カッタ部

カッタ部を開きます。(**カッタオープン**の項参照)



7.2番横スクリュ下部掃除口

2番横スクリュ下部にある掃除口カバーのロック金具2箇所を外して，掃除口カバーを開いてください。

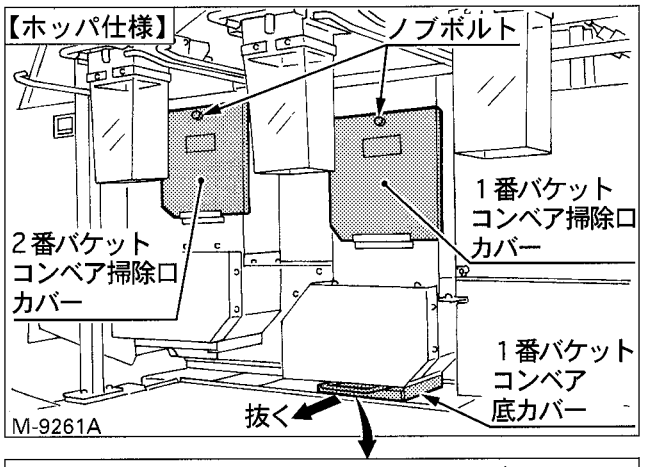


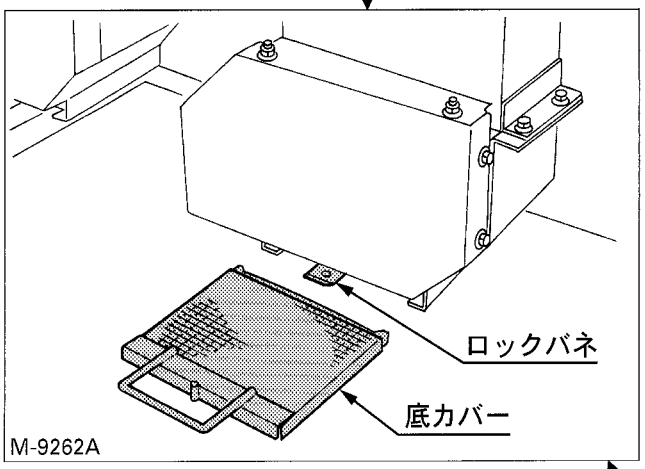
8.1番・2番バケットコンベア掃除口

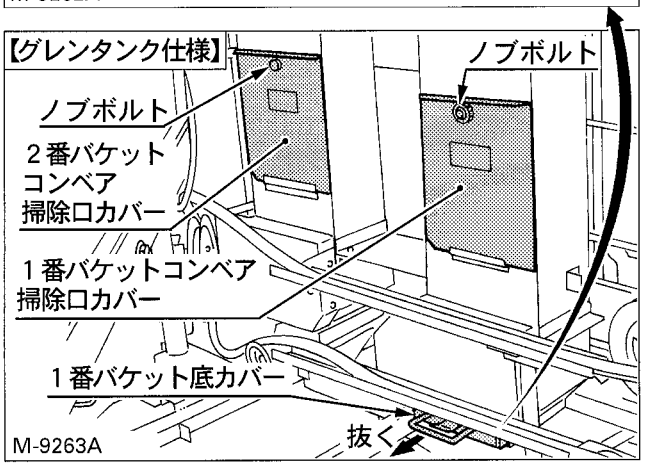
排出バケットコンベア掃除口【グレンタンク仕様】

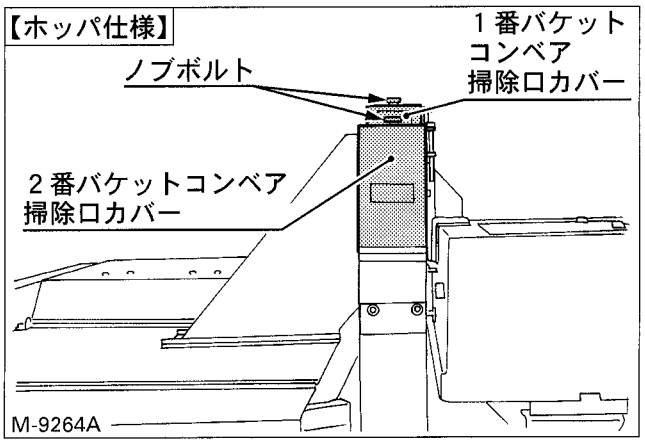
9.排出バケットコンベア掃除口【グレンタンク仕様】

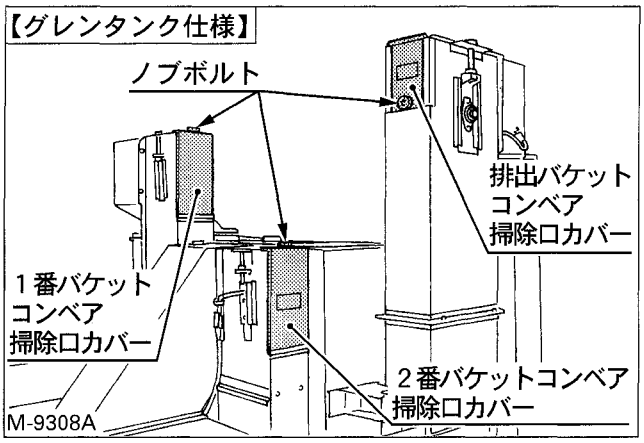
各掃除口カバーは，ノブボルトを取外したあと，カバーを少し上げて取外します。また，1番・2番・排出各バケットコンベアの底カバーは，ロックバネを上げて抜く(1番)又は，ノブボルトを取外したあと，抜いて(2番・排出)ください。





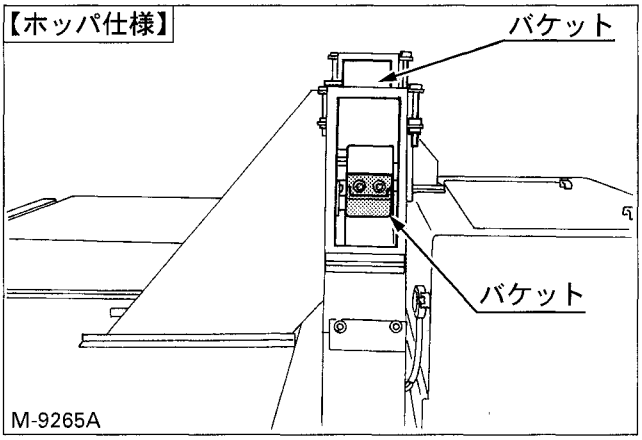


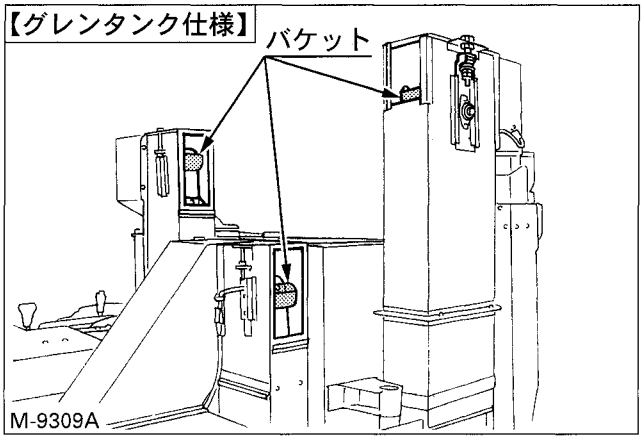


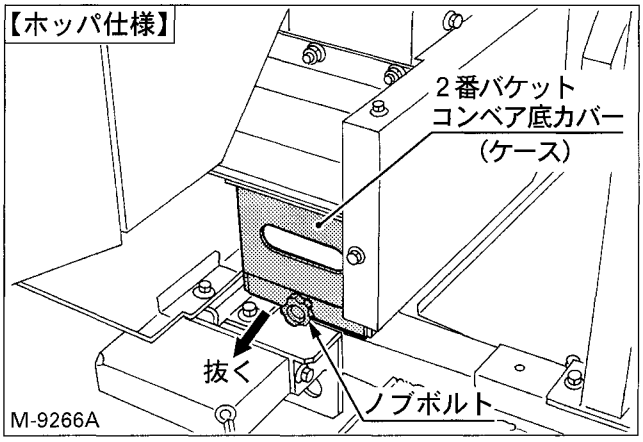


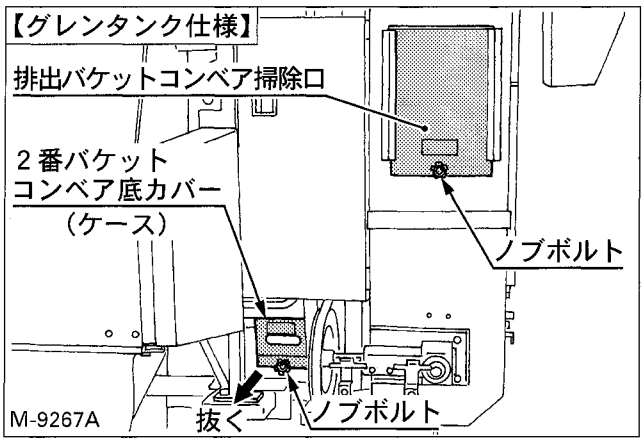
補　足

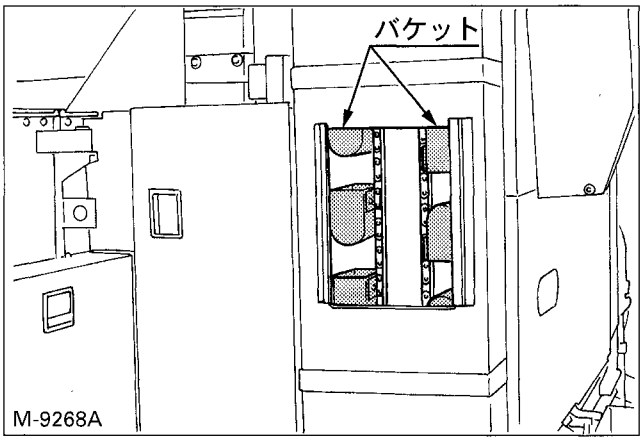
＊バケットの汚れを布などで拭き取ってください。

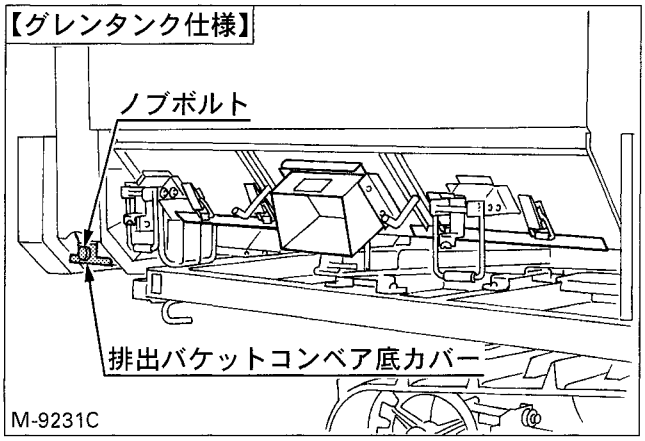






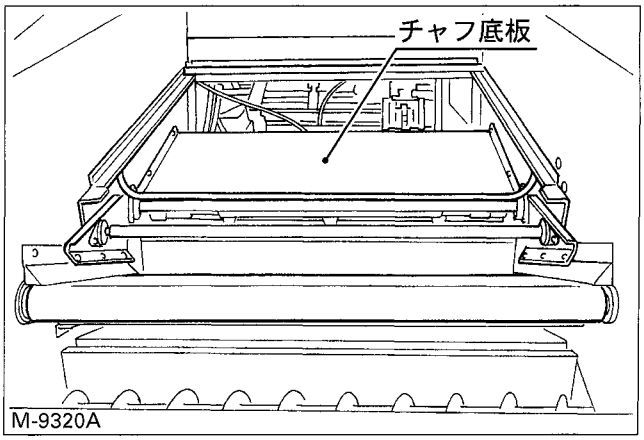






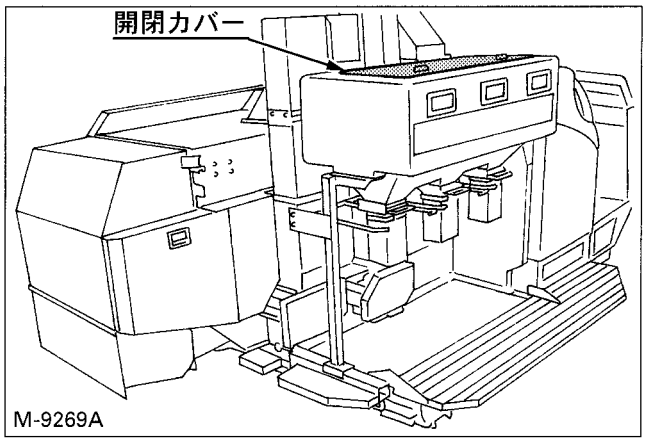
10.脱こく部内

シーブケースを取外し(**シーブケース脱着**の項参照)チャフ底板や周辺を掃除してください。



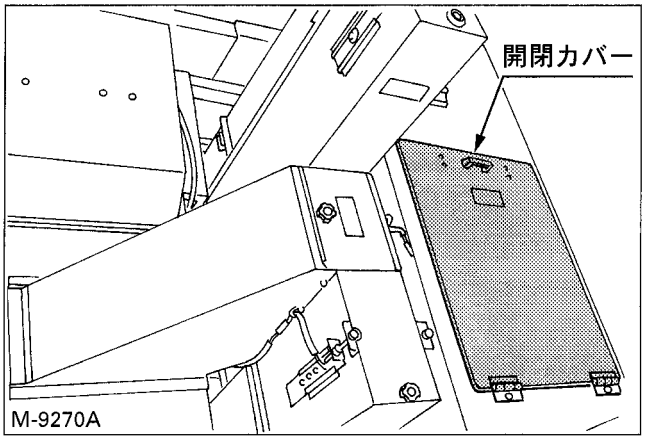
11.ホッパ内【ホッパ仕様】

開閉カバーを開いてください。



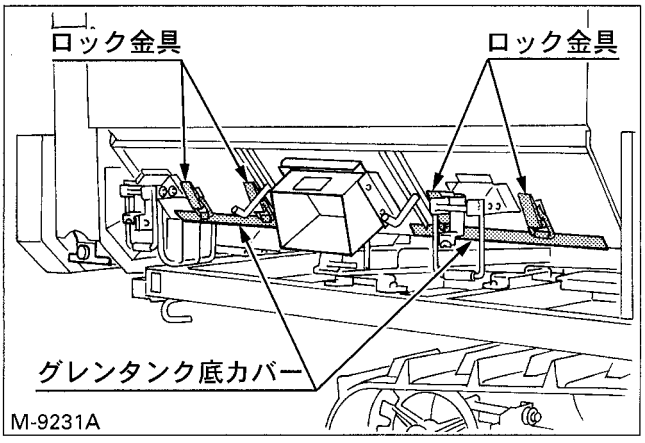
12.グレンタンク内【グレンタンク仕様】

開閉カバーを開いてください。



13.グレンタンク下部掃除口【グレンタンク仕様】

ロック金具を外してグレンタンク底カバーを取外してください。

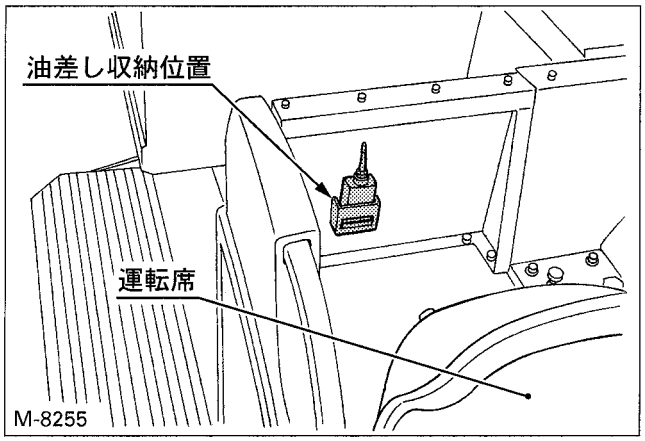


■注油のしかた

機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

●油差し収納位置

運転席後部の下図の位置に収納してください。



重　要

＊指定のオイル以外は使用しないでください。また，廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると，ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

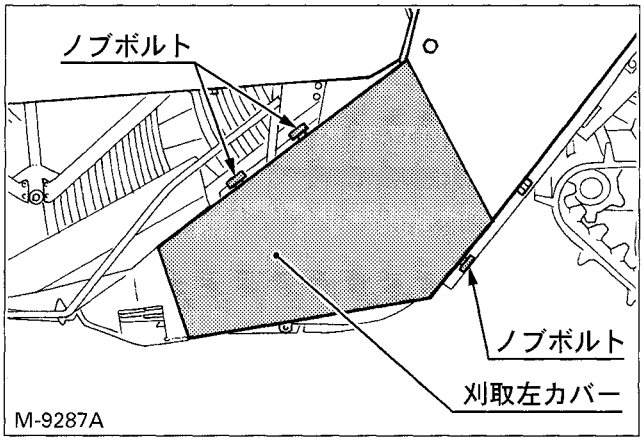
オイルの種類
クボタ純オイル　D10W30又は，D30

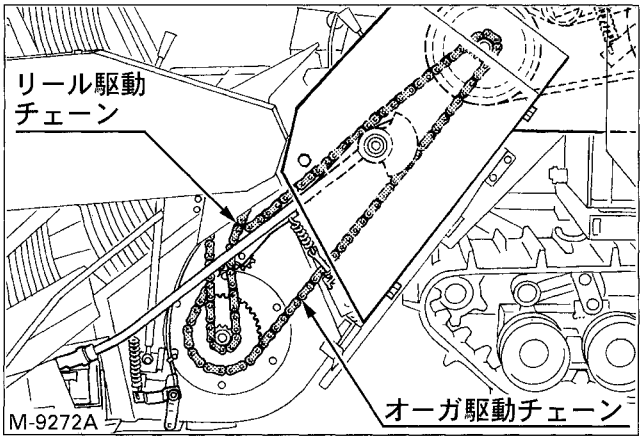
●注油のしかた

平坦な場所に刈取部を接地させたあと，駐車ブレーキを掛けます。

●オーガチェーン・リールチェーン(注油)

ノブボルト3本を取外して刈取左カバーを外してください。



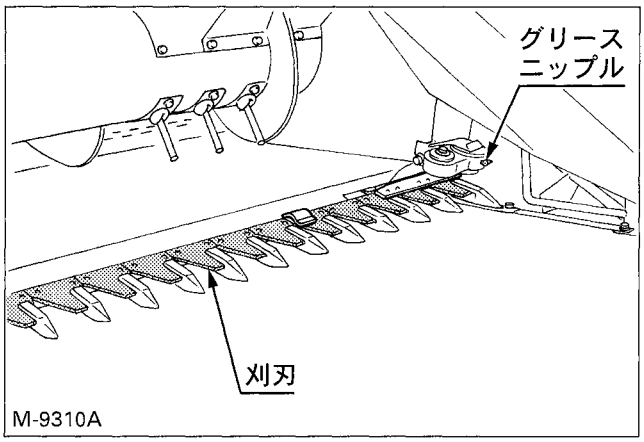


●刈刃(注油・グリース注入)

リールを上げてリールロックスイッチをロックし，下降防止をしてください。

❶刈刃全体に注油します。

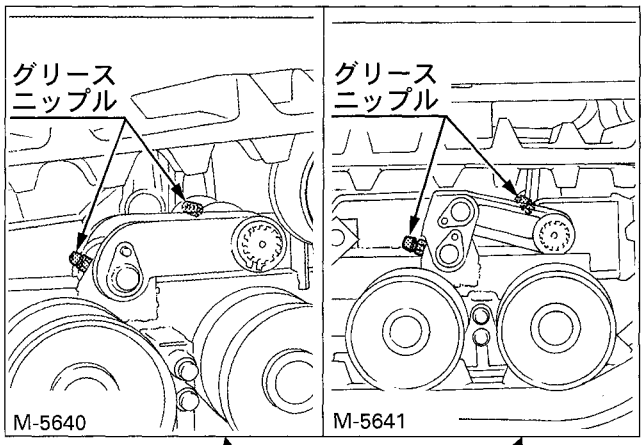
❷グリースニップルからグリースを注入します。

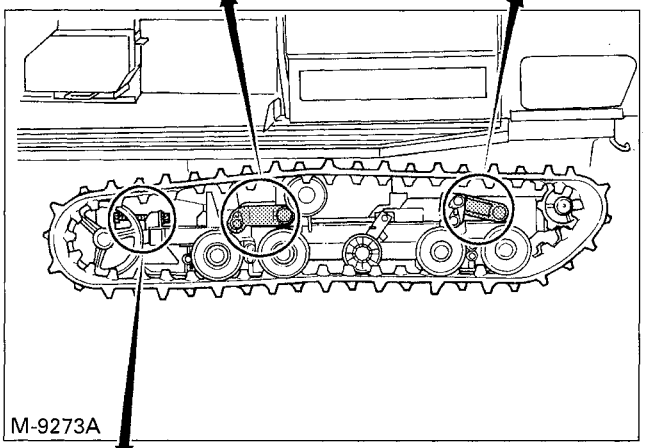


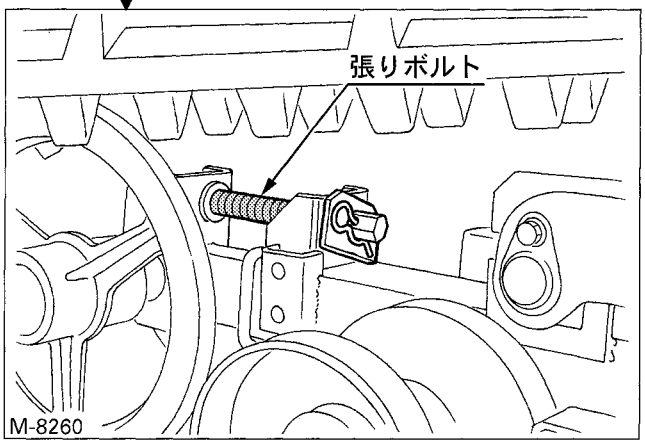
●クローラ(グリース塗布・注入)

❶転輪アームの左，右8箇所のグリースニップルにグリースを注入します。

❷クローラ張りボルトにグリースを塗布します。







定期点検

定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。
コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警　告

＊各部の調整・点検・交換を行なうときは，エンジンを必ず停止させ，各レバー類を“切”位置にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降してください。もし刈取部やリールを上げた状態で作業するときは，刈取下降ロック金具やリールロックスイッチで下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊エンジンルームオープンをするときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊オイル交換中は火気厳禁。
＊刈刃やカッタの点検・掃除時は刃部に注意してください。
＊機械は平たんで，回りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

補　足

＊専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先にご相談ください。
＊点検・交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早目の点検をお願いします。

■オイル・フィルタ類の交換とチェーン・ベルト・クローラの張り調整

＊新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，オイル・フィルタ類は初期50時間で交換してください。
＊チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。初期20又は，50時間で張り調整をしてください。
（交換したときも同様です。）

■使用済廃棄物の処分について

廃油や冷却水などの廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。
機械から廃油を抜く場合は，容器に受けてください。
地面へのたれ流しや川，沼への廃棄は絶対にしないでください。
廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。

- 電気系統（自動制御関係）
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 電気部品と電気系統
- カッタ刃の交換

■定期点検一覧表

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)　　●：ならし運転後の点検と調整

△：交換　　▲：ならし運転後の交換

	点検箇所・項目	時間 点検	時間 交換	点検・交換時期 アワメータ表示時間(時間) 20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	それ以降 点検	それ以降 交換	2年ごと	参照ページ
エンジン部	ファン駆動ベルト	調整	交換		●		○		△	●		○		△	●		50又は，100時間ごと	250時間ごと		80 ☆
エンジン部	エアクリーナエレメント	掃除	交換		○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	50時間ごと	300時間ごと		73
エンジン部	インレットパイプ(エアクリーナ)	締付け	交換	(点検・整備が6回目のときに交換)			○			△			○			△	注 1	注 2	△	74 ☆
エンジン部	フューエルフィルタアッシ	－	交換	(注1：使用時間が150時間又は，6カ月ごとの早い方で点検) (注2：使用時間が300時間又は，2年ごとの早い方で交換)				△				△				△	－	200時間ごと		76 ☆
エンジン部	フューエルフィルタカートリッジ	－	交換									△					－	400時間ごと		76 ☆
エンジン部	オイルフィルタカートリッジ	－	交換		▲			△				△				△	－	200時間ごと		76 ☆
エンジン部	フユーエルパイプ	締付け	交換	(エンジンオイル交換が2回目のときに交換)			○			△			○			△	注 3	注 4	△	74 ☆
エンジン部	燃料こしあみ	掃除	－	(注3：使用時間が150時間又は，6カ月ごとの早い方で点検) (注4：使用時間が300時間又は，2年ごとの早い方で交換)		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	－		－
エンジン部	オイルドレーンゴムホース	締付け	交換				○			△			○			△	注 5	注 6	△	74 ☆
エンジン部	ラジエータホース	締付け	交換	(注5：使用時間が150時間又は，6カ月ごとの早い方で点検) (注6：使用時間が300時間又は，2年ごとの早い方で交換)			○			△			○			△	注 7	注 8	△	74 ☆
エンジン部	防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィン	掃除	－	(注7：使用時間が150時間又は，6カ月ごとの早い方で点検) (注8：使用時間が300時間又は，2年ごとの早い方で交換)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	－		75
走行・操作部	走行(ミッション)駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△ ● (320)		○		○		△ ● (620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		80 ☆
走行・操作部	(駐車)ブレーキワイヤ	調整	交換			○		○		○		○		△		○	100時間ごと	500時間ごと		78 ☆
走行・操作部	クラッチワイヤ	調整	交換			○		○		○		○		△		○	100時間ごと	500時間ごと		78 ☆
走行・操作部	パワーステアリングレバー切換えワイヤ	調整	交換			○		○		○		○		△		○	100時間ごと	500時間ごと		78 ☆
走行・操作部	パワーステアリングレバーリリーフワイヤ	調整	交換			○		○		○		○		△		○	100時間ごと	500時間ごと		78 ☆
走行・操作部	クローラ	調整	交換		●		○		○		○		○	△	●		50又は，100時間ごと	500時間ごと		104 ☆
走行・操作部	HSTオイルフィルタカートリッジ	－	交換		▲					△						△	－	300時間ごと		77 ☆
走行・操作部	油圧タンクオイルフィルタ	－	交換		▲					△						△	－	300時間ごと		77 ☆
走行・操作部	車軸・転輪・後輪各シール	－	交換											△			－	500時間ごと		☆
走行・操作部	キャリアローラシール	－	交換											△			－	500時間ごと		☆
刈取部	刈取クラッチベルト	調整	交換	●		○		○		△ ● (320)		○		○		△ ● (620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		81 ☆
刈取部	カウンタ駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△ ● (320)		○		○		△ ● (620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		83 ☆
刈取部	刈刃駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△ ● (320)		○		○		△ ● (620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		84 ☆
刈取部	リール駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△ ● (320)		○		○		△ ● (620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		84 ☆
刈取部	フィーダ駆動チェーン	調整	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，100時間ごと	300時間ごと		87 ☆

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場でおこなってください。

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)　　●：ならし運転後の点検と調整

△：交換　　▲：ならし運転後の交換

	点検箇所・項目	時間 点検	時間 交換	点検・交換時期 アワメータ表示時間(時間) 20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	それ以降 点検	それ以降 交換	2年ごと	参照ページ
刈取部	刈取駆動チェーン	調整	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，100時間ごと	300時間ごと		87☆
刈取部	オーガ駆動チェーン	調整	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，100時間ごと	300時間ごと		86☆
刈取部	リール駆動チエーン	調整	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，100時間ごと	300時間ごと		86☆
刈取部	ビータ駆動チェーン	—	交換							△						△	—	300時間ごと		87☆
刈取部	フィーダチェーン	調整	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，100時間ごと	300時間ごと		88☆
刈取部	フィンガガイド	—	交換						△					△			—	250時間ごと		☆
刈取部	刈刃	調整	交換			○		○		△		○		○		△	100時間ごと	300時間ごと		96☆
刈取部	刈刃アーム・リンクボール取付ボルト,ナットの点検	増締め	—			○		○		○		○		○		○	100時間ごと	—		☆
脱こく部	脱こくクラッチベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		81☆
脱こく部	脱こくカウンタ駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		81☆
脱こく部	供給ロール駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		82☆
脱こく部	処理部カウンタ駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ご	300時間ごと		82☆
脱こく部	脱こくロータ駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		82☆
脱こく部	処理部駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		83☆
脱こく部	選別駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		83☆
脱こく部	供給ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		89☆
脱こく部	選別ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		92☆
脱こく部	供給ベルト駆動チェーン	調整	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，100時間ごと	300時間ごと		88☆
脱こく部	1番・2番バケットコンベアベルト	調整	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，100時間ごと	300時間ごと		94☆
脱こく部	1番・2番バケットカップ	点検	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，100時間ごと	300時間ごと		94☆
脱こく部	各ハンプ・スポンジ	—	交換							△						△	—	300時間ごと		☆
グレンタンク部	グレンタンク駆動ベルト(こく粒排出クラッチベルト)	調整	交換	●		○		○		○		△●(320)		○		○	20又は，100時間ごと	400時間ごと		84☆
グレンタンク部	こく粒排出クラッチワイヤ	点検	交換		●	○		○		○		○		△	●	○	50又は，100時間ごと	500時間ごと		78☆
グレンタンク部	排出バケットコンベアチェーン	点検	交換		●		○		○		○		○		○	○	100時間ごと	750時間ごと		95☆
グレンタンク部	排出バケット	点検	交換							○					△		500時間ごと	500時間ごと		95☆
カッタ部	カッタ駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		82☆
カッタ部	カッタ刃	調整	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，100時間ごと	300時間ごと		90☆
カッタ部	供給軸と切断軸のナット増締め	調整	—		●					○						○	50又は，300時間ごと	—		97

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場でおこなってください。

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)　　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　　▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目		時間 点検	時間 交換	点検・交換時期 アワメータ表示時間(時間) 20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	それ以降 点検	それ以降 交換	2年ごと	参照ページ
キャビン	コンプレッサ駆動ベルト	調整	交換	(注9：作業シーズン前又は，後に調整)													注9	—	△	☆
	冷媒ガス	点検	—	(注10：作業シーズン前又は，後に点検)													注10	—		101
	コンデンサ防じんあみ	掃除	—		○		○		○		○		○		○		50時間ごと	—		75
電装部	ワイヤハーネス・バッテリコード	点検	—	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	—	△	98,103☆
	ヒューズ・スローブローヒューズ	点検	—			○		○		○		○		○		○	100時間ごと	—	△	103
	ランプ(電球)	点検	—			○		○		○		○		○		○	100時間ごと	—	△	103
	ホーンスイッチ	点検	—			○		○		○		○		○		○	100時間ごと	—	△	103
	バッテリ	充電	—	(注11：セルモータが回りにくいとき充電)													注11	—		98
	コード	点検	交換	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	注12		98
	ワイヤハーネス			(注12：破損しているとき交換)																103

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場でおこなってください。

■給・注油(水)点検一覧表

種類	点検箇所		処置	点検・交換時期(アワメータ表示時間) 点検	交換	容量・規定量(L)	種類	参照ページ
燃料	燃料タンク		給油	作業前又は，作業後	—	●容量……28	ディーゼル軽油	70
オイル	エンジン		補給・交換		●初回…50時間目 ●2回目以降…100時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限**と**上限**の間……3.5～5.1	クボタ純オイル D30又は，D10W30	70,71
					—	—		—
	トランスミッションケース		補給・交換	100時間ごと	●初回…50時間目 ●2回目以降…200時間ごと	＊規定量 検油口からオイルがにじむまで……6.8	クボタ純オイル スーパーUDT	71
	油圧オイルタンク		補給		●初回…50時間目 ●2回目以降…300時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限**と**上限**の間……11.3～12.5		72
水・液	冷却水（リザーブタンク）		補水	作業前又は，作業後	冬期停止時は排出又は，不凍液を入れる	＊規定量 タンク測面の**L**(下限)と**F**(上限)の間	清水又は，クボタ不凍液	72
グリース	走行・操作部	車体水平制御アーム軸受部	補給	作業シーズン前，後	—	適量	クボタ スペアグリース	☆
	脱こく部	カウンタギヤケース	補給	分解時				
		1番バケットコンベアギヤ	塗布	作業シーズン前，後				
		2番バケットコンベアギヤ						
	カッタ	カッタギヤ						

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場で行なってください。

重要

各部への補給と交換

＊点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

＊使用するオイル・グリースは，指定の**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。

＊補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

■燃料・オイル・グリースの点検・補給・交換

注 意

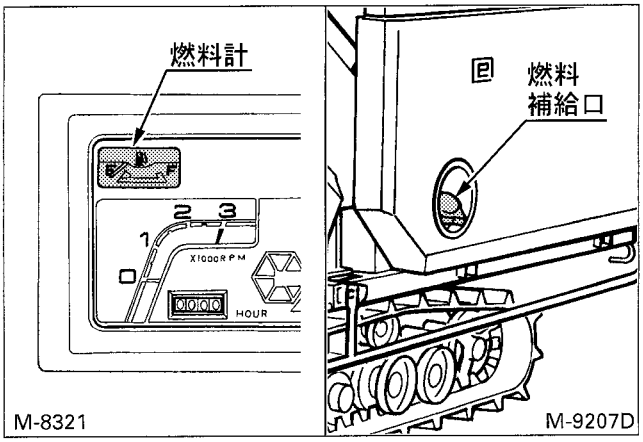
＊燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。

重 要

＊補給・交換を行なうときは，機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
● 廃油は使用しないでください。
● 給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
● 使用するオイル・グリースは**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。
＊点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

1.燃料

燃料計の指針が**"E"**(空)に近づいたら早めに燃料を補給してください。



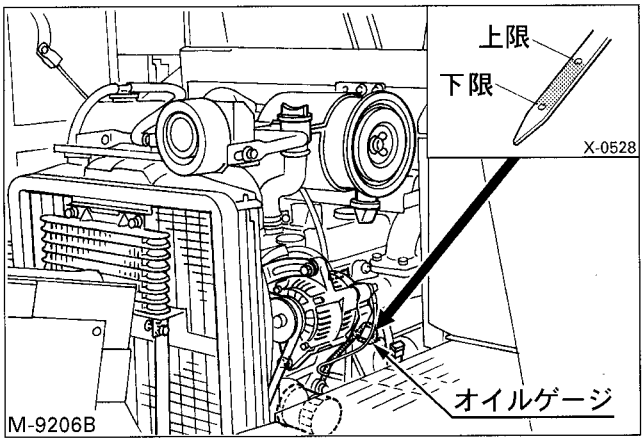
重 要

＊給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

2. エンジンオイル

◆点検・補給

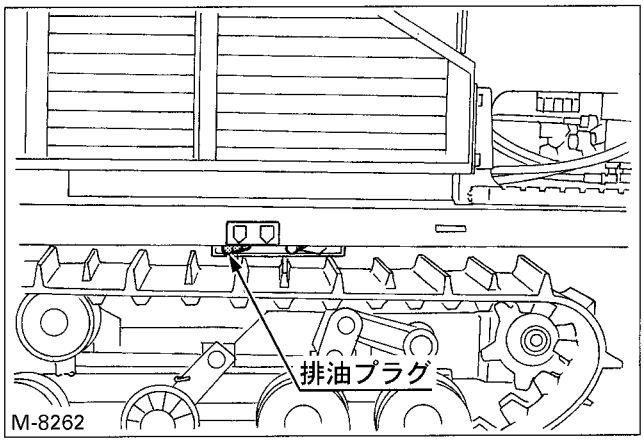
オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



◆交換

● 排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。



●給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けてください。

重　要

＊指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。また，気温によりオイルを選んでください。

気温	オイルの種類	規定オイル容量
15℃以下のとき	クボタ純オイルディーゼルエンジン用 D10W-30	●上限線…約5.1 L ●下限線…約3.5 L
15℃以上のとき	クボタ純オイルディーゼルエンジン用 D30又はD10W-30	

＊クボタ純オイルの入手が困難な場合は，CC級以上のオイルをお使いください。
この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気温	オイルの種類
0℃以下	SAE10W又は10W-30
0～25℃	SAE20又は10W-30
25℃以上	SAE30又は10W-30

※10W-30はオールシーズン用です。

補　足

＊付属部品のじょうごを使用して給油してください。

3. トランスミッションケースオイル

警　告

＊排油するときは，刈取部を上げ，刈取下降ロック金具を上げて，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

◆点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

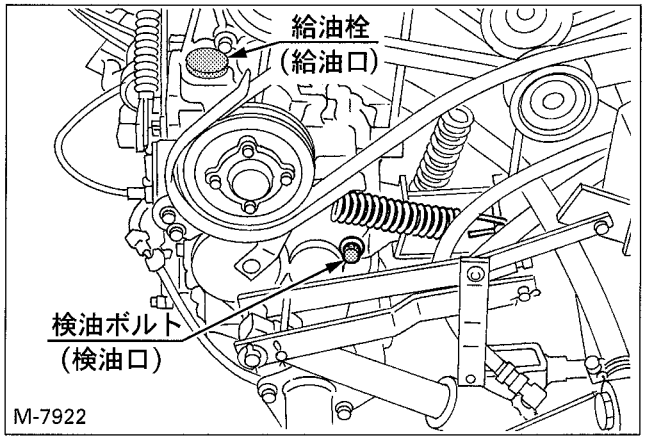
◆交換

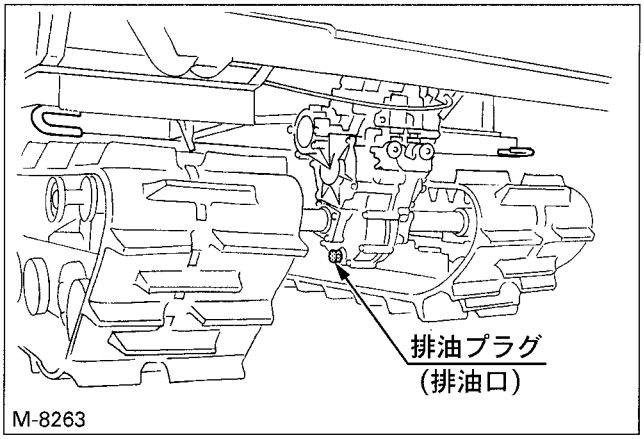
●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓と検油ボルトを締付けてください。





オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルスーパーUDT	7L

重　要

＊給油したあとエンジンを約1分回転させて，再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは，オイルを追加補給してください。

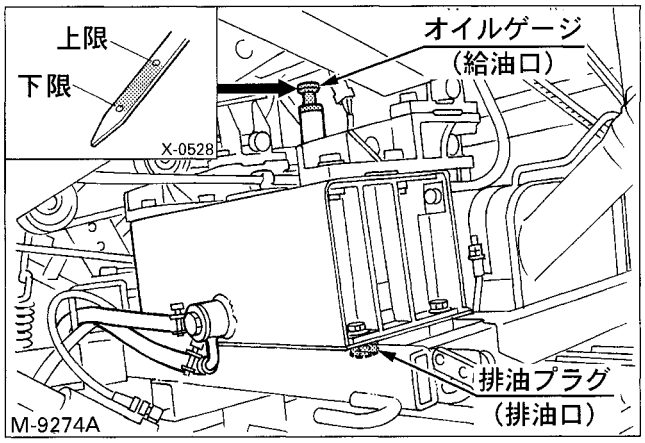
補　足

＊付属部品のじょうごを使用して給油してください。

4. 油圧オイルタンクオイル

◆点検・補給

オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，オイルゲージを差込んでください。

オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルスーパーUDT	●上限線…約12.5 L ●下限線…約11.3 L

重　要

＊エンジン始動後，エンジン回転数を約1500rpmに合わせて1分間以上は負荷をかけずに運転を行なってください。

補　足

＊付属部品のじょうごを使用して給油してください。

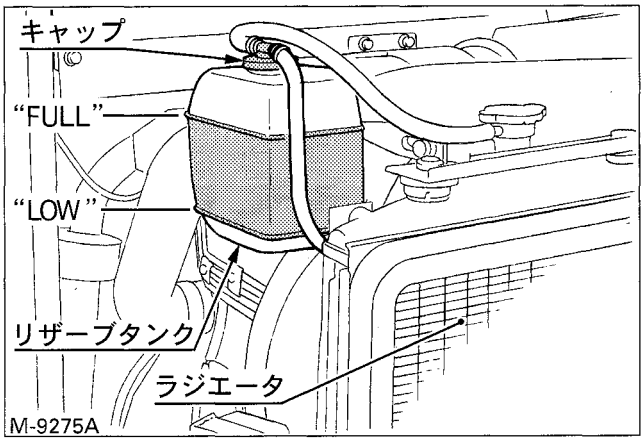
■ラジエータ冷却水の点検・交換

注　意

＊ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。

◆点検

エンジンルームをオープンしたあとリザーブタンクの水量が**“LOW”**（下限）と**“FULL”**（上限）の間にあるか確かめます。**“LOW”**（下限）の線より下にあるときは，リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。



補　足

＊**“FULL”**（上限）の線(約0.6 L）以上は補給しないでください。

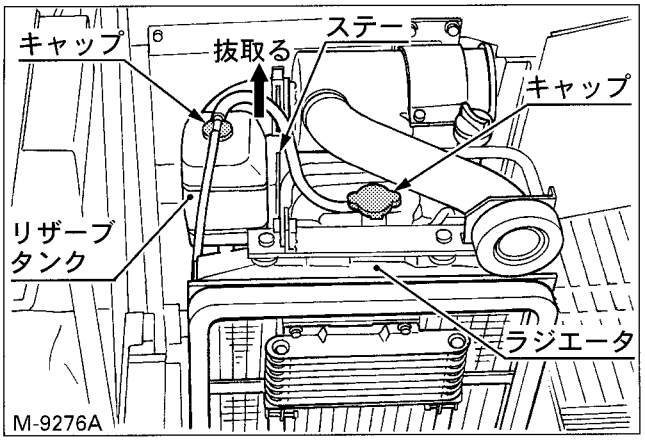
◆交換

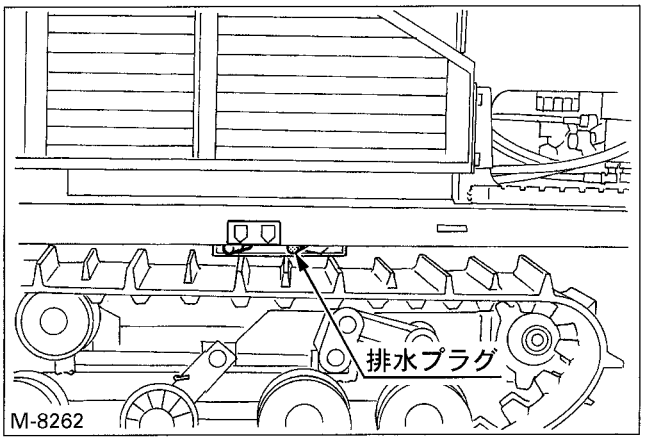
❶ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと，ラジエータキャップを外して排水します。

❷リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ(吸引パイプ付)を取外したあと，ステーからリザーブタンクを外して排水します。

❸水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。

❹排水プラグを締付けたあと，ラジエータ及びリザーブタンクに不凍液と清水を混合した液を入れます。





ラジエータ容量（L）
3.7

❺ラジエータキャップ及びリザーブタンク，キャップを取付けます。

補　足

＊不凍液の混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先の人に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はロングライフクーラントをご使用ください。

●不凍液混合比率表

外気温度（℃）		-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40
比率	水（%）	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	25	30	35	40	45	50	55

※出荷標準　不凍液50%

※新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，５分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

■エアクリーナの点検・掃除・交換

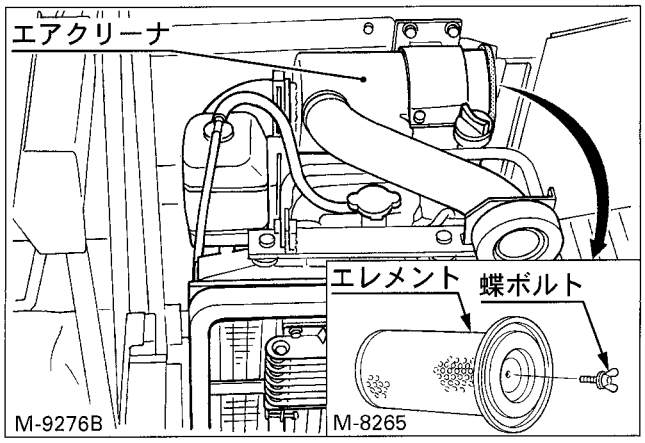
重　要

＊高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。

＊エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。

◆点検

蝶ボルトを取外してエアクリーナのエレメントを抜きます。



◆掃除

エレメントの掃除は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や300時間経過しているときは，交換してください。

補　足

＊エアの圧力は0.69Mpa(7.0kgf/㎠)をこえないよう注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。

＊カーボンや油分が付着しているときは，クボタ指定の純正エレメント洗浄剤で洗浄してください。

【参考】

＊エレメント洗浄剤
ND-1500(品番：15221-8665-1)

■パイプ・ホース類の点検・交換

注 意

＊運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し，ヤケドをするおそれがあります。

＊燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆点検

エンジン，エアクリーナ，ラジエータ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重 要

＊オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付を起します。

＊油もれや水もれをしていなくても，**2年経過しているときや劣化の激しい場合**は交換してください。

◆交換

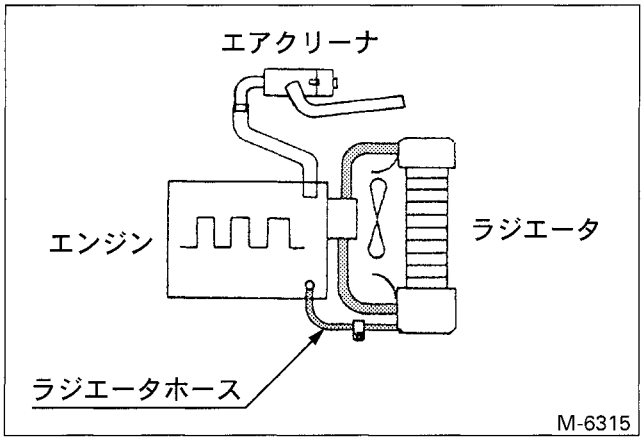
交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ，締付不足がないよう取付けてください。

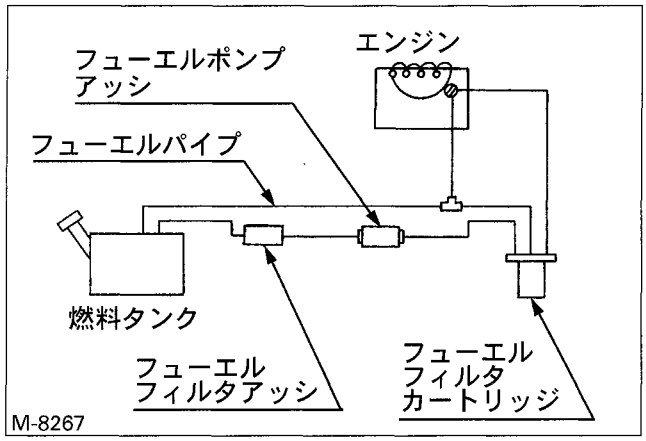
重 要

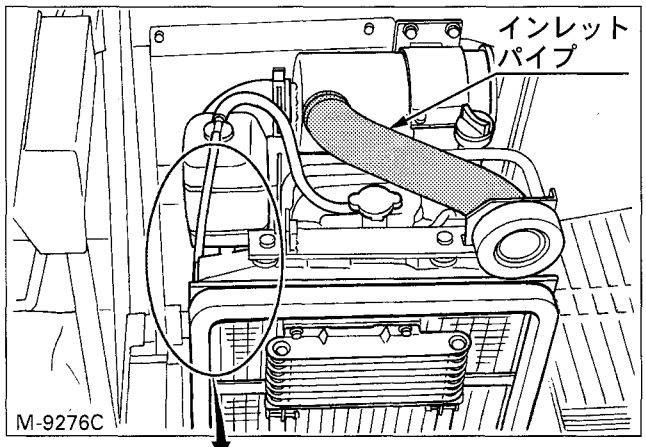
＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。

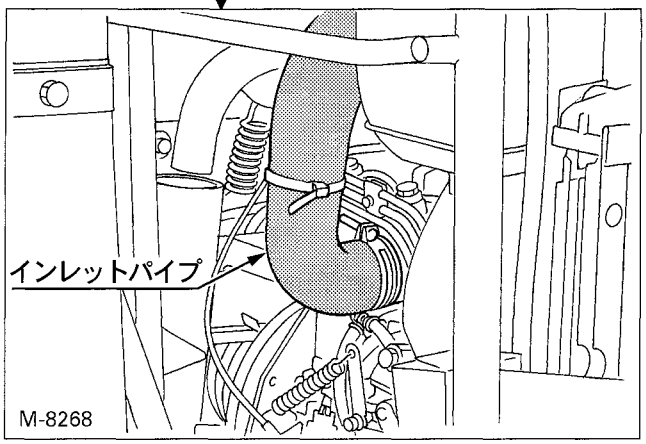
補 足

＊フューエルパイプ交換後は，スイッチキーを**“入”**位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。
（**フューエルフィルタアッシの交換**の項参照）





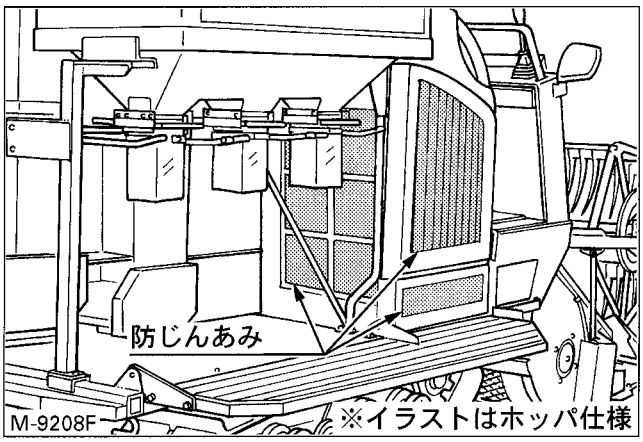


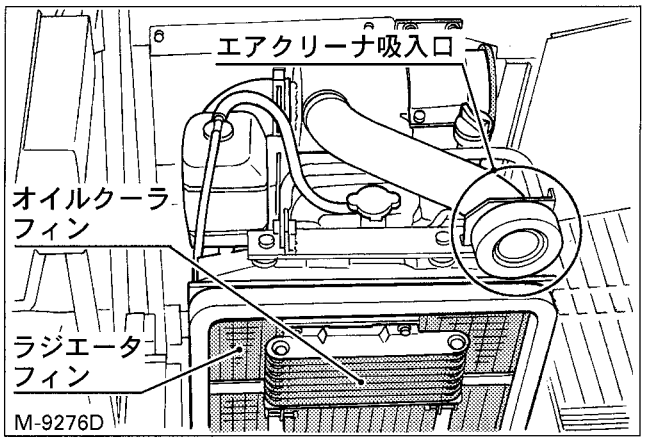


■防じんあみ，ラジエータフィンの掃除
■オイルクーラフィンの掃除

◆掃除

エンジンルームをオープンしたあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。





重　要

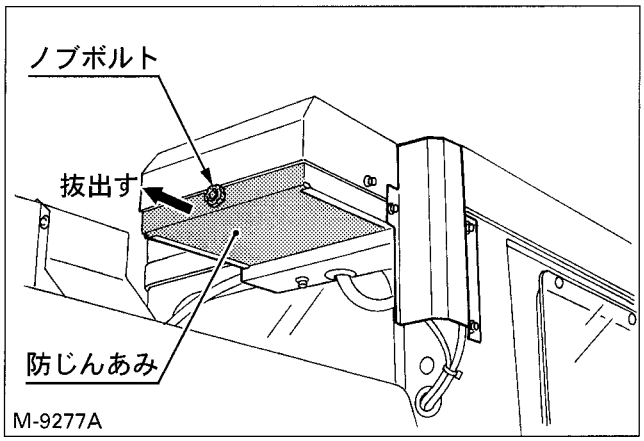
＊ヘラやドライバなど固いものを使用して，ラジエータフィンやオイルクーラは掃除しないでください。特殊フィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

＊エアクリーナの吸入口から水が入ると，エンジンの不調又は，故障の原因となりますので，水が入らないように吸入口を水を通さない物で覆ってください。

■コンデンサ防じんあみの掃除
【キャビン仕様】

◆掃除

ノブボルトを取外し，防じんあみを引出して取外したあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみに付着しているゴミなどを取除いてください。



■フューエルフィルタカートリッジ・フューエルフィルタアッシの交換

重　要

＊燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなります。また燃料噴射ポンプや噴射ノズルが摩耗し，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊交換後は，スイッチキーを**"入"**位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

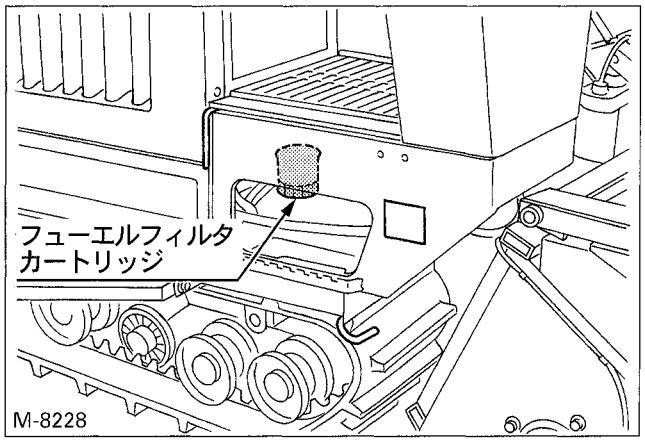
◆フューエルフィルタカートリッジの交換

❶専用工具を使ってカートリッジを取外します。

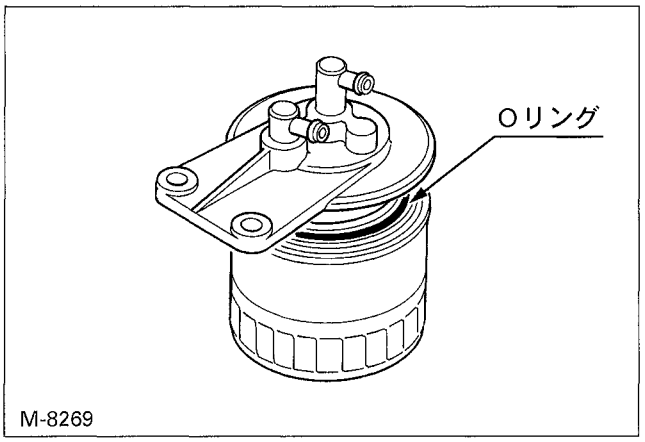
補　足

＊取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

❷新しいカートリッジはOリングに燃料を薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。



M-8228



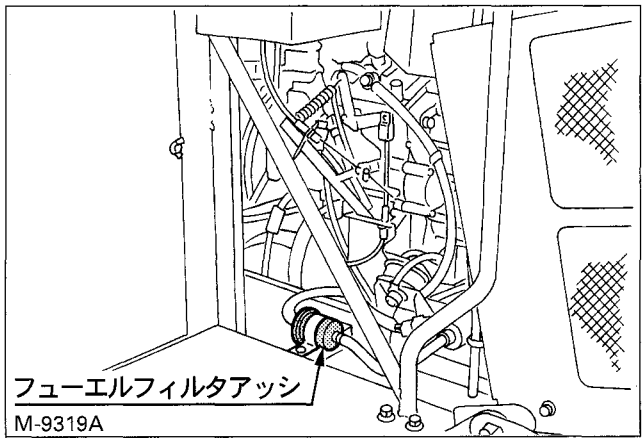
M-8269

重　要

＊Oリングは傷つけないようにしてください。また，溝にきちんと入れて組付けてください。

◆フューエルフィルタアッシの交換

エンジンルームをオープンしてフューエルフィルタアッシを交換してください。



M-9319A

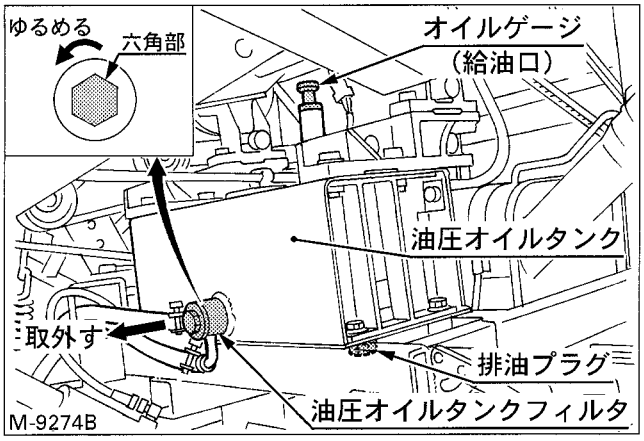
■HSTオイルフィルタカートリッジ・油圧オイルタンクフィルタの交換

フィルタカートリッジとタンクフィルタは同時に交換を行なってください。

◆交換

❶オイルゲージを外してから，油圧オイルタンクの排油プラグを外し，オイルを排出します。

❷タンクフィルタの六角部をゆるめたあとタンクフィルタを取外します。



❸新しいタンクフィルタを取付けます。

❹排油プラグを締付けます。

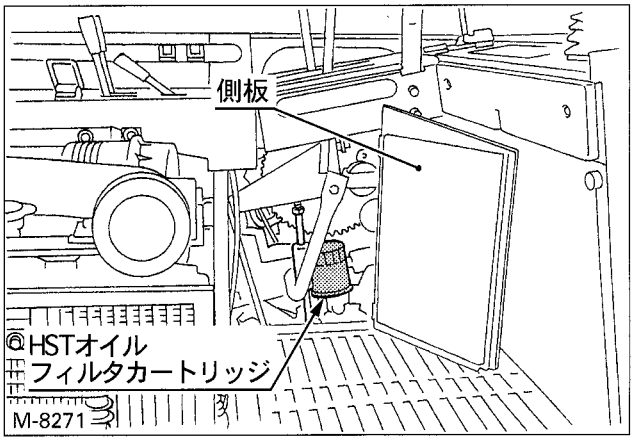
❺エンジンルームをオープンしたあと，ステップ左側の側板を開きます。

❻専用工具を使ってフィルタカートリッジを取外します。

補　足

*取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

❼新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。



❽**油圧オイルタンクオイルの点検・補給**の項を参照し，オイルを規定量給油します。

重　要

＊給油したあとエンジンを約1分間以上負荷をかけずに回転させて，オイルゲージで点検を行ない，下限より少ないときは，オイルを追加補給してください。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

２回目のエンジンオイルの交換(**エンジンオイルの交換**の項参照)と同時に交換してください。交換するときは，エンジンルームをオープンしてください。

◆交換

❶専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

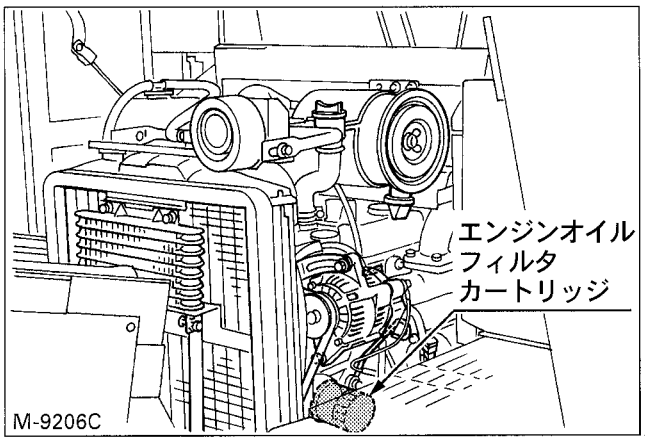
＊取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

❷新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

❸オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，５分程度エンジンを運転して各部及び油圧(オイルランプ)に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。

補　足

＊オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。



重　要

＊エンジンオイルを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

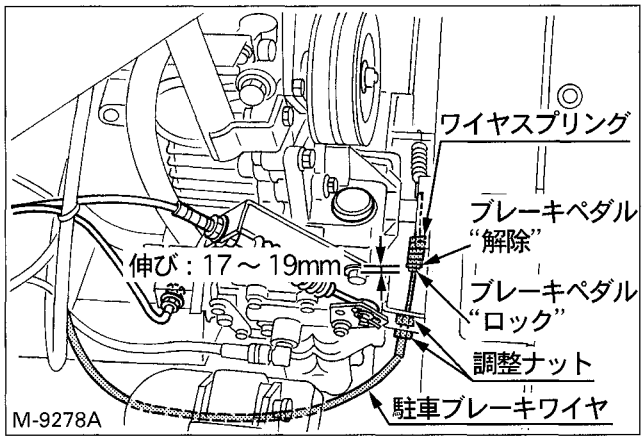
■各部ワイヤの点検・調整

注 意

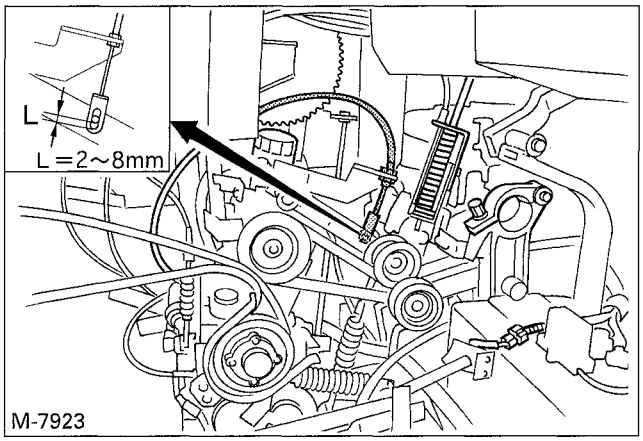
＊点検・調整時は，刈取クラッチを“切”にしてください。

◆駐車ブレーキワイヤ・クラッチワイヤ

(1)駐車ブレーキワイヤの調整は，ブレーキペダルをロックした状態で，ワイヤスプリングの伸びが17～19mmとなるように調整ナットで調整してください。

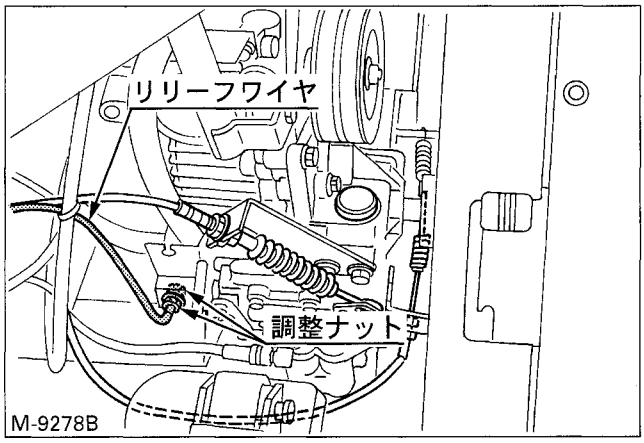


(2)クラッチワイヤの調整は，ペダルを作動させないでインナワイヤの遊びが1mm以下で下図のＬ＝2～8mmになるようにアウタワイヤ取付け部を調整してください。

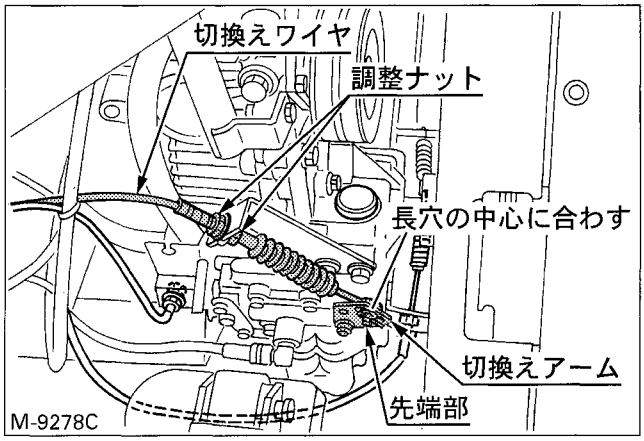


◆リリーフワイヤ，切換えワイヤの調整

(1)リリーフワイヤの遊びは，4.5～6.5mmとなるように調整ナットで調整してください。



(2)切換えワイヤの先端は，切換えアームの長穴の中心になるように調整ナットで調整してください。



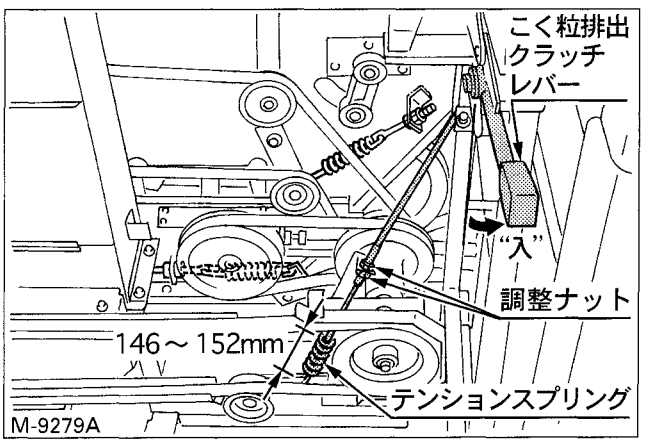
◆こく粒排出クラッチワイヤ【グレンタンク仕様】

こく粒排出クラッチレバーが**“入”**位置の状態で，テンションスプリングの長さを146～152mmに調整します。

❶グレンタンクをオープンします。
（**グレンタンクオープン**の項参照）

❷こく粒排出クラッチレバーを**“入”**位置にしたあと，調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。

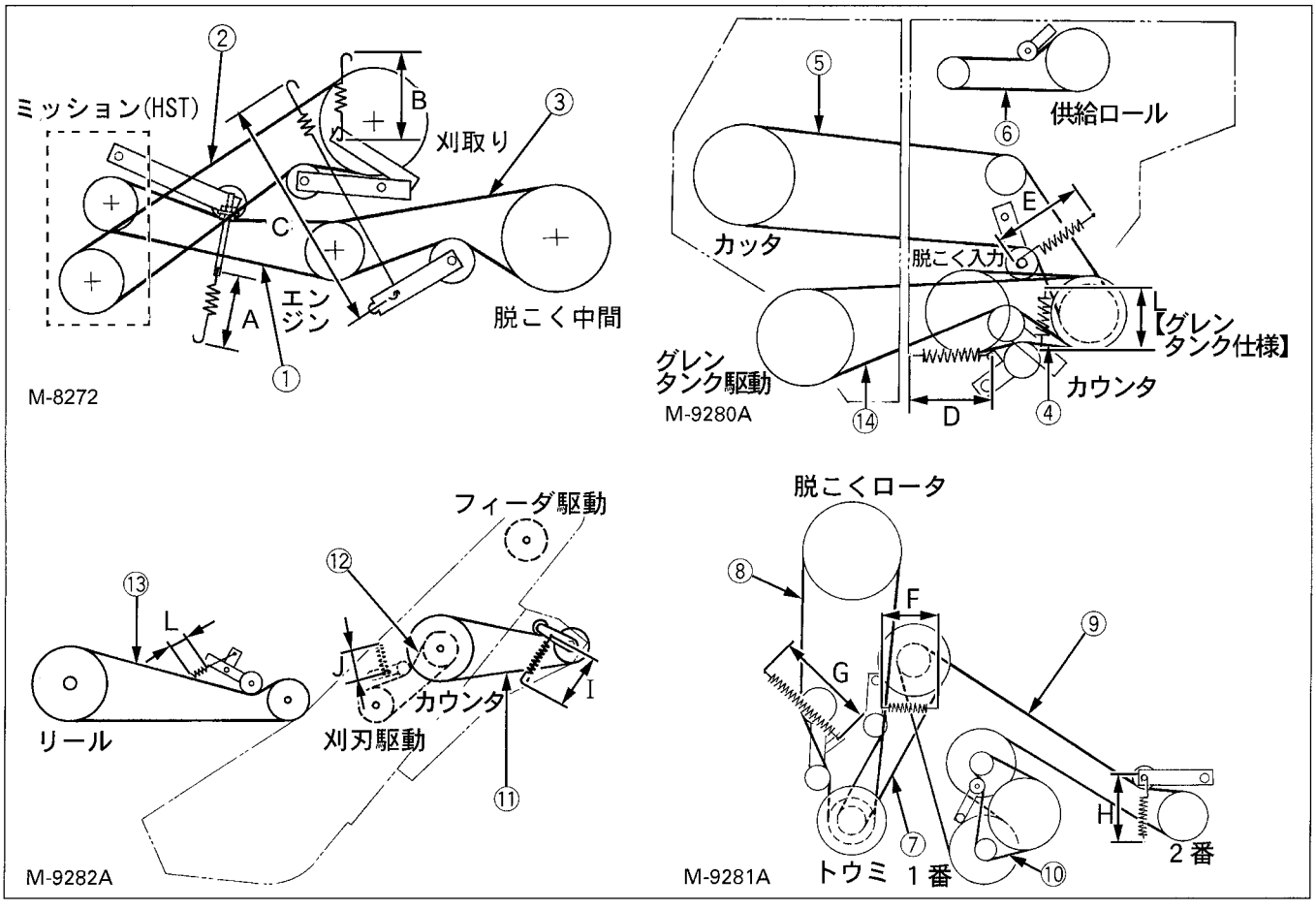
❸調整ナット２個を締付けたあと，グレンタンクを閉じます。



■各部ベルトの点検・調整

下表を参照して，各部ベルトの張り調整を行なってください。

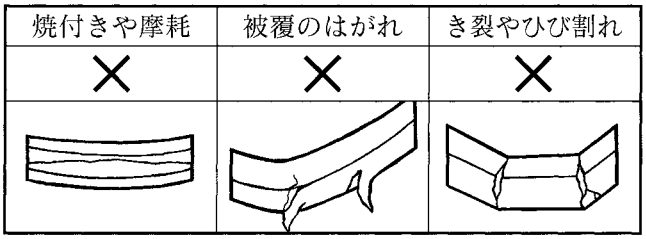
点検箇所	図番	名称	サイズ	本数(本/台)	張り調整		
					テンションスプリング取付け長さ(mm)		たわみ量(mm)
運転席・刈取部周辺	−	ファン駆動ベルト	34.5ブイベルト	1		—	7～9
	①	走行（ミッション）駆動ベルト	特B51.5	2	A	208.5～212.5	—
	②	刈取クラッチベルト	特B75	1	B	146～156	—
	③	脱こくクラッチベルト	特C57	1	C	494～498	—
脱こく部	④	脱こくカウンタベルト	特C37	1	D	146～152	—
	⑤	カッタ駆動ベルト	特B165	1	E	158～162	—
	⑥	供給ロール駆動ベルト	特A31	1		—	10～14
	⑦	処理部カウンタ駆動ベルト	特B50	1	F	147～151	—
	⑧	脱こくロータ駆動ベルト	特C80	1	G	199～201	—
	⑨	処理部駆動ベルト	特B109	1	H	178～182	—
	⑩	選別駆動ベルト	特A33	1		—	12～16
刈取部	⑪	カウンタ駆動ベルト	特B65	1	I	93～97	—
	⑫	刈刃駆動ベルト	特B41	1	J	43～47	—
	⑬	リール駆動ベルト	特B90	1	K	43～47	—
グレンタンク部【G仕様】	⑭	グレンタンク駆動ベルト	特C135	1	L	146～152	—



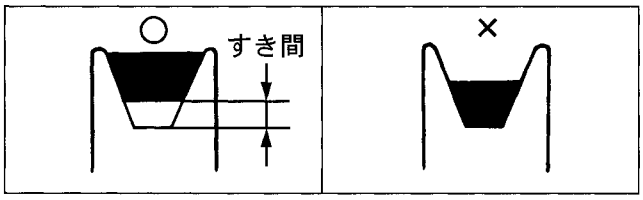
◆点検

各部のベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

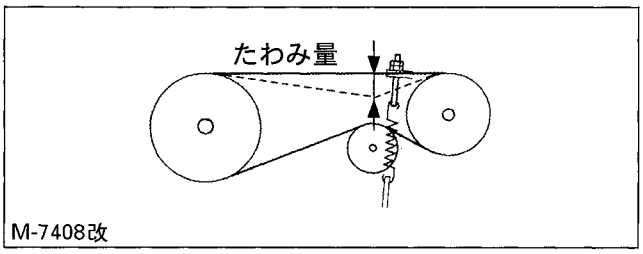
1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ



2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



3. ベルトの伸び(たわみ量)



上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して行なってください。

重 要

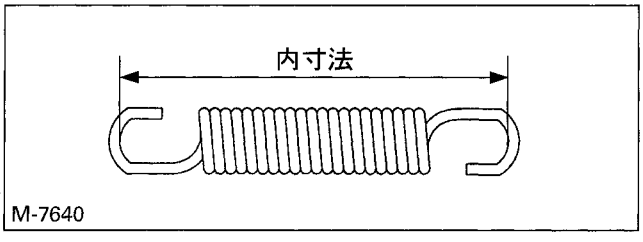
＊ベルトは必ずクボタ純正のものを使用してください。

◆調整

ベルトが伸びているとき(スリップが発生しやすい)は，張り調整を行なってください。

補 足

＊スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



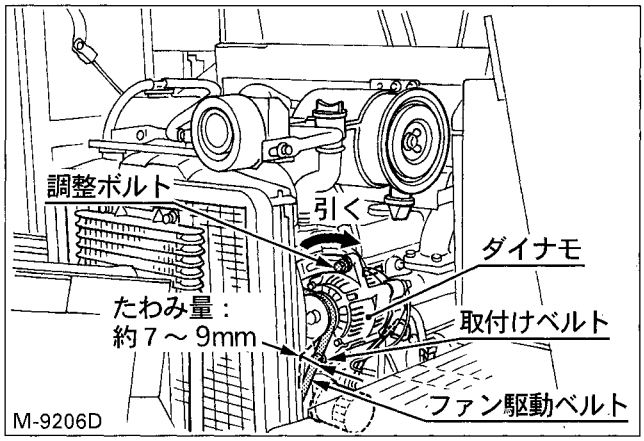
● ファン駆動ベルト

ベルトのたわみ量を7～9㎜に調整します。

❶ダイナモの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。

❷ダイナモを引きながら調整します。

❸調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。

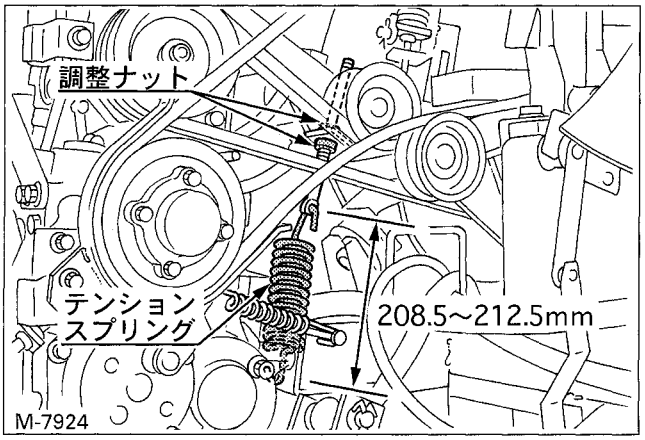


● 走行(ミッション)駆動ベルト

主変速レバーの下にあるテンションスプリングの長さを208.5～212.5㎜に調整します。

❶調整ナット2箇所をそれぞれゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

❷調整ナットを締付けます。



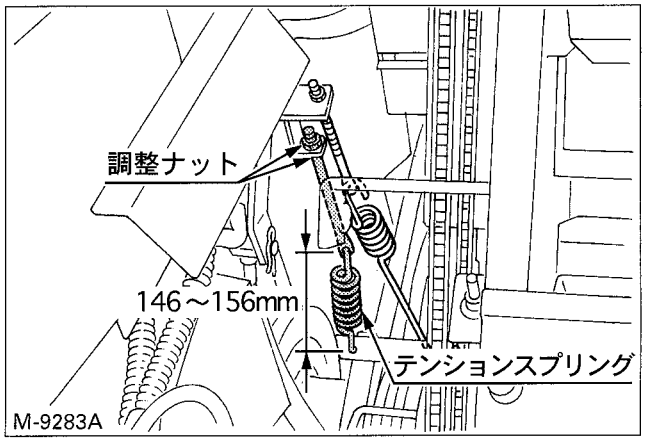
●刈取クラッチベルト

刈取クラッチレバーの下にあるテンションスプリングの長さを146～156mmに調整します。

❶刈取クラッチレバーを"入"位置にします。

❷調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けます。



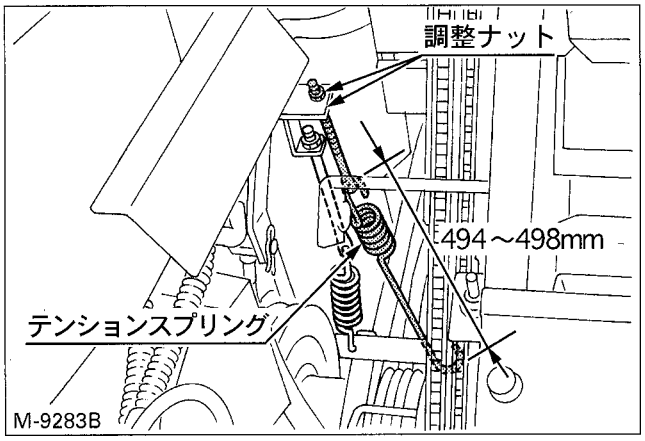
●脱こくクラッチベルト

脱こくクラッチレバーの下にあるテンションスプリングの長さを494～498mmに調整します。

❶脱こくクラッチレバーを"入"位置にします。

❷調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。

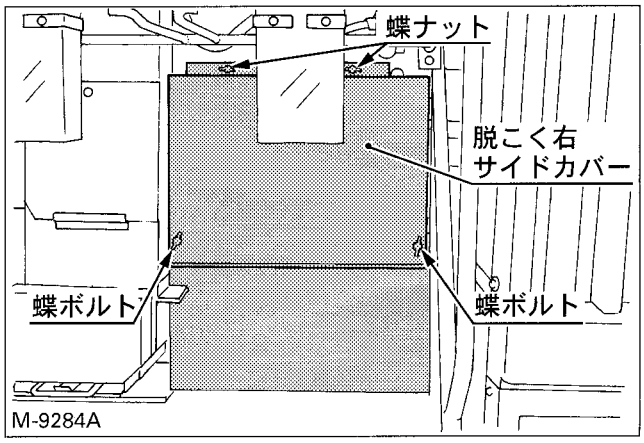
❸調整ナットを締付けます。



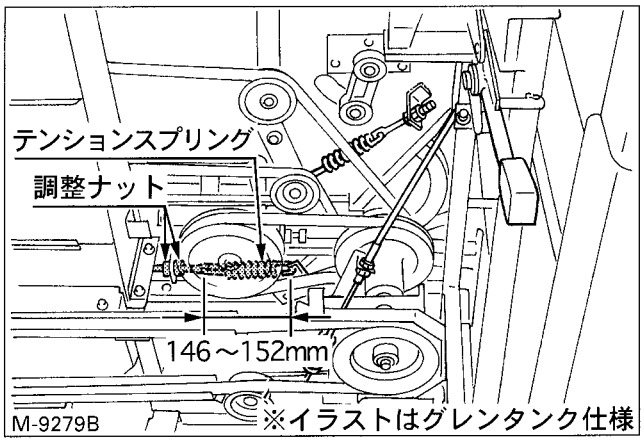
●脱こくカウンタベルト

テンションスプリングの長さを146～152mmに調整します。

❶【グレンタンク仕様】はグレンタンクオープンをし，【ホッパ仕様】は蝶ナット２個と蝶ボルト２本を取外し，脱こく右サイドカバーを取外します。



❷調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。



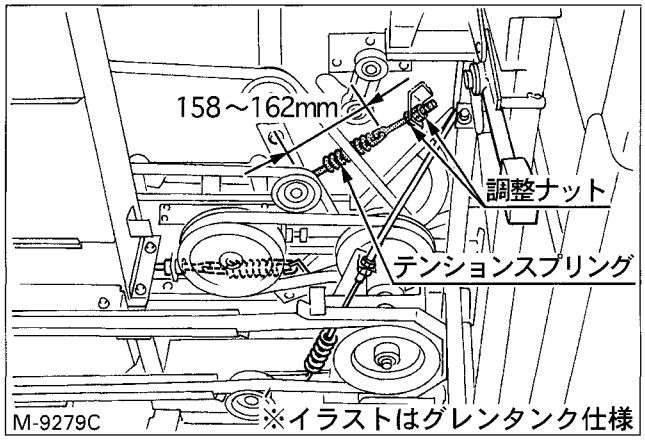
❸調整ナットを締付けたあと，脱こく右サイドカバーを取付けます。

● カッタ駆動ベルト

テンションスプリングの長さを158～162mmに調整します。

❶【グレンタンク仕様】はグレンタンクオープンをし，【ホッパ仕様】は脱こく右サイドカバーを取外します。

❷調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

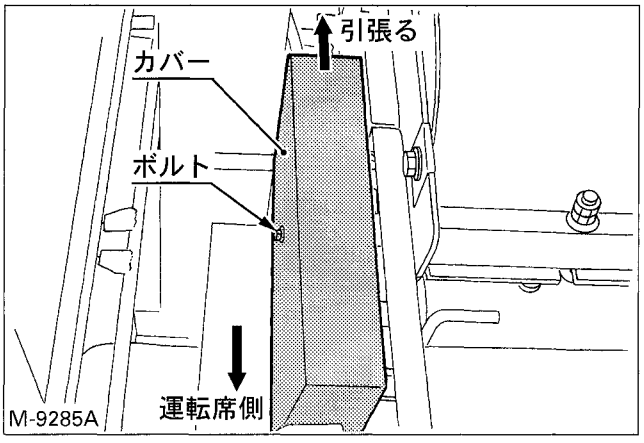


❸調整ナットを締付けたあと，脱こく右サイドカバーを取付けます。

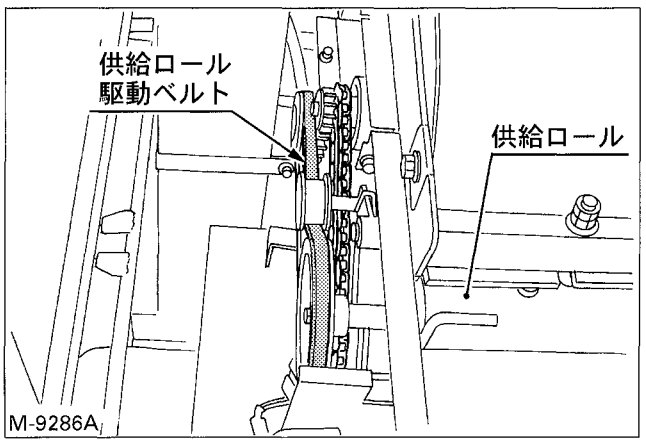
● 供給ロール駆動ベルト

ベルトの点検を行なってください。

❶運転席左後部にあるカバーのボルトを取外してカバーを外します。



❷ベルトの点検を行なったあと，カバーを取付けます。



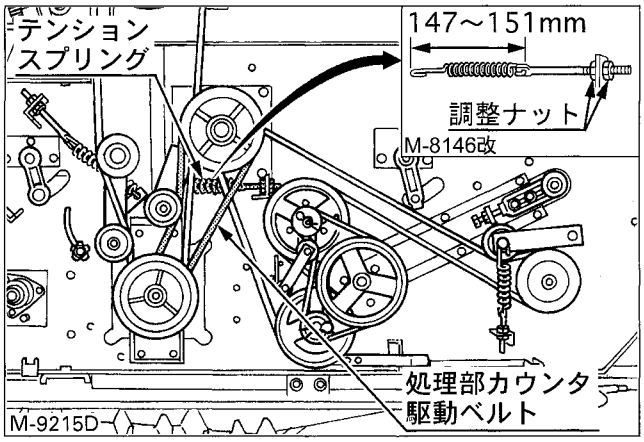
● 処理部カウンタ駆動ベルト

テンションスプリングの長さを147～151mmに調整します。

❶脱こく左サイドカバー上・下を取外します。

❷調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，脱こく左サイドカバー上・下を取付けます。



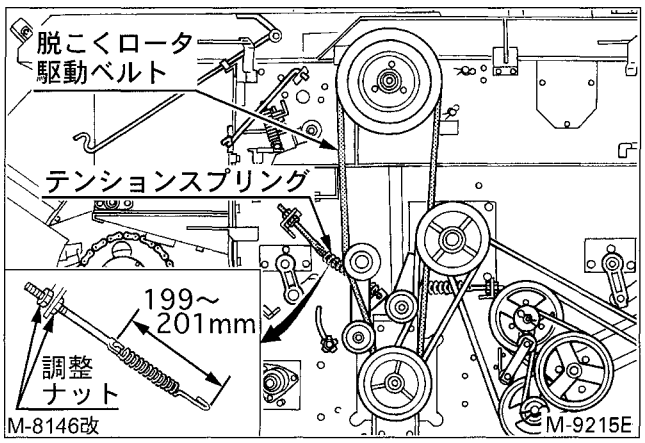
● 脱こくロータ駆動ベルト

テンションスプリングの長さを199～201mmに調整します。

❶脱こく左サイドカバー上・下を取外します。

❷調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，脱こく左サイドカバー上・下を取付けます。



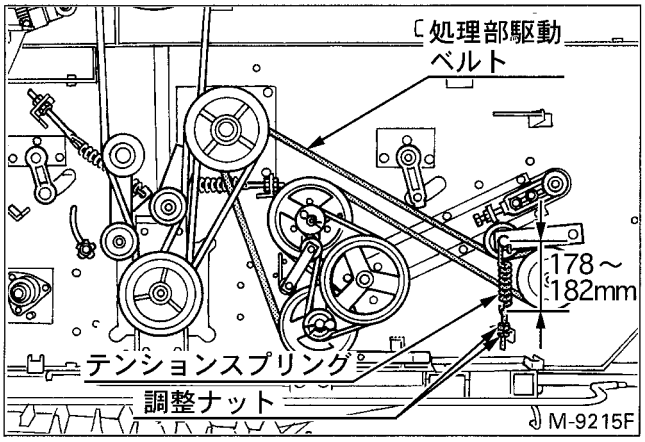
● 処理部駆動ベルト

テンションスプリングの長さを178～182mmに調整します。

❶脱こく左サイドカバー上・下を取外します。

❷調整ナットを2個をゆるめて，調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，脱こく左サイドカバー上・下を取付けます。

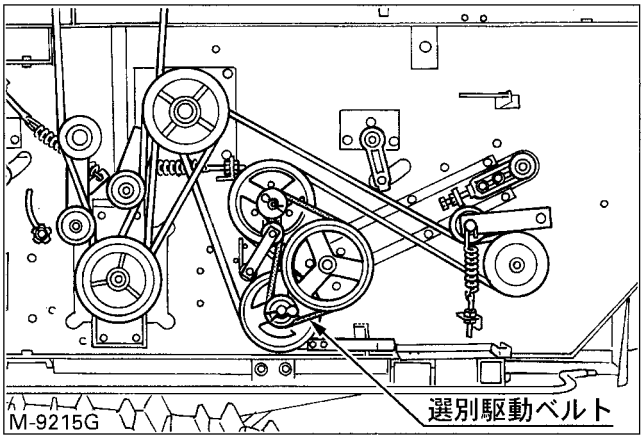


● 選別駆動ベルト

ベルトの点検を行なってください。

❶脱こく左サイドカバー上・下を取外します。

❷ベルトの点検を行なったあと，脱こく左サイドカバー上・下を取付けます。



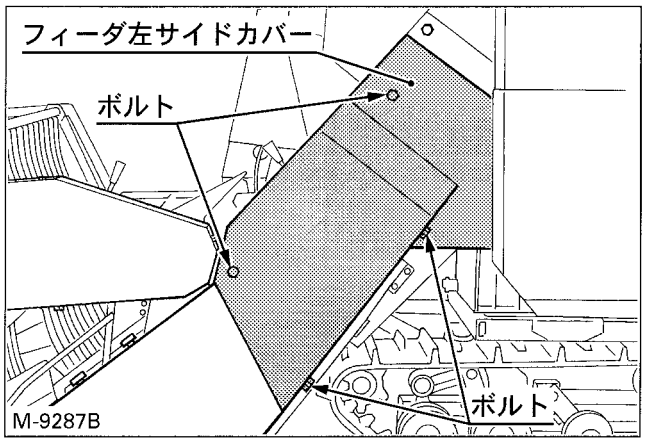
● カウンタ駆動ベルト

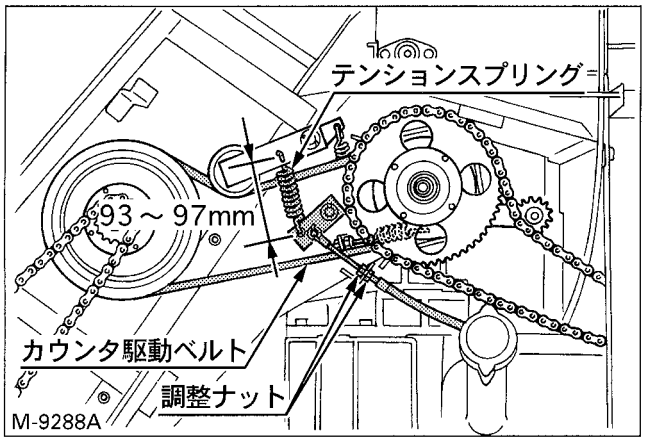
テンションスプリングの長さを93～97mmに調整します。

❶ボルト4本を取外し，フィーダ左サイドカバー下を取外します。

❷調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，フィーダ左サイドカバー下を取付けます。





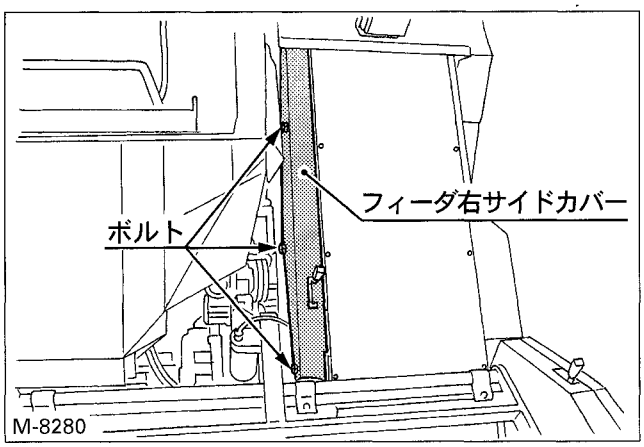
● 刈刃駆動ベルト

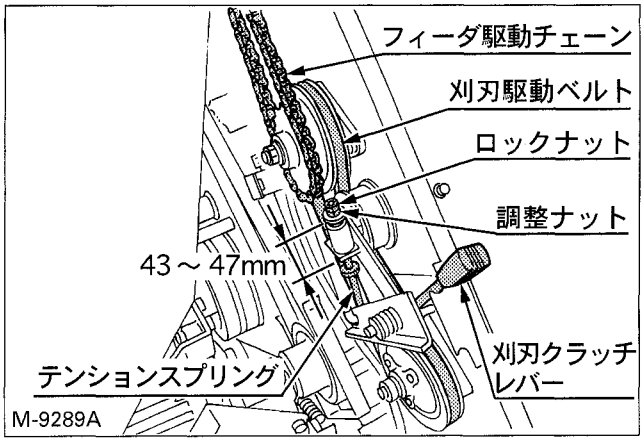
テンションスプリングの長さを43～47mmに調整します。

❶ボルト3本を取外し，フィーダ右サイドカバーを取外します。

❷ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

❸ロックナットを締付けたあと，フィーダ右サイドカバー上を取付けます。





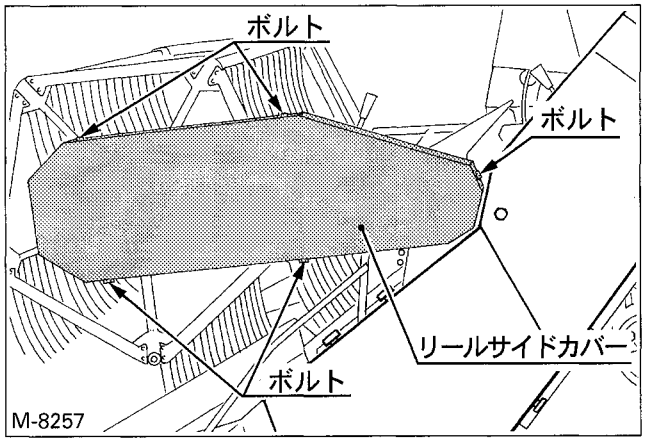
● リール駆動ベルト

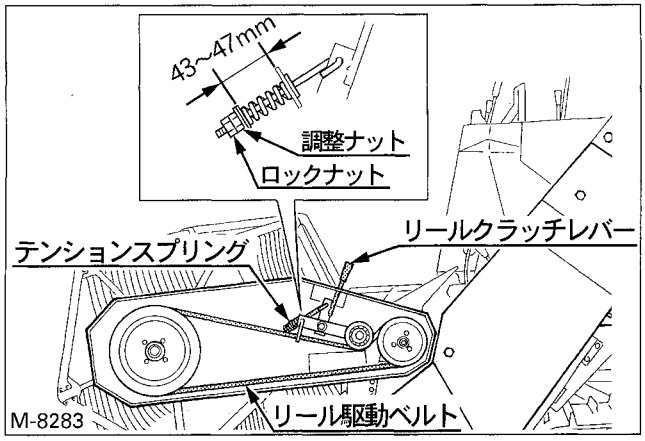
テンションスプリングの長さを43～47mmに調整します。

❶ボルト5本を取外し，リールサイドカバーを取外します。

❷ロックナットと調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

❸ロックナットを締付けたあと，リールサイドカバーを取付けます。





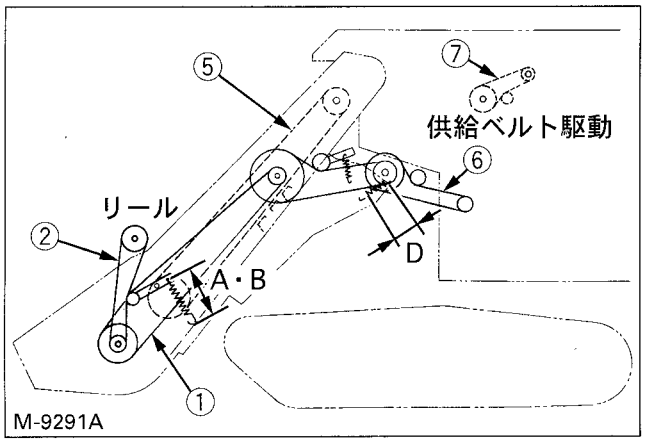
● グレンタンク駆動ベルト【グレンタンク仕様】

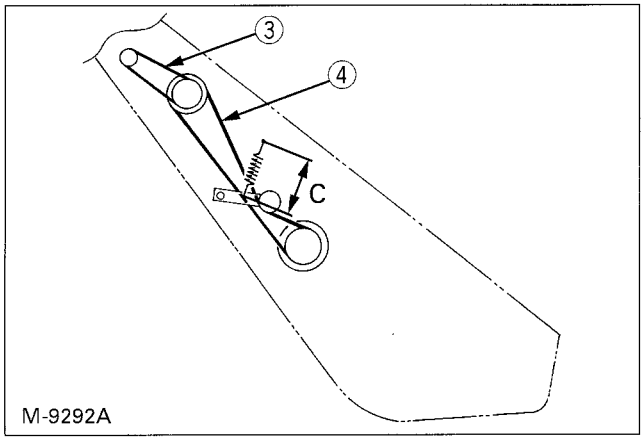
ベルトの張り調整は，**“こく粒クラッチワイヤの調整”**の項を参照してください。

■各部チェーンの点検・調整

◆各部のチェーンサイズ

点検箇所	図番	名称	サイズ	張り調整 テンションスプリング取付け長さ(mm)		たわみ量 (mm)
刈取部	①	オーガ駆動チェーン	415S（172リンク）	A	93 ～ 97 mm	—
	②	リール駆動チェーン	415S（94リンク）	B	93 ～ 97 mm	—
	③	ビータ駆動チェーン	415S（46リンク）	—		—
	④	フィーダ駆動チェーン	415S（109リンク）	C	133 ～ 137 mm	—
	⑤	フィーダチェーン	（81リンク）	—		—
	⑥	刈取駆動チェーン	40（110リンク）	D	85 ～ 87 mm	—
脱こく部	⑦	供給ベルト駆動チェーン	415S（59リンク）	—		10～15





◆点検

各部のチェーンを点検して，異常があればチェーンの交換又は，張り調整を行なってください。チェーンの交換は購入先へ連絡して行なってください。

重　要

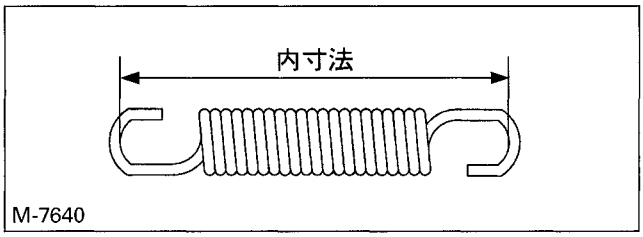
＊チェーンは必ずクボタ純正のものを使用してください。

◆調整

チェーンが伸びているときは，張り調整を行なってください。

補　足

＊スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



● オーガ駆動チェーン

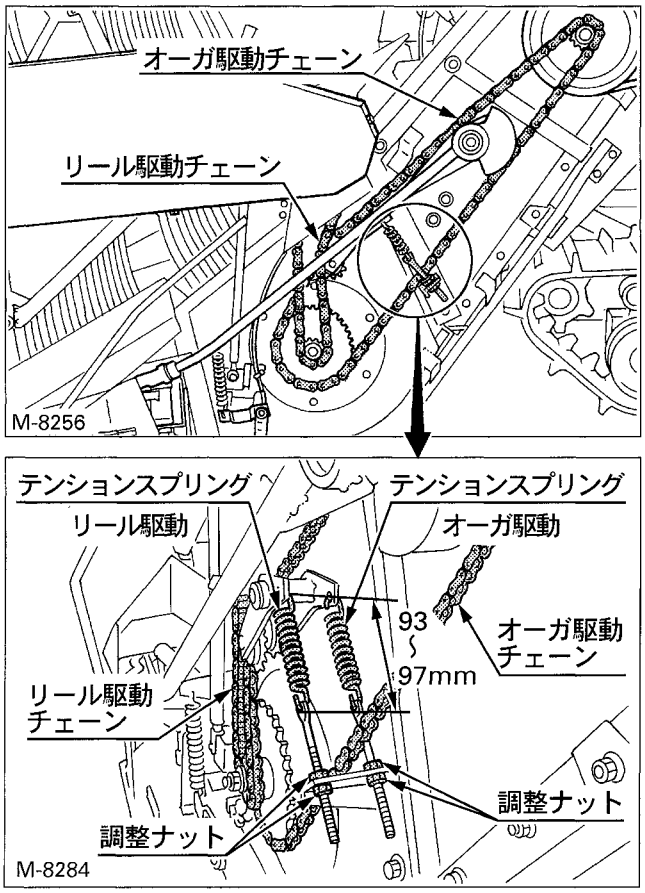
● リール駆動チェーン

テンションスプリングの長さを93～97mmに調整します。

❶ノブボルト3本を取外し，刈取サイドカバーを取外します。

❷調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，刈取サイドカバーを取付けます。

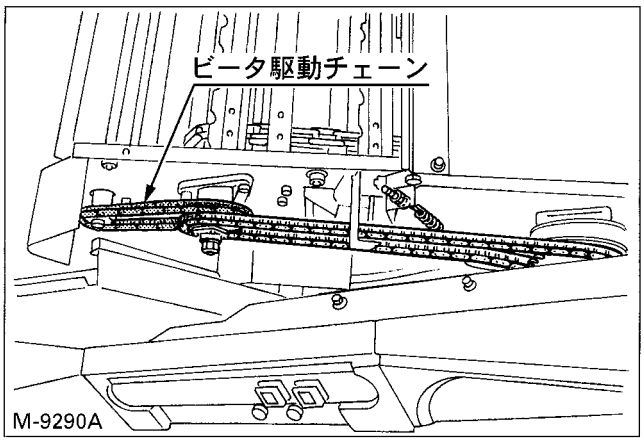


●ビータ駆動チェーン

チェーンの点検を行なってください。

❶ボルト3本を取外し，フィーダ右サイドカバーを取外します。

❷チェーンの点検を行なったあと，フィーダ右サイドカバーを取付けます。



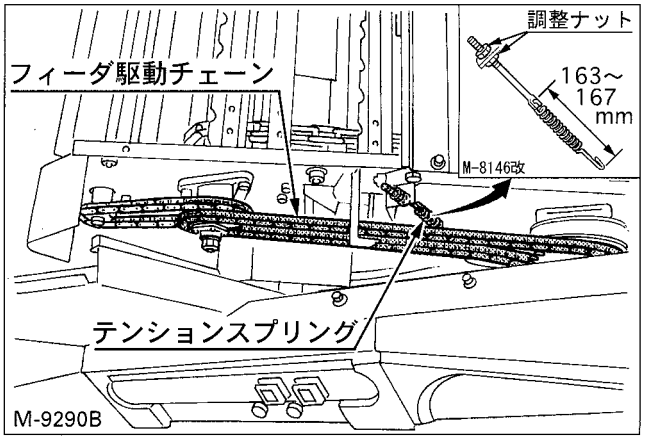
●フィーダ駆動チェーン

テンションスプリングの長さを133～137mmに調整します。

❶ボルト3本を取外し，フィーダ右サイドカバーを取外します。(**刈刃駆動ベルト**の項参照)

❷調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，フィーダ右サイドカバー上を取付けます。



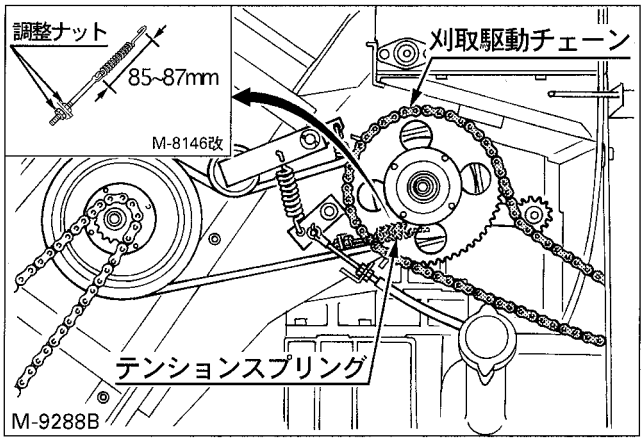
●刈取駆動チェーン

テンションスプリングの長さを85～87mmに調整します。

❶脱こく左サイドカバー上，下を取外します。

❷調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，脱こく左サイドカバー上，下を取外します。



●フィーダチェーン

フィーダチェーンに取付けている搬送板とフィーダの底板のすき間を5～10mmに調整します。

❶脱こくロータカバーをオープンします。

❷ノブボルト2本を取外し，フィーダ上部カバーを取外します。

❸左・右それぞれ4箇所のナット(M8)をゆるめます。

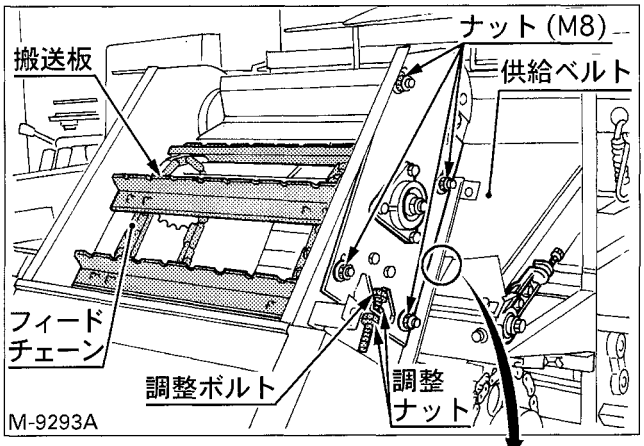
❹調整ボルトを固定している調整ナット2個をゆるめて左・右共調整を行ないます。

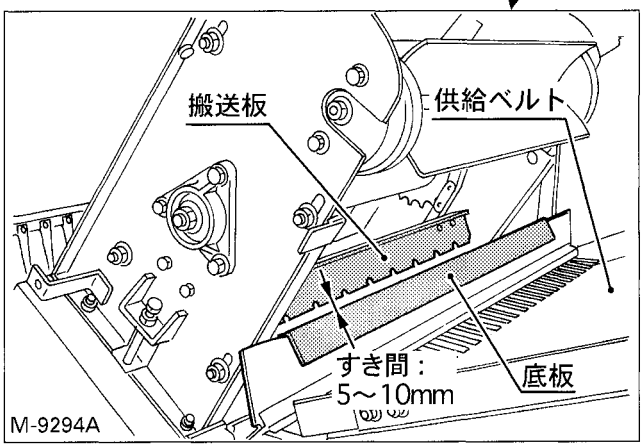
重 要

＊調整ボルトの調整量は同じにしてください。搬送板が左・右方向に傾くと故障の原因となります。

❺調整ナットを締付けたあと，ナット(M8)を左・右それぞれ締付けます。

❻フィーダ上部カバーを取付けたあと，脱こくロータカバーを閉じます。

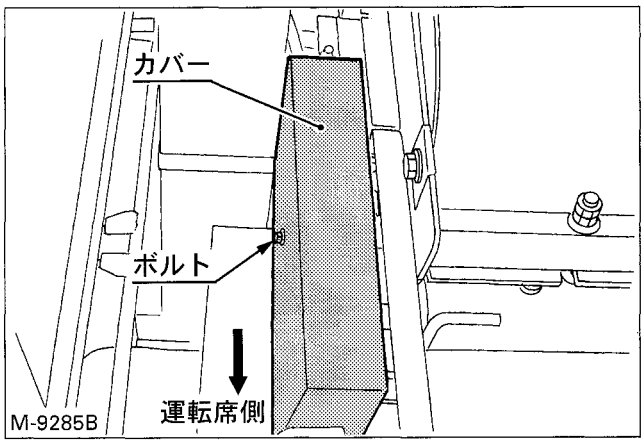




●供給ベルト駆動チェーン

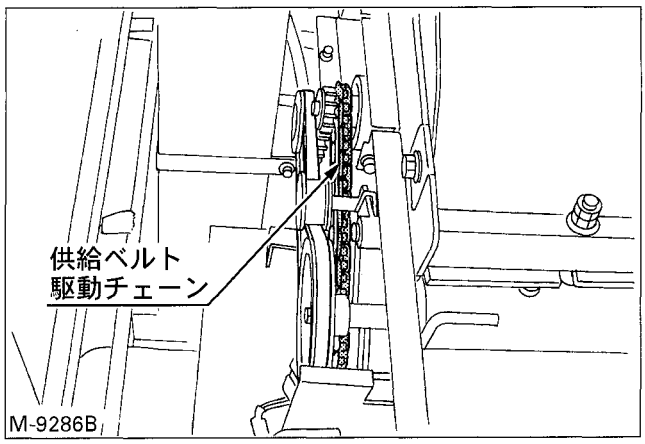
チェーンの点検を行なってください。

❶運転席左後部にあるカバーのボルトを取外してカバーを外します。



❷チェーンを押したとき(約20N{2kgf}の荷重)にたわみ量が，10～15mmより大きいときは購入先に連絡してチェーンの半コマを取外してください。

❸チェーンの点検が終わったあと，カバーを取付けます。



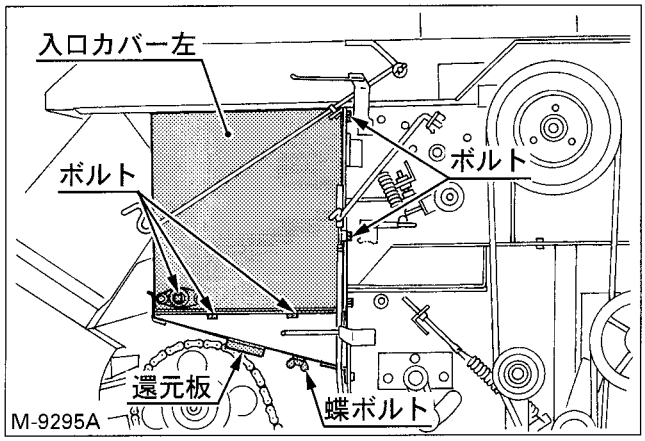
■供給ベルトの点検・調整・交換

◆点検

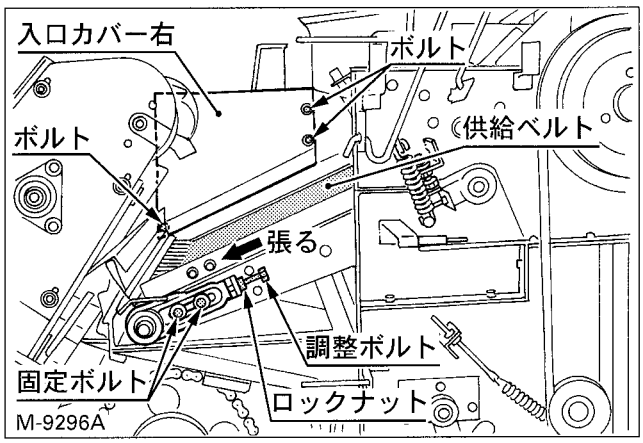
ベルトを点検して，伸び(たわみ)があるときは張り調整を行なってください。また，ベルトがき裂やひび割れなどによる破損や摩耗，はがれなど異常があれば交換してください。

◆調整

❶脱こく左サイドカバー上，下を取外します。
❷脱こくロータカバーをオープンします。
❸ボルト5本を取外し，入口カバー左を取外します。
❹蝶ボルト1本を取外し，還元板を抜きます。

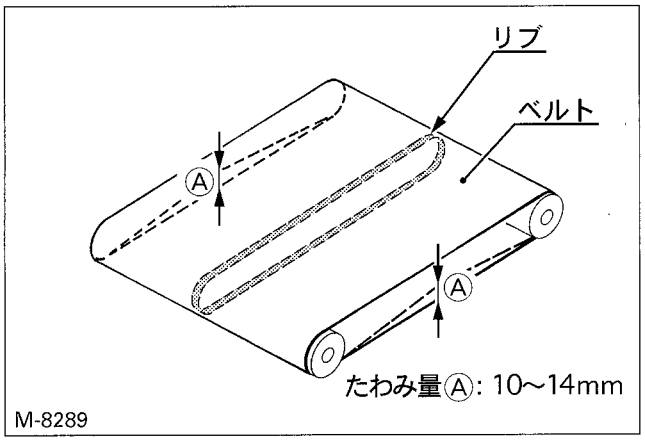


❺ボルト3本を取外し，入口カバー右を取外します。
❻還元板を抜いたところからベルト下面両端部の中央部を押して(約98N{10kgf}の荷重)，ベルトのたわみ量を10～14mmに調整します。
(1)調整ボルトのロックナットをゆるめます。
(2)固定ボルト2本をゆるめます。
(3)調整ボルトで調整します。
(4)調整を左，右共行ないロックナットを締付けたあと，固定ボルト２本を締付けます。



重 要

＊左・右の調整ボルトの調整する量は左・右同じにしてください。調整する量の差が大きくなると，傾きが発生してベルトのリブが溝から外れ，故障の原因となります。



❼入口カバー左・右を取付けたあと，還元板を取付けます。
❽脱こくロータカバーを閉じます。

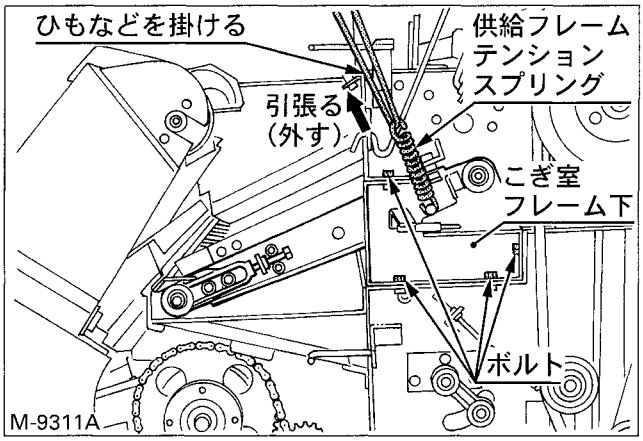
◆交換

●取外しかた

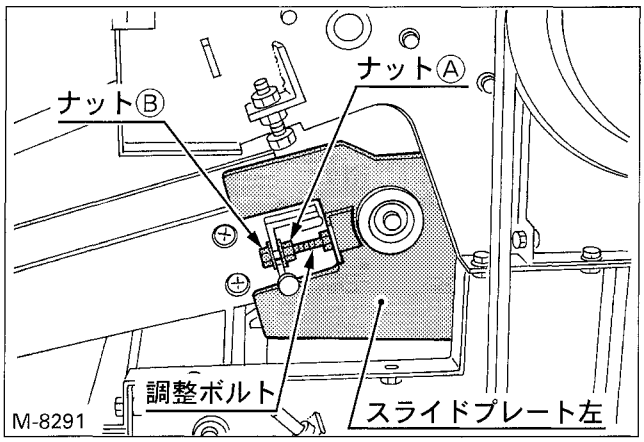
❶調整の工程❶～❸を行ないます。

❷ボルト4本を取外し，ごぎ室フレーム下を取外します。

❸ひもなどを引掛けて供給フレームテンションスプリングを外します。



❹調整ボルトのナットⒶ，Ⓑ２個をゆるめてスライドプレート左を取外します。

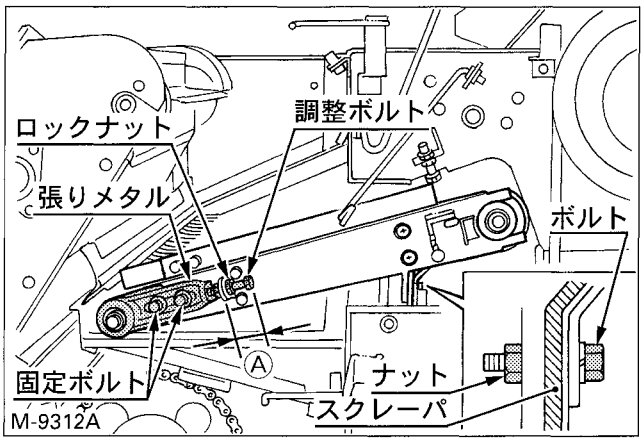


❺スクレーパを取付けているボルトとナットを取外します。

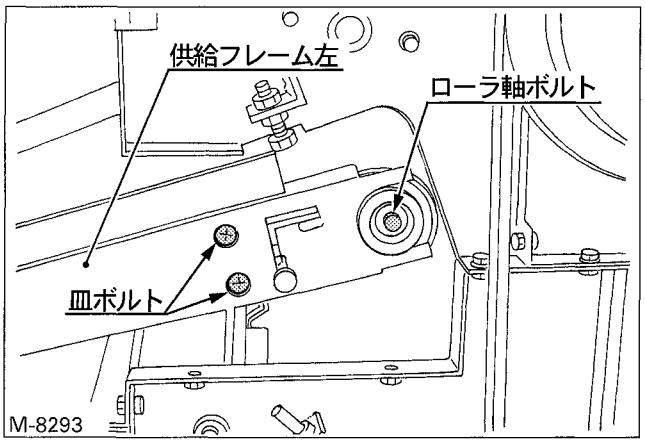
❻調整ボルトの寸法Ⓐを測定し，紙などに測定値を記入します。

❼ロックナットをゆるめ，調整ボルトをゆるめます。

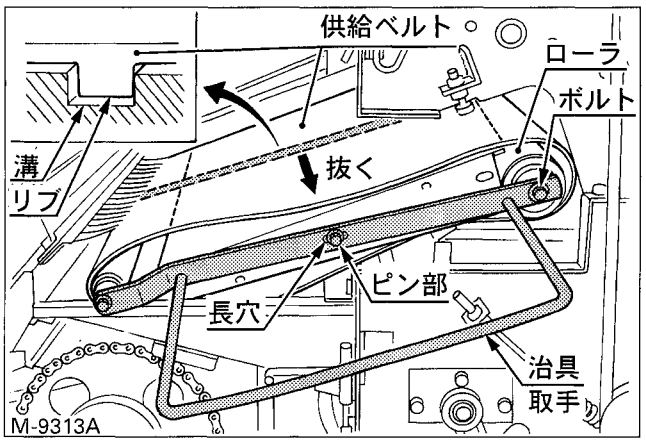
❽固定ボルト2本を取外し，張りメタルを取外します。



❾皿ボルト2本とローラ軸固定ボルトを取外し，供給フレーム左を取外します。



❿ローラ軸を固定する治具を，取外したボルトでローラ軸2箇所に取付けたあと，治具の取手を持ち，少し上げてベルトを取外します。



補　足

＊治具の中央のピン部を供給フレームの長穴に差込んでください。

＊ベルトのズレ防止のため供給フレーム中央の溝にベルトのリブが入っているため，取外すときに引掛かりに注意してください。

＊ローラ軸を固定する治具は下記の品番でご購入してください。

品　番	品　名
51575-8533-0	ステー(キョウキュウベルト)

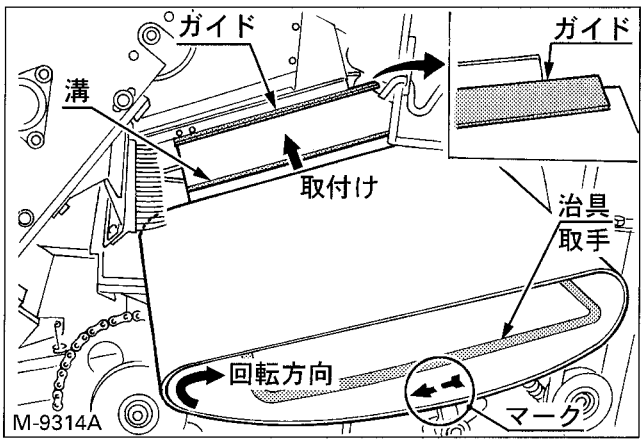
●取付けかた

❶新しいベルトを取付けます。

(1)ベルト内側の端部にある➤➤マークを時計回り(右回転)の方向に合わせます。

(2)治具の取手を少し上げてベルトを取付けます。

(3)取付けたとき，溝にベルトのリブが入り，ガイドにベルトの端部が入っていることを確認します。

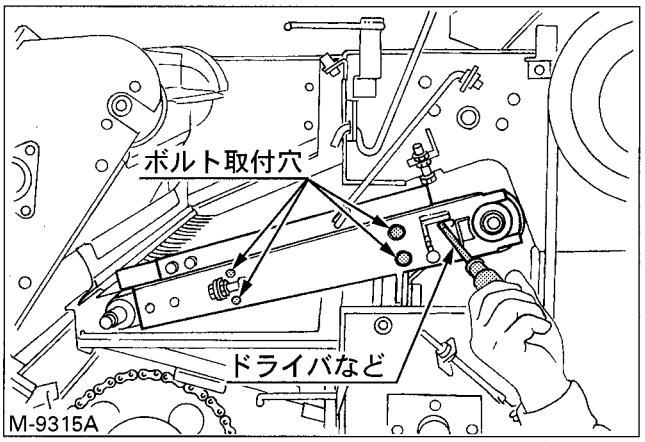


❷ボルト2本を取外し，治具を取外します。

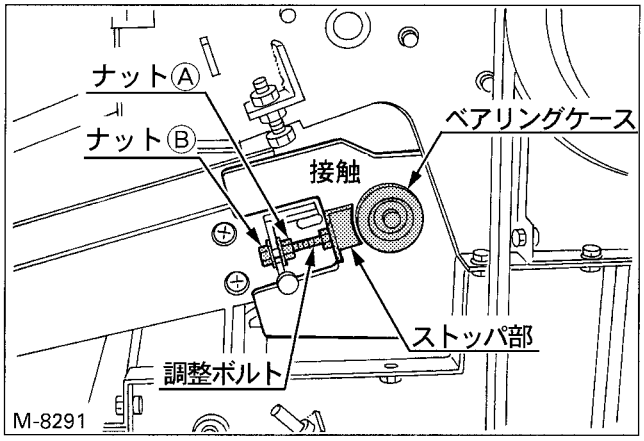
❸供給フレーム左を取付けたあと，張りメタルを取付け，スクレーパをボルトで締付けます。

補　足

*供給フレーム左を取付けるときは，下図のようにドライバーなどを差し込み，ボルトの取付穴の位置決めを行なってください。



❹スライドプレート左を取付けます。このとき，ベアリングケース左に調整ボルトストッパ部のL部先端が接触した状態でナットⒶとⒷを締付けます。



❺ごぎ室フレーム下を取付け，供給フレームテンションスプリングを取付けます。

❻ベルトの調整ボルトを取外しかたの❺の工程で測定した寸法Ⓐまで締付け，ベルトのたわみ量を確認したあと，ロックナットを締付けます。

❼還元板を取付けたあと，入口プレート左を取付けます。

❽脱こくロータカバーを閉じます。

■選別ベルトの点検・調整・交換

◆点検

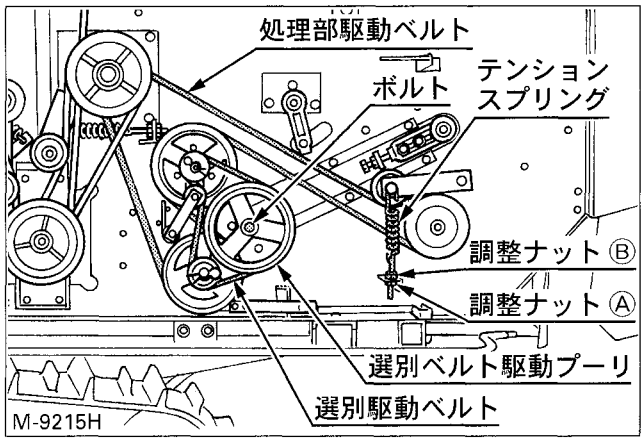
ベルトを点検して，伸び(たわみ)があるときは張り調整を行なってください。また，ベルトがき裂やひび割れなどによる破損や摩耗，はがれなど異常があれば交換してください。

◆調整

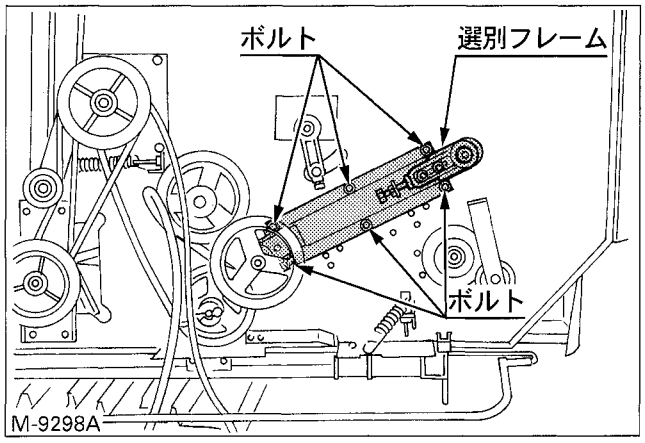
❶脱こく左サイドカバー上，下を取外します。

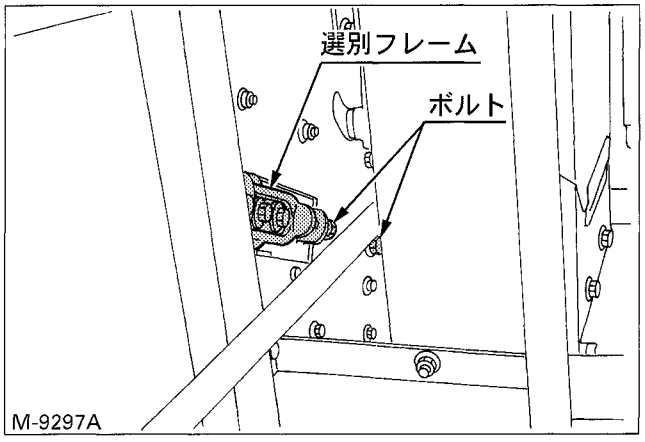
❷ボルトを取外し，選別ベルト駆動プーリを取外します。

❸処理部駆動ベルトのテンションの調整ナットⒶをゆるめ，調整ナットⒷを締付け方向に回してテンションスプリングを外します。

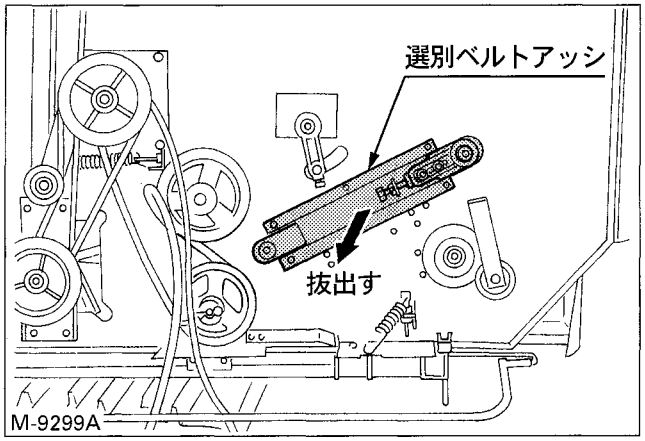


❹選別フレームの取付ボルト左側6本，右側2本をそれぞれ取外します。

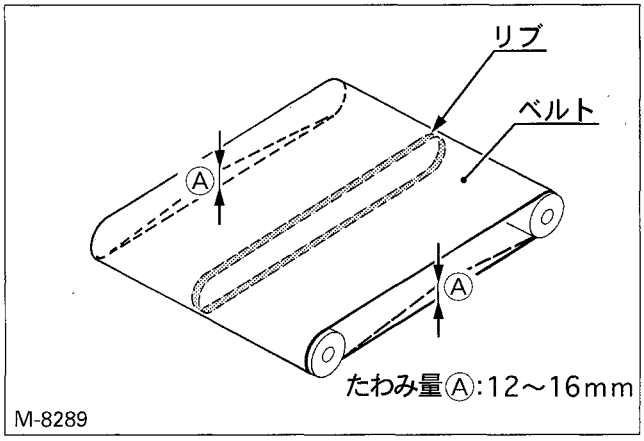




❺選別ベルトアッシを抜出します。



❻ベルト上面両端部の中央部を押して(約98N{10kgf}の荷重)，ベルトのたわみ量を12～16mmに調整します。

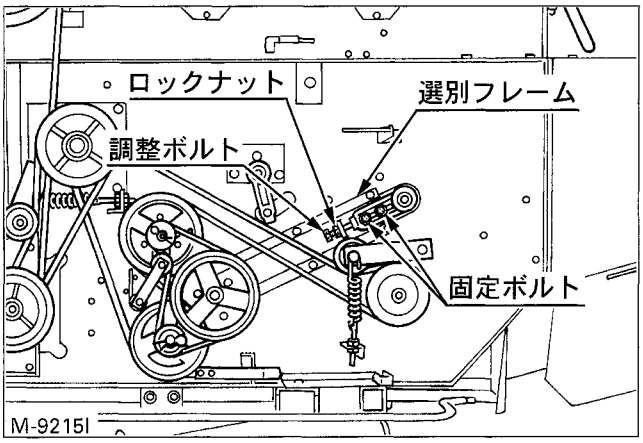


(1)調整ボルトのロックナットをゆるめます。

(2)固定ボルト2本をゆるめます。

(3)調整ボルトで調整します。

(4)調整を左・右共行ないロックナットを締付けたあと，固定ボルトを締付けます。



重　要

＊左・右の調整ボルトの調整する量は左・右同じにしてください。調整する量の差が大きくなると，傾きが発生してベルトのリブが溝から外れ，故障の原因となります。

❼工程❶～❺の逆の手順で選別ベルトアッシを本機に取付けます。

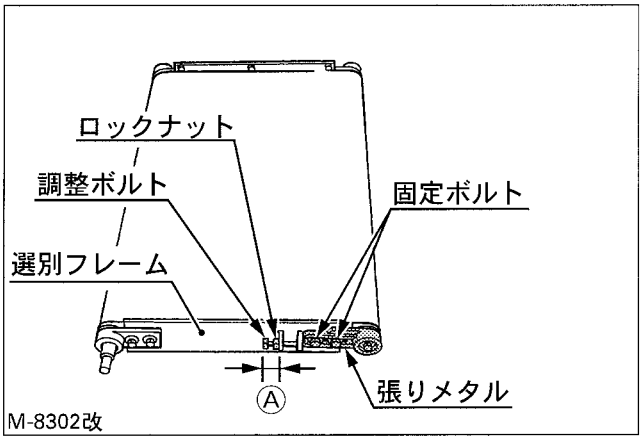
❽脱こく左サイドカバー上，下を取付けます。

◆交換

❶調整ボルトの寸法Ⓐを測定し，紙などに側定値を記入します。

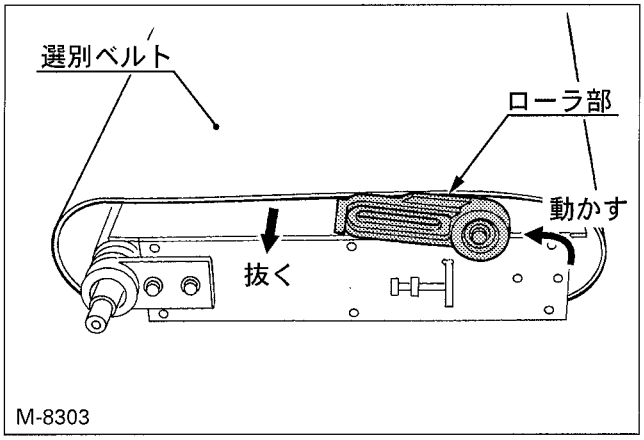
❷ロックナットをゆるめ，調整ボルトをゆるめます。

❸張りメタル固定ボルト2本を取外します。



❹反対側も工程❷と❸を行ないます。

❺下図のようにローラ部を選別フレームの上部へ動かしたあと，ベルトを取外します。



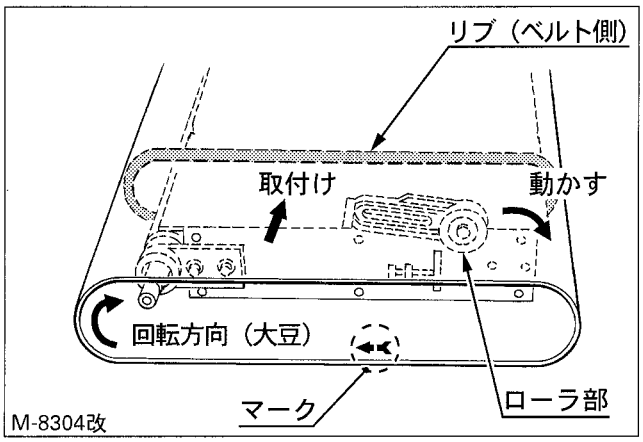
補　足

＊ベルトのズレ防止のため選別フレーム中央の溝にベルトのリブが入っているため，取外すときに引掛かりに注意してください。

❻新しいベルトを取付けます。

(1)ベルト内側の端部にある➤◆マークを時計回り(右回転)の方向に合わせます。

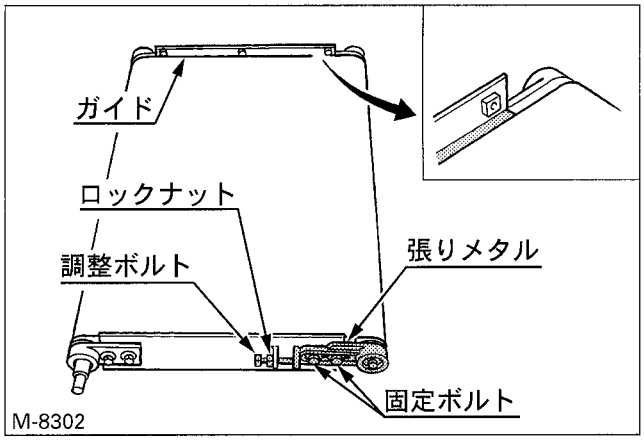
(2)ベルトを取付けます。



(3)ローラ部を選別フレームの取付位置に動かします。このとき，ローラ部にベルトのリブをいれ，両端のガイドにベルトの端部が入っていることを確認します。

(4)張りメタルを固定ボルトで取付けます。

(5)ベルトの調整ボルトを取外しかたの❻の工程で測定した寸法まで締付け，ベルトのたわみ量を確認したあと，ロックナットを締付けます。



❼取外しかたの工程❶～❺から逆の手順で本機側へ取付けます。

補　足

＊ベルトは掛け間違えないでください。

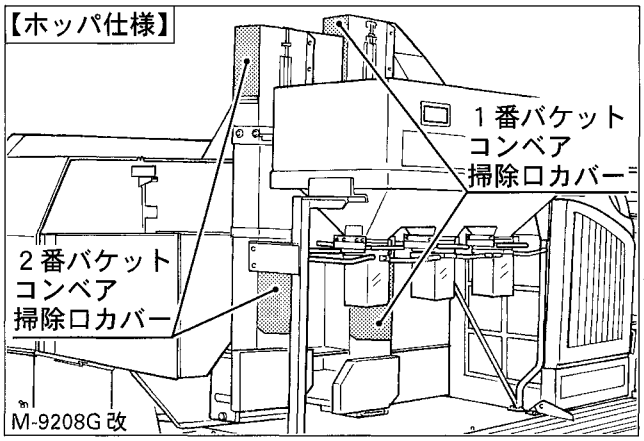
＊処理部駆動ベルトのテンションは，**各部ベルトの点検・調整・交換**の項を参照してください。

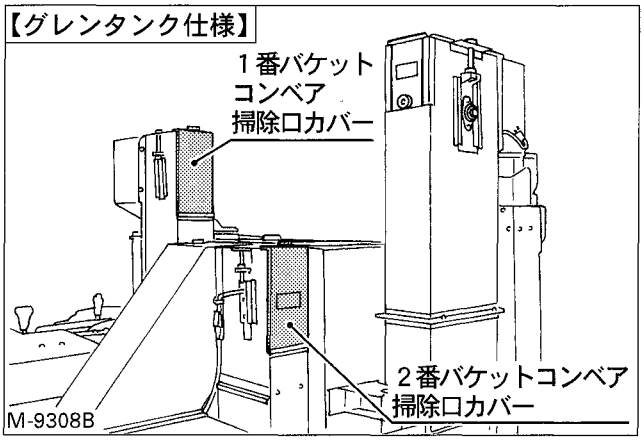
■1番・2番バケットコンベアの点検・調整・交換

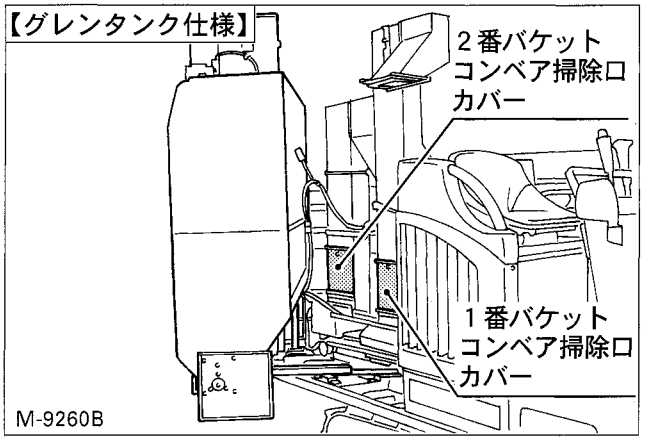
◆点検・調整

バケットコンベアのバケットとベルトを点検して，ベルトに伸び(たわみ)があるときは張り調整を行なってください。また，ベルトがき裂やひび割れなどによる破損があるときやバケットが破損しているときは，購入先に連絡して交換してください。

❶グレンタンク仕様はグレンタンクをオープンします。
❷1番・2番バケットコンベアの掃除口カバーを取外します。



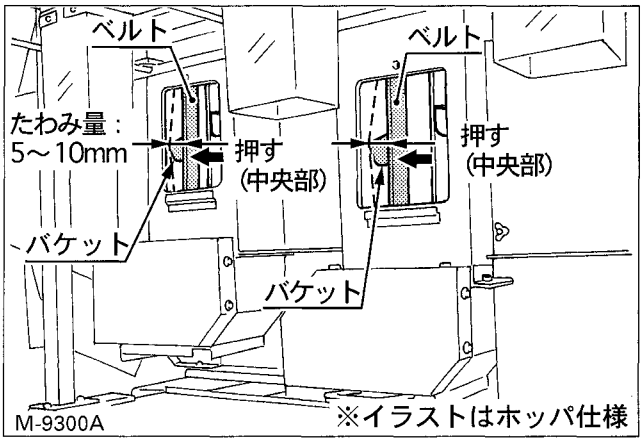




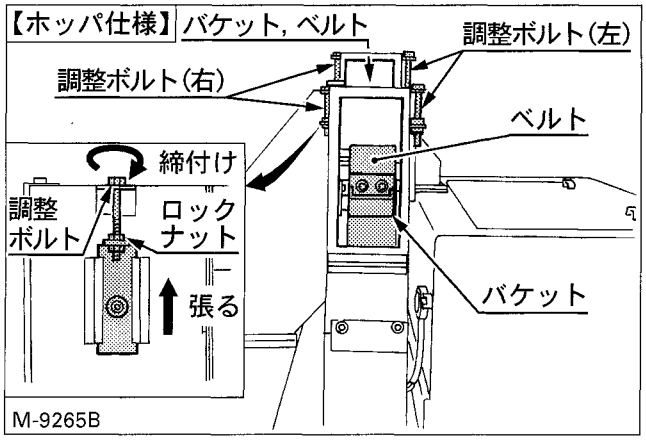
❸バケットとベルトを点検し，異常があれば調整又は，交換します。

●調整のしかた

指先でベルトの中央部を押したとき(約50N{5kgf}の荷重)のたわみ量を5～10mmに調整します。

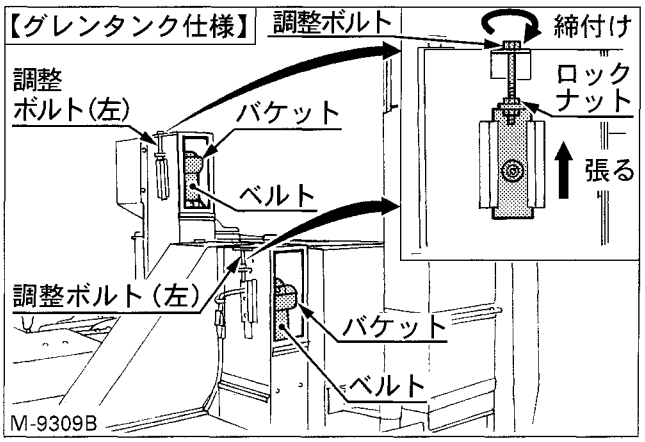


(1)バケットコンベア上部の左・右にある調整ボルトを固定しているロックナットをそれぞれゆるめます。
(2)調整ボルトを締付け方向に回してベルトを張ります。このとき，調整する量は左・右同じにします。



(3)ロックナット左・右それぞれ締付けます。

❹1番・2番バケットコンベアの掃除口カバーを取付けます。
❺グレンタンク仕様はグレンタンクを閉じます。

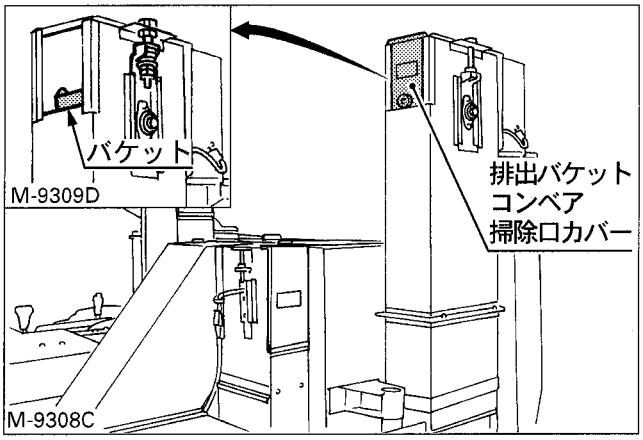


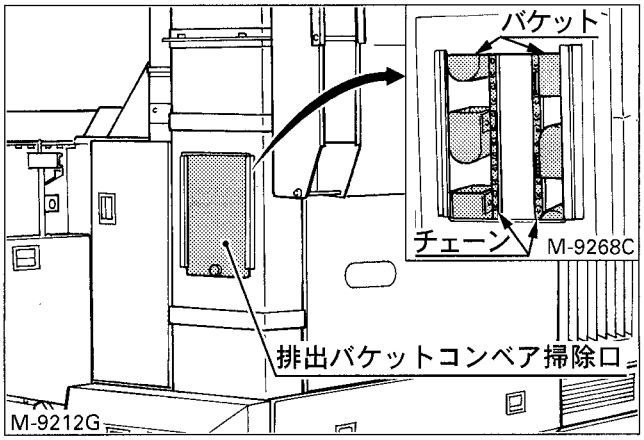
■排出バケットコンベアの点検・調整・交換【グレンタンク仕様】

◆点検・調整

バケットコンベアのバケットとチェーンを点検して，チェーンに伸び(たわみ)があるときは張り調整を行なってください。また，バケットが破損しているときは，購入先に連絡して交換してください。

❶排出バケットコンベアの掃除口カバーを取外します。



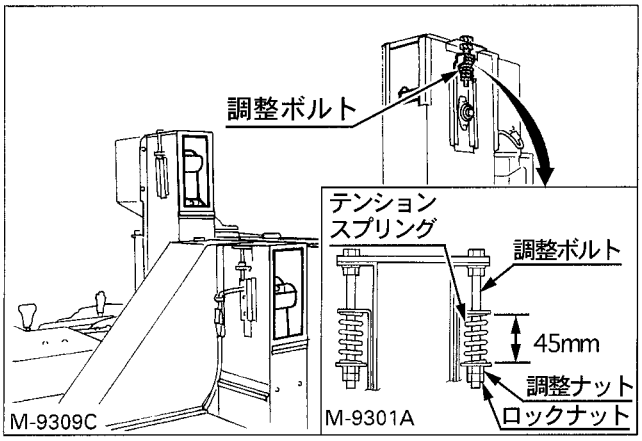


❷バケットとチェーンを点検し，異常があれば調整又は，交換します。

●調整のしかた

テンションスプリング(バネ)の長さを45mmに調整します。

❶バケットコンベア上部の左・右にある調整ボルトを固定しているロックナットをそれぞれゆるめます。
❷調整ナットを締付け方向に回してチェーンを張ります。このとき，調整する量は左・右同じにします。



❸ロックナット左・右それぞれ締付けます。
❹排出バケットコンベアの掃除口カバーを取付けます。

■刈刃の点検・調整

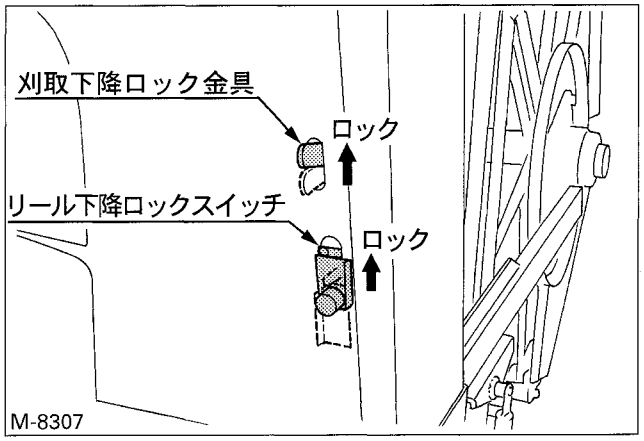
注　意

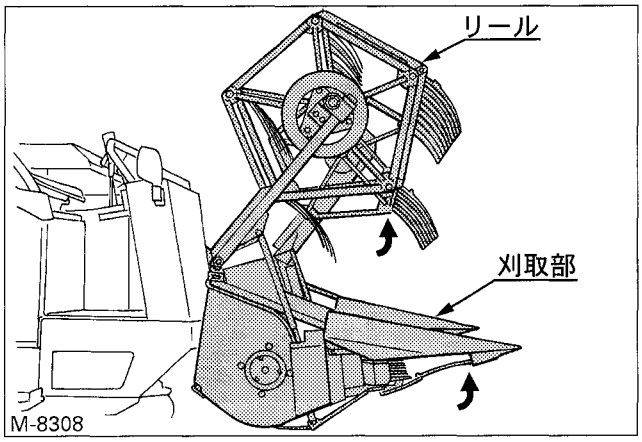
＊平たんな場所で刈取部を上げて，刈取り下降ロック金具を“ロック”位置にし，リールを上げてリールロックスイッチを“ロック”位置にして刈取部を必ずロックし，落下防止の歯止めをしてください。
＊刃部に手を掛けないでください。不用意に歯が動くと危険です。
＊脱着作業は手袋をしてください。

刈刃の刃先が磨耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

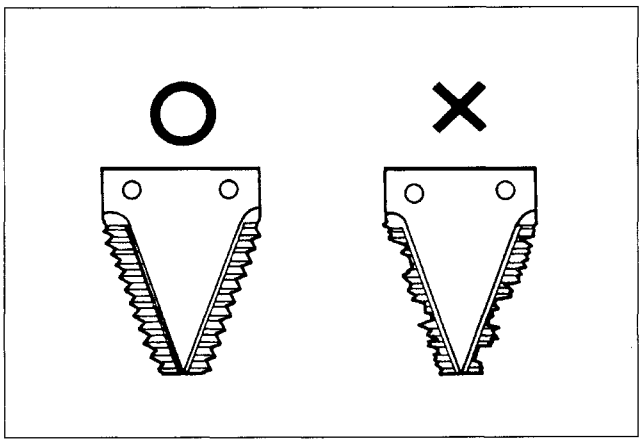
◆点検

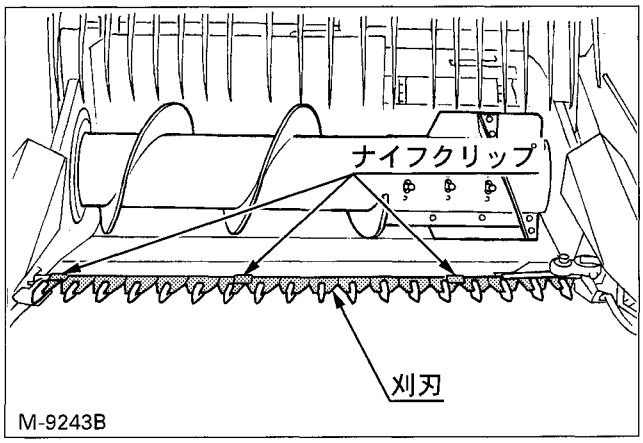
❶パワーステアリングレバー操作で刈取部を上昇させたあとエンジンを停止し，刈取下降ロック金具を**“ロック”**位置にし，リールを上げてリールロックスイッチを**“ロック”**位置にします。

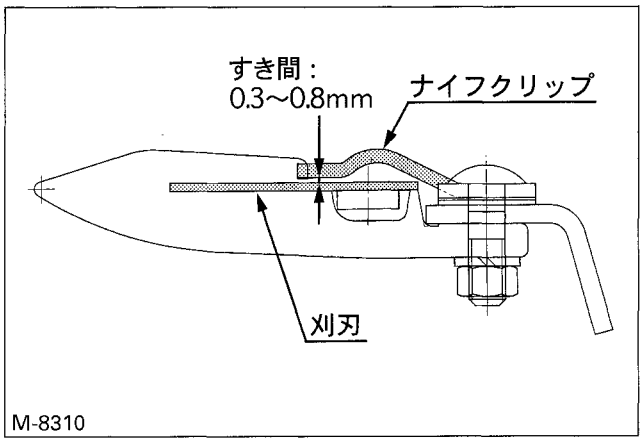




❷刈刃の刃先,ナイフクリップと刈刃のすき間(0.3～0.8mm)を確認し，すき間が大きいときは調整をしてください。また，刃先が磨耗したり，欠けているときは購入先に連絡して交換してください。







補　足

＊すき間はすき間ゲージで測定してください。

■カッタ部の点検・調整

警　告

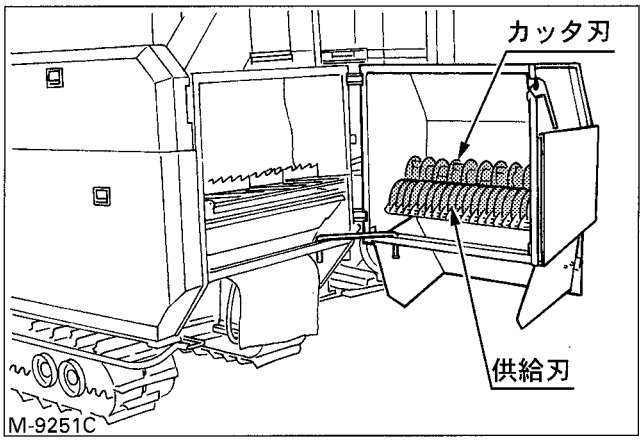
＊平たんな場所でエンジンを必ず停止して行なってください。

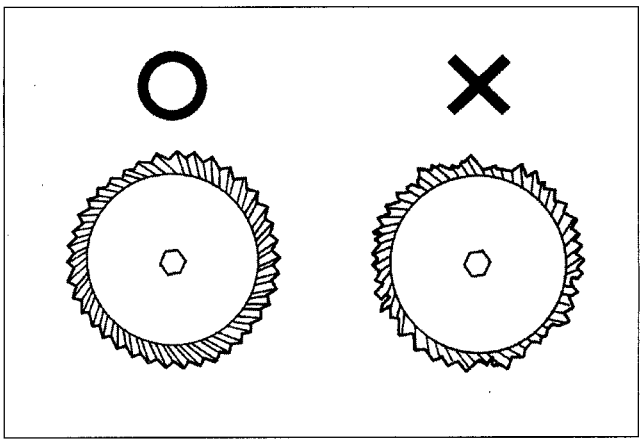
＊手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。

補　足

＊わらくずなどは取除いてください。

カッタ部を開いて切断刃(カッタ刃)と供給刃の摩耗状態や刃の欠けとすき間を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して交換してください。また，切断刃(カッタ刃)と供給刃のすき間が大きかったり，小さかったりする場合は調整してください。

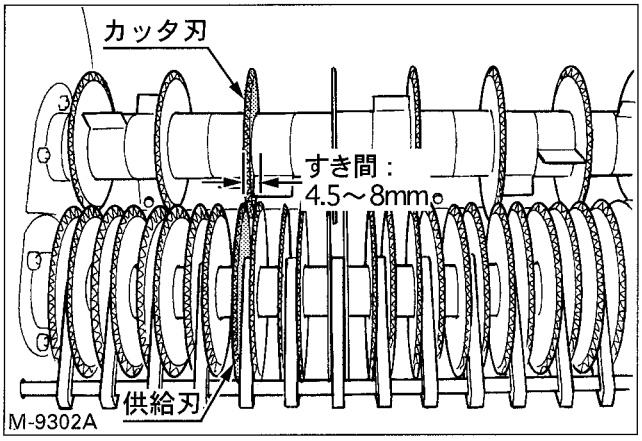




◆切断刃と供給刃のすき間の点検・調整

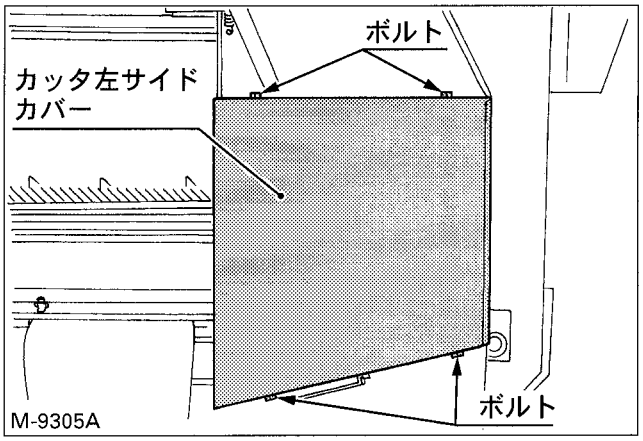
●点検

供給刃と切断刃(カッタ刃)のすき間を確認し，すき間が4.5～8mmの範囲から外れているときは，すき間調整を行ないます。

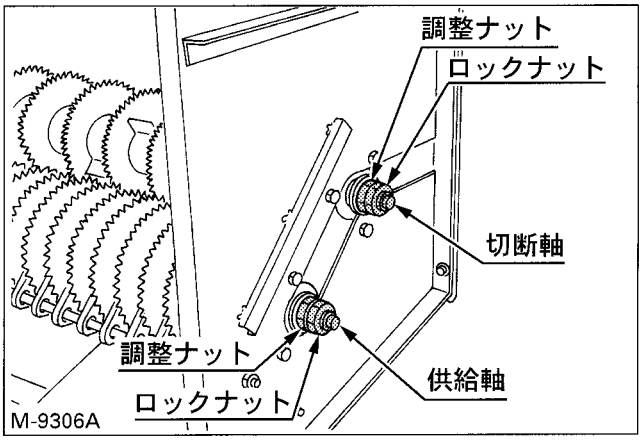


●調整

❶カッタ左サイドカバーをボルト４本取外して外します。



❷すき間が小さい（4.5mm以下）のときは，切断軸のロックナットをゆるめ，調整ナットを締付ける方向に調整し，すき間が大きい（8mm以上）のときは，供給軸のロックナットをゆるめ，調整ナットを締付ける方向に調整します。



❸ロックナットを締付けます。

重 要

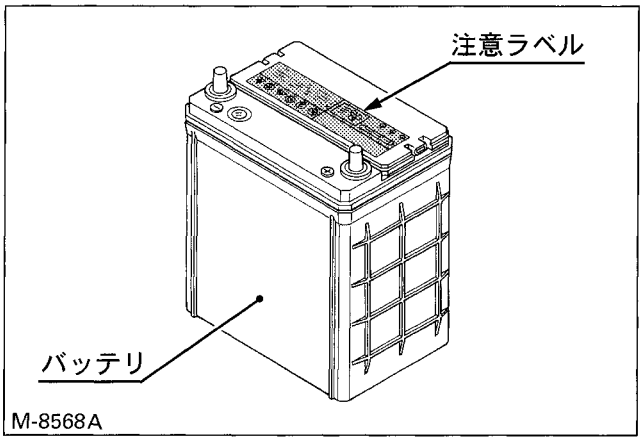
＊軸の締付けトルクは，下記の通りです。確実に締付けてください。
締付けトルク……49.0～58.8N·m(500～600kgf·cm)
組付け時，刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと，刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。
＊すき間が適正範囲(4.5～8.0mm)外になると，刃物の接触が発生し破損するおそれがあります。また，排稈の切断精度が悪くなります。

❹カバーをボルト４本で取付けます。
❺カッタ部を閉じます。

◆切断刃(カッタ刃)，供給刃の増締め
切断刃と供給刃のすき間の点検・調整の項を参照し，定期的にロックナットの増締めを行なってください。

■バッテリの点検・交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



危 険

＊バッテリの近くに裸火(マッチ，ライター，タバコの火など)を近づけたり，⊕端子と⊖端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。
＊バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液(希硫酸)により，失明やヤケドの原因となります。

警 告

＊バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補 足

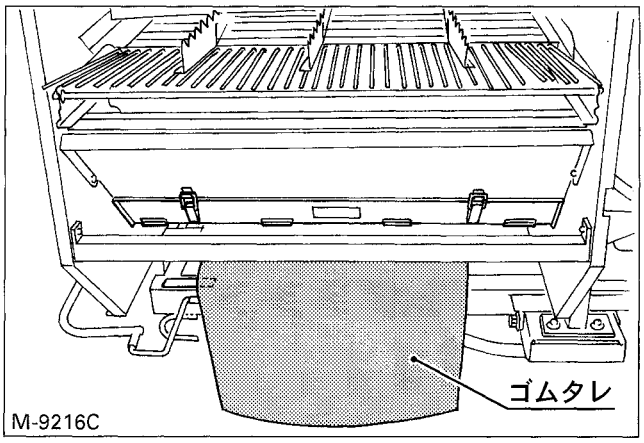
＊出荷時は，補水不要のバッテリです。

◆点検

危 険

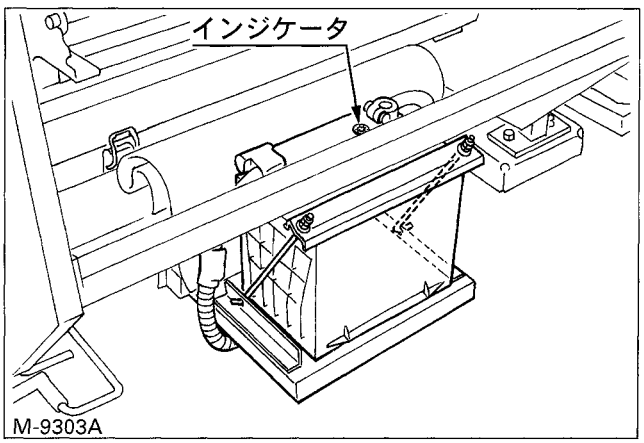
バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき……
＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液(希硫酸)によってヤケドすることがあります。
＊バッテリの電解液(希硫酸)が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師(眼科医)の治療を受けてください。失明の原因となります。

❶カッタオープンをします。
❷ゴムタレをめくります。



❸バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。
(1)バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



補 足

＊インジケータは真上から確認してください。

(2)バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

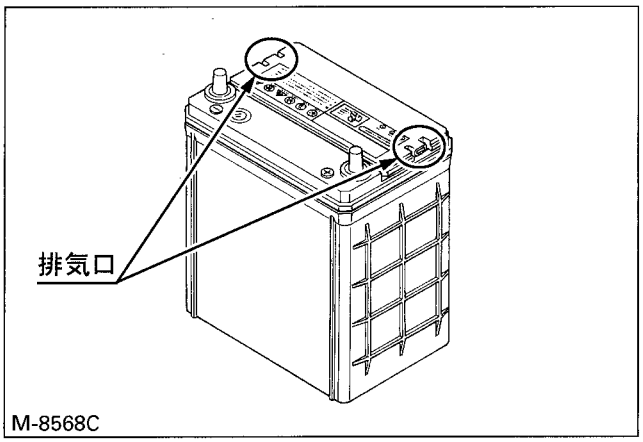
重 要

＊液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

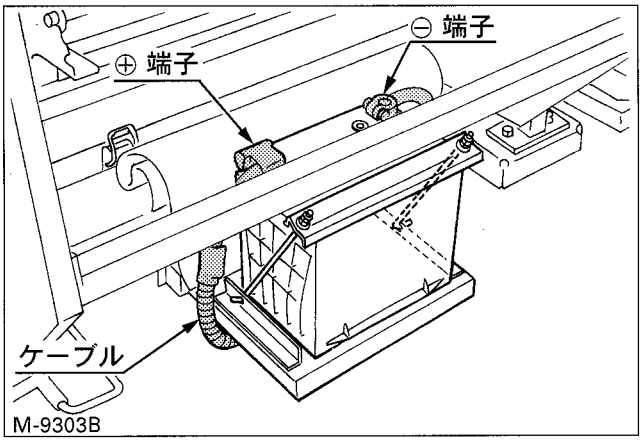
(3)ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重 要

＊排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



(4)バッテリケーブルの破損や⊕端子，⊖端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。



◆補充電・交換

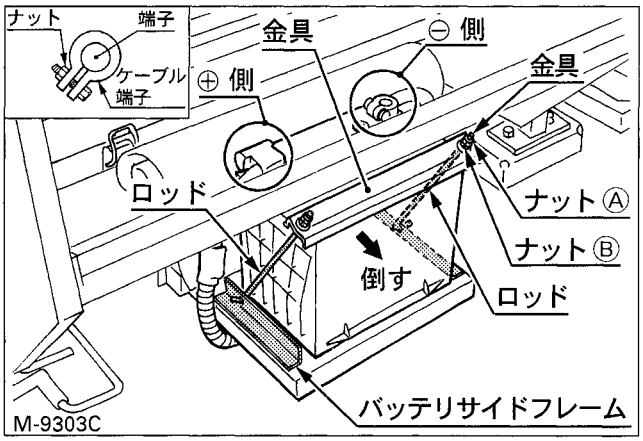
警 告

＊バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…⊖端子側(アース側)から外す。
・取付け…⊖端子側(アース側)を最後に接続する。
＊バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液(希硫酸)のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。
＊バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
＊バッテリの取付け方向を間違えないでください。⊕と⊖が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。
＊バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液(希硫酸)により，失明やヤケドの原因となることがあります。
＊充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。

- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が，いつもより低い。
- バッテリ電解液の減りが早い。

❶バッテリを機体から取外します。
(1)ロッド左・右のナットⒶをゆるめたあと，ナットⒷをゆるめ金具を倒したあと，バッテリサイドフレームからロッド左・右を抜いて外します。
(2)ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず⊖側から取外してください。



重 要

＊バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

❷補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕側に，バッテリの⊖を充電器の⊖側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

補 足

＊急速充電を行なったときは，作業後必ず補充電を行なってください。

❸補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重 要

＊バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：**65D23L-MF**
＊バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

❹ボルト４本でバッテリ後部カバーを取付けます。
❺カッタ部を閉じます。

補水が必要なバッテリの場合

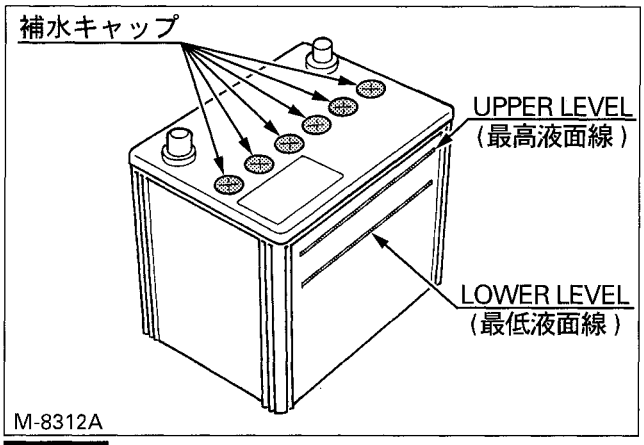
（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

◆点検・補水

注 意

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。
＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。
(1)バッテリ液の量を点検し，**“UPPER LEVEL”**（最高液面線）と**“LOWER LEVEL”**（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



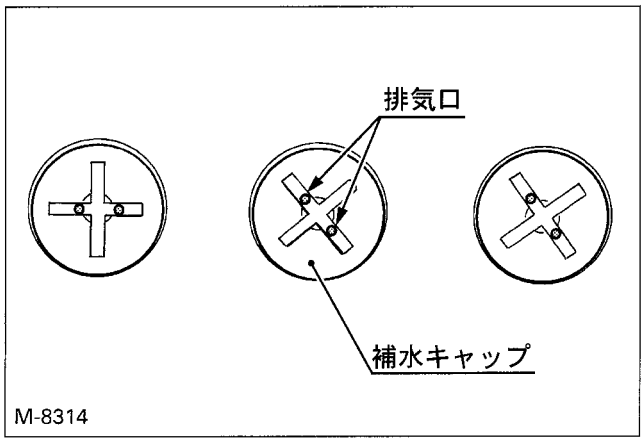
重 要

＊バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

(2)補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重 要

＊排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



◆補充電・交換

注 意

＊補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

❶補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
また，充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕側に，バッテリの⊖を充電器の⊖側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

補 足

＊急速充電を行なったときは，作業後必ず補充電を行なってください。

❷補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

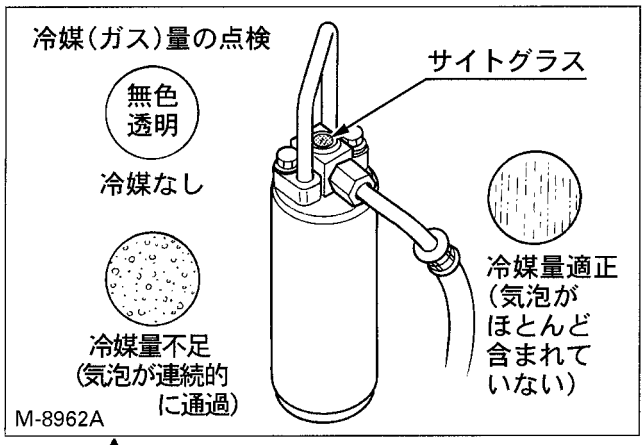
■冷媒(ガス)量の点検【キャビン仕様】

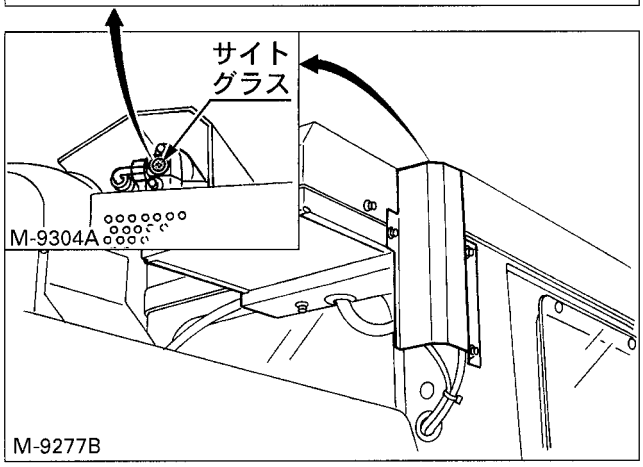
冷媒が不足するとクーラが冷えなくなります。下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，購入先に連絡して補充してください。

◆点検

❶クーラを以下の条件で運転します。
- エンジン回転数：約1500rpm
- クーラスイッチ：**“切”**位置以外の位置

❷サイトグラスから流れている冷媒の状態を確認します。





❸エンジンを停止し，クーラスイッチを**“切”**位置にします。

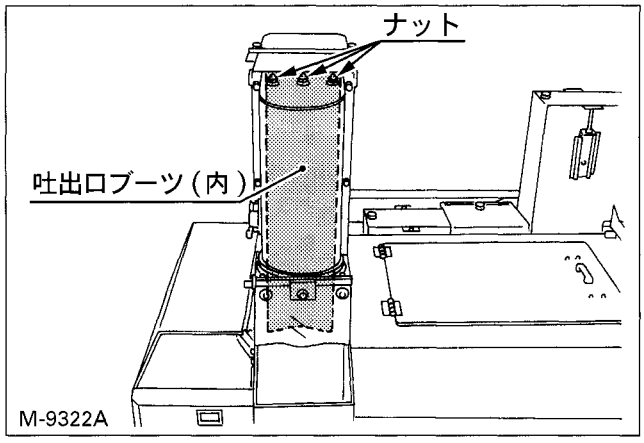
■吐出口ブーツ(内),(外)の点検・交換【グレンタンク仕様】

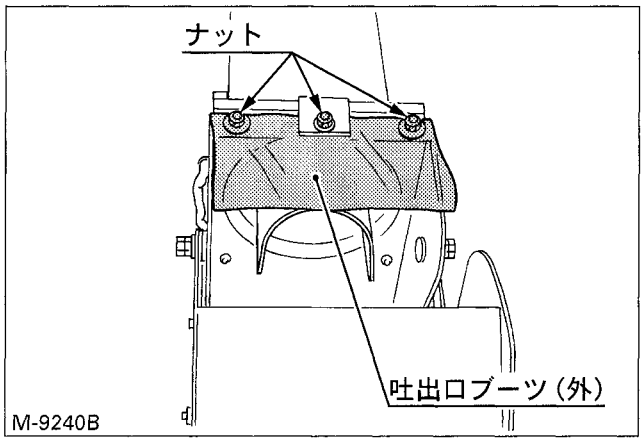
排出バケットコンベア吐出口の吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

◆交換

❶ブーツを取付けているナット３本を外します。

❷破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。





重 要

＊ブーツは必ずクボタ純正のものを使用してください。

	品 名	品 番
吐出口ブーツ(内)	シート(トシュツ)	51593-9312-0
吐出口ブーツ(外)	シート(シュート,1)	51593-9315-0

■電気の各配線コード・各ヒューズの点検・交換

注　意

＊配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，販売店へ連絡して交換してください。

◆各ヒューズの交換

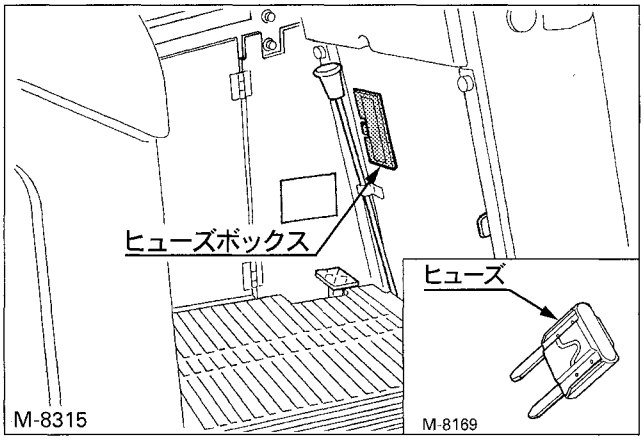
ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先に連絡してください。

❶ヒューズケースのカバーを取外します。

❷ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズを予備ヒューズから選んで交換します。



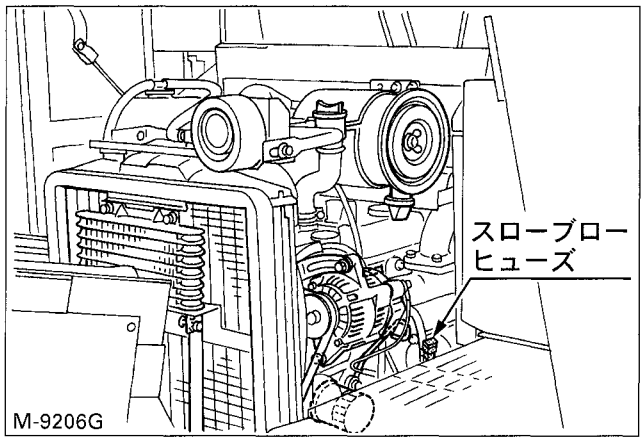
No.	容量	回　　路
1	20A	直　B
2	10A	本　機
3	20A	刈　取
4	15A	ライト
5	10A	制御ボックス
6	20A	ソレノイド

補　足

＊予備ヒューズは，10A1本，15A1本，20A2本がヒューズケース裏面に入っています。

●スローブローヒューズの点検・交換

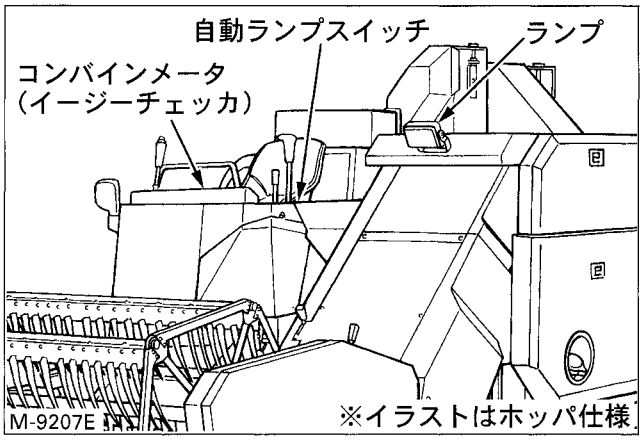
スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは購入先に連絡して交換してください。

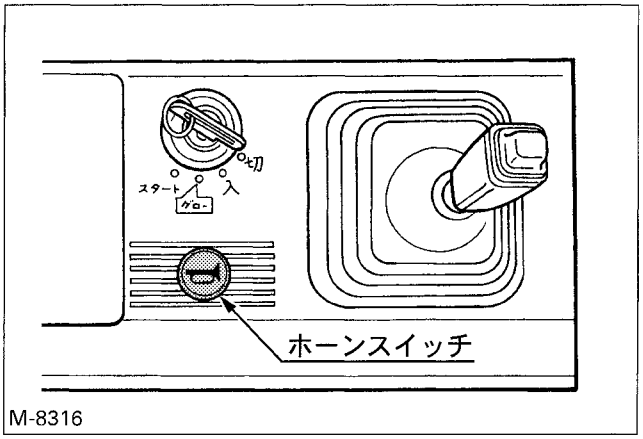


■ランプ(電球)の点検・交換

■ホーンスイッチの点検

ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，ホーンスイッチを押して点検し，鳴らないときは，配線やヒューズを確認してください。





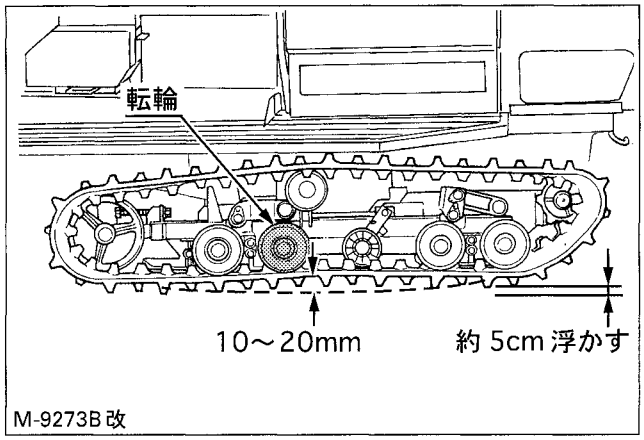
■クローラの張り調整・交換

注 意

＊平たんな場所でエンジンを必ず止めて行なってください。

＊機体を浮かせた状態で作業を行なうときは，所定の場所でバランスのとれ位置にして作業してください。

地面からクローらを浮かした状態で，クローラ下側上面と後から2番目の転輪下端のすき間を10～20mmに調整してください。また，調整は左・右共行なってください。



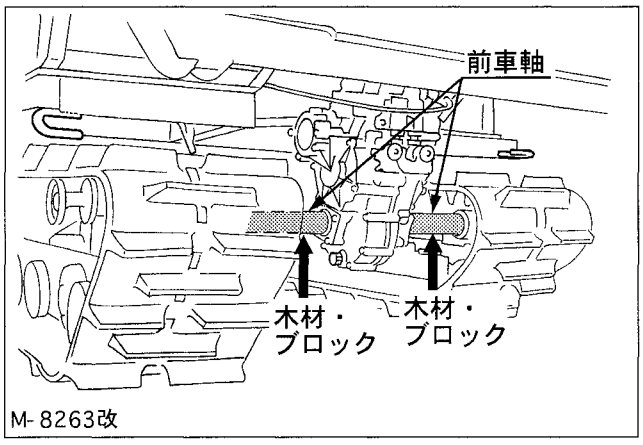
❶車体水平制御の水平操作レバーで機体を**最下降位置**にし，機体を少し前進させたあと，走行を停止します。

❷水平操作レバーで機体を**最上昇位置**にし，エンジンを停止します。

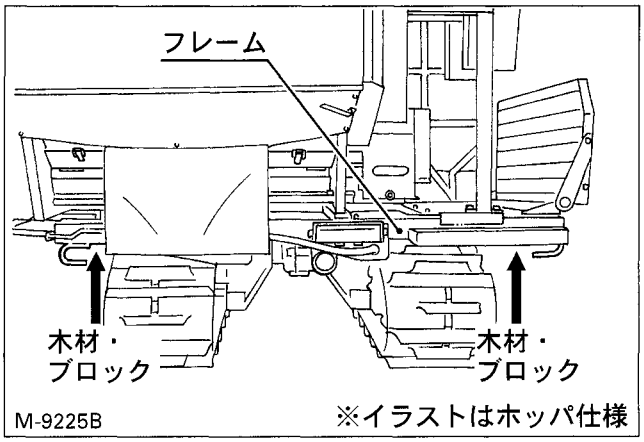
❸機体前部と後部の所定の位置に木材やブロックをそれぞれセットします。

❹エンジンを始動したあと，水平操作レバーを操作して，地面から約5cmクローラを浮かせます。

(1)前部は前車軸の下図の位置に木材やブロックをセットします。

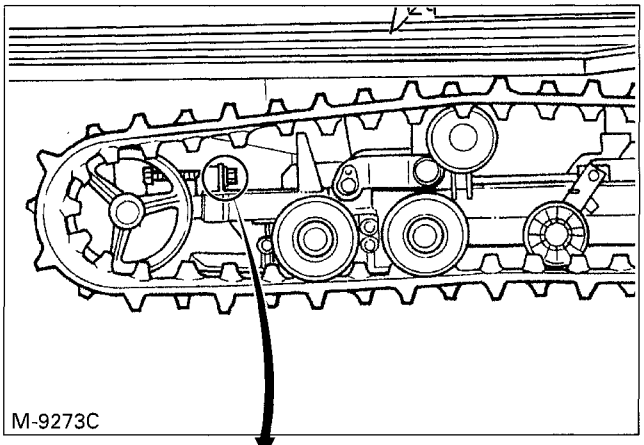


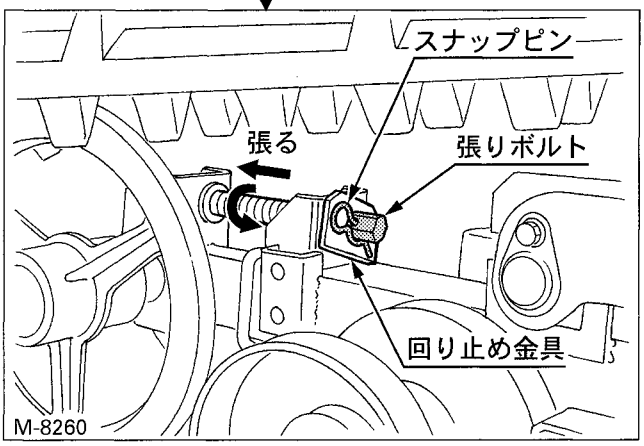
(2)後部はリヤシュート・サイドシュートを収納し，フレームの下図の位置に木材やブロックを2箇所セットします。



❺クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を，スナップピンを抜いて取外します。

❻張りボルトを左に回してクローラを張りながら，すき間の調整を行ないます。





❼左・右両方共に行ない調整後は，回り止め金具を取付けてスナップピンを差込みます。

❽ブロックや木材を取外します。

重 要

＊クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。

＊クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期20時間目に増張りしてください。

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

注　意

＊機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

❶平たんな場所にコンバインを停めます。
❷機体各部の排稈くずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。
（**各部の掃除と注油のしかた**の項参照）
❸刈取部を地面に接地させます。
❹メインスイッチのスイッチキーを抜取ります。
❺本機カバーをかけます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草や排稈くずを，完全に取除いてください。

重　要

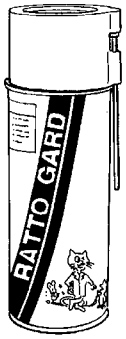
＊機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。

補　足

＊各部にこく粒や排稈くずが残っていると，ネズミの巣になったり，配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。また，ネズミによる被害を避けたいときは，クボタ純正部品**ラットガード**（ネズミよけスプレー塗料）の使用をお勧めします。特に，供給ベルトや選別ベルトは高価消耗部品となりますので，使用されるときは全面に吹付けてください。

クボタ純正品　　**ラットガード**

ネズミよけ
スプレー塗料



＊使用の際は，スプレー缶に書いてある使用上の説明・注意をよくお読みください。　M-8318

品　名	品　番
クボタラットガード	07908-5619-0

＊各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないようにじゅうぶん注油してください。
＊塗料のはげた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。

◆ラジエータ冷却水

注 意

＊ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

●排水しておくとき

❶ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。（**ラジエータ冷却水の点検・交換**の項参照）

❷ラジエータキャップは締付けますが，排水コックは開けたままにし，ラジエータキャップに**水なし**と書いた札を掛けておいてください。

●不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。

（**ラジエータ冷却水の点検・交換**の項参照）

重 要

＊冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも50%以下），よく水と混ぜ合せてからお使いください。
（ラジエータ容量……3.7L）

＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。

＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。

＊クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は2年間です。必ず２年で交換してください。

◆バッテリ

危 険

＊保管や持運びの際にバッテリに火気を近付けたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注 意

＊バッテリを点検するときには，エンジンを停止し，メインスイッチを“切”にしてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

●保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。）

●バッテリは保管中でも自己放電するので夏は１ヵ月，冬は２ヵ月に１回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。

●次のような場所に保管してください。

(1)直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所

(2)雨露が少なく，水没のおそれがない場所

(3)バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，⊖側のケーブルを必ず取外してください。

4. 各レバー・その他

点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて，下記事項を行なってください。

●デバイダカバーを取付けたあと，分草かんを収納します。

●もみデッキを収納します。

●アクセルレバーをいっぱい戻して（“🐢”位置）止めておいてください。

●各作業クラッチ（刈取・脱こく）レバーは**“切”**位置にしておいてください。

●メインスイッチのスイッチキーは，必ず抜取って保管してください。

●エンジンが完全に冷えてから本機カバーをかけておいてください。

コンバインの不調と処置

次のようなトラブルが起ったら！　　ページ

水温ランプが点滅しブザーが鳴った　108

エンジンがかからない　109

作物を刈取らずに押倒していく　110

ビービーと断続ブザーが鳴る　110

こく粒の飛散が多い　111

選別が悪くなった　111

損傷粒が多い　111

汚粒が出る　112

刈高さ自動で刈刃が突込む　112

警　告

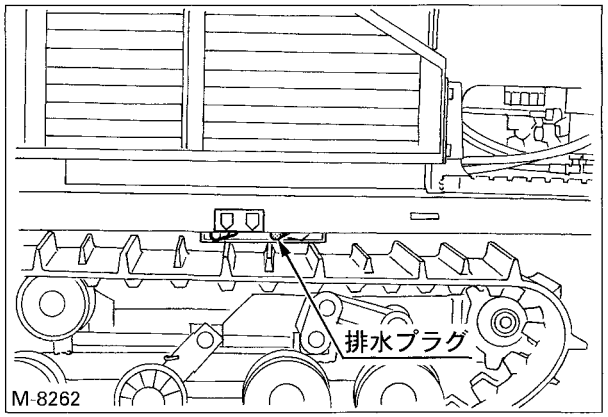
＊各部の調整・点検・交換などを行なうときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。

注　意

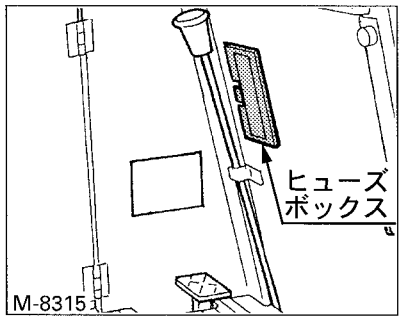
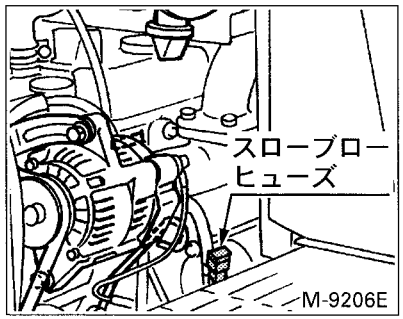
＊各クラッチは，“切”にしてください。
＊エンジン始動時は合図をし，安全を確認してください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。またオーバヒートなどの高温時は，エンジンを約５分間アイドリング回転で運転したあと，エンジンを停止し，30分以上経過するまでエンジンカバーを開けないでください。熱湯が噴出したり，高温部でヤケドするおそれがあります。
＊刈刃やカッタの清掃時は刃部に注意してください。
＊燃料やオイルがこぼれた場合は，火気に注意しきれいにふき取ってください。

水温ランプが点滅しブザーが鳴った

●エンジンがオーバヒート(過熱)している。

すぐにすること	原　因	点滅箇所	処　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，エンジンを約５分間アイドリング回転で運転したあと止める。	防じん網，又はラジエータフィンがくずなどで目詰まりしている。	防じん網	●防じん網をブラシなどで掃除する。	75
		ラジエータフィン	●圧縮空気か水道水で，フィンを傷つけないように掃除する。	75
	冷却水が不足している。	ラジエータ リザーブタンク	●清水をラジエータ給水口まで補給する。 (ラジエータが熱いときは危険です。 30分程度冷やしてキャップを開けてください。) ●清水をリザーブタンクの“FULL”まで補給する。 ●排水プラグからもれていないか点検する。  	75
	エンジンオイルが不足している。	オイルゲージ	●オイルを補給する。	70, 71
		エンジンオイル フィルタカートリッジ	●エンジンオイルフィタカートリッジの交換時期になっていれば交換する。	77
	ファンベルトがゆるんでいる。	ファンベルトのたわみ	●ダイナモの取付ボルトをゆるめ，ダイナモを引張りながらベルトの増張りを行なう。 ●ベルトが損傷しているときは新品と交換する。	80

エンジンがかからない

すぐにすること	原因		点検箇所	処置	参照ページ
●メインスイッチを**“切”**位置にする。	セルモータは回る	燃料がない。	燃料ゲージ	●燃料を補給する。	70
		フューエルフィルタ	フューエルフィルタアッシ フューエルフィルタカートリッジ	●フューエルフィルタの目詰まりがないか点検し，洗浄する。 ●燃料パイプの折れ，破損を点検し，異常があれば交換する。	76 74
		燃料の種類	燃料の種類	●ディーゼル軽油を補給する。	70
	セルモータが回らない	主変速レバーが**“停止”**，脱こく・刈取クラッチレバーが**“切”**になっていない。	主変速レバー 脱こくクラッチレバー 刈取クラッチレバー	●主変速レバーを**“停止”**，脱こく・刈取クラッチレバーを**“切”**位置にする。 （主変速レバーを**“停止”**，脱こく・刈取クラッチレバーを**“切”**位置にしないと安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。）	5, 23
		バッテリが上がっている。	バッテリ （ホーンの音が小さい）	●補充電する。 ●バッテリ液を点検し，不足の場合はバッテリ精製水を補給する。	98
		ヒューズ・スローブローヒューズが切れている。	ヒューズボックス スローブローヒューズ	●点検し，切れている場合は同じ容量(A)のヒューズに変換する。(アンペア数に注意) （スローブローヒューズはエンジンルームのオイルゲージ付近にあります。）  	103

作物を刈取らずに押倒していく

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，刈取クラッチレバーを切る。 ●必ずエンジンを止める。	刈刃や搬送部に根・株・泥・石や木片などの異物がかみこんでいる。	刈刃部	●異物を取除き，刈刃部を点検する。	96
		搬送部	●異物を取除き，周辺を点検する。	—
	刈取クラッチベルトがスリップしている。	刈取クラッチベルト テンションスプリング	●テンションスプリングを張る。	81

ビービーと断続ブザーが鳴る

すぐにすること		原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，イージーチェカをみる。	穀(こく)粒ランプが点滅している。	ホッパ及びグレンタンクが満杯。	ホッパ及びグレンタンク	●こく粒を排出する。	61

こく粒の飛散が多い

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，搬送部にある作物を流しきる。	脱こく回転数が高い。	回転計	●回転計をみながら，アクセルレバーで正規回転にする。	39
	トウミ風力調節が強すぎる。	トウミ風力調節	●トウミ風力調節を**“弱”**の方に調節する。	47

選別が悪くなった

現　　象	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
莢からや，茎ぎれが入っている。	エンジン回転数が低い。	回転計	●回転計を見ながらアクセルレバーで正規回転にする。	39
	トウミ風力調節が弱い。	トウミ風力調節	●トウミ風力調節を**“強”**の方に調節する。	47
	チャフシーブのすき間が広すぎる。	チャフシーブの切換え	●チャフシーブの目合を一段落とす。	35

損傷粒が多い

現　　象	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
破砕粒や皮切れ粒が多い。	エンジン回転数が高い。	回転計	●回転計を見ながら，アクセルレバーで正規回転にする。	39

汚粒がでる

現　　象	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
大豆に黒い斑点が付く。	刈取適期が早い。	作物成熟度	●葉が完全に落ちて莢をふるとカラカラと乾いた音がする時期までのばす。	31
	刈取時間が早い。	作物の乾燥度	●莢水分20％前後，指でさわってベトつかない時間までのばす。	31
	雑草や青立が多い。	ほ場管理	●雑草や青立茎は完全に取除く。	31
	土が入った。	自動刈高制御の自動切換えスイッチ	●自動刈高制御のスイッチを**“自動”**にする。 一度，土をかみ込んだら完全に取除いてから作業を始めてください。	13, 40
		ソリセンサ	●ソリセンサと刈取部の底板の間に土が入り込んでいたら，完全に取除いてから作業を始めてください。	13

刈高さ自動で刈刃が突込む

現　　象	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
刈刃が突込む	枕地の横刈りやほ場の起伏が多い。	自動刈高制御の自動切換スイッチ	●枕地のうねの横刈りや起伏の激しいほ場では自動車体水平制御**“自動”**刈高制御**“手動”**で行なってください。 ●各条の刈初めは，ゆっくりと刈高さを合わせながら操作してください。	13, 40
	ソリセンサの上に土が入っている。	ソリセンサ	●ソリセンサと刈取部の底板の間に土が入り込んでいたら，完全に取除いてから作業を始めてください。	13

付　表

主要諸元

農機型式名			DC-1S		DC-1SG	
商品名			DC-1SU			
区分			H	CH	G	CG
機体寸法	全長 (mm)		4550			
	全幅 (mm)		1780	1920	1830	1920
	全高 (mm)		2095	2585	2600	2600
機体質量〔重量〕(mm)			1800	1900	1950	2050
エンジン	型式名		D1105-C-8			
	種類		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル			
	総排気量 (L{cc})		1.123 {1123}			
	出力／回転速度 (kW{PS}/rpm)		19.1 {26.0} / 3000			
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量 (L)		32			
	始動方式		セルモータ式			
	バッテリ (V·Ah)		12・52			
走行部	クローラ	中心距離 (mm)	885			
		幅×接地長 (mm)	350×1270			
		平均接地圧 (kPa{kgf/cm²})	19.8 {0.20}	20.9 {0.21}	21.5 {0.22}	22.6 {0.23}
	最低地上高 (mm)					
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕			
	変速段数		前進無段・後進無断〔副変速各３段〕			
	走行速度 (m/s) [エンジン定格回転速度時]	前進	〔副変速〕倒伏：0～0.67　標準：0～1.10　高速：0～2.30			
		後進				
	旋回方式		ブレーキターン			
刈取部	引起し方式		リール引起し			
	リール	径 (mm)×バーの数 (本)	800×5			
		変速方式	※1　車速同調			
		上下調節方式	電動モータ			
	刈幅〔デバイダ間隔〕(mm)		1400			
	刃幅 (mm)		1370〔フィンガ式〕			
	刈高さ〔昇降〕範囲 (mm)		－50～610〔刈刃先端〕			
脱こく部	脱こく方式		コーンケーブレスアンダーブロー			
	ロータ	径×幅 (mm)	300×770			
		回転数 (mm)	590〔大豆〕・1070〔そば〕			
	２番還元方式		バケットコンベア			
	揺動板	幅×長さ (mm)				
	選別方式		揺動・傾斜ベルト・風選			

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

※１：低速側は0.6m/s～同調

農機型式名			DC-1S		DC-1SG	
商品名			DC-1SU			
区分			H	CH	G	CG
こく粒処理部	タンク容量(L{袋})		—		700	
	アンローダ	排出方式	—		バケット式	
		排出時間(s)	—		3.5～5.0	
		旋回範囲(度)	—		90	
		昇降範囲(度)	—		30～60	
		排出高さ〔作業時〕(mm)	—		最大：1700	
		排出長さ〔作業時〕(mm)	—		550～950	
	ホッパ	容量(L)	200		—	
		口数・取出方式	3口・袋詰め		—	
排稈処理部	工場出荷仕様		70mm切断カッタ			
諸装置	自動化装置	自動刈高制御	○			
		刈取対地平行制御	○			
		車体水平制御	○			
	警報装置		オイル・充電・燃料・水温・こく粒満杯・2番警報・排出警報【G仕様】			
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})			25～30 {24～20}			
適応作物			大豆・そば			

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊サービスブック	1	
＊取扱説明書	1	
＊本機カバー	1	
＊もみ袋	3	

【そば用部品】

＊ソバ用デバイダ	1	(34ページ参照)
＊刈取底プレート	2	(36ページ参照)
＊フィーダ底プレート1	1	
＊フィーダ底プレート2	1	
＊フィーダ底ステー2	1	
＊１番底プレート	1	(34ページ参照)
＊２番底プレート	1	(34ページ参照)
＊ナット	4	(35ページ参照)
＊工具	1セット	
・工具箱		
・10－12スパナ	1	
・12－14スパナ	1	
・14－17スパナ	1	
・⊕⊖ドライバ	1	
・プライヤ	1	
・油差し	1	
＊じょうご	1	
＊延長パイプ	1	
＊ブラシ	1	

オプション（別売品）

■プーリアッシ

ロータの回転数を下げ，こく粒の損傷を防ぎます。

品　番	品　名
51561-9953-0	プーリ，アッシ（テイソク）

■Vベルト（C77）

ロータの回転数を上げ，収穫量増加に役立ちます。

品　番	品　名
51561-9957-0	Vベルト（C77）

※莢がはじけないと効果はありません。

■簡易キャビン

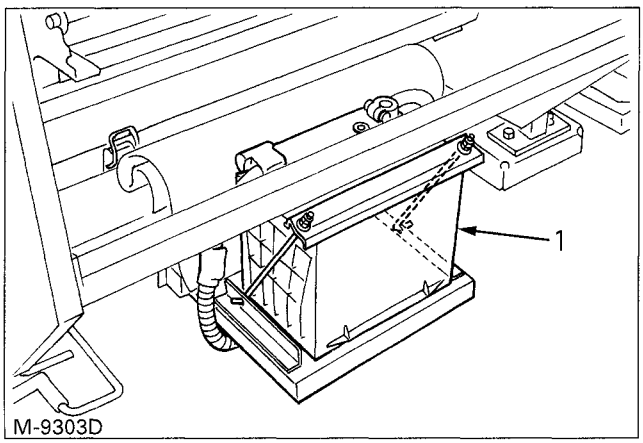
防塵用簡易キャビン

品　番	品　名
51597-00000	DC-NFA

※フロントは強化ガラスになっています。

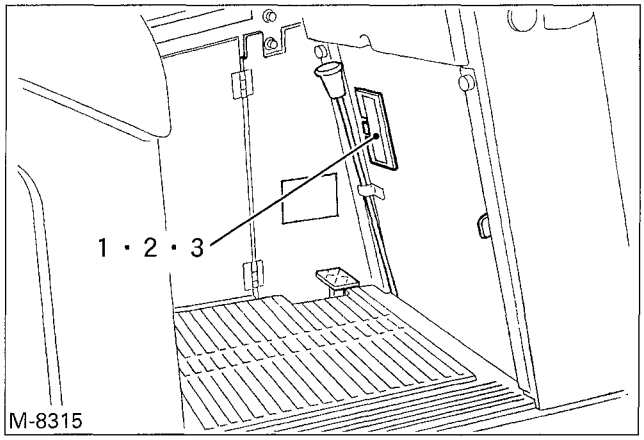
消耗部品

◆バッテリ



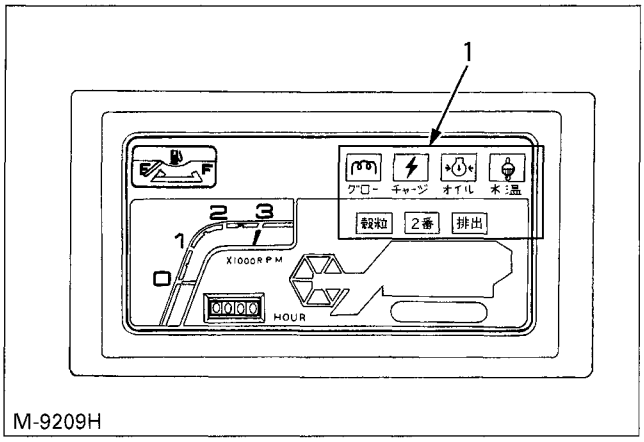
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	バッテリ	07908-2976-0	全型式
	バッテリ(65D23Lデルコ)	5H163-4111-0	

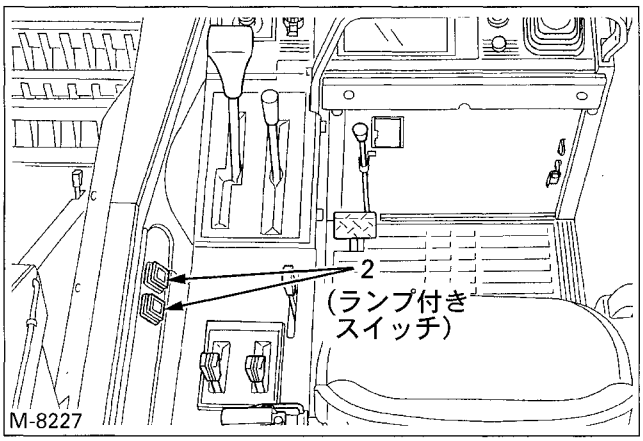
◆ヒューズ

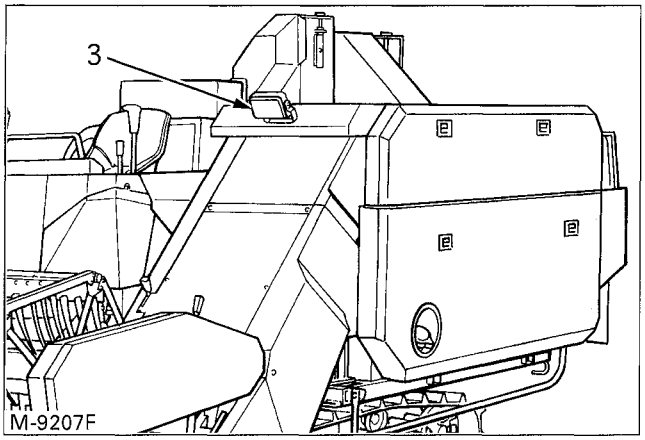


図番	品　　名	品　　番
1	10Aオートヒューズ	36730-7555-0
2	15Aオートヒューズ	35820-7556-0
3	20Aオートヒューズ	36919-5665-0

◆ランプ（電球）

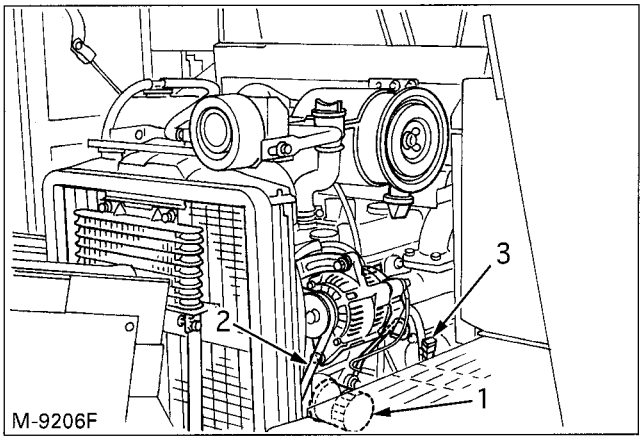






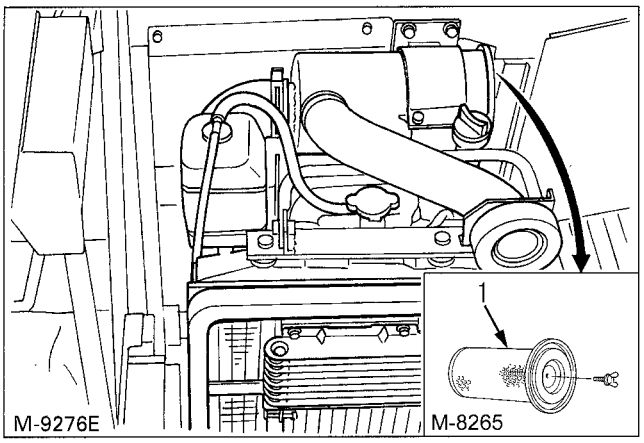
図番	品　　名	品　　番
1	バルブ（7個）	52300-4142-0
2	バルブ	52200-4233-0
3	ランプバルブ	52200-4186-0

◆オイルフィルタカートリッジ
◆ファン駆動ベルト（37.5ブイベルト）
◆スローブローヒューズ



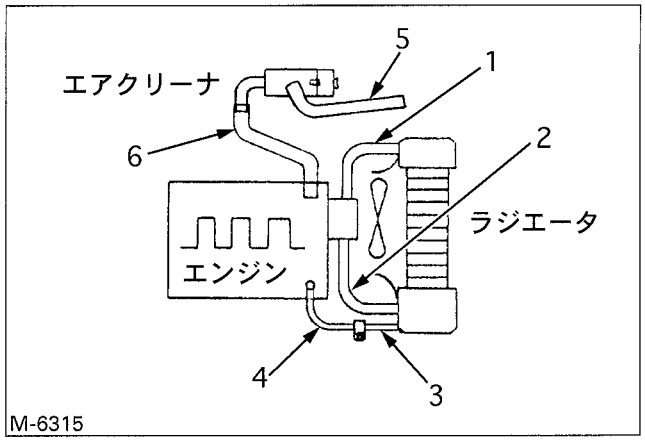
図番	品　名	品　番
1	オイルフィルタカートリッジ	15241-3209-0
2	37.5ブイベルト	16282-9701-0
3	スローブローヒューズ 60A	52200-4117-0

◆エアクリーナエレメント



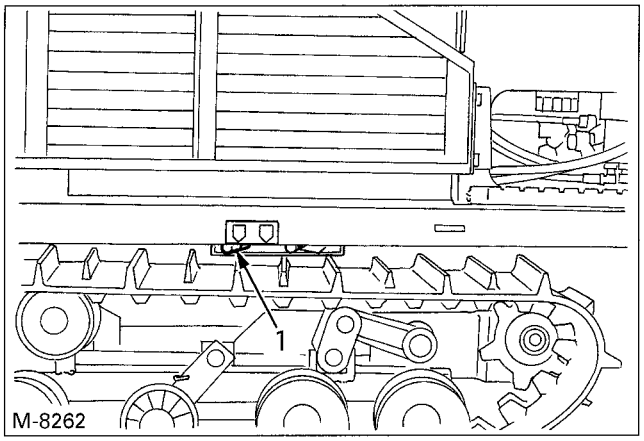
図番	品　名	品　番
1	エレメント,アッシ(エアクリーナ)	15741-1108-3

◆ラジエータホース，インレットパイプ



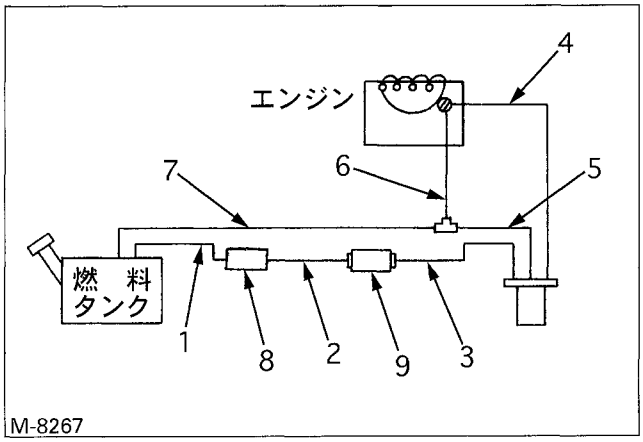
図番	品　名	品　番
1	ホース（1，ウォータ）	52000-2571-2
2	ホース（2，ウォータ）	52000-2572-0
3	ホース（ハイスイ）	52000-2574-0
4	ホース（ウォータリターン）	52000-2573-0
5	インレットパイプ1	52600-2631-0
6	ホース（2，インレット）	52000-2632-0

◆オイルドレーンゴムホース



図番	品　名	品　番
1	オイルドレーンホース	52600-2531-2

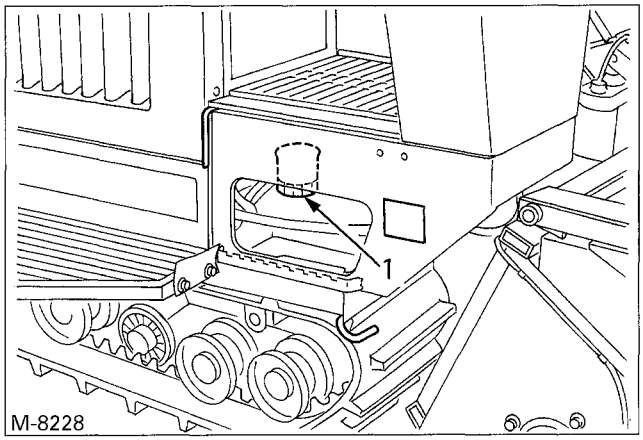
◆フューエルパイプ
◆フューエルフィルタアッシ，フューエルフィルタカートリッジ



M-8267

図番	品　　名	品　番
1	フューエルチューブ	09661-71850
2	フューエルチューブ	09661-70550
3	フューエルチューブ	09661-70600
4	フューエルチューブ	09661-71100
5	フューエルチューブ	09661-70900
6	フューエルチューブ	09661-70380
7	フューエルチューブ	09661-70950
8	フューエルフィルタアッシ	12581-4301-2
9	フューエルポンプアッシ	16851-5203-2

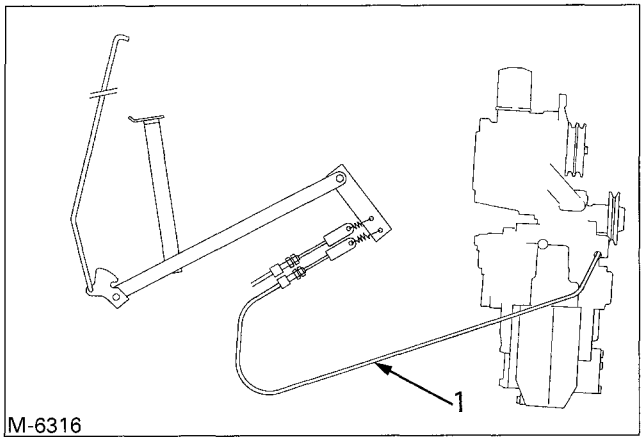
◆フューエルフィルタアッシ



M-8228

図番	品　　名	品　番
1	フューエルフィルタアッシ	52000-2680-0

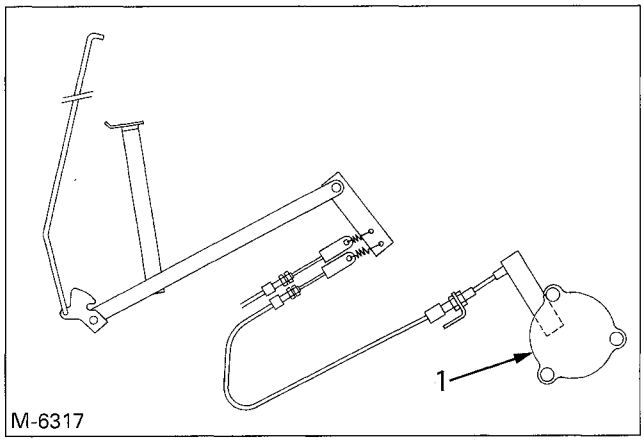
◆駐車ブレーキワイヤ



M-6316

図番	品　　名	品　番
1	ワイヤ（ブレーキ）	59900-3216-0

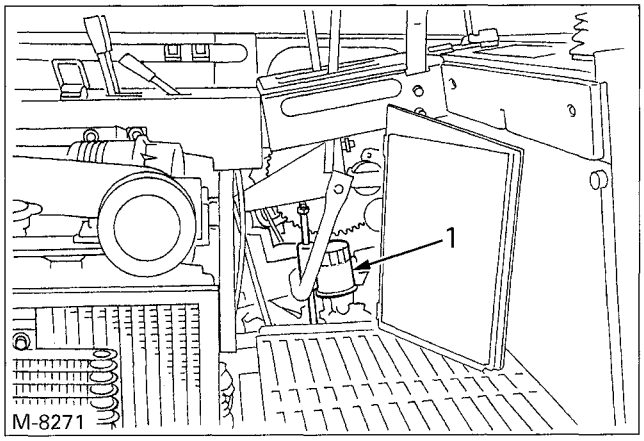
◆駐車ブレーキシュー



M-6317

図番	品　　名	品　番
1	ブレーキアッシ（2）	59900-1771-0

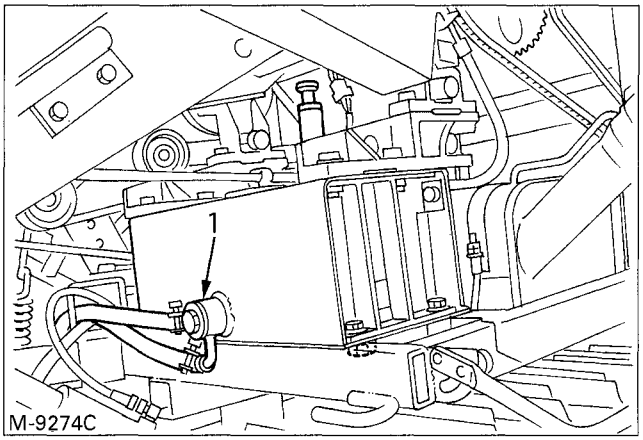
◆HSTオイルフィルタ



M-8271

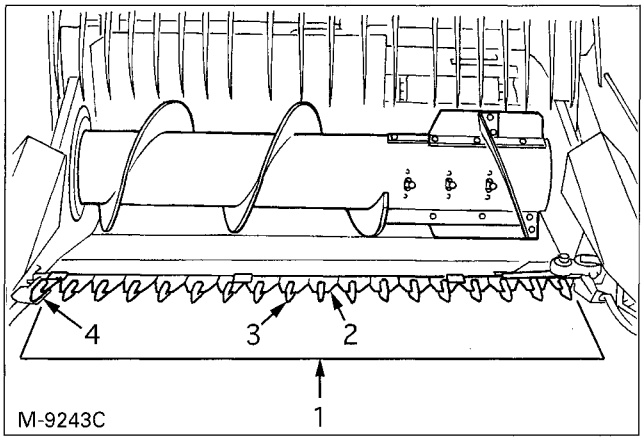
図番	品　　名	品　番
1	HSTオイルフィルタ	66021-3606-0

◆油圧オイルフィルタカートリッジ



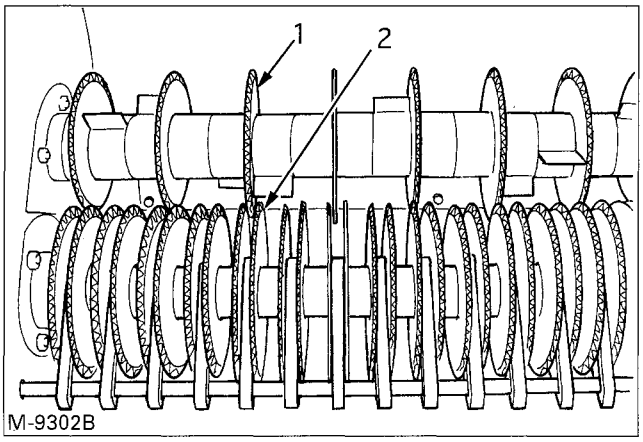
図番	品　　名	品　番
1	油圧オイルフィルタ	52600-2765-0

◆刈刃



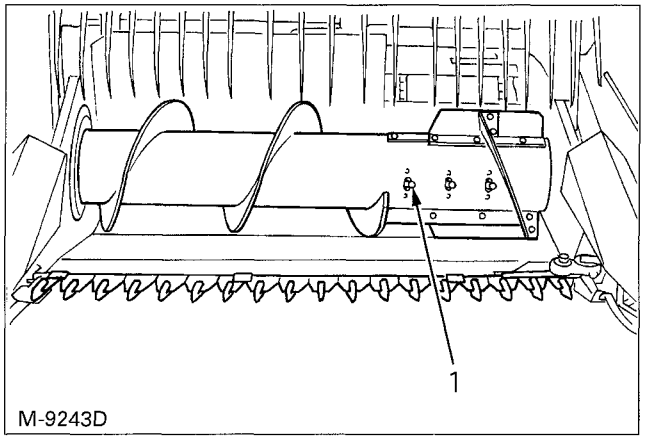
図番	品　　名	品　番
1	刈刃アッシ	51161-5350-0
2	刈刃	51601-5132-0
3	フィンガ1	51601-5136-0
4	フィンガ2	51601-5137-0

◆カッタ刃



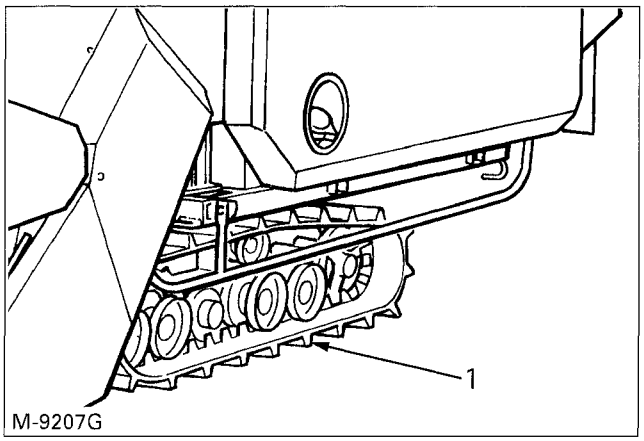
図番	品　　名	品　番
1	160 セツダンバ	57759-2115-0
2	150 セツダンバ	57613-1229-0

◆フィンガ



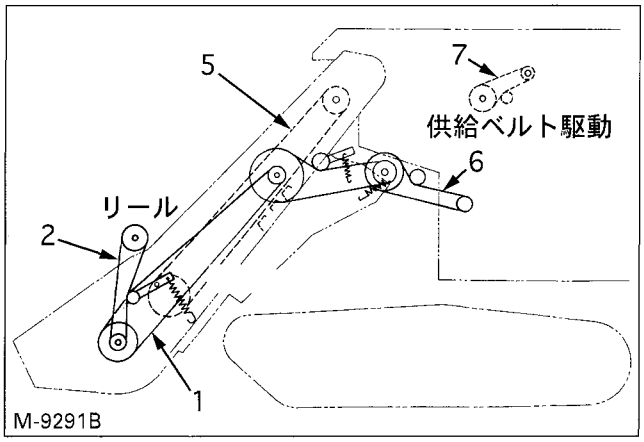
図番	品　　名	品　番
1	フィンガジク	51161-5319-0

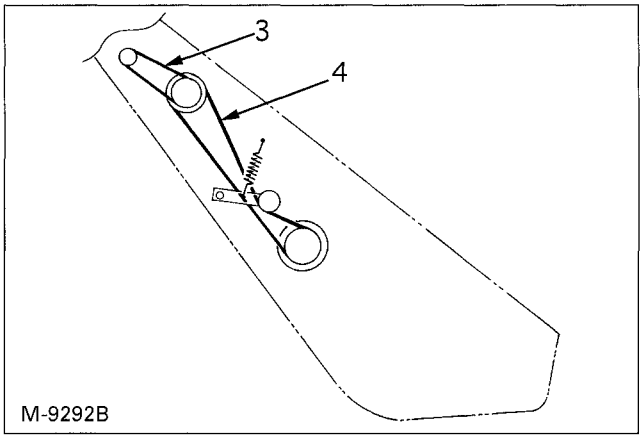
◆クローラ



図番	品　　名	品　番
1	クローラ（350×44×84）	51588-2153-0

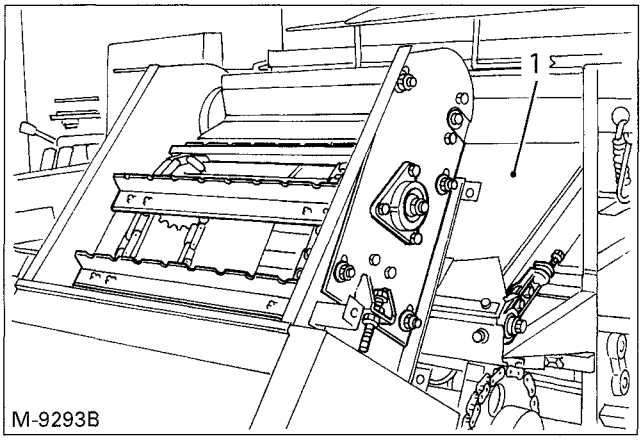
◆チェーン関係





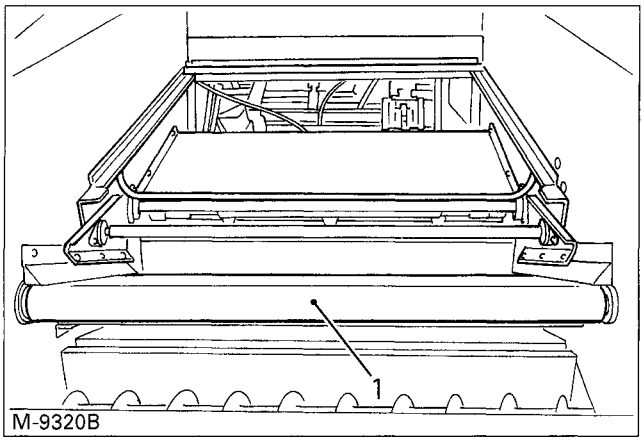
図番	品　名	品　番
1	オーガ駆動チェーン	51161-5336-0
2	リール駆動チェーン	51161-5515-2
3	ビータ駆動チェーン	51161-5184-0
4	チェーン（109L）	51583-5258-0
5	チェーン（フィーダ）	51589-5187-0
6	チェーン（カリトリ）	51589-5124-0
7	供給ベルト駆動チェーン	51161-7455-0

◆供給ベルト



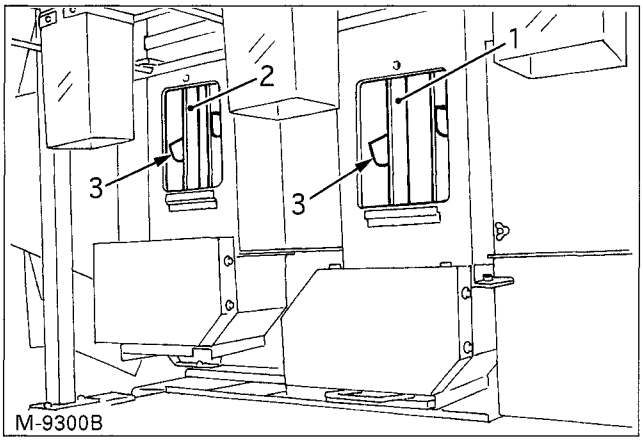
図番	品　名	品　番
1	ベルト（キョウキュウ）	51574-7437-0

◆選別ベルト



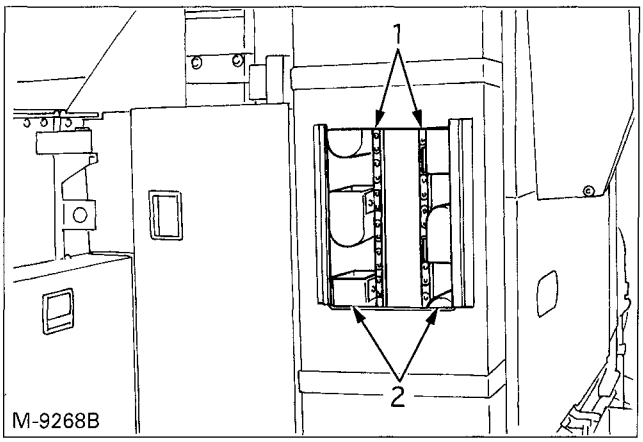
図番	品　名	品　番
1	選別ベルト	51161-7815-0

◆１番・２番バケットコンベア



図番	品　名	品　番
1	ベルト(イチバンショウコウキ)	51574-7748-0
2	ショウコウキベルト２	51161-7952-0
3	バケット	51161-7757-0

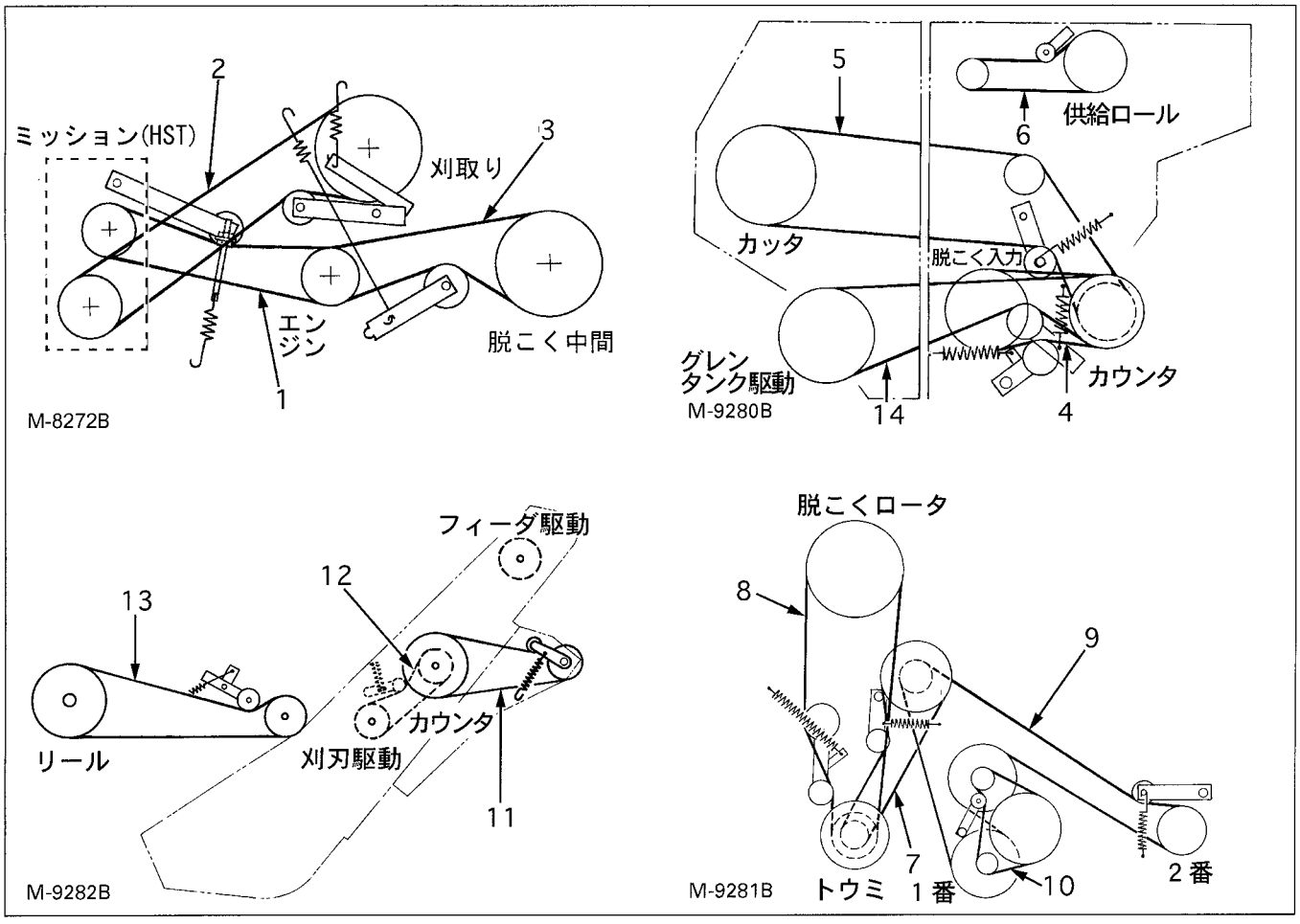
◆排出バケットコンベア【グレンタンク仕様】



図番	品　名	品　番
1	チェーン,アッシ(バケット)	51593-9180-0
2	バケット	51873-7924-0

◆各部駆動ベルト

	図番	品　　名	品　　番
エンジン周辺部	1	ブイベルト（B-51.5）	51588-1161-0
	2	ブイベルト（B75）	51571-1165-0
	3	C-57ベルト	51161-1173-0
脱こく部	4	ブイベルト（C-37）	51161-7223-4
	5	ブイベルト（トクB-165）	51590-7233-0
	6	ブイベルト特A31	51161-7425-0
	7	ブイベルト（B-50）	51590-7566-0
	8	ブイベルト（C-80）	51161-7545-0
	9	ブイベルト（B-109）	51590-7554-0
	10	ブイベルト特A-33	51161-7828-0
刈取部	11	ブイベルト（B-65）	51161-5141-2
	12	ブイベルト（B-41）	51561-5159-0
	13	ブイベルト（B-90）	51161-5542-2
グレンタンク部【G仕様】	14	ブイベルト（C135）	51593-9265-0



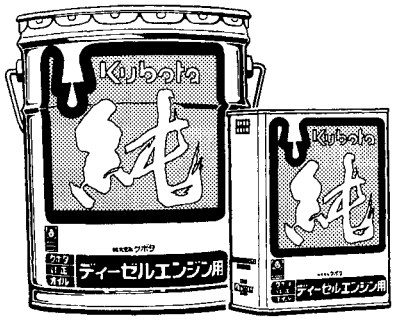
クボタ純オイル

■オイルは クボタ純オイル をお使いください。

オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

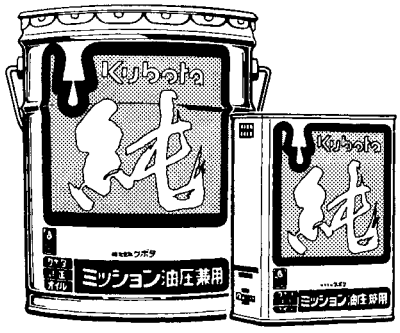
お買求めは，販売店またはＪＡ農協へご用命ください。

●D30又はD10W30（ディーゼルエンジン用）



Z-1025　20ℓ　4ℓ

●M80B（ミッション油圧兼用）

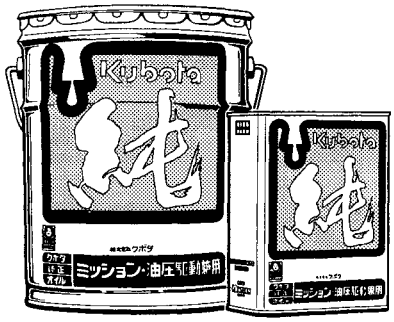


Z-1024　20ℓ　4ℓ

●M90（一般ミッション・各ギヤ用）

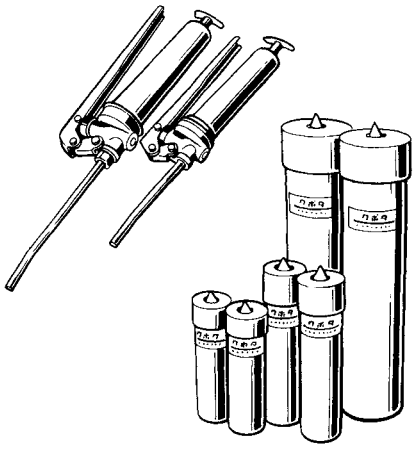
Z-1023　20ℓ　4ℓ

●スーパーUDT（油圧駆動・ミッション油圧兼用）



Z-1021　20ℓ　4ℓ

■クボタスペアグリース



Z-1026　60　100　400

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ　ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　－
ご購入日	型式名	区分
車台番号(製造番号)	エンジン型式	エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121　〒338-0832　さいたま市浦和区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(0722)41-8506　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
機械福岡事務所：電(092)606-3161　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号

クボタ機械サービス株式会社

本社営業技術部：電(0722)41-8092　〒590-0823　堺市石津北町64番地
北海道営業技術推進部：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(0188)45-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162　〒981-1221　名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1124　〒338-0832　さいたま市浦和区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1261　〒950-0992　新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(0762)75-1121　〒924-0038　松任市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111　〒491-0031　一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(0722)41-8550　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
米子営業技術推進部：電(0859)33-5011　〒683-0804　米子市米原７丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市宍甘275番地
高松営業技術推進部：電(0878)74-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１

株式会社クボタアグリ東日本

東北系統推進部：電(0188)45-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
関東・甲信越系統推進部：電(048)862-1124　〒338-0832　さいたま市浦和区西堀５丁目２番36号

株式会社クボタアグリ西日本

中部・近畿系統推進部：電(0722)41-8550　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
中四国系統推進部：電(0878)74-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３

株式会社クボタアグリ九州

九州系統事業推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者
が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

本　社　大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号　〒556-8601

品番　51595-8511-1

Kubota